

# 男女共同参画に関する市民・職員意識調査 報告書

平成17年12月

姫路市

## はじめに

姫路市では、全ての市民が人権尊重を基調に、性や世代にとらわれることなく一人ひとりの個性、資質、能力を認め合い、それらを十分に発揮し、支えあって暮らせる都市の実現を目指して、平成13年3月に「姫路市男女共同参画プラン」を策定し、男女共同参画に関する施策を総合的かつ計画的に推進してまいりました。

このたび、市民の皆様の男女共同参画社会づくりに対するご意見と現状をおたずねし本市の男女共同参画についての課題を把握するために、「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。また、男女共同参画施策を推進する立場としての市職員の意識と実態を把握するため、「男女共同参画に関する職員意識調査」もあわせて実施しました。

今回の調査結果につきましては、平成18年度に予定しているプランの見直し及び後期実施計画の策定に向けての基礎資料として十分に活用してまいりたいと考えております。

最後に、この調査にご協力をいただきました皆様方に厚くお礼申し上げますとともに、本市における男女共同参画社会の実現に向け、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

平成17年12月

姫路市長 石見 利勝

# 目 次

## 第1部 市民意識調査

---

### 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査対象者及び調査方法など	1
3 調査内容	1
4 回収結果	1
5 回答者の属性	1
6 本報告書の見方について	4

### 調査結果のまとめ

1 男女平等意識について	7
2 職業生活について	8
3 結婚、家庭生活と男女の役割について	9
4 社会参加活動について	12
5 人権について	13
6 男女共同参画に関する施策などについて	14

### 各設問調査結果

1 男女平等意識について	
(1) 各分野における男女の地位	17
(2) 男女不平等が生じる原因	30
(3) 男女が平等になるために重要なこと	32
2 職業生活について	
(4) 女性のライフスタイルの理想と現実	33
(5) 女性が働く上で支障となること	37
(6) 職場の現状	40
(7) 男女が共に職業人として活躍するために重要なこと	42
3 結婚、家庭生活と男女の役割について	
(8) 結婚、家庭に関する考え	44
(9) 家庭内の仕事の理想の分担	60
(10) 家庭内の仕事の実際の分担	66
(11) 少子化の原因	72
(12) 安心して子どもを産み育てるために必要なこと	74
(13) 子育てについて	77
(14) 望ましい介護方法	79
(15) 高齢者介護が女性の役割となりがちな現状について	81

4	社会参加活動について	
(16)	社会活動への参加状況・参加意向	82
(17)	社会活動に参加する上で支障となること	89
(18)	地域の現状	91
(19)	女性の参画が必要な領域	93
(20)	男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと	95
5	人権について	
(21)	女性の人権が尊重されていないと感じること	98
(22)	セクシュアル・ハラスメントだと思うこと	100
(23)	セクシュアル・ハラスメントの経験	102
(24)	ドメスティック・バイオレンスの経験	104
6	男女共同参画に関する施策などについて	
(25)	男女共同参画関連事項の認知度	106
(26)	“あいめっせ”認知度	117
(27)	男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと	118
	自由回答意見一覧	
	自由回答意見一覧	121
	資料	
	市民意識調査票	131

## 第2部 職員意識調査

---

### 調査の概要

1	調査の目的	143
2	調査対象者及び調査方法など	143
3	調査内容	143
4	回収結果	143
5	回答者の属性	143
6	本報告書の見方について	146

### 調査結果のまとめ

1	男女平等意識について	149
2	職業生活について	150
3	人権について	153
4	結婚、家庭生活と男女の役割について	154
5	男女共同参画に関する施策などについて	156

## 各設問調査結果

### 1 男女平等意識について

- (1) 各分野における男女の地位・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
- (2) 男女不平等が生じる原因・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
- (3) 男女が平等になるために重要なこと・・・・・・・・ 167

### 2 職業生活について

- (4) 姫路市の職場におけるの男女の地位・・・・・・・・ 168
- (5) 育児休業・介護休業制度の利用状況・利用意向・・・・・・・・ 180
- (6) 育児休業・介護休業制度を利用する上で支障となること・・・・・・・・ 183
- (7) 姫路市における女性職員の職域拡大・登用の現状・・・・・・・・ 187
- (8) 姫路市において女性職員の職域拡大・登用が進まない理由・・・・・・・・ 189
- (9) 姫路市において女性職員の職域拡大・登用を進めるために必要なこと・・・・・・・・ 191
- (10) 男女が共に職業人として活躍するために重要なこと・・・・・・・・ 193
- (11) 姫路市で仕事上の通称使用を認めたことについての是非・・・・・・・・ 195

### 3 人権について

- (12) セクシュアル・ハラスメントだと思うこと・・・・・・・・ 196
- (13) セクシュアル・ハラスメントの経験・・・・・・・・ 199
- (13-1) セクシュアル・ハラスメントへの対応・・・・・・・・ 201
- (14) セクシュアル・ハラスメントをなくすために重要なこと・・・・・・・・ 203

### 4 結婚、家庭生活と男女の役割について

- (15) 結婚、家庭に関する考え・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
- (16) 家庭内の仕事の理想の分担・・・・・・・・・・・・・・・・ 216
- (17) 家庭内の仕事の実際の分担・・・・・・・・・・・・・・・・ 223

### 5 男女共同参画に関する施策などについて

- (18) 男女共同参画関連事項の認知度・・・・・・・・・・・・ 230

### 自由回答意見一覧

- 自由回答意見一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 243

### 資料

- 職員意識調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 253

## 第1部 市民意識調査

---

## 調査の概要

# 調査の概要

## 1 調査の目的

姫路市では、全ての市民が人権尊重を基調に、性や世代にとらわれることなく一人ひとりの個性、資質、能力を認め合い、それらを十分に発揮し、支えあって暮らせる都市の実現を目指して、『男女共同参画プラン』を策定するなど、様々な取り組みを進めている。

本調査は、平成13年3月に策定した『男女共同参画プラン』の中間見直しにあたり、市民の男女共同参画社会に関する意識や実態、ニーズを的確に把握し、今後の施策展開の参考とすることを目的に行った。

## 2 調査対象者及び調査方法など

調査対象	市内在住の満20歳以上の男女
標本数	3,000
抽出法	住民基本台帳に基づく無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収(督促1回)
調査期間	平成17年7月28日(木)～8月12日(金)
調査地区	姫路市全域

## 3 調査内容

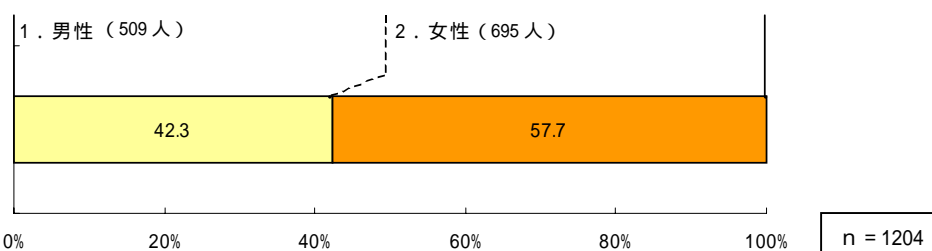
- 男女平等意識について
- 職業生活について
- 結婚、家庭生活と男女の役割について
- 社会参加活動について
- 人権について
- 男女共同参画に関する施策などについて

## 4 回収結果

	票 数	回収率
配布票数	3,000	-
回収票数	1,210	40.3%
有効票数	1,204	40.1%

## 5 回答者の属性

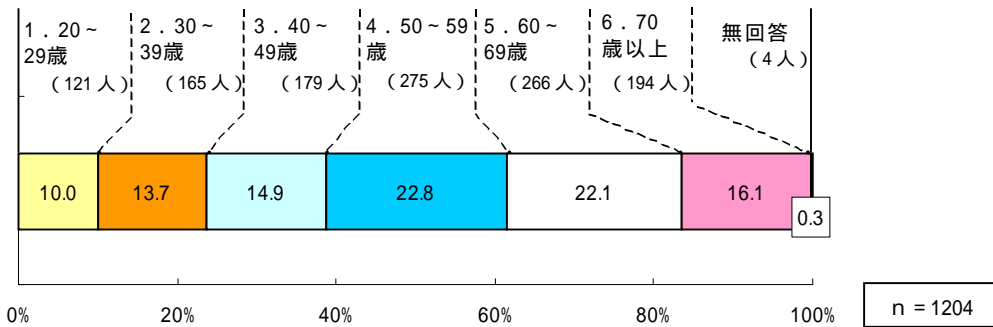
性別



回答者の性別は、「女性」が57.7%、「男性」が42.3%であり、女性の方が男性より15.4ポイント高い。



## 年齢

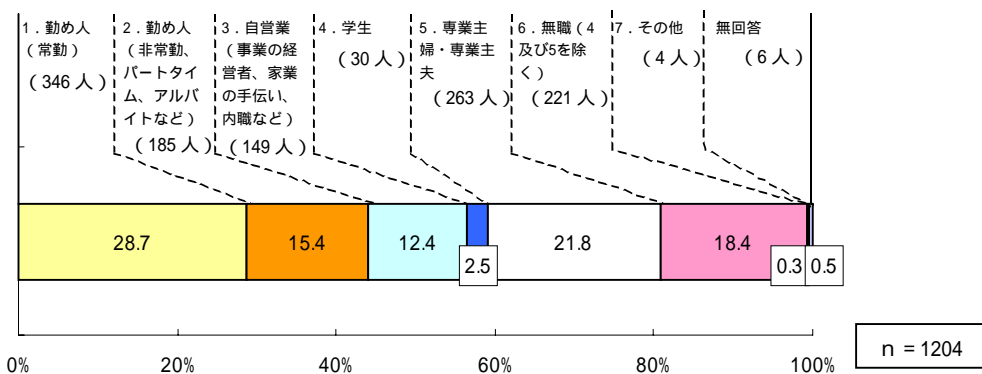


回答者の年齢は、「50～59歳」が22.8%、「60～69歳」が22.1%、「70歳以上」が16.1%、「40～49歳」が14.9%、「30～39歳」が13.7%、「20～29歳」が10.0%となっており、50歳代、60歳代の占める割合がやや高い。

### - 1 性-年齢別構成

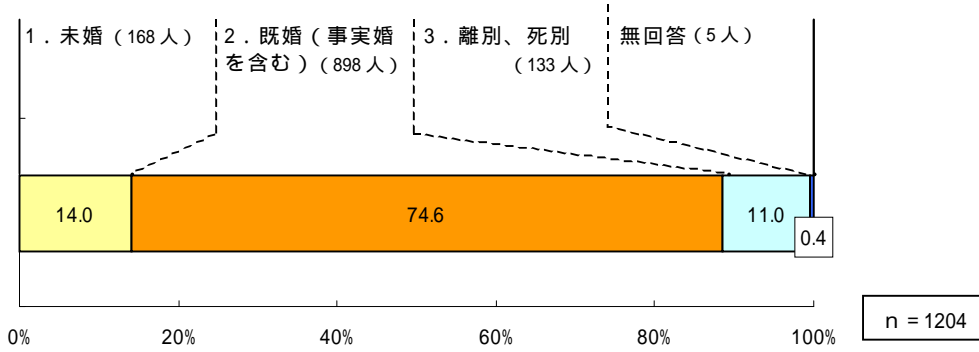
性	年齢	年齢						無回答	合計
		1. 20～29歳	2. 30～39歳	3. 40～49歳	4. 50～59歳	5. 60～69歳	6. 70歳以上		
男性	人数(人)	42	70	76	117	118	84	2	509
	割合(%)	8.3	13.8	14.9	23.0	23.2	16.5	0.4	100.0
女性	人数(人)	79	95	103	158	148	110	2	695
	割合(%)	11.4	13.7	14.8	22.7	21.3	15.8	0.3	100.0
合計	人数(人)	121	165	179	275	266	194	4	1204
	割合(%)	10.0	13.7	14.9	22.8	22.1	16.1	0.3	100.0

## 職業



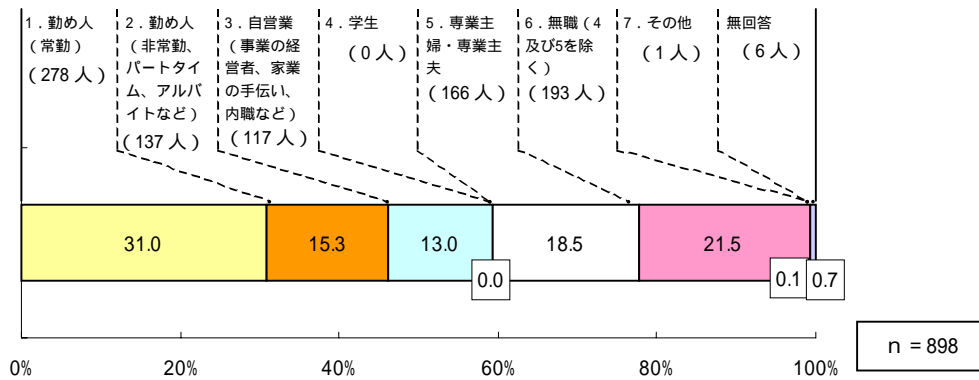
回答者の職業は、「勤め人(常勤)」が28.7%と最も高く、「専業主婦・専業主夫」が21.8%、「無職」が18.4%、「勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)」が15.4%、「自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など)」が12.4%、「学生」が2.5%、「その他」が0.3%となっている。

## 結婚の有無



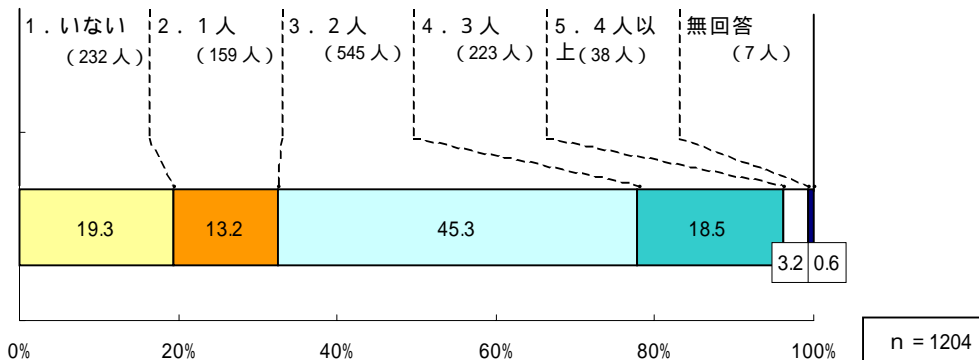
回答者の婚姻状況は、「既婚 (事実婚を含む)」が74.6%と最も高く、「未婚」が14.0%、「離別、死別」が11.0%となっている。

## -1 配偶者の職業



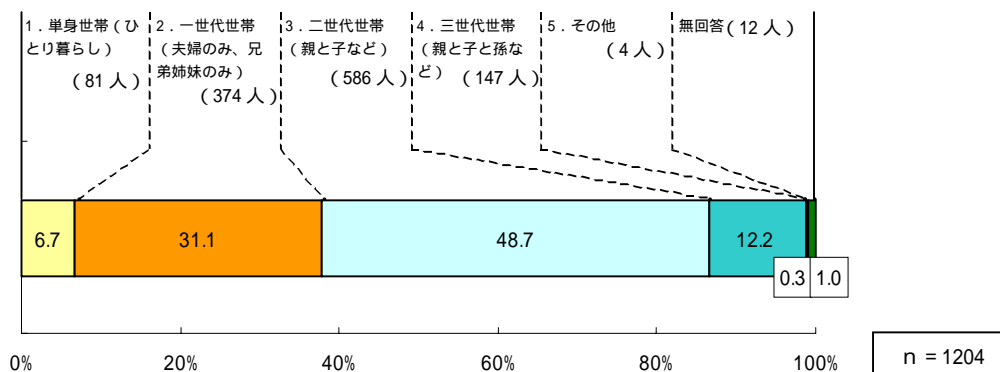
回答者の配偶者の職業は、「勤め人 (常勤)」が31.0%と最も高く、「無職」が21.5%、「専業主婦・専業主夫」が18.5%、「勤め人 (非常勤、パートタイム、アルバイトなど)」が15.3%、「自営業 (事業の経営者、家業の手伝い、内職など)」が13.0%、「その他」が0.1%、「学生」が0.0%となっている。

## 子どもの有無



回答者の子どもの有無については、「2人」が45.3%と最も高く、「いない」が19.3%、「3人」が18.5%、「1人」が13.2%、「4人以上」が3.2%となっている。

## 世帯状況



回答者の世帯状況は、「二世代世帯(親と子など)」が48.7%と最も高く、「一世代世帯(夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)」が31.1%、「三世代世帯(親と子と孫など)」が12.2%、「単身世帯(ひとり暮らし)」が6.7%、「その他」が0.3%となっている。

## 6 本報告書の見方について

### 標本誤差

本調査は、調査対象となる母集団から一部を抽出した標本(サンプル)の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、比率算出の基数(n)、回答の比率(p)によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

今回の市民意識調査結果の標本誤差は下記のようになる。

回答の 比率 票数	(%)				
	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
2000票	±1.3	±1.7	±2.0	±2.1	±2.2
1500票	±1.5	±2.0	±2.3	±2.5	±2.5
1204票	±1.7	±2.3	±2.6	±2.8	±2.8
1000票	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1
500票	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4

この表の計算式の信頼度は95%である。

N = 母集団  
(姫路市20歳以上人口 = 376,395人)  
n = 比率算出の基数(回答者数)  
p = 回答の比率

---

### 分析における留意点

集計表の比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。したがって、合計が100%を上下する場合もある。

基数となるべき実数は、“n = ”として掲載し、各比率はnを100%として算出した。

「(複数回答)」とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、したがって、各回答の合計比率が100%を超える場合がある。

グラフ・表として示したものの中には「無回答者」を省略した部分がある。そのため区分ごとの標本数の合計(例えば、性別の合計、年齢別の合計)が全体の標本数と一致しないことがある。

本報告書では、性別、年齢別などの比較分析を必要に応じて行っている。ただし、サンプル数が30未満と少ないものについては、集計結果を参考程度に留める必要があるため、本文中のグラフ・表に示しているが、基本的に分析の対象からは除いている。

比較分析において利用した調査名は次のとおりである。

姫路市平成7年度実施「男女平等に関する市民意識調査」

姫路市平成15年度実施「配偶者等からの暴力に関する調査」

内閣府平成16年度実施「男女共同参画社会に関する世論調査」

兵庫県平成16年度実施「男女共同参画社会づくりについての意識と実態に関する調査」

# 調査結果のまとめ

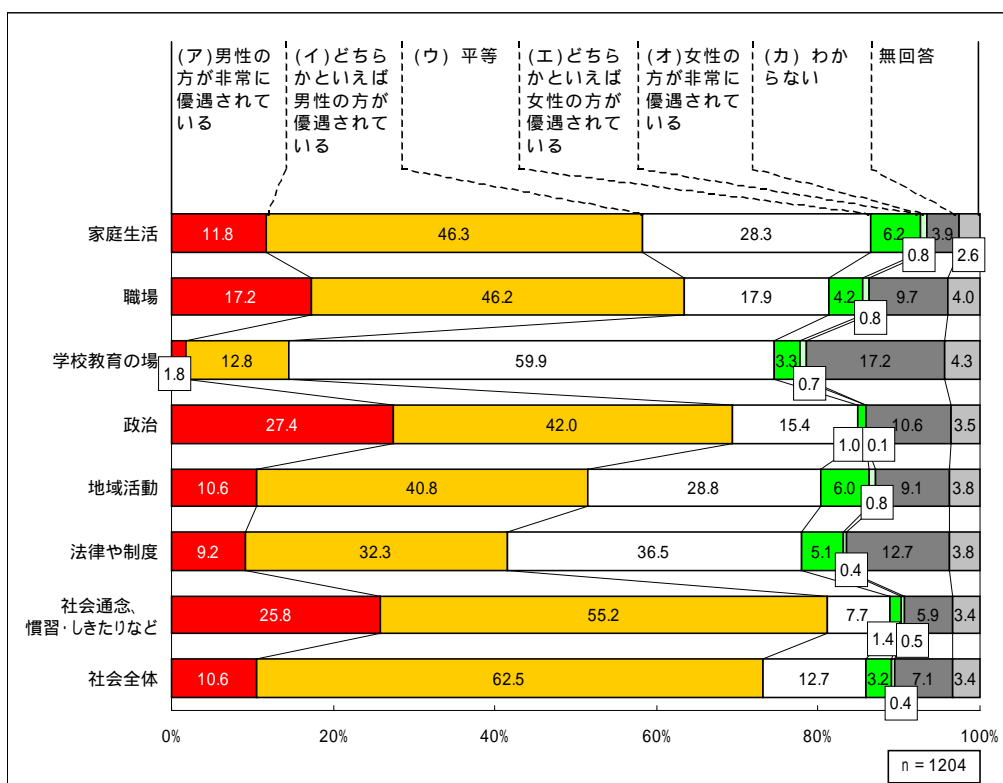
## 調査結果のまとめ

### 1 男女平等意識について

各分野における男女の地位は、全体で「学校教育の場」、「法律や制度」以外の分野では、『男性優遇』が『平等』、『女性優遇』を大きく上回っている。特に「職場」、「政治の場」、「社会通念、慣習・しきたりなど」、「社会全体」では、『男性優遇』が6割を超えており、男女不平等と強く感じられている分野であることがわかる。一方、「学校教育の場」では『平等』が59.9%と最も高く、男女平等が比較的進んでいる分野だといえる。なお、すべての分野において、女性で男性に比べ『男性優遇』とより感じている傾向が認められる。

また、平成7年度に市が実施した調査結果と比較すると、多くの分野で『平等』が増加しており、男女平等が実現されつつある傾向が認められる。しかし、平成16年度の全国調査結果と比較すると、多くの分野で『平等』は国より低い値となっている。(問1)

各分野における男女の地位(全体)



男女不平等が生じる原因は、全体で「男女の役割についての固定観念」、「社会の慣習やしきたり」が5割以上と高い。「社会の慣習やしきたり」が高いことは、問1の「社会通念、慣習・しきたりなど」の分野において『男性優遇』と感じている人が多いという結果を反映していると考えられる。(問2)

男女が平等になるために重要なことは、問2で男女不平等が生じる原因として「男女の役割についての固定観念」、「社会の慣習やしきたり」が高くあげられていることを反映し、全体で「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が34.4%と最も高くなっている。(問3)

## 「男女平等意識について」調査結果からわかる今後の課題

10年前と比べ、社会の各分野において男女平等が進んでいる傾向は認められるものの、未だ男女不平等と感じられている分野は多く、その原因としては「男女の役割についての固定観念」、「社会の慣習やしきたり」があげられている。固定的な性別役割分担意識を払拭し、男女共に自分らしく生きることができるよう、市民の意識啓発をより推進していく必要がある。

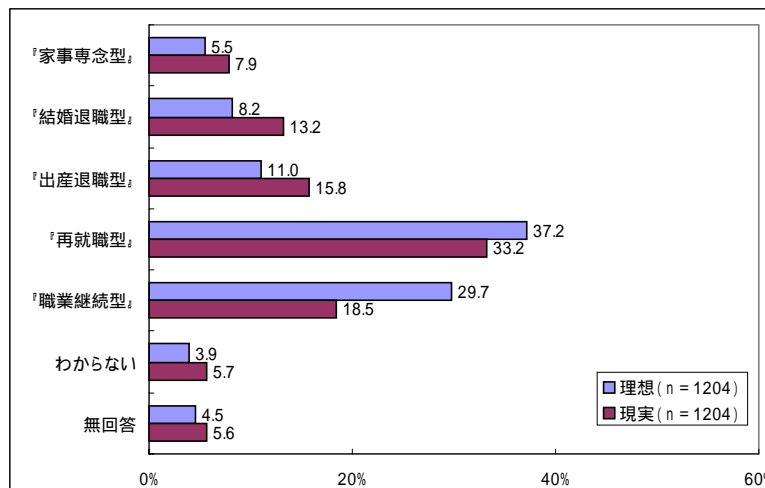
男女平等意識について性別による差が認められたことから、男女間、夫婦間、家族間でコミュニケーションを密にし、相互理解を深めるための啓発などの取り組みも必要である。

## 2 職業生活について

理想的な女性のライフスタイルは、全体で『再就職型』が37.2%と最も高く、『職業継続型』、『出産退職型』、『結婚退職型』、『家事専念型』の順となっている。結婚・出産を機に一時的でも職業を離れることが望ましいとした人は5割以上にのぼっており、平成16年度の全国調査結果と比較すると、『職業継続型』が国より低い値となっている。また、結婚の有無別にみると、未婚者で『職業継続型』が結婚経験者に比べ高い。

理想と現実の女性のライフスタイルを比較すると『再就職型』、『職業継続型』を理想としながらも、理想どおりのライフスタイルをおくることのできない人が少なくないことがわかる。(問4)

女性のライフスタイルの理想と現実(全体)



女性が働く上で支障となることは、全体で「家事の負担が大きいこと」が57.5%と最も高く、「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」、「保育体制の不備」と続いている。平成7年度に市が実施した調査結果と比較すると、「保育体制の不備」をあげる声が強くなっていることがわかる。(問5)

職場の現状については、「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」が33.0%と最も高く、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」、「同期に同年齢

で入社した男性との賃金、昇給の差がある」、「女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある」も2割以上と少なくない。ただし、「特に男女格差はない」も29.2%となっている。

#### (問6)

男女が共に職業人として活躍するために重要なことは、全体で「仕事に必要な職業能力を身につけること」が41.1%と最も高く、「職業人として自覚をもつこと」、「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」、「男女共に育児休暇が取りやすくなること」、「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」が3割以上で続いている。「男女共に育児休暇が取りやすくなること」、「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」が高いことは、問4で理想的な女性のライフスタイルの第1位が『再就職型』、第2位が『職業継続型』であったという結果を反映しているといえる。(問7)

#### 「職業生活について」調査結果からわかる今後の課題

理想的な女性のライフスタイルの上位は、『再就職型』、『職業継続型』であるが、現状では、理想どおりのライフスタイルをおくることができない人が少なくない。女性が働く上での支障は、「家事負担」、「子育て負担」となっていることから、家事・育児についての男女協働を支援・啓発する取り組みとともに、地域ぐるみの子育て支援、多様なニーズに対応できる保育サービスの充実を促進することが求められている。

職場における男女格差があるという声が少ないことから、企業に対する男女平等意識の啓発をし、固定的な男女観にとらわれず、職業人としての資質・能力を評価するように促していく必要がある。

また、起業などの情報提供、一度職業を離れた人の再就職支援、労働時間短縮、在宅ワークなど男女共に柔軟な働き方のできる労働条件・環境の整備についても啓発していくことが重要である。

これらの家庭と仕事の両立支援の取り組みを効果的にするためには、企業と行政があらゆる面で連携することが不可欠である。

### 3 結婚、家庭生活と男女の役割について

結婚、家庭に関する考えについては、性別では女性、年齢別では若い年代、結婚の有無別では未婚者で、結婚・離婚や子どもをもつことについてより自由な選択を望んでいる傾向がある。年齢別については、概ね60歳を境として考え方に差が認められる。

なお、平成16年度の全国調査結果と比較すると、結婚・離婚や子どもをもつことについて自由な選択を望む人の割合は国より低くなっている。(問8)

家庭内の仕事の理想の分担として、全体で「食事のしたく」、「洗濯」では「妻」、「食事の後かたづけ、食器洗い」、「掃除」では「家族全員」、「育児・しつけ」、「看護・介護」では「夫妻とも同じくらい」の分担を望む人がそれぞれ最も多い。

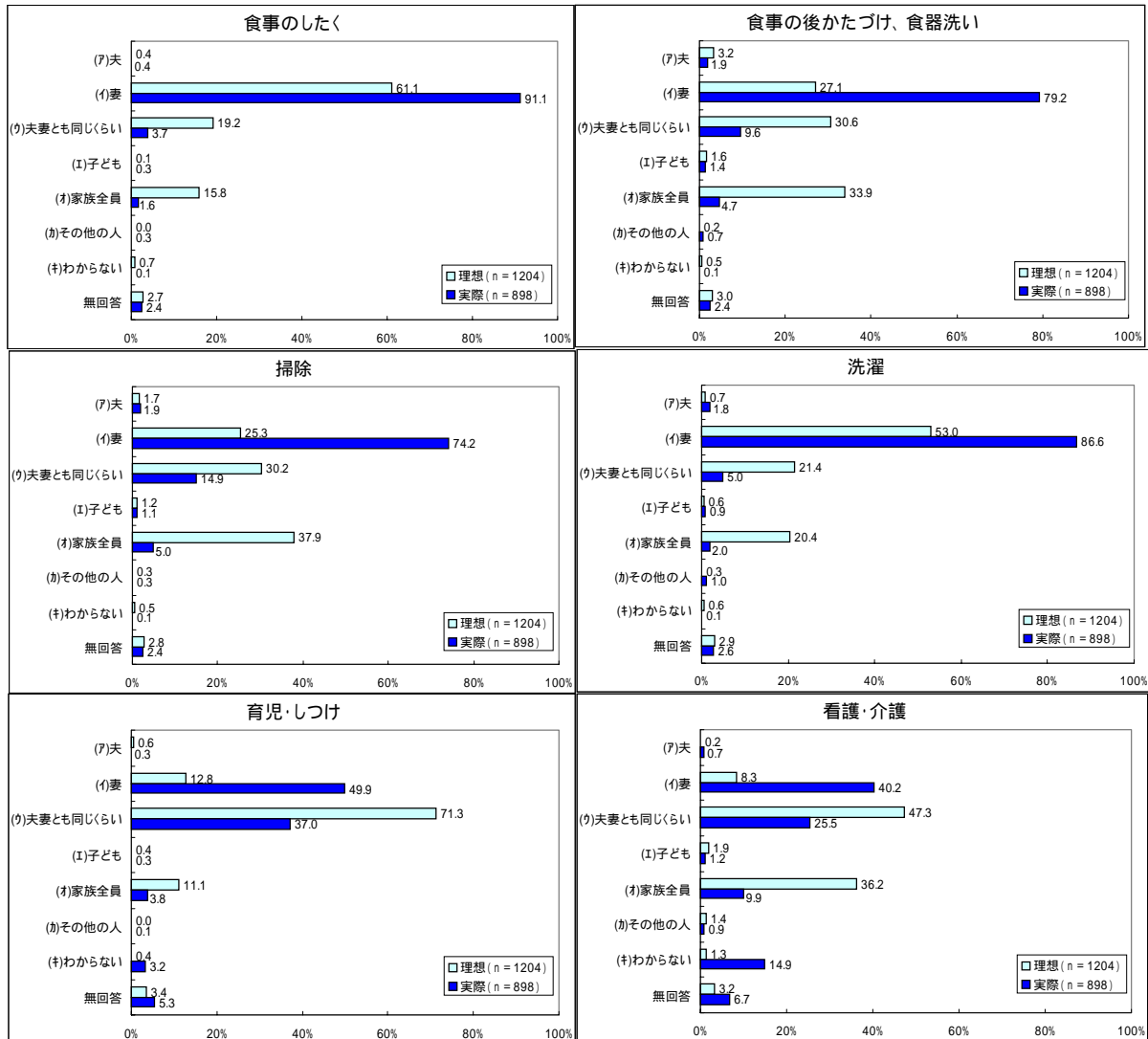
家庭内の多くの仕事について、男性で女性に比べ「妻」の分担を理想とする人がより多い一方、女性では男性に比べ「夫妻とも同じくらい」、「家族全員」の分担をより望んでいる傾向が認められる。また、若い年代で「夫妻とも同じくらい」の分担をより望んでいる



傾向も認められる。(問9)

家庭内の仕事の実際の分担をみると、問9の理想の分担と比べ「妻」の分担が増大しており、「夫妻とも同じくらい」、「家族全員」の分担は理想より少なくなっている。家庭内における妻（女性）の負担が大きいことが示されており、問5の女性が働く上での支障として「家事の負担が大きいこと」が最も高くあげられていることは、これを反映しているといえる。(問10)

家庭内の仕事の理想の分担・実際の分担(全体)



少子化の原因は、全体で「子育ての経済的負担が大きいから」が61.1%と最も高く、「仕事と両立するための環境ができていないから」、「結婚しない人が増えたから」が3割以上で続いている。(問11)

安心して子どもを産み育てるために必要なことは、全体で「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が59.8%と最も高く、「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」、「保育サービスの充実」、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」が3割前後で続いている。問11の少子化の原因として高くあげられたものに対応した支援策が求められていることがわかる。また、子どもの有無別にみると、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」

が第1位であることは共通しているが、子どもがいない人では「父親が子育てに十分関わることができる職場環境の整備」、子どもが1人の人では「子育て中の専業主婦のリフレッシュ支援」、子どもが3人以上の人では「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」、子どもが4人以上の人では「子育ての悩み相談の充実」が、それぞれ他と比べ高くなっており、子どもの数によって重視していることが違う傾向が認められる。(問12)

子どもの教育については、全体で「男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい」が81.4%と、『性別で教育水準を変えたい』を大きく上回っており、問1の「学校教育の場」は男女平等が比較的進んでいる分野だという結果を、裏付ける結果といえる。

子どもの育て方については「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」が42.4%、「男の子も女の子も同じように育てた方がよい」が30.7%であり、性別役割分担意識が解消されていないことが伺える。(問13)

望ましい介護方法は、全体で「夫または妻(パートナー)」が46.8%と最も高く、「ホームヘルパーや公的な介護制度を利用する」が19.4%で続いている。

平成7年度に市が実施した調査結果と比較すると、「ホームヘルパーや公的な介護制度を利用する」が増加しており、公的サービスへの期待が高まっていることがわかる。(問14)

高齢者介護が女性の役割となりがちな現状については、全体で「男性も女性とともに介護するべきである」が43.8%と最も高く、問9の「看護・介護」の理想の分担の結果と合致している。ただし、「問題があるが、現状ではやむをえない」も28.5%と少なくない。(問15)

#### 「結婚、家庭生活と男女の役割について」調査結果からわかる今後の課題

結婚、家庭に関する考えについて、性別役割分担意識にとらわれている人が少ない現状を踏まえ、子どものころから、男女共に自律(自分のことを自ら決定し、実行する力の確立)・自立(他者に依存することなく、はつらつと生きる力の確保)に向けた意識啓発を推進する必要がある。

また、結婚、家庭に関する考えについては、性別、年齢による意識の差も認められたため、男女間、世代間、家族間でコミュニケーションを密にし、相互理解を深めるための啓発などの取り組みも必要である。

家庭内の仕事の分担において、男女が協力することが望ましいとしながらも、実際は女性の負担が非常に重くなっていることから、男性の家事、育児、介護参加を促進、支援していくため、意識啓発を行う、柔軟な働き方を可能とするなど、行政、企業が連携して取り組むことが求められている。

少子化対策としては、まずは経済的支援を強化することが必要である。

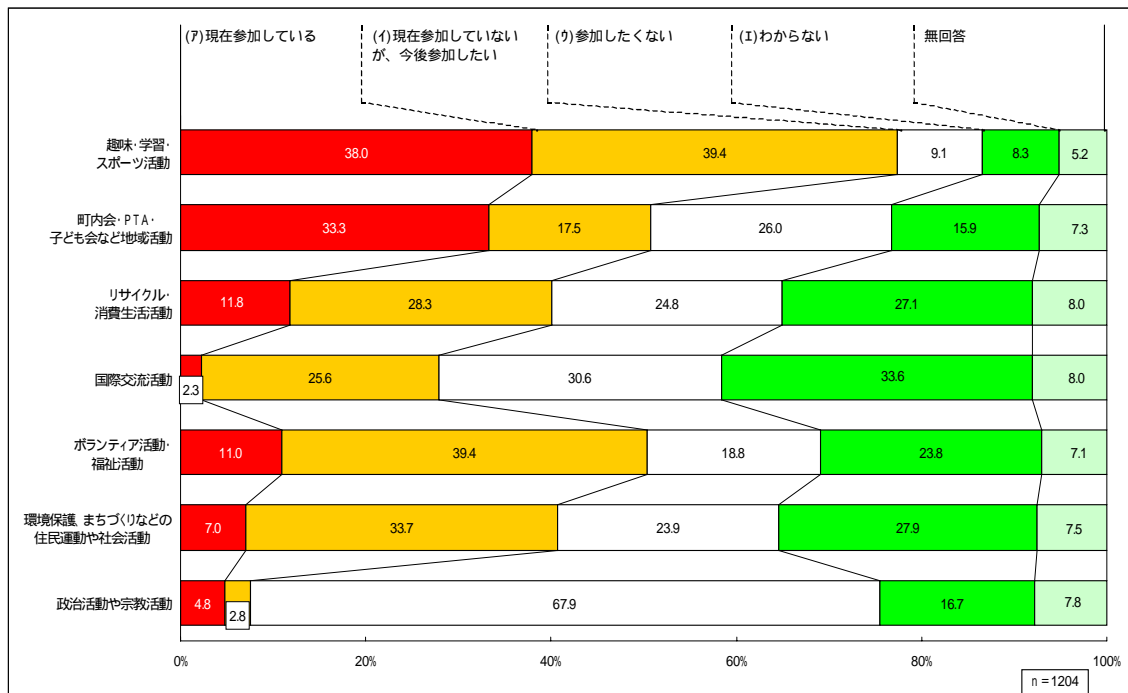
子どもの数により子育て支援のニーズが違うという結果が示されていることから、個々の家庭のニーズに柔軟に対応できる支援サービスを充実する必要がある。

介護については、一家族で担いきれるものではないこと、公的サービスへの期待が強いことから「介護の社会化」を進めていくことが重要である。

## 4 社会参加活動について

参加状況が比較的良好な社会活動は、「趣味・学習・スポーツ活動」、「町内会・PTA・子ども会など地域活動」であった。一方、「国際交流活動」、「政治活動や宗教活動」は「現在参加している」が5%未満であり、「参加意向がある」人の割合も少ない。(問16)

社会活動への参加状況・参加意向(全体)



社会活動に参加する上で支障となることは、全体で「仕事が忙しい」、「健康や体力に自信がない」が3割以上と高い。また、「社会活動に関する情報が少ない」、「グループの人間関係がわずらわしい」も2割弱と少なくない。男性で女性に比べ「仕事が忙しい」が、女性で男性に比べ「家事が忙しい」が特に高い。女性で「家事が忙しい」が高いことは、問10の家庭内の仕事の実際の分担で、妻（女性）の負担が大きいという結果を反映しているといえる。(問17)

地域の現状については、全体で「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」が44.5%と最も高い。ただし、「特に男女格差はない」も28.2%となっている。(問18)

女性の参画が必要な領域は、全体で「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」が54.1%と最も高く、「環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」が46.4%で続いている。しかし、問16の「環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動」へ現在参加している人は、男女共に1割未満と少ないことから、住民の参加意向を高めるための取り組みや参加意向がある人が参加しやすい仕組みづくりなどを、まず推進する必要があるといえる。(問19)

男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことは、全体で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が5割以上と高い。

女性で男性に比べ、固定的な性別役割分担意識や社会の慣習やしきたりの改善により重きをおいていることがわかる。一方、男性では女性に比べ、女性だけでなく男性を含めた働き方の見直しをより求めていることが示されている。(問20)

#### 「社会参加活動について」調査結果からわかる今後の課題

地域には、性別役割分担意識に根ざした慣習がまだ残っているとの結果から、地域社会での男女平等意識の啓発が重要である。

社会活動への参加はあまり盛んではなく、参加できない原因として「仕事が忙しい」があげられていることから、企業に対してゆとりある働き方の推進を啓発するとともに、社会活動に関する情報提供に努め、住民の参加意向を高めるための取り組み、また参加意向がある人が参加しやすい仕組みづくりを促進する必要がある。

## 5 人権について

女性の人権が尊重されていないと感じることは、全体で「男女の固定的な役割分担意識」が45.5%と最も高い。問8、問13で示された性別役割分担意識が未だ解消されていないという結果を反映しているといえる。(問21)

セクシュアル・ハラスメントだと思うことは、全体で「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」、「さわる、抱きつくなど肉体的な接触をすること」の直接的な行為が7割以上と高い。一方、「結婚予定や出産予定を聞くこと」、「女性に対して『女の子』『おばさん』などと呼ぶこと」は、15%前後にとどまっている。(問22)

セクシュアル・ハラスメントの経験は、「自分が直接経験したことがある」が男性11人(2.2%)、女性126人(18.1%)、全体137人(11.4%)であり、平成16年度実施の兵庫県の調査結果と比較すると、女性でやや高い。「自分が直接経験したことがある」人の性別内訳をみると、女性が9割以上を占めている。『セクシュアル・ハラスメントの認知度』は全体で91.7%であった。(問22)

ドメスティック・バイオレンスの経験は、「自分が直接経験したことがある」が男性18人(3.5%)、女性63人(9.1%)、全体81人(6.7%)であり、平成16年度実施の兵庫県の調査結果とほぼ同様の割合となっている。「自分が直接経験したことがある」人の性別内訳をみると、女性が8割弱を占めている。『ドメスティック・バイオレンスの認知度』は全体で88.6%であった。(問23)

## 「人権について」調査結果からわかる今後の課題

女性の人権が尊重されていないこととして「男女の固定的な役割分担意識」をあげる人が多いことから、人権という観点から、男女のあり方を見直し、性別役割分担意識を払拭することが重要である。

直接的な行為だけでなく言葉による表現もセクシュアル・ハラスメントとなり得ることなど、セクシュアル・ハラスメントについての理解を深め、防止に努める必要がある。

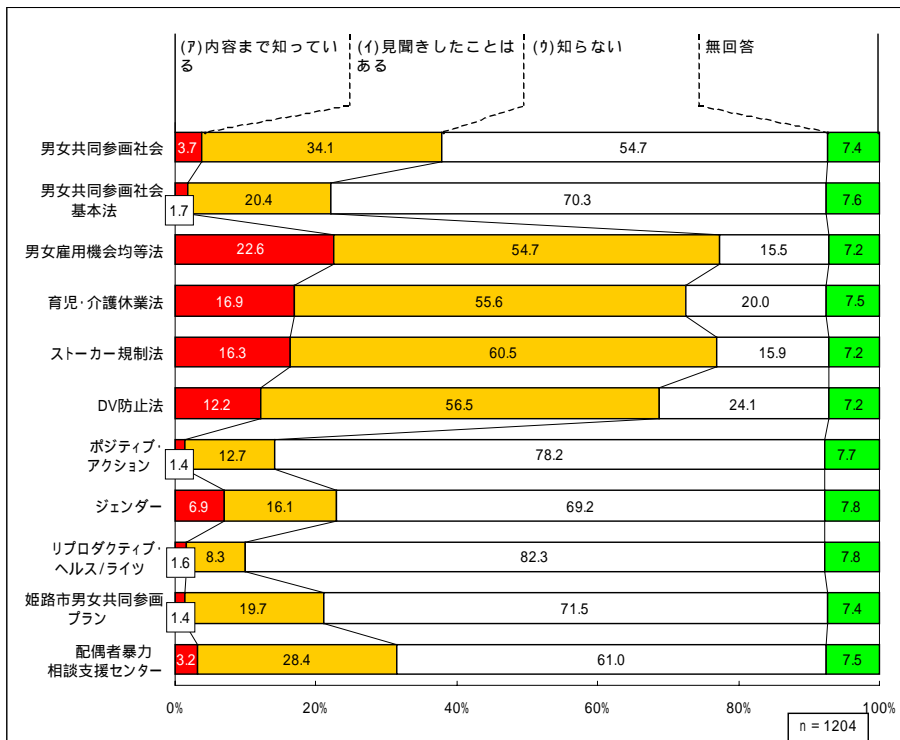
本市のセクシュアル・ハラスメントの被害者は、女性で県の調査結果（平成16年度）に比べやや高い。また、ドメスティック・バイオレンスの被害者は、県の調査結果（平成16年度）と同様となっており、決して少なくない。さらに、平成15年度実施の市の「配偶者等からの暴力に関する調査」によると被害を受けても誰にも相談しない人が5割以上にのぼることから、被害が潜在することが考えられる。誰でも気軽に安心して相談できる体制整備、相談窓口についての情報提供が重要である。

## 6 男女共同参画に関する施策などについて

男女共同参画関連事項について、全体で認知度が特に低い事項（「知らない」が7割前後、『知っている』が3割未満であったもの）は「男女共同参画社会基本法」、「ポジティブ・アクション」、「ジェンダー」、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」、「姫路市男女共同参画プラン」である。一方、『知っている』が7割前後である事項は「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」、「ストーカー規制法」、「DV防止法」である。

なお、「内容まで知っている」はすべての事項で3割未満となっている。（問24）

男女共同参画関連事項の認知度(全体)



姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”の認知度は、全体で「センターの事業内容も知らないし、利用したこともない」が76.5%と最も高く、『センターの事業内容を知っている』は18.6%にとどまっている。また、男性で女性に比べ認知度がより低い傾向が認められる。(問25)

男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきことは、全体で「労働の場における男女平等の徹底と、男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」、「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女が共に介護に関わるための基盤づくりをすすめる」、「男女が共に子育てに関わるための取り組みや、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」が3割以上と高い。

育児・介護と仕事の両立を支援する施策が特に求められていることがわかる。(問26)

#### 「男女共同参画に関する施策などについて」調査結果からわかる今後の課題

本市の男女共同参画関連事項の認知度は高いとはいえ、自由回答意見でも「男女共同参画社会」について正しく理解していないと思われる意見もあった。市民の男女共同参画に対する関心を高め、理解を深めることが重要であり、学習や活動、情報・ネットワークなどの拠点となる施設“あいめっせ”の事業を広く知らせることが必要である。

男女共同参画社会実現のためには、市には育児・介護と仕事の両立を支援する施策が強く求められている。

## 各 設 問 調 查 結 果



## 1 男女平等意識について

### (1) 各分野における男女の地位

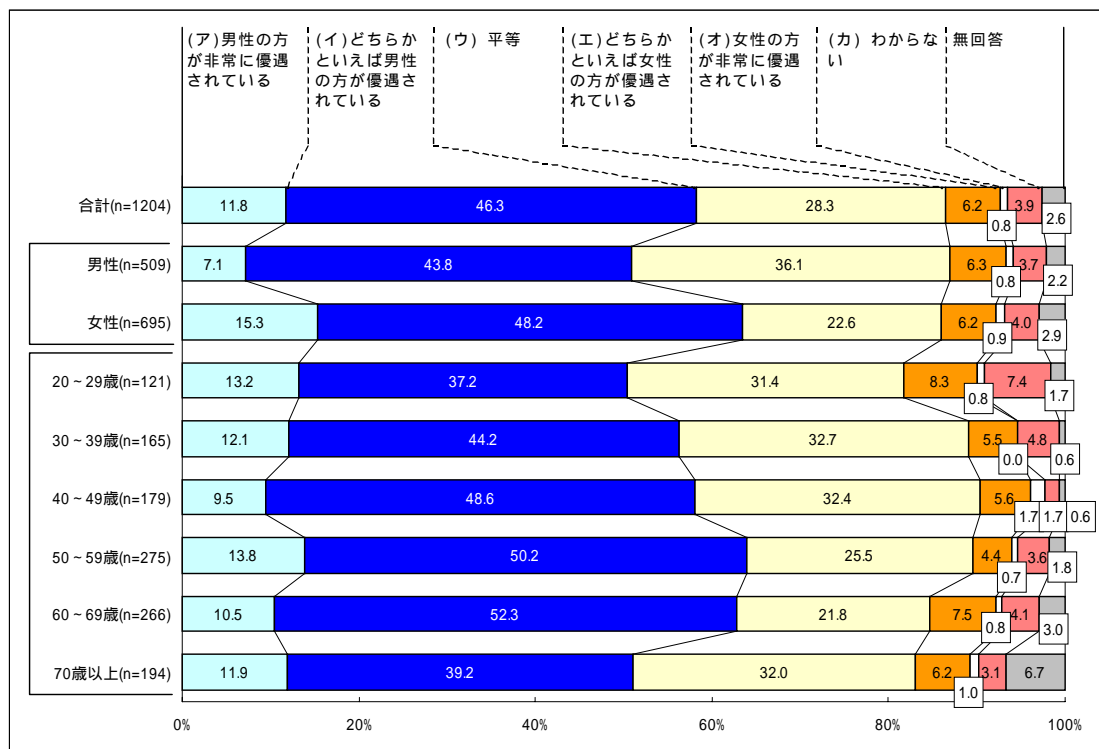
問1 あなたは、今の社会において、次の各分野で男女の地位はどのようになっていると思いますか。(1つ選択)

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』とする。

家庭生活では

『男性優遇』58.1% > 「平等」28.3% > 『女性優遇』7.0%

#### 家庭生活における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.3%と最も高く、「平等」が28.3%、「男性の方が非常に優遇されている」が11.8%で続いている。『男性優遇』(58.1%)が、「平等」(28.3%)、「女性優遇」(7.0%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が36.1%と、女性(22.6%)に比べ13.5ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が15.3%、「男性優遇」が63.5%とそれぞれ男性に比べ高い。

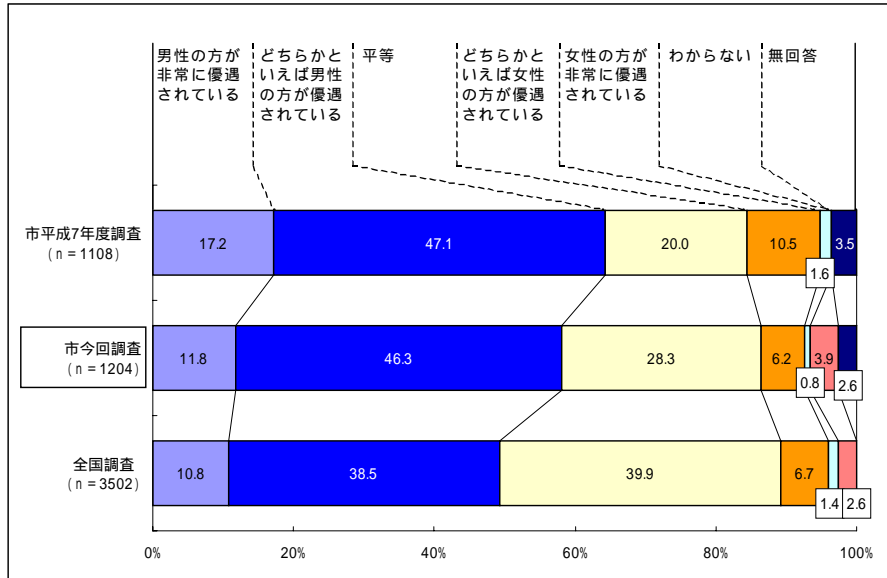
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。



**参考：過去の市実施の調査・全国調査との比較**

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市平成7年度調査	432	13.2	47.7	24.1	10.9	1.4	0.1	2.8
	市今回調査	509	7.1	43.8	36.1	6.3	0.8	3.7	2.2
	全国調査	1616	7.4	33.4	46.9	7.9	1.7	2.8	0.5
女性	市平成7年度調査	643	20.2	46.7	17.3	10.6	1.7	0.1	3.6
	市今回調査	695	15.3	48.2	22.6	6.2	0.9	4.0	2.9
	全国調査	1886	13.7	42.9	33.9	5.8	1.2	2.5	1.4

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、全体、男性で「平等」が増加し、『男性優遇』が減少している。女性では特に大きな差異は認められない。

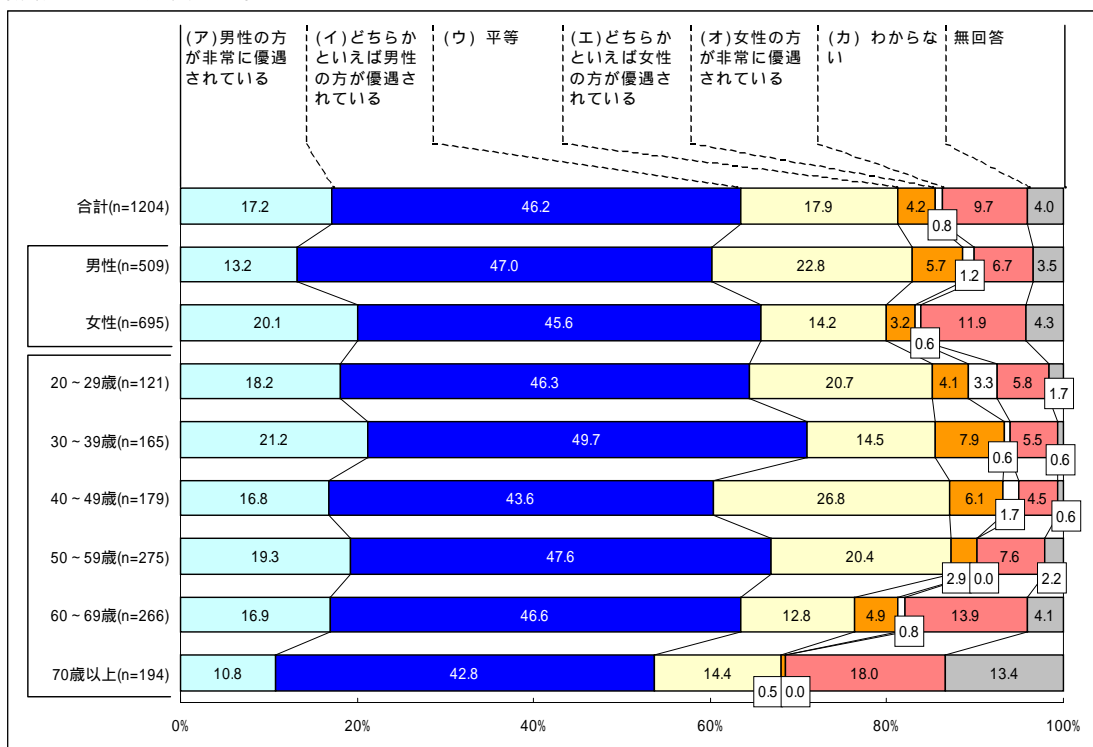
平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに『男性優遇』が高く、「平等」が低い。

【注意点：平成7年度実施の市の調査では「わからない」の選択肢はない。  
全国調査は、調査員がその場で聴き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。】

## 職場では

『男性優遇』63.4% > 「平等」17.9% > 『女性優遇』5.0%

### 職場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.2%と最も高く、「平等」が17.9%、「男性の方が非常に優遇されている」が17.2%で続いている。『男性優遇』(63.4%)が、「平等」(17.9%)、「女性優遇」(5.0%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が22.8%と、女性(14.2%)に比べ8.6ポイント高い。

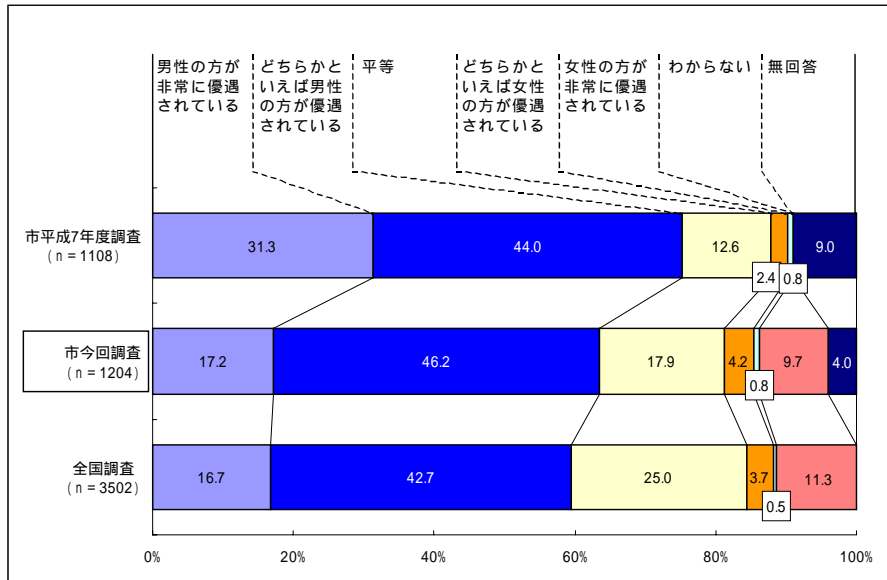
#### 【年齢別】

40～49歳で「平等」が26.8%と、他の年代に比べ高い。

なお、70歳以上で「男性の方が非常に優遇されている」、「男性優遇」が69歳以下に比べ低い、「わからない」、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

**参考：過去の市実施の調査・全国調査との比較**

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市平成7年度調査	432	27.8	45.1	16.4	3.9	1.1	5.6	
	市今回調査	509	13.2	47.0	22.8	5.7	1.2	6.7	
	全国調査	1616	13.2	42.3	30.2	5.0	0.8	8.5	
女性	市平成7年度調査	643	34.5	42.9	10.1	1.4	0.3	10.7	
	市今回調査	695	20.1	45.6	14.2	3.2	0.6	11.9	
	全国調査	1886	19.7	43.1	20.6	2.7	0.2	13.7	

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、全体、女性で『男性優遇』が減少している。男性では『男性優遇』が減少し「平等」が増加している。

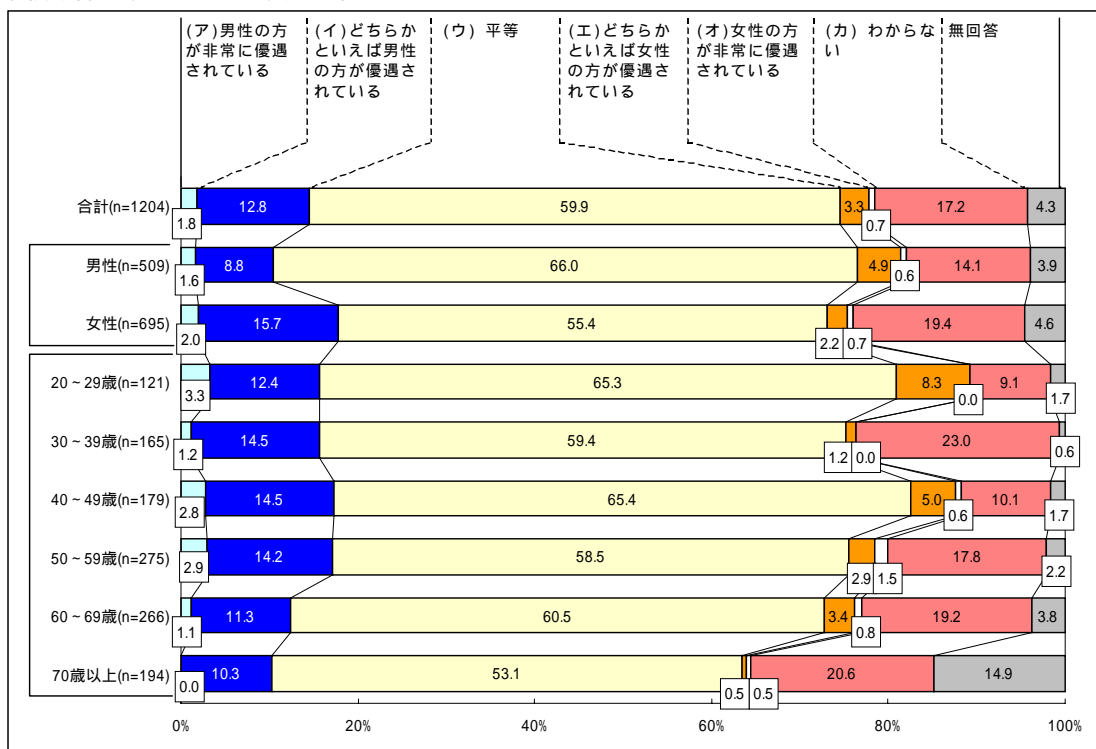
平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに「平等」が低い。

〔 注意点：平成7年度実施の市の調査では「わからない」の選択肢はない。  
全国調査は、調査員がその場で聴き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。 〕

## 学校教育の場では

「平等」59.9% > 『男性優遇』14.6% > 『女性優遇』4.0%

### 学校教育の場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が59.9%と最も高く、「わからない」が17.2%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が12.8%で続いている。「平等」(59.9%)が、『男性優遇』(14.6%)、『女性優遇』(4.0%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

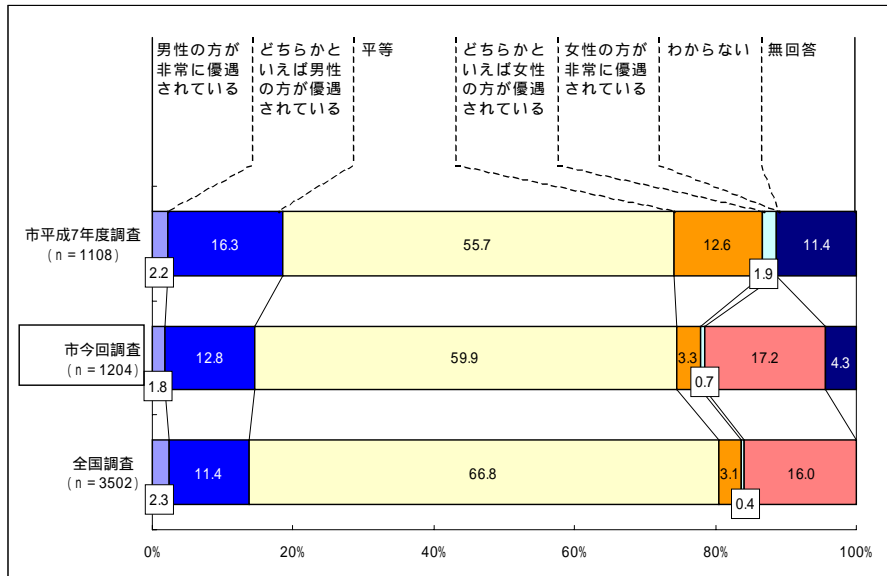
男性で「平等」が66.0%と、女性(55.4%)に比べ10.6ポイント高い。一方、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が15.7%、『男性優遇』が17.7%とそれぞれ男性に比べ高い。

#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

**参考：過去の市実施の調査・全国調査との比較**

<全体>



<性別>

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市平成7年度調査	432	0.5	13.4	58.8	16.4	3.1		7.9
	市今回調査	509	1.6	8.8	66.0	4.9	0.6	14.1	3.9
	全国調査	1616	1.2	9.8	70.0	3.5	0.7	14.7	
女性	市平成7年度調査	643	3.4	18.0	54.3	10.0	1.2		13.1
	市今回調査	695	2.0	15.7	55.4	2.2	0.7	19.4	4.6
	全国調査	1886	3.1	12.7	64.1	2.8	0.2	17.1	

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、全体、女性で『女性優遇』が減少している。男性では『女性優遇』が減少し「平等」が増加している。

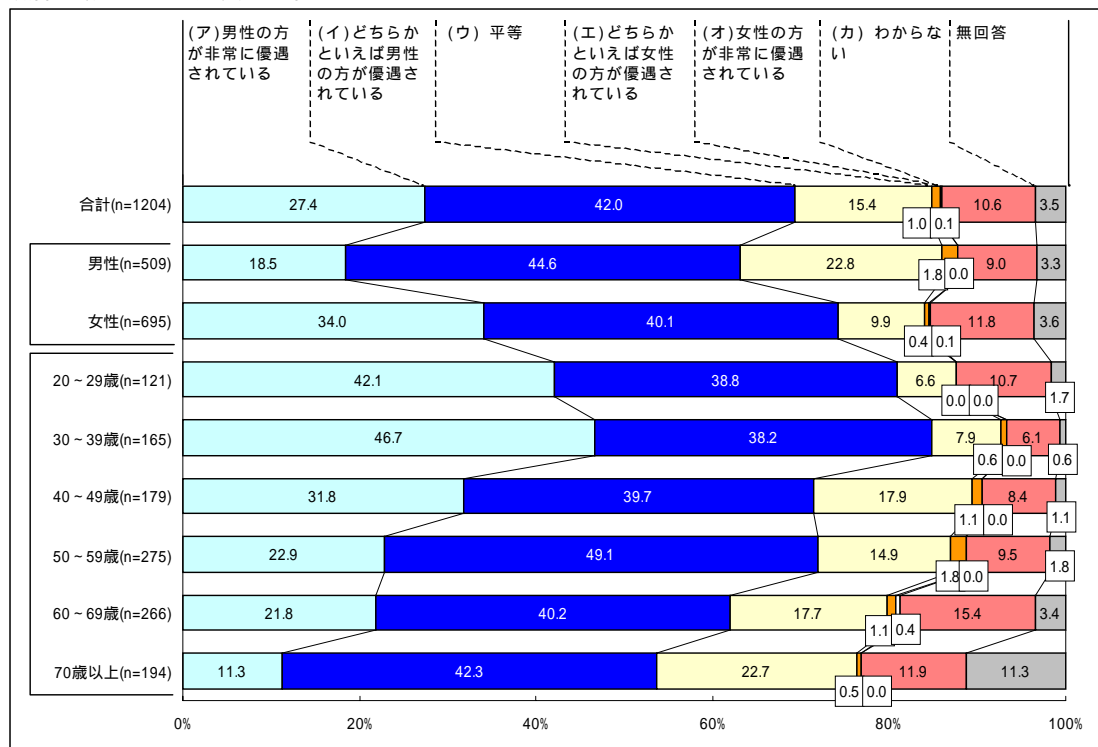
平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、女性で「平等」が低い。男性では特に大きな差異は認められない。

〔注意点：平成7年度実施の市の調査では「わからない」の選択肢はない。  
全国調査は、調査員がその場で聞き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。〕

## 政治の場では

『男性優遇』69.4% > 「平等」15.4% > 『女性優遇』1.1%

### 政治の場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.0%と最も高く、「男性の方が非常に優遇されている」が27.4%、「平等」が15.4%で続いている。『男性優遇』(69.4%)が、「平等」(15.4%)、『女性優遇』(1.1%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が22.8%と、女性(9.9%)に比べ12.9ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が34.0%、『男性優遇』が74.1%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

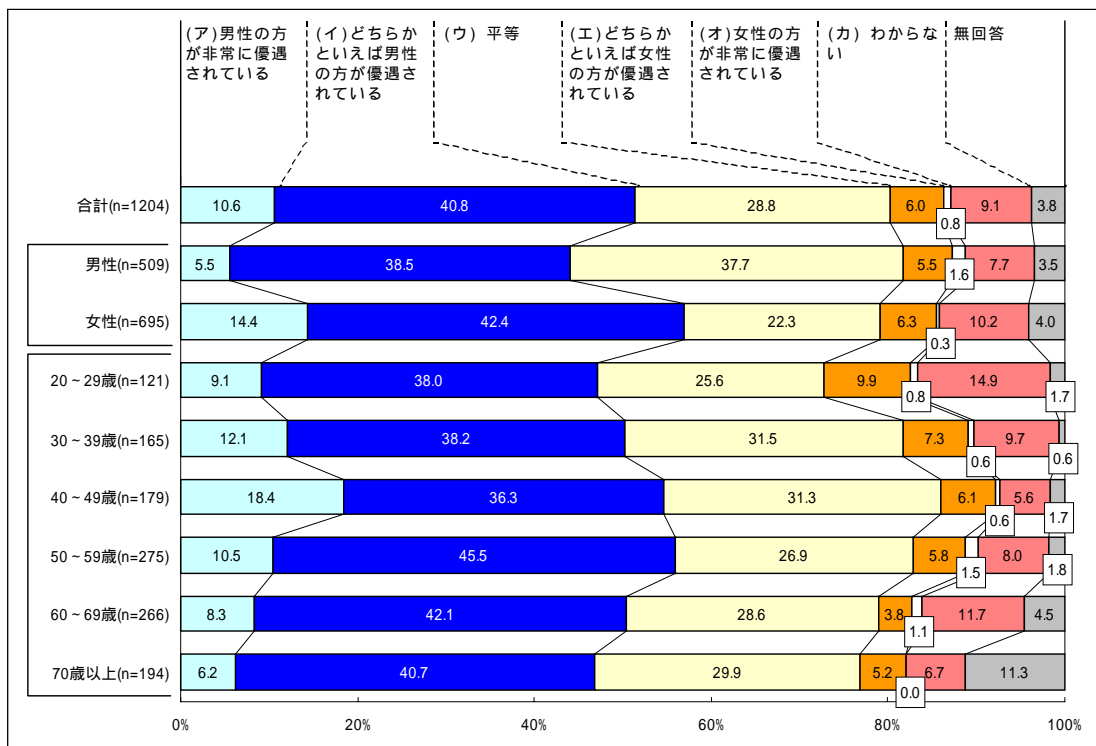
#### 【年齢別】

39歳以下で「男性の方が非常に優遇されている」が4割以上、『男性優遇』が8割以上と40歳以上に比べ特に高く、「平等」が1割未満と40歳以上に比べ低い。

## 地域活動の場では

『男性優遇』51.4% > 「平等」28.8% > 『女性優遇』6.8%

### 地域活動の場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.8%と最も高く、「平等」が28.8%、「男性の方が非常に優遇されている」が10.6%で続いている。『男性優遇』(51.4%)が、「平等」(28.8%)、「女性優遇」(6.8%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が37.7%と、女性(22.3%)に比べ15.4ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が14.4%、「男性優遇」が56.8%とそれぞれ男性に比べ高い。

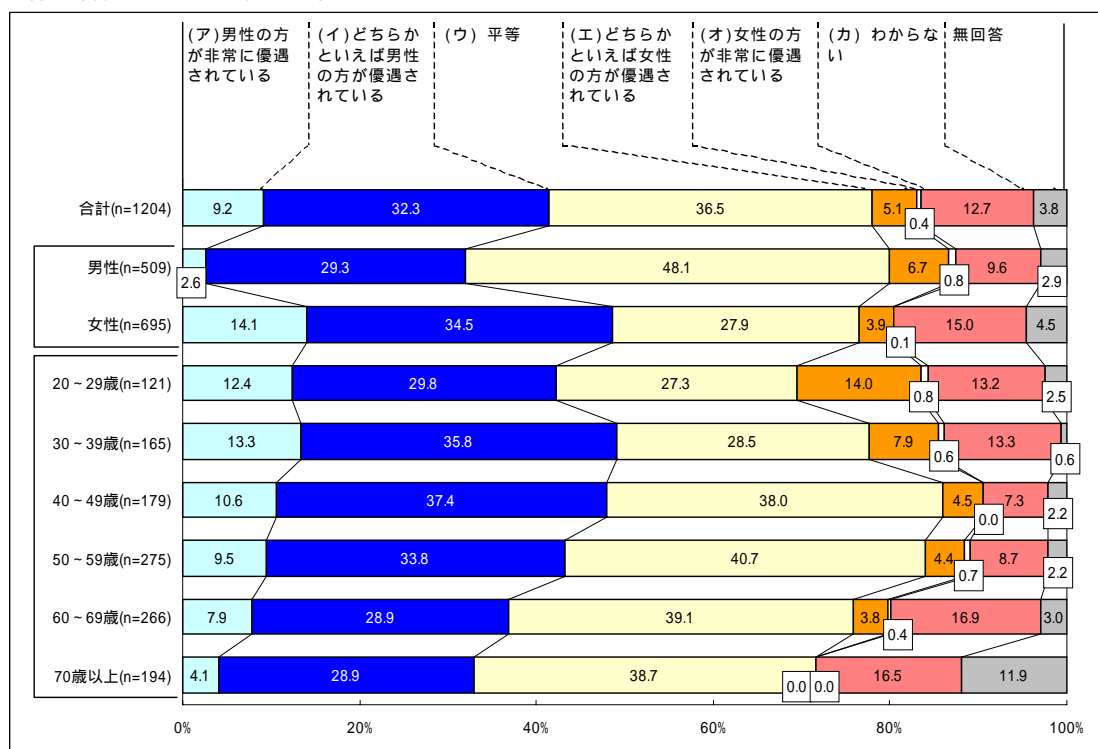
#### 【年齢別】

40～49歳で「男性の方が非常に優遇されている」が18.4%と、他の年代に比べ高い。

## 法律や制度では

『男性優遇』41.5% > 「平等」36.5% > 『女性優遇』5.5%

### 法律や制度における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が36.5%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.3%と高く、「わからない」が12.7%で続いている。『男性優遇』と「平等」が4割前後と、『女性優遇』(5.5%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が48.1%と、女性(27.9%)に比べ20.2ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が14.1%、『男性優遇』が48.6%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

#### 【年齢別】

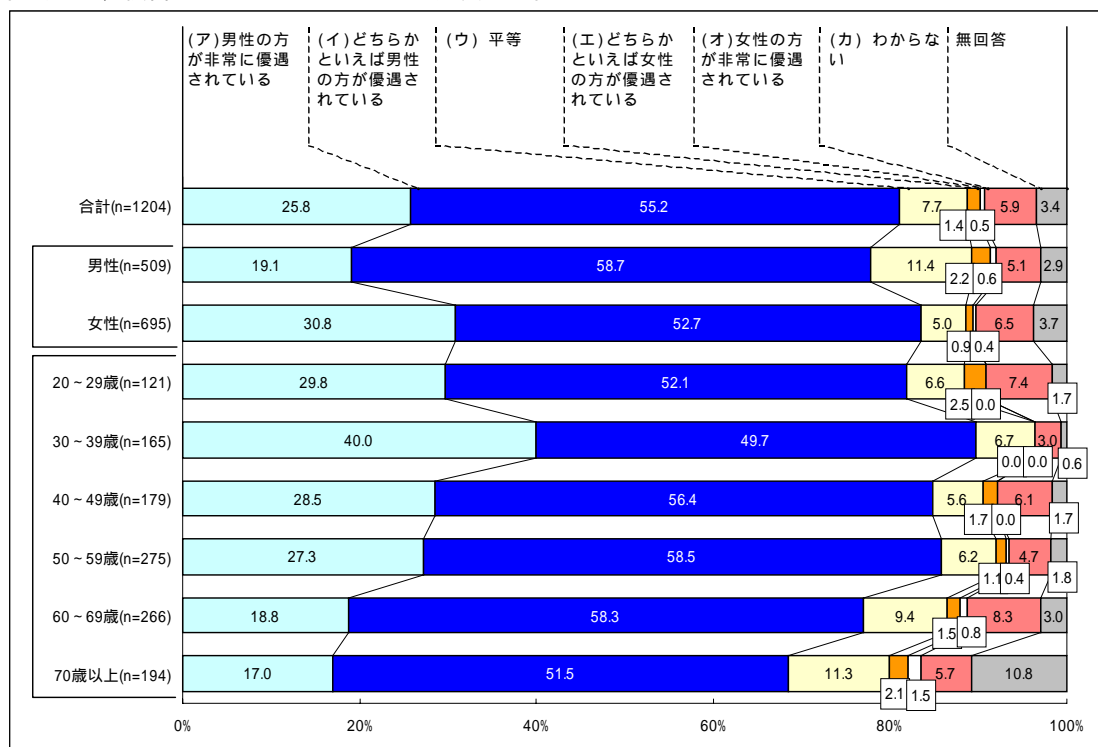
20～29歳で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が14.0%、『女性優遇』が14.8%とそれぞれ30歳以上に比べ高い。



## 社会通念、慣習・しきたりなどでは

『男性優遇』81.0% > 「平等」7.7% > 『女性優遇』1.9%

### 社会通念、慣習・しきたりなどにおける男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が55.2%と最も高く、「男性の方が非常に優遇されている」が25.8%、「平等」が7.7%で続いている。『男性優遇』(81.0%)が、「平等」(7.7%)、「女性優遇」(1.9%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が11.4%と、女性(5.0%)に比べ6.4ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が30.8%と、男性(19.1%)に比べ11.7ポイント高い。

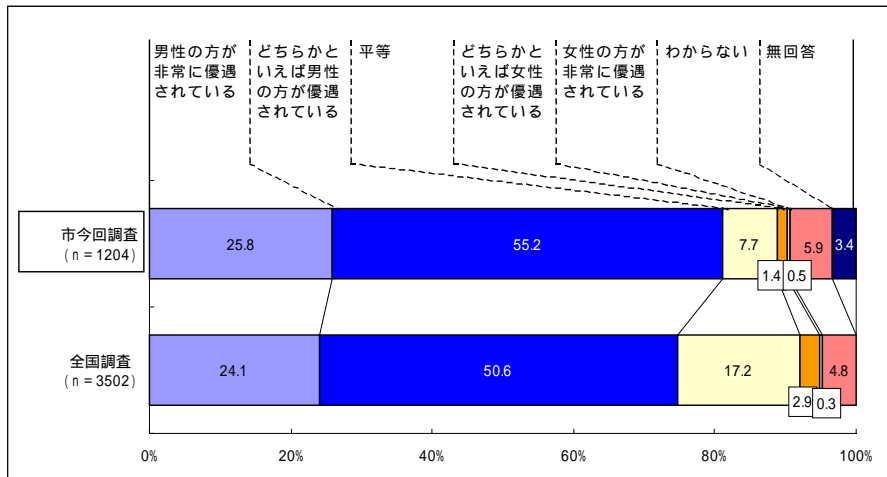
#### 【年齢別】

30～39歳で「男性の方が非常に優遇されている」が40.0%と、他の年代に比べ特に高い。

なお、70歳以上で『男性優遇』が69歳以下に比べ低い、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## 参考：全国調査との比較

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市今回調査	509	19.1	58.7	11.4	2.2	0.6	5.1	2.9
	全国調査	1616	19.2	50.8	22.2	3.3	0.4	4.1	-
女性	市今回調査	695	30.8	52.7	5.0	0.9	0.4	6.5	3.7
	全国調査	1886	28.2	50.5	13.0	2.5	0.3	5.5	-

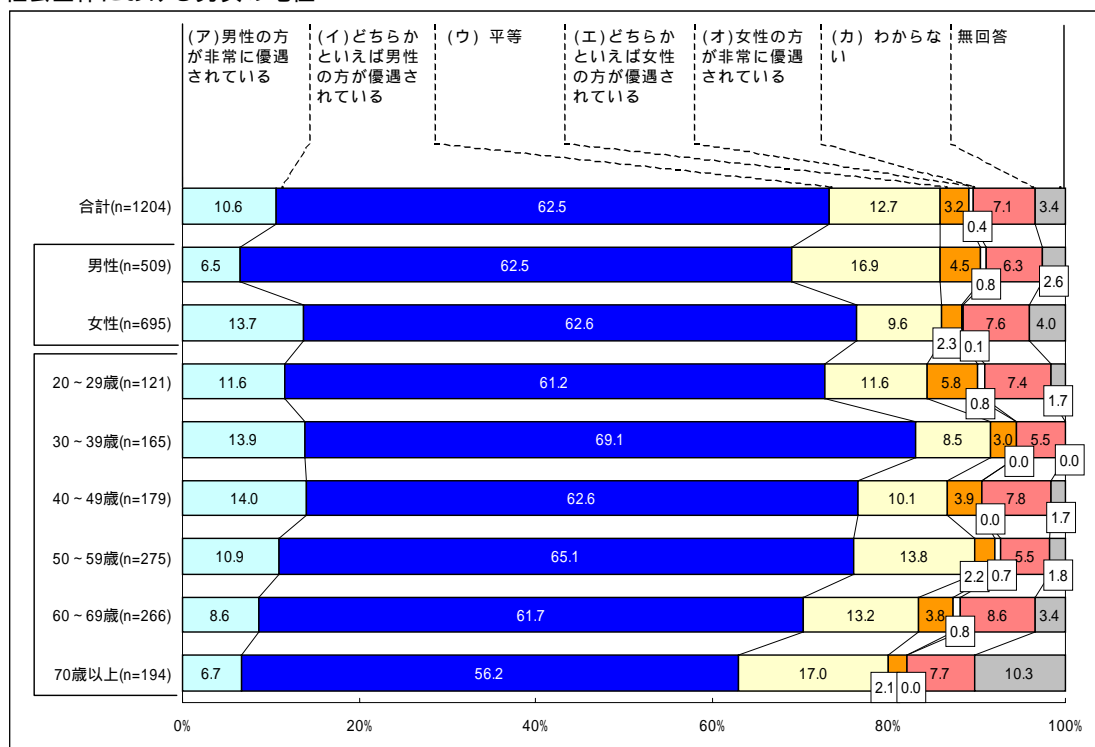
平成 16 年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、女性で「平等」が低い。男性では「平等」が低く『男性優遇』が高い。

〔 注意点：全国調査は、調査員がその場で聞き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。 〕

## 社会全体では

『男性優遇』73.1% > 「平等」12.7% > 『女性優遇』3.6%

### 社会全体における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が62.5%と最も高く、「平等」が12.7%、「男性の方が非常に優遇されている」が10.6%で続いている。『男性優遇』(73.1%)が、「平等」(12.7%)、「女性優遇」(3.6%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が16.9%と、女性(9.6%)に比べ7.3ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が13.7%、「男性優遇」が76.3%とそれぞれ男性に比べ高い。

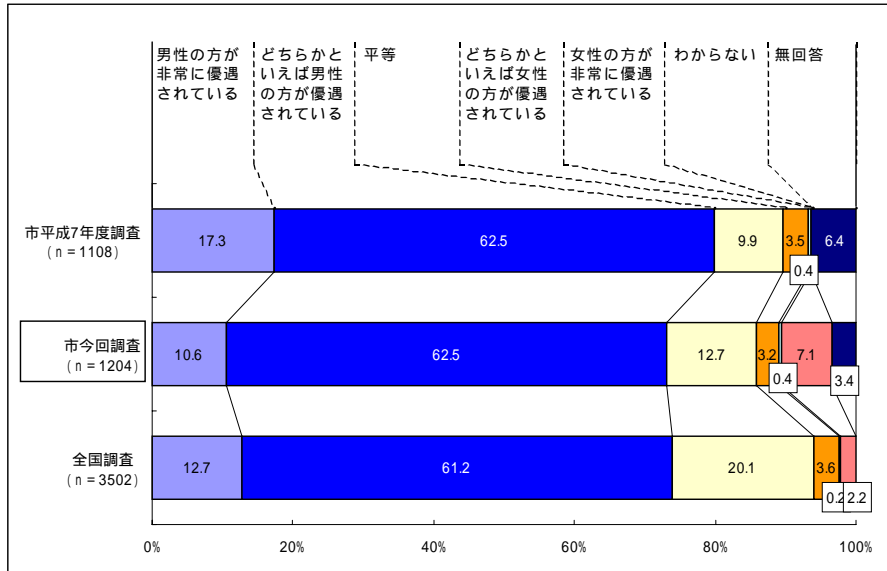
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

なお、70歳以上で『男性優遇』が69歳以下に比べ低い、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

**参考：過去の市実施の調査・全国調査との比較**

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
男性	市平成7年度調査	432	12.5	65.1	14.1	3.9	0.2		4.2
	市今回調査	509	6.5	62.5	16.9	4.5	0.8	6.3	2.6
	全国調査	1616	8.9	58.2	26.1	4.6	0.4	1.9	
女性	市平成7年度調査	643	20.2	61.0	7.2	3.3	0.5		7.9
	市今回調査	695	13.7	62.6	9.6	2.3	0.1	7.6	4.0
	全国調査	1886	16.0	63.8	14.9	2.8	0.1	2.5	

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、全体、男性で『男性優遇』が減少している。女性では特に大きな差異は認められない。

平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性で「平等」が低い。女性では特に大きな差異は認められない。

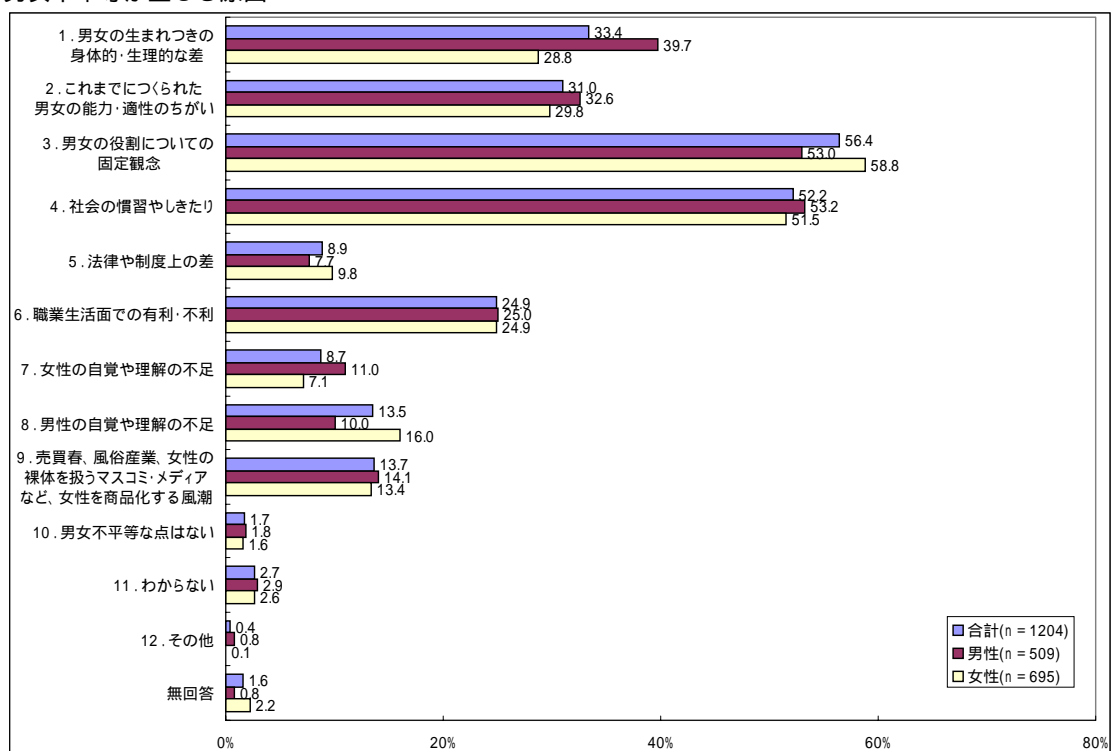
〔 注意点：平成7年度実施の市の調査では「わからない」の選択肢はない。  
 全国調査は、調査員がその場で聞き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。 〕

## (2) 男女不平等が生じる原因

問2 社会にはいろいろな面で男女不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。(3つまで選択可)

「男女の役割についての固定観念」、「社会の慣習やしきたり」が5割以上と高い

男女不平等が生じる原因



(全体・性別)

### 【全体】

「男女の役割についての固定観念」が56.4%、「社会の慣習やしきたり」が52.2%と高く、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」が33.4%で続いている。「男女不平等な点はない」は1.7%にとどまっている。

### 【性別】

男性で「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」が39.7%と、女性(28.8%)に比べ10.9ポイント高い。一方、女性では「男女の役割についての固定観念」が58.8%、「男性の自覚や理解の不足」が16.0%とそれぞれ男性に比べやや高い。

男女不平等が生じる原因

(%)

	n	1 男女の生まれつきの身体的・生理的な差	2 これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい	3 男女の役割についての固定観念	4 社会の慣習やしきたり	5 法律や制度上の差	6 職業生活面での有利・不利	7 女性の自覚や理解の不足	8 男性の自覚や理解の不足	9 売買取、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮
合計	1204	33.4	31.0	56.4	52.2	8.9	24.9	8.7	13.5	13.7
20～29歳	121	31.4	32.2	70.2	55.4	13.2	22.3	5.0	6.6	9.9
30～39歳	165	37.6	30.3	63.6	60.6	10.9	26.7	6.1	11.5	9.1
40～49歳	179	29.6	26.8	62.6	59.2	10.6	25.1	8.9	12.8	16.8
50～59歳	275	33.1	29.8	56.4	54.2	8.0	28.0	8.0	17.1	17.8
60～69歳	266	33.5	32.0	50.0	47.0	8.6	25.6	11.7	14.7	13.9
70歳以上	194	35.1	34.5	45.4	41.8	4.6	19.1	10.3	13.4	11.3

	n	10 男女不平等な点はない	11 わからない	12 その他	無回答
合計	1204	1.7	2.7	0.4	1.6
20～29歳	121	1.7	1.7	0.8	0.8
30～39歳	165	1.2	1.8	0.0	0.0
40～49歳	179	2.2	0.6	1.7	0.0
50～59歳	275	1.1	1.1	0.4	1.1
60～69歳	266	1.5	4.1	2.3	0.0
70歳以上	194	2.6	6.2	4.6	0.0

(全体・年齢別)

【年齢別】

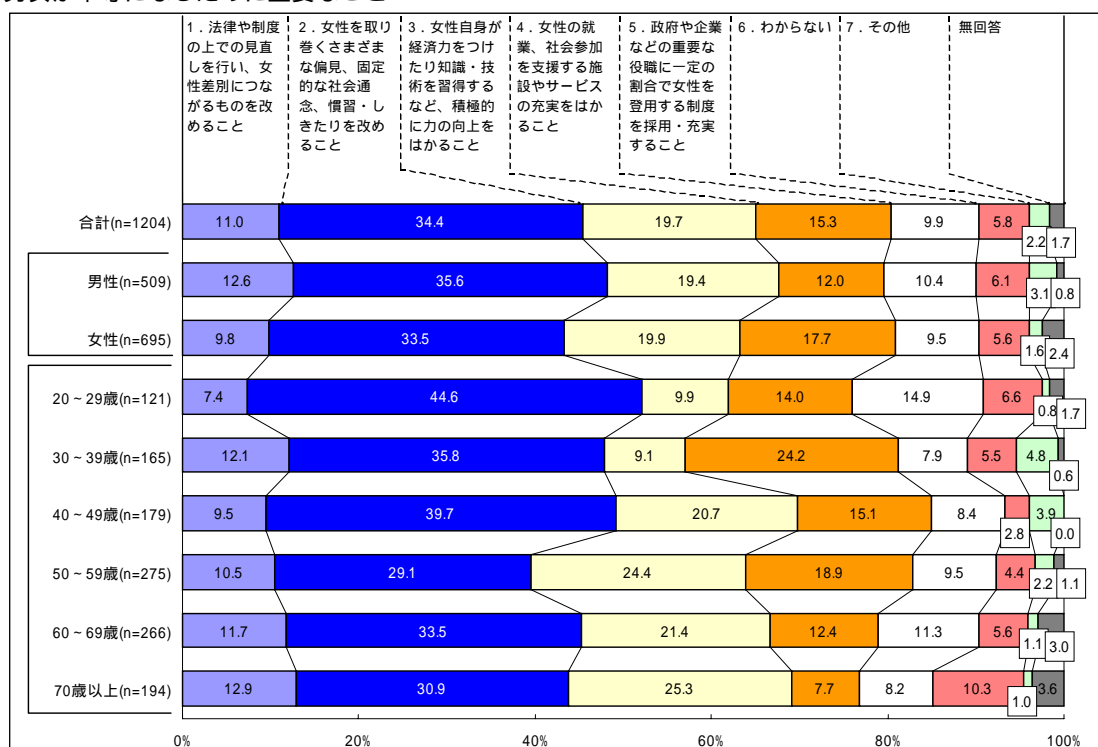
59歳以下で「社会の慣習やしきたり」が5割以上と、60歳以上に比べ高い。「男女の役割についての固定観念」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

### (3) 男女が平等になるために重要なこと

問3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。(1つ選択)

「さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が34.4%でトップ

男女が平等になるために重要なこと



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が34.4%と最も高く、「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上をはかること」が19.7%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」が15.3%で続いている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

#### 【年齢別】

40歳以上で「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上をはかること」が2割以上と、39歳以下に比べ高い。

## 2 職業生活について

### (4) 女性のライフスタイルの理想と現実

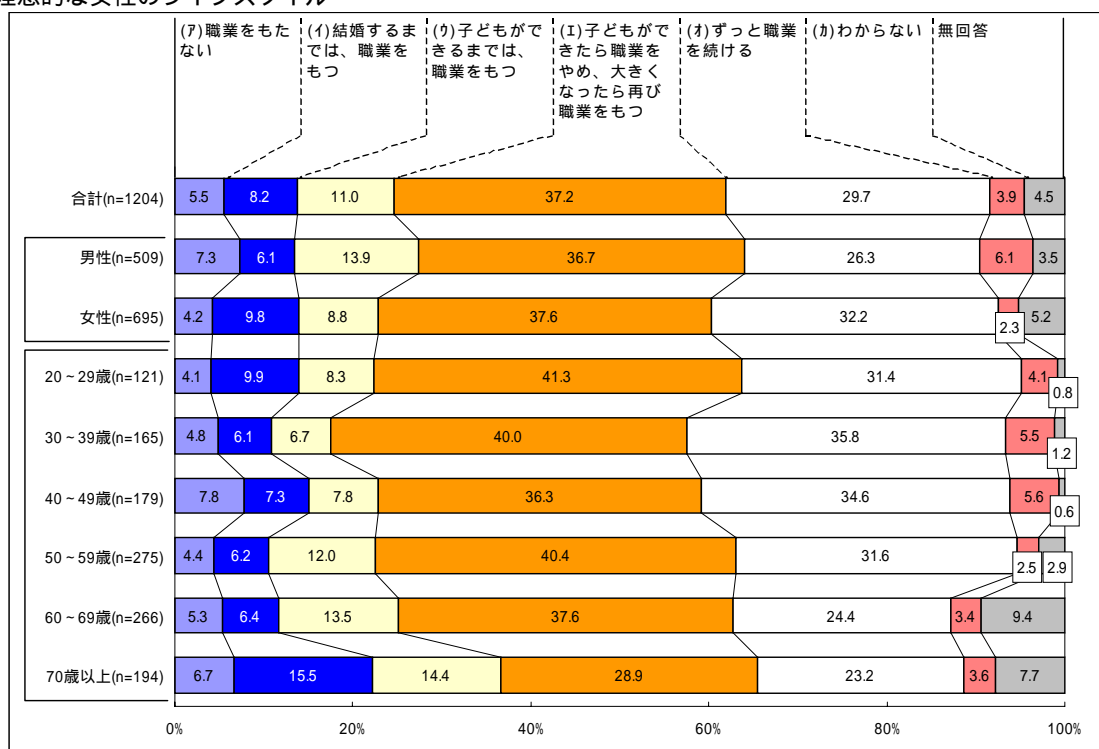
問4 理想的な女性のライフスタイルと実際の状況(現実)についておうかがいします。あなたが女性の場合はあなた自身について、男性であればあなたの妻について、理想と現実をお答えください。(1つ選択)

「職業をもたない」を『家事専念型』、「結婚するまでは、職業をもつ」を『結婚退職型』、「子どもができるまでは、職業をもつ」を『出産退職型』、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」を『再就職型』、「ずっと職業を続ける」を『職業継続型』とする。

理想

『再就職型』37.2%、『職業継続型』29.7%、『出産退職型』11.0% の順

理想的な女性のライフスタイル



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

『再就職型』が37.2%と最も高く、『職業継続型』が29.7%、『出産退職型』が11.0%で続いている。結婚・出産を機に一時的でも職業を離れることが望ましいとした人(『結婚退職型』+『再就職型』+『出産退職型』)は、56.4%となっている。

#### 【性別】

男性では『再就職型』、『職業継続型』、『出産退職型』、『家事専念型』、『結婚退職型』の順に割合が高いが、女性では『再就職型』、『職業継続型』、『結婚退職型』、『出産退職型』、『家事専念型』の順となっている。

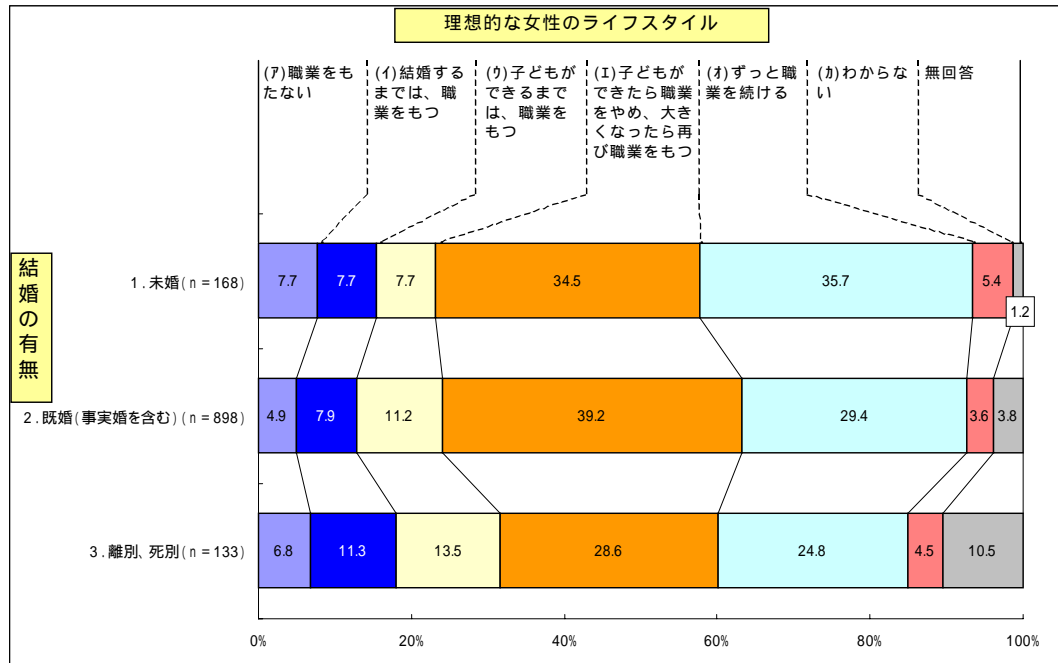
#### 【年齢別】

60歳以上で『職業継続型』が3割未満と、59歳以下に比べ低い。また、70歳以上では『再就職型』が28.9%と、69歳以下に比べ低い。



## 参考：結婚の有無別にみた調査結果

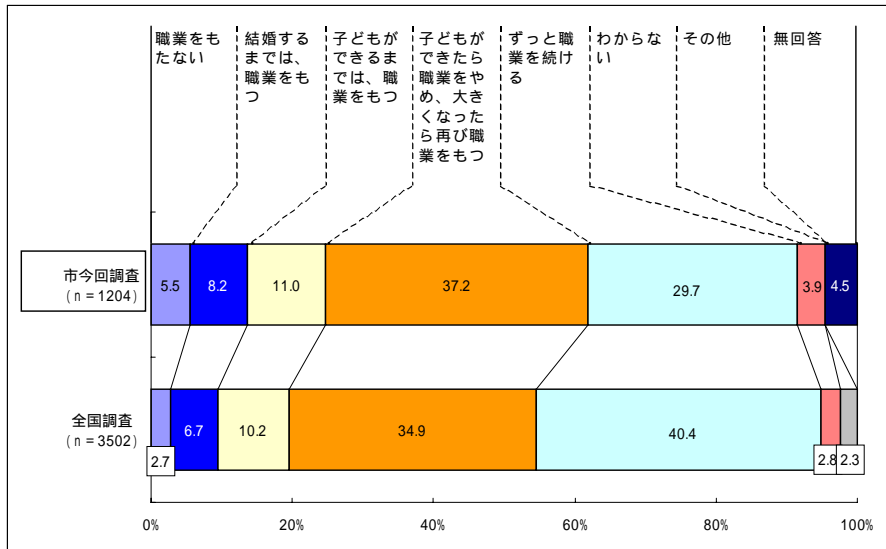
< 結婚の有無別 >



「未婚」では『職業継続型』が35.7%と、結婚経験者（「既婚（事実婚を含む）」と「離別、死別」）に比べ高い。

**参考：全国調査との比較**

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	職業をもたない	結婚するまでは職業をもつ	子どもができるまでは職業をもつ	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	ずっと職業を続ける	わからない	その他	無回答
男性	市今回調査	509	7.3	6.1	13.9	36.7	26.3	6.1		3.5
	全国調査	1616	3.8	8.3	11.5	32.4	38.6	2.7	2.7	
女性	市今回調査	695	4.2	9.8	8.8	37.6	32.2	2.3		5.2
	全国調査	1886	1.7	5.4	9.1	37.0	41.9	2.9	2.0	

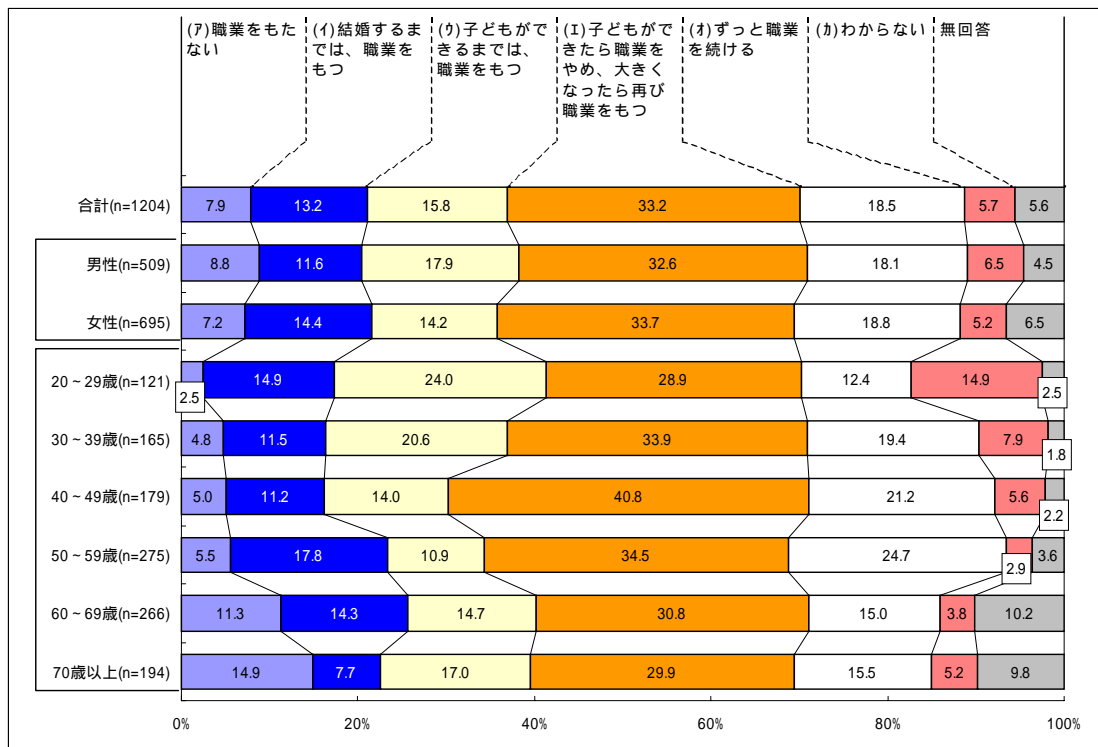
平成 16 年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに『職業継続型』が低い。

〔注意点：全国調査は、調査員がその場で聴き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。全国調査では「その他」の選択肢がある。〕

## 現実

『再就職型』33.2%、『職業継続型』18.5%、『出産退職型』15.8% の順

### 現実の女性のライフスタイル



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

『再就職型』が33.2%と最も高く、『職業継続型』が18.5%、『出産退職型』が15.8%で続いている。結婚・出産を機に一時的でも職業を離れたとした人(『結婚退職型』+『再就職型』+『出産退職型』)は、62.2%となっている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

#### 【年齢別】

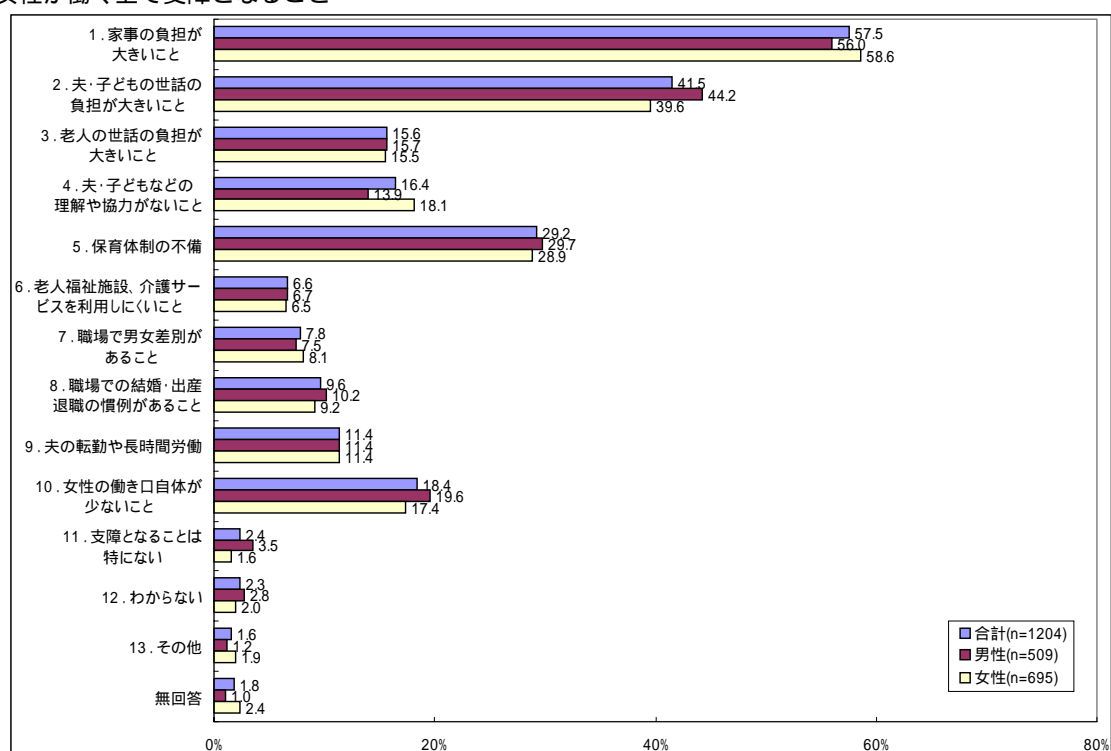
40～49歳で『再就職型』が40.8%と、他の年代に比べ高い。

## (5) 女性が働く上で支障となること

問5 あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。  
(3つまで選択可)

「家事の負担が大きいこと」57.5%、「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」41.5%、  
「保育体制の不備」29.2% の順

### 女性が働く上で支障となること



(全体・性別)

#### 【全体】

「家事の負担が大きいこと」が57.5%と最も高く、「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」が41.5%、「保育体制の不備」が29.2%で続いている。「支障となることは特にない」は2.4%にとどまっている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

女性が働く上で支障となること

(%)

	n	1 家事の負担が大きいこと	2 夫・子どもなどの世話の負担が大きいこと	3 老人の世話の負担が大きいこと	4 夫・子どもなどの理解や協力がなないこと	5 保育体制の不備	6 老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと	7 職場で男女差別があること	8 職場での結婚・出産退職の慣例があること	9 夫の転勤や長時間労働
合計	1204	57.5	41.5	15.6	16.4	29.2	6.6	7.8	9.6	11.4
20～29歳	121	66.1	43.0	11.6	16.5	36.4	5.0	7.4	19.0	14.9
30～39歳	165	58.2	50.9	6.1	18.8	47.9	3.0	6.1	12.7	14.5
40～49歳	179	58.1	47.5	15.6	15.1	30.7	3.4	7.8	8.9	14.0
50～59歳	275	51.3	36.7	19.3	17.8	30.5	7.3	8.0	8.0	15.3
60～69歳	266	57.9	41.0	16.9	18.4	24.8	9.8	9.0	9.0	4.9
70歳以上	194	58.8	35.1	19.1	10.8	12.4	8.2	7.2	5.2	7.7

	n	10 女性の働き口自体が少ないこと	11 支障となることは特にない	12 わからない	13 その他	無回答
合計	1204	18.4	2.4	2.3	1.6	1.8
20～29歳	121	14.9	1.7	0.0	0.8	0.0
30～39歳	165	17.0	0.6	1.8	2.4	0.0
40～49歳	179	16.8	3.9	1.7	5.0	1.1
50～59歳	275	23.6	1.5	1.1	0.7	1.5
60～69歳	266	17.3	3.0	3.4	0.8	2.3
70歳以上	194	17.0	3.6	4.6	0.5	5.2

(全体・年齢別)

【年齢別】

20～29歳で「職場での結婚・出産退職の慣例があること」が19.0%と、30歳以上に比べ高い。30～39歳で「保育体制の不備」が47.9%と、他の年代に比べ高い。また、59歳以下で「夫の転勤や長時間労働」が15%前後と、60歳以上に比べ高い。

### 参考：過去の市実施の調査との比較

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、以下のような結果となっている。

	増加したもの	減少したもの
全体	保育体制の不備 (+7.8 ポイント)	家事の負担が大きいこと (-11.7 ポイント) 夫・子どもなどの理解や協力がいないこと (-11.4 ポイント) 職場で男女差別があること (-8.8 ポイント) 女性の働き口自体が少ないこと (-11.6 ポイント)
男性	-	家事の負担が大きいこと (-11.6 ポイント) 夫・子どもの世話の負担が大きいこと (-8.4 ポイント) 夫・子どもなどの理解や協力がいないこと (-8.8 ポイント) 職場で男女差別があること (-9.4 ポイント) 女性の働き口自体が少ないこと (-6.3 ポイント)
女性	保育体制の不備 (+8.4 ポイント)	家事の負担が大きいこと (-12.2 ポイント) 夫・子どもなどの理解や協力がいないこと (-13.6 ポイント) 職場で男女差別があること (-7.5 ポイント) 女性の働き口自体が少ないこと (-15.1 ポイント)

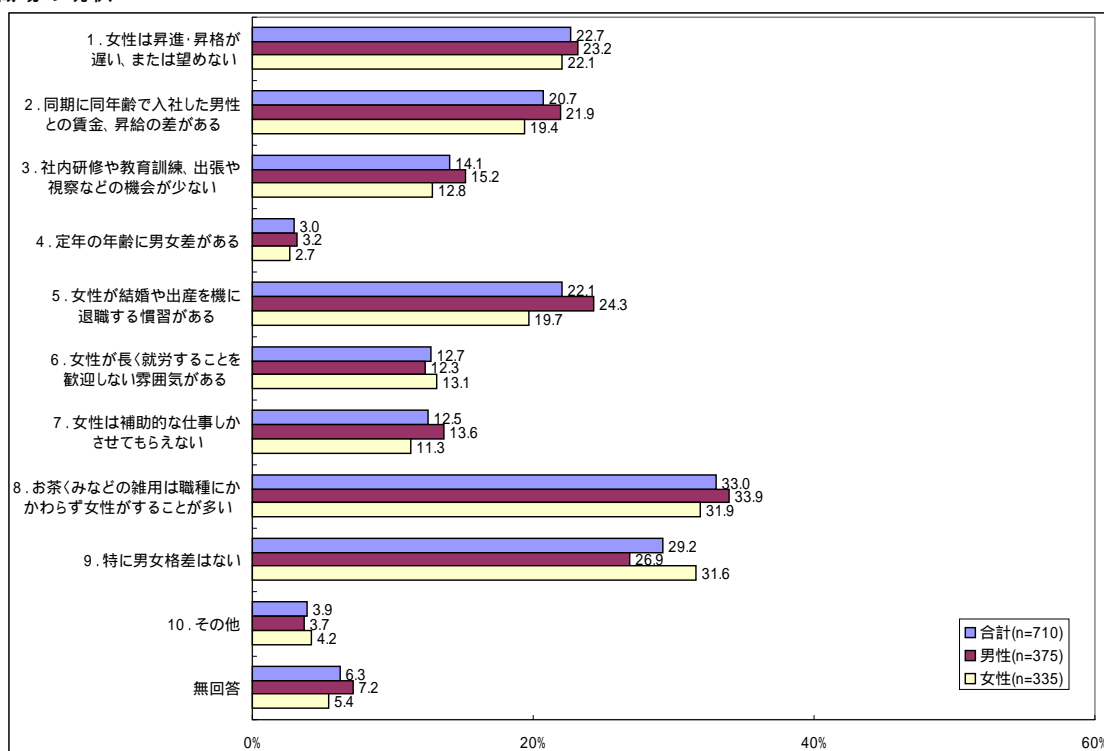
【注意点：平成7年度実施の市の調査では「支障となることは特にない」「わからない」の選択肢はない。】

## (6) 職場の現状

問6 あなたの職場で、現在次のようなことがありますか。(いくつでも選択可)

「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」が33.0%でトップ  
 「特に男女格差はない」も29.2%と少なくない

職場の現状



(全体・性別)

### 【全体】

「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」が33.0%と最も高いが、「特に男女格差はない」も29.2%と少なくない。次いで、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」が22.7%となっている。

### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

職場の現状

(%)

	n	1 女性は昇進・昇格が遅い、または望めない	2 同期に同年齢で入社した男性との賃金、昇給の差がある	3 社内研修や教育訓練、出張や視察などの機会が少ない	4 定年の年齢に男女差がある	5 女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある	6 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある	7 女性は補助的な仕事しかさせてもらえない	8 お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い	9 特に男女格差はない
合計	710	22.7	20.7	14.1	3.0	22.1	12.7	12.5	33.0	29.2
20～29歳	102	16.7	14.7	13.7	2.0	25.5	15.7	8.8	29.4	33.3
30～39歳	120	24.2	12.5	16.7	2.5	21.7	8.3	12.5	48.3	20.8
40～49歳	151	24.5	23.8	13.9	2.0	26.5	15.2	14.6	28.5	33.1
50～59歳	206	26.2	24.8	13.1	3.4	20.9	12.1	14.6	33.5	27.7
60～69歳	106	19.8	26.4	16.0	4.7	16.0	14.2	10.4	24.5	32.1
(70歳以上)	(24)	(8.3)	(4.2)	(4.2)	(4.2)	(16.7)	(4.2)	(8.3)	(29.2)	(29.2)

	n	10 その他	無回答
合計	710	3.9	6.3
20～29歳	102	2.0	14.7
30～39歳	120	3.3	5.0
40～49歳	151	4.6	1.3
50～59歳	206	4.9	2.9
60～69歳	106	4.7	9.4
(70歳以上)	(24)	(0.0)	(25.0)

(全体・年齢別)

【年齢別】

30～39歳で「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」が48.3%と、他の年代に比べ高い。また、40～69歳で「同期に同年齢で入社した男性との賃金、昇給の差がある」が2割以上と、他の年代に比べ高い。

(70歳以上については、サンプル数が24と他の年代に比べ少ないため、分析の対象からは除き、参考とするにとどめる。)

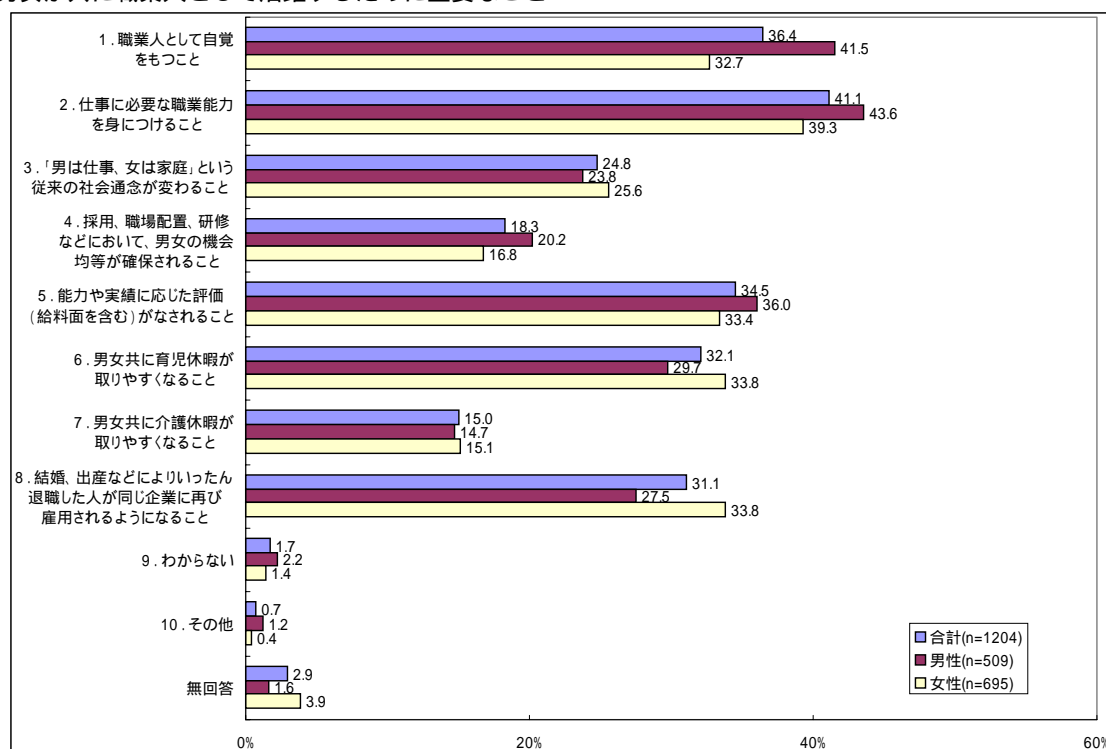


## (7) 男女が共に職業人として活躍するために重要なこと

問7 あなたは一般的に、男女が共に職業人として職場で能力を發揮し、かつ継続して勤務するためには、どのようなことが重要だと思いますか。(3つまで選択可)

「仕事に必要な職業能力を身につけること」が41.1%でトップ

### 男女が共に職業人として活躍するために重要なこと



(全体・性別)

#### 【全体】

「仕事に必要な職業能力を身につけること」が41.1%、「職業人として自覚をもつこと」が36.4%、「能力や実績に応じた評価(給料面を含む)がなされること」が34.5%となっている。

#### 【性別】

男性で「職業人として自覚をもつこと」が41.5%と、女性(32.7%)に比べ8.8ポイント高い。一方、女性では「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」が33.8%と、男性(27.5%)に比べ6.3ポイント高い。

男女が共に職業人として活躍するために重要なこと

(%)

	n	1 職業人として自覚をもつこと	2 仕事に必要な職業能力を身につけること	3 「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること	4 採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること	5 能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること	6 男女共に育児休暇が取りやすくなること	7 男女共に介護休暇が取りやすくなること	8 結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること	9 わからない
合計	1204	36.4	41.1	24.8	18.3	34.5	32.1	15.0	31.1	1.7
20～29歳	121	24.0	33.1	40.5	21.5	32.2	46.3	13.2	34.7	1.7
30～39歳	165	30.3	32.1	36.4	18.2	36.4	53.3	15.2	29.7	0.6
40～49歳	179	40.2	43.0	28.5	16.8	41.3	33.0	13.4	25.7	0.6
50～59歳	275	32.4	43.3	18.9	19.6	38.2	34.5	18.5	33.1	0.7
60～69歳	266	44.7	47.4	18.0	19.9	31.6	20.7	15.4	34.6	2.6
70歳以上	194	39.7	40.7	20.1	13.9	26.8	17.0	11.9	27.8	3.6

	n	10 その他	無回答
合計	1204	0.7	2.9
20～29歳	121	0.0	1.7
30～39歳	165	0.6	1.8
40～49歳	179	1.1	1.7
50～59歳	275	1.1	2.2
60～69歳	266	0.4	1.5
70歳以上	194	1.0	8.8

(全体・年齢別)

【年齢別】

39歳以下では、「『男は仕事、女は家庭』という従来の社会通念が変わること」が4割前後、「男女共に育児休暇が取りやすくなること」が5割前後とそれぞれ40歳以上に比べ高い。一方、40歳以上では「仕事に必要な職業能力を身につけること」が4割以上と、39歳以下に比べ高い。また、40～49歳、60歳以上で「職業人として自覚をもつこと」が4割前後と、他の年代に比べ高い。

### 3 結婚、家庭生活と男女の役割について

#### (8) 結婚、家庭に関する考え

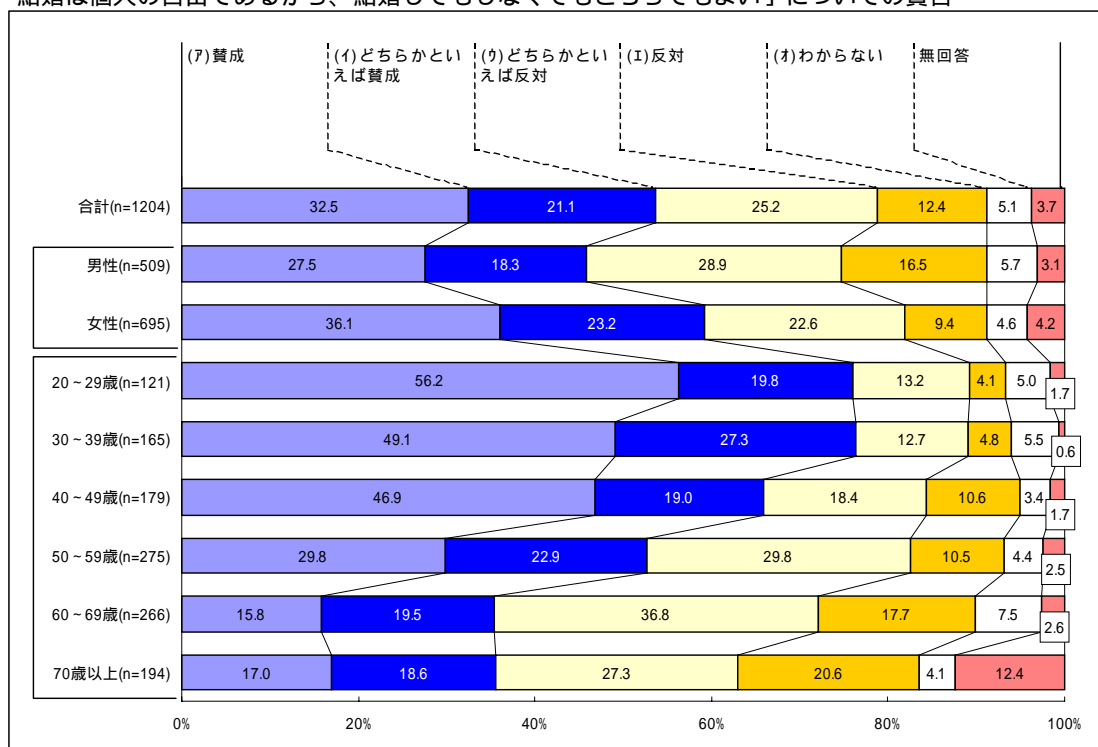
問8 あなたは、結婚、家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。  
(1つ選択)

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて『賛成派』、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせて『反対派』とする。

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

『賛成派』	男性 45.8%	女性 59.3%	全体 53.6%
『反対派』	男性 45.4%	女性 32.0%	全体 37.6%

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」についての賛否



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「賛成」が32.5%と最も高く、「どちらかといえば反対」が25.2%、「どちらかといえば賛成」が21.1%で続いている。『賛成派』(53.6%)が、『反対派』(37.6%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

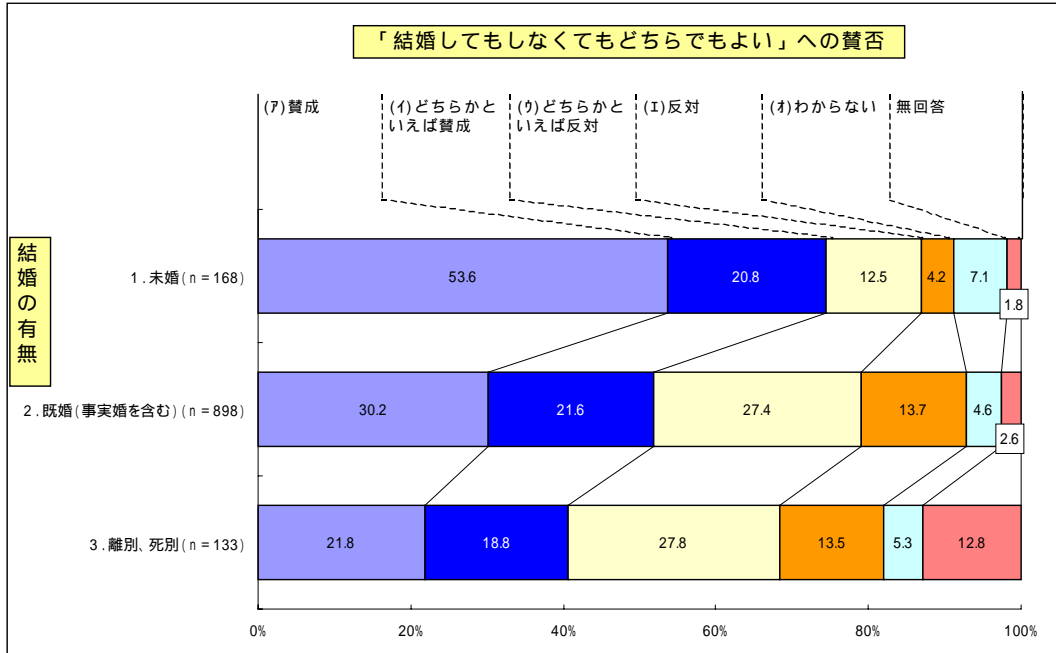
男性で「反対」が16.5%、『反対派』が45.4%とそれぞれ女性に比べ高く、『賛成派』と『反対派』がほぼ同じ割合となっている。一方、女性では「賛成」が36.1%、『賛成派』が59.3%とそれぞれ男性に比べ高く、『賛成派』が『反対派』を大きく上回っている。

#### 【年齢別】

59歳以下で『賛成派』が『反対派』を大きく上回っており、中でも49歳以下で『賛成派』が6割以上と特に高い。一方、60歳以上では『反対派』が『賛成派』を大きく上回っており、中でも60～69歳で『反対派』が54.5%と特に高い。

## 参考：結婚の有無別にみた調査結果

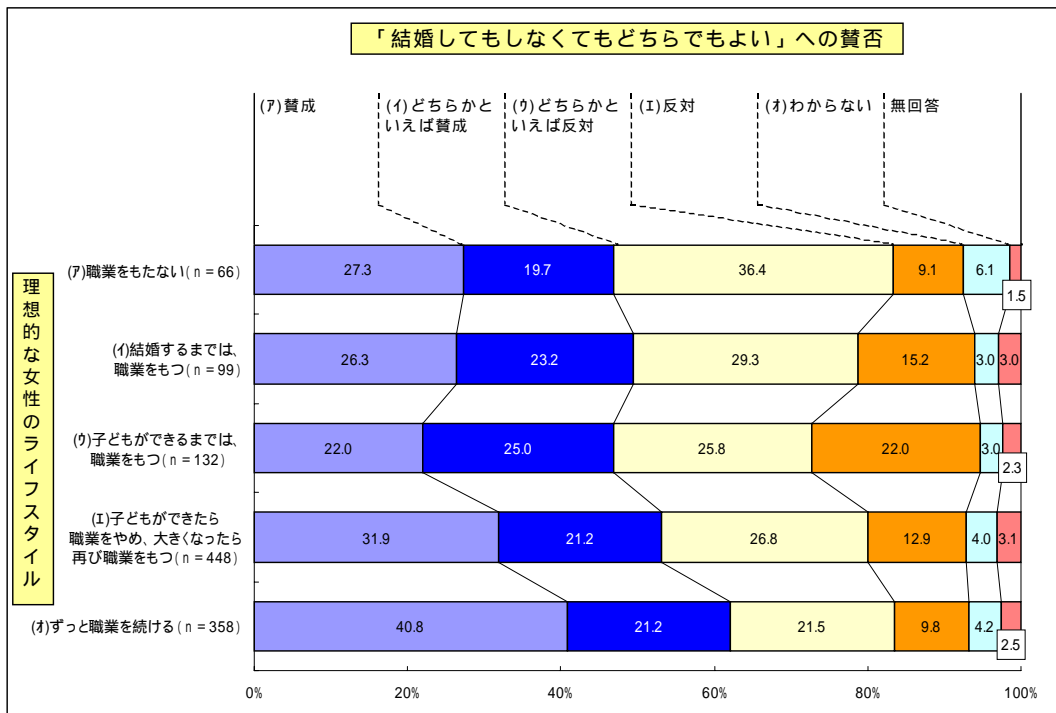
< 結婚の有無別 >



「未婚」で『賛成派』が74.4%と、結婚経験者（「既婚（事実婚を含む）」と「離別、死別」）に比べ特に高く、『賛成派』が『反対派』を大きく上回っている。

## 参考：理想的な女性のライフスタイル別にみた調査結果

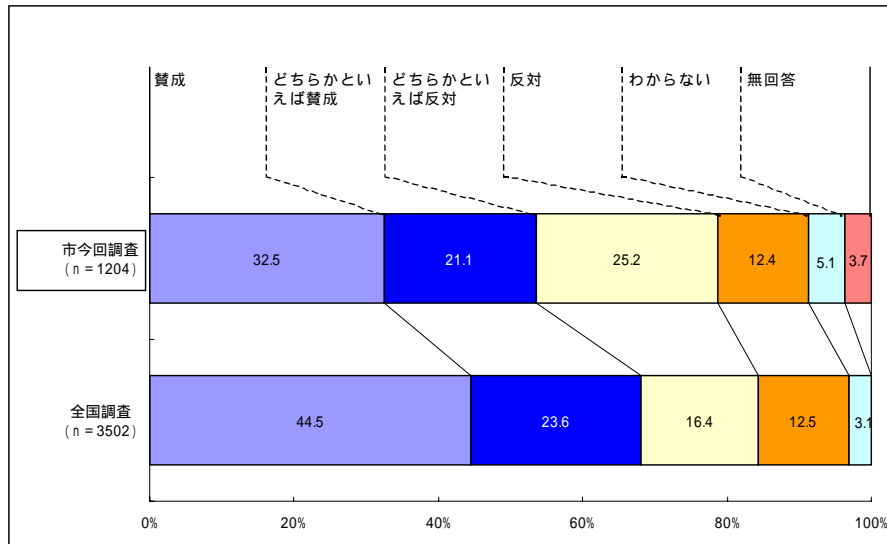
< 理想的な女性のライフスタイル別 >



『職業継続型』を理想とする人で『賛成派』が62.0%と、その他の人に比べ特に高い。

**参考：全国調査との比較**

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
男性	市今回調査	509	27.5	18.3	28.9	16.5	5.7	3.1
	全国調査	1616	40.4	25.1	17.6	13.9	3.0	-
女性	市今回調査	695	36.1	23.2	22.6	9.4	4.6	4.2
	全国調査	1886	48.0	22.3	15.4	11.2	3.1	-

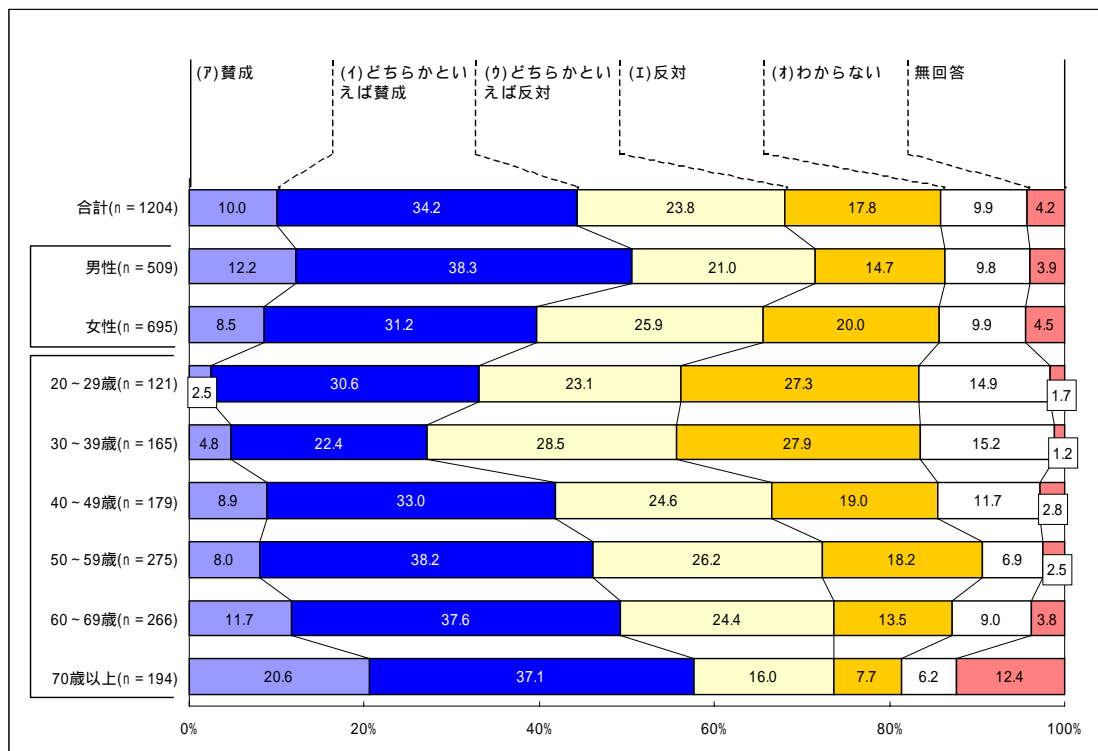
平成 16 年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに『賛成派』が『反対派』を上回っていることは共通しているが、『賛成派』がより低く、『反対派』がより高い。

〔 注意点：全国調査は、調査員がその場で聞き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。 〕

## 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

『賛成派』	男性 50.5%	女性 39.7%	全体 44.2%
『反対派』	男性 35.7%	女性 45.9%	全体 41.6%

### 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」についての賛否



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば賛成」が34.2%と最も高く、「どちらかといえば反対」が23.8%、「反対」が17.8%が続いている。『賛成派』(44.2%)と『反対派』(41.6%)がほぼ同じ割合となっている。

#### 【性別】

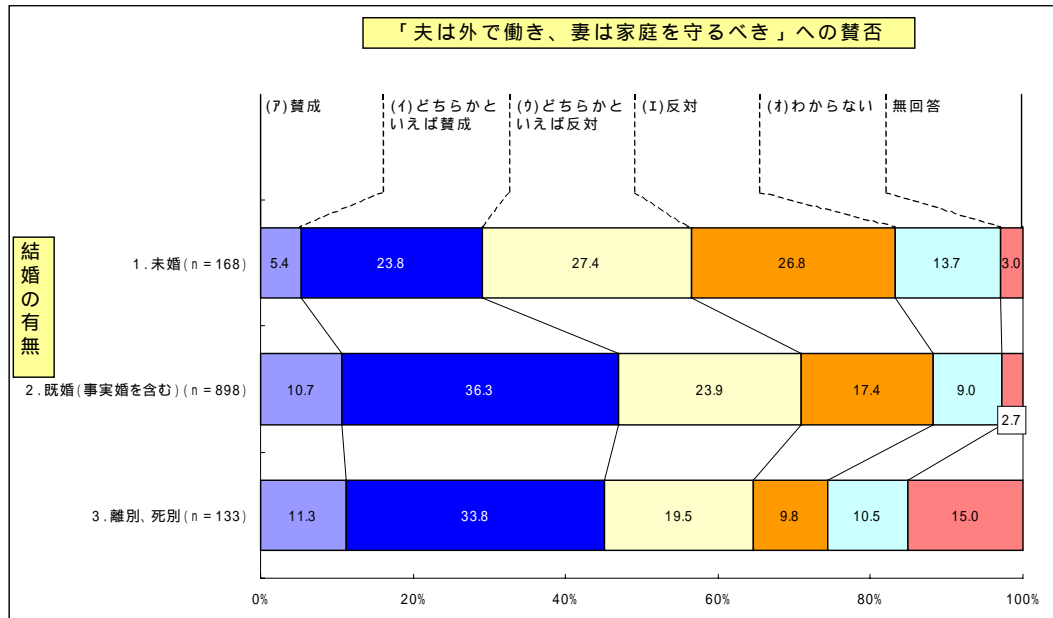
男性で「どちらかといえば賛成」が38.3%、『賛成派』が50.5%とそれぞれ女性に比べ高く、『賛成派』が『反対派』を大きく上回っている。一方、女性では『反対派』が45.9%と、男性(35.7%)に比べ10.2ポイント高く、『反対派』が『賛成派』を上回っている。

#### 【年齢別】

39歳以下で「反対」が3割弱、『反対派』が5割以上とそれぞれ40歳以上に比べ高く、『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。一方、60歳以上では『賛成派』が『反対派』を大きく上回っており、中でも70歳以上では、『賛成派』が57.7%と特に高い。50歳を境に『反対派』と『賛成派』の割合が逆転している。

## 参考：結婚の有無別にみた調査結果

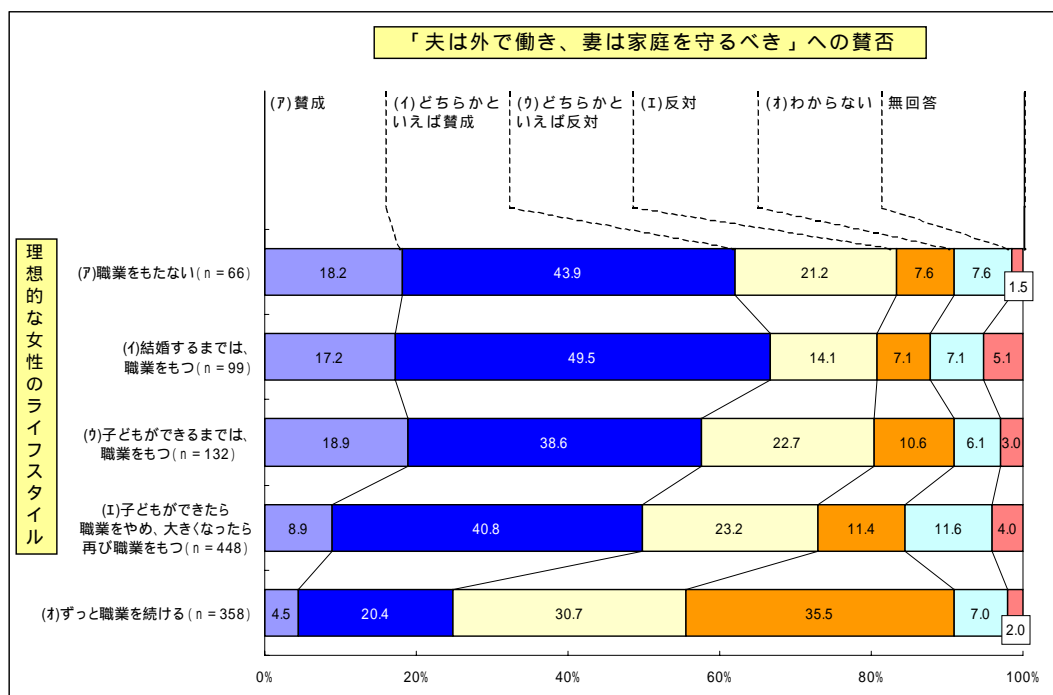
< 結婚の有無別 >



「未婚」で『反対派』が54.2%と、結婚経験者（「既婚（事実婚を含む）」と「離別、死別」）に比べて高く、『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。一方、結婚経験者では『賛成派』が『反対派』を上回っている。

## 参考：理想的な女性のライフスタイル別にみた調査結果

< 理想的な女性のライフスタイルの別 >

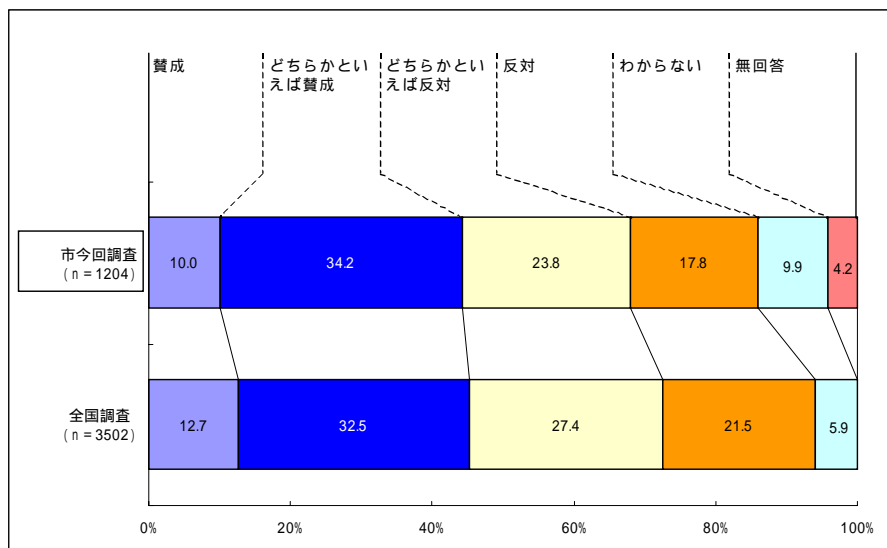


『職業継続型』を理想とする人で『反対派』が66.2%と、その他の人に比べて高く、『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。その他の人では『賛成派』が『反対派』を上回っている。

女性の現実のライフスタイル別にみても、理想別にみた結果と同様の傾向が認められる。

### 参考：全国調査との比較

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
男性	市今回調査	509	12.2	38.3	21.0	14.7	9.8	3.9
	全国調査	1616	14.6	35.1	25.0	18.3	7.0	-
女性	市今回調査	695	8.5	31.2	25.9	20.0	9.9	4.5
	全国調査	1886	11.0	30.2	29.5	24.2	5.0	-

平成 16 年度実施の全国調査結果と比較すると、全体では『反対派』が『賛成派』を上回っている全国調査とは異なり、『賛成派』が『反対派』を上回っている。男性で『賛成派』が『反対派』を上回っていることと、女性で『反対派』が『賛成派』を上回っていることは全国調査と共通しているが、両性とも『反対派』がより低い。

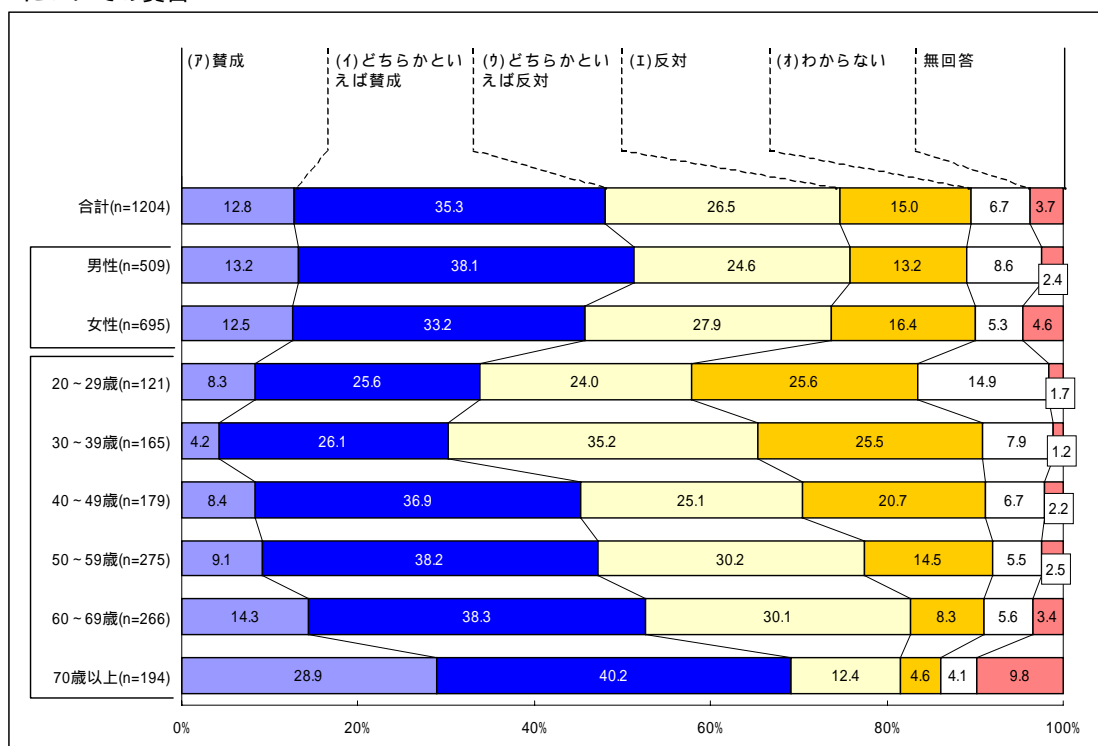
〔 注意点：全国調査は、調査員がその場で聴き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。 〕



女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

『賛成派』 男性 51.3% 女性 45.7% 全体 48.1%  
『反対派』 男性 37.8% 女性 44.3% 全体 41.5%

「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」  
についての賛否



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「どちらかといえば賛成」が 35.3%と最も高く、「どちらかといえば反対」が 26.5%、「反対」が 15.0%で続いている。『賛成派』(48.1%)が、『反対派』(41.5%)を上回っている。

### 【性別】

女性で『反対派』が 44.3%と、男性(37.8%)に比べ 6.5 ポイント高い。

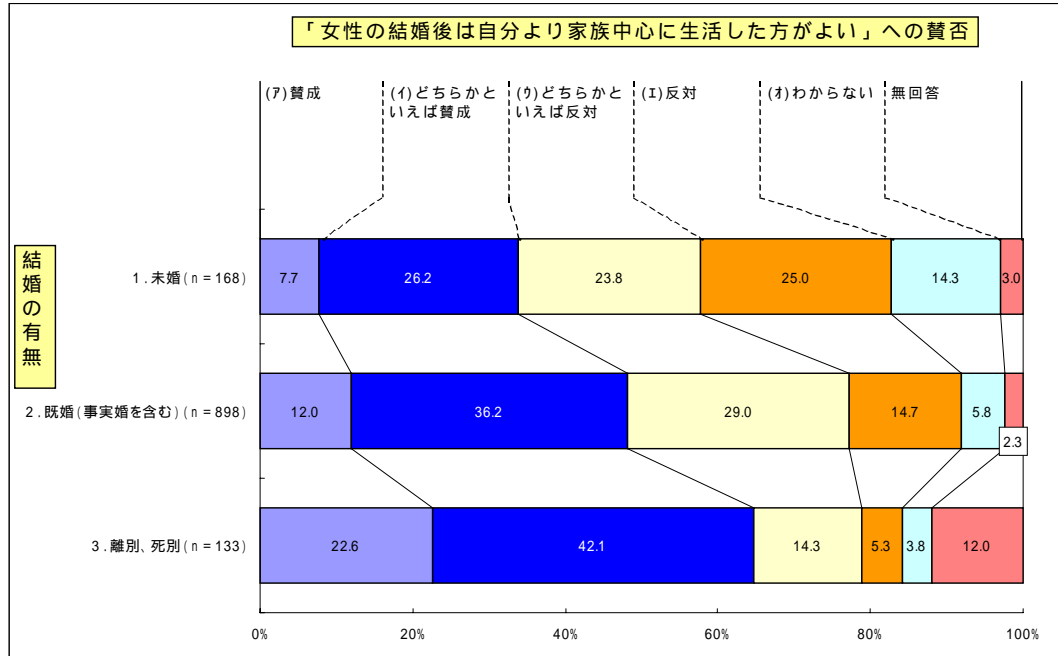
なお、平成 16 年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

### 【年齢別】

39 歳以下で『反対派』が『賛成派』を大きく上回っており、中でも、30～39 歳では『反対派』が 60.7%と特に高い。一方、60 歳以上では『賛成派』が『反対派』を大きく上回っており、中でも 70 歳以上で『賛成派』が 69.1%と特に高い。50 歳を境に『反対派』と『賛成派』の割合が逆転している。

## 参考：結婚の有無別にみた調査結果

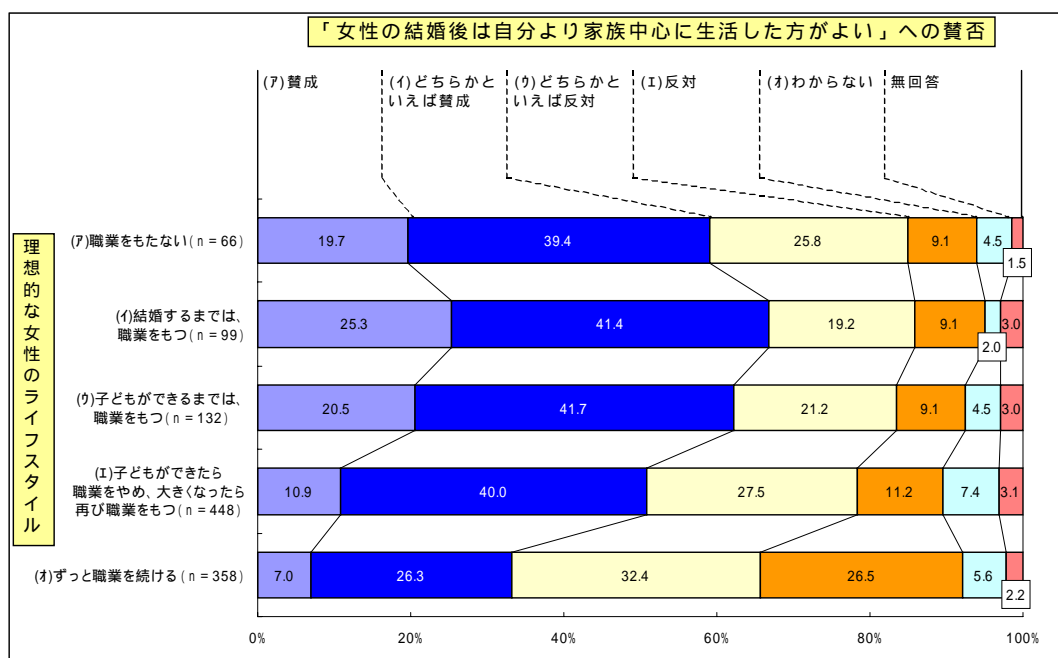
< 結婚の有無別 >



「未婚」で『反対派』が48.8%と、結婚経験者(「既婚(事実婚を含む)」と「離別、死別」)に比べ高く、『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。一方、結婚経験者では『賛成派』が『反対派』を上回っている。

## 参考：理想的な女性のライフスタイル別にみた調査結果

< 理想的な女性のライフスタイル別 >



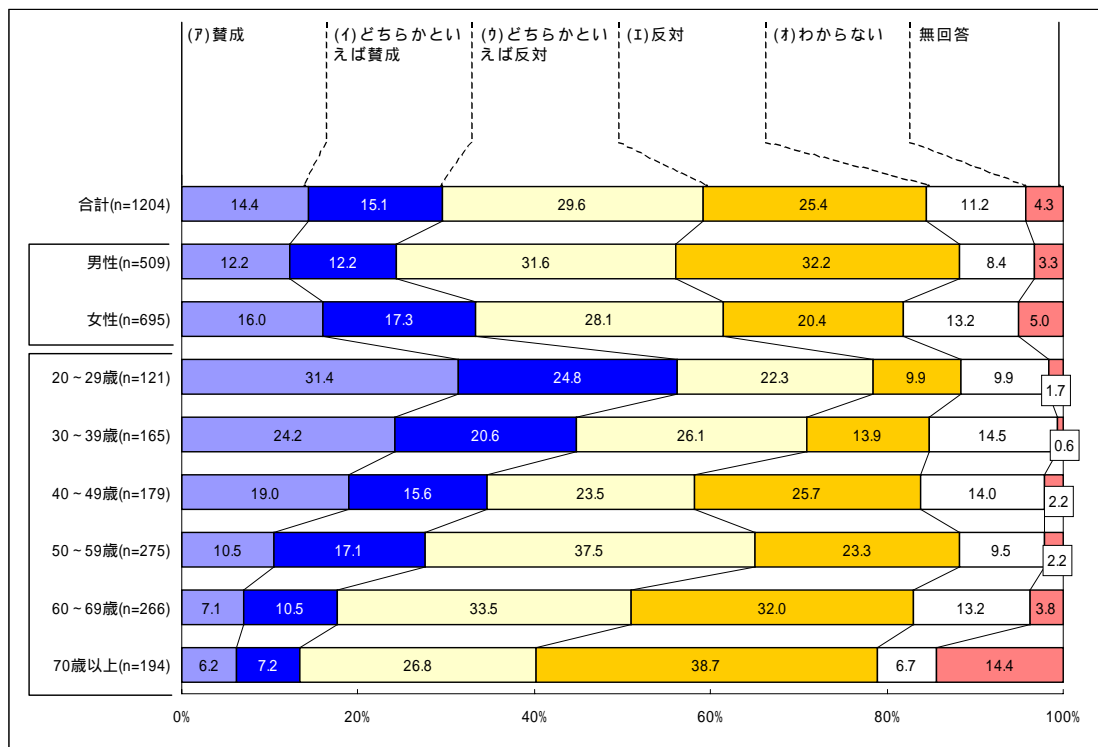
『職業継続型』を理想とする人で『反対派』が58.9%と、その他の人に比べ特に高く、『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。その他の人では『賛成派』が『反対派』を上回っている。

女性の現実のライフスタイル別にみても、理想別ほど大きな差異はないが、同様の傾向が認められる。

## 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

『賛成派』	男性 24.4%	女性 33.3%	全体 29.5%
『反対派』	男性 63.8%	女性 48.5%	全体 55.0%

### 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」についての賛否



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば反対」が29.6%、「反対」が25.4%と高く、「どちらかといえば賛成」が15.1%で続いている。『反対派』（55.0%）が、『賛成派』（29.5%）を大きく上回っている。

#### 【性別】

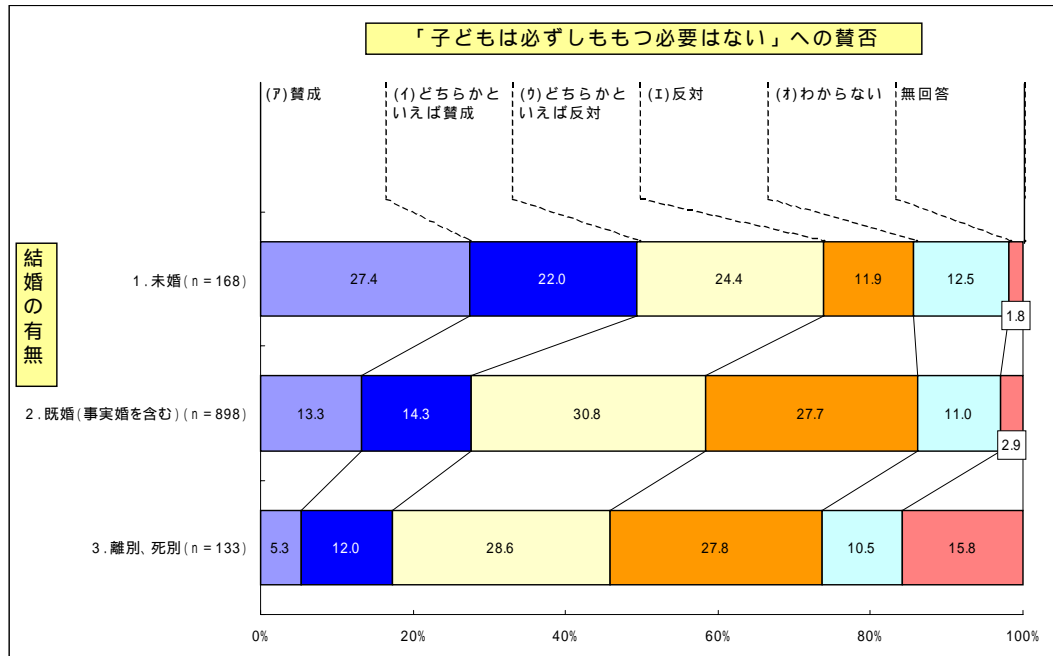
男性で「反対」が32.2%、『反対派』が63.8%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では『賛成派』が33.3%と、男性（24.4%）に比べ8.9ポイント高い。

#### 【年齢別】

「賛成」、『賛成派』は年代がさがるほど高くなる傾向があり、20～29歳では「賛成」が31.4%、『賛成派』が56.2%に達している。一方、50歳以上では『反対派』が6割以上と、49歳以下に比べ高い。40歳を境に『賛成派』と『反対派』の割合が逆転している。

### 参考：結婚の有無別にみた調査結果

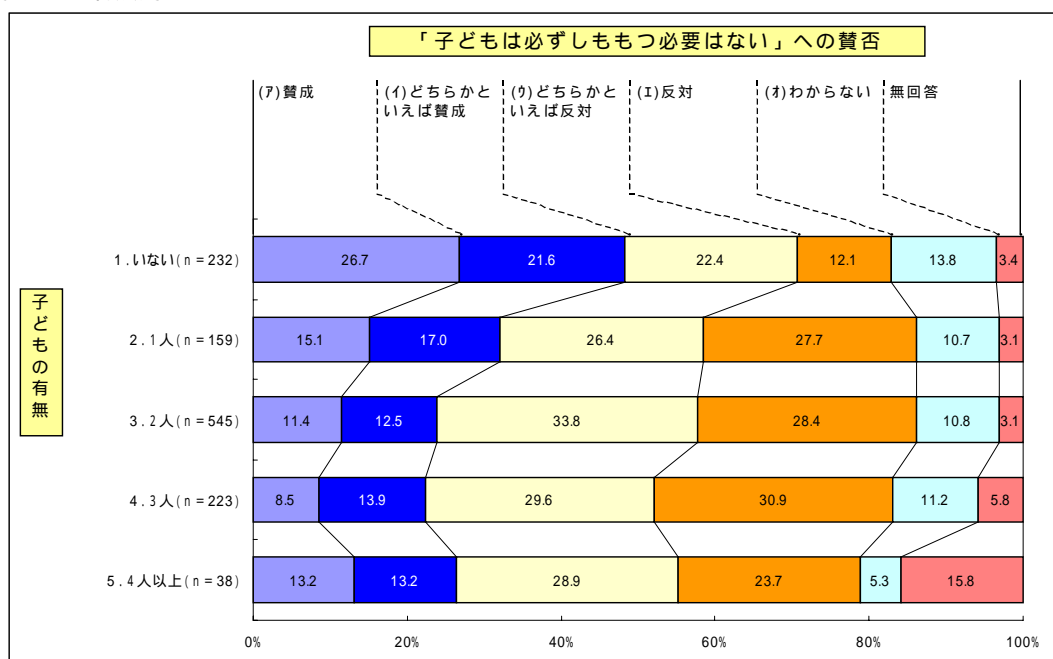
< 結婚の有無別 >



「未婚」で『賛成派』が49.4%と、結婚経験者（「既婚（事実婚を含む）」と「離別、死別」）に比べ特に高く、『賛成派』が『反対派』を大きく上回っている。一方、結婚経験者では『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。

### 参考：子どもの有無別にみた調査結果

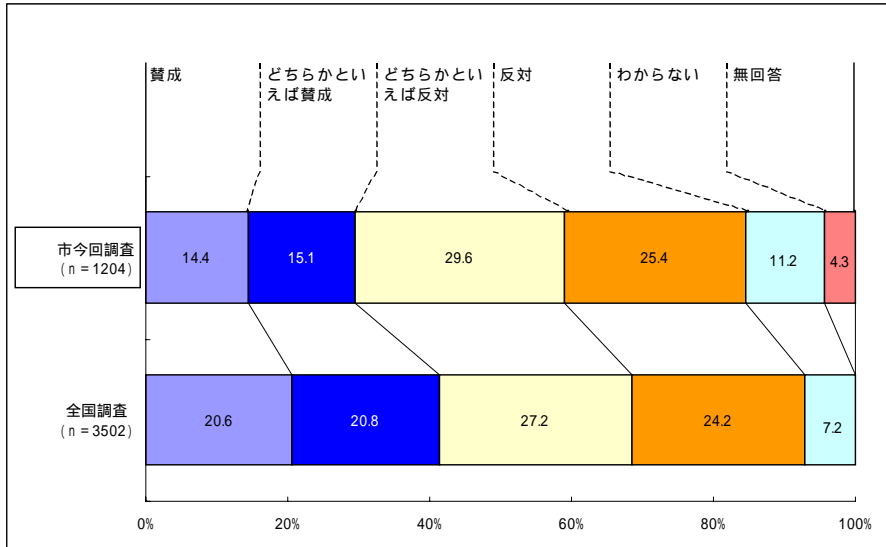
< 子どもの有無別 >



子どもが「いない」人で『賛成派』が48.3%と、子どもがいる人に比べ特に高く、『賛成派』が『反対派』を大きく上回っている。子どもがいる人では『反対派』が『賛成派』を上回っている。

**参考：全国調査との比較**

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
男性	市今回調査	509	12.2	12.2	31.6	32.2	8.4	3.3
	全国調査	1616	19.6	18.6	27.0	27.2	7.5	-
女性	市今回調査	695	16.0	17.3	28.1	20.4	13.2	5.0
	全国調査	1886	21.5	22.7	27.3	21.5	7.0	-

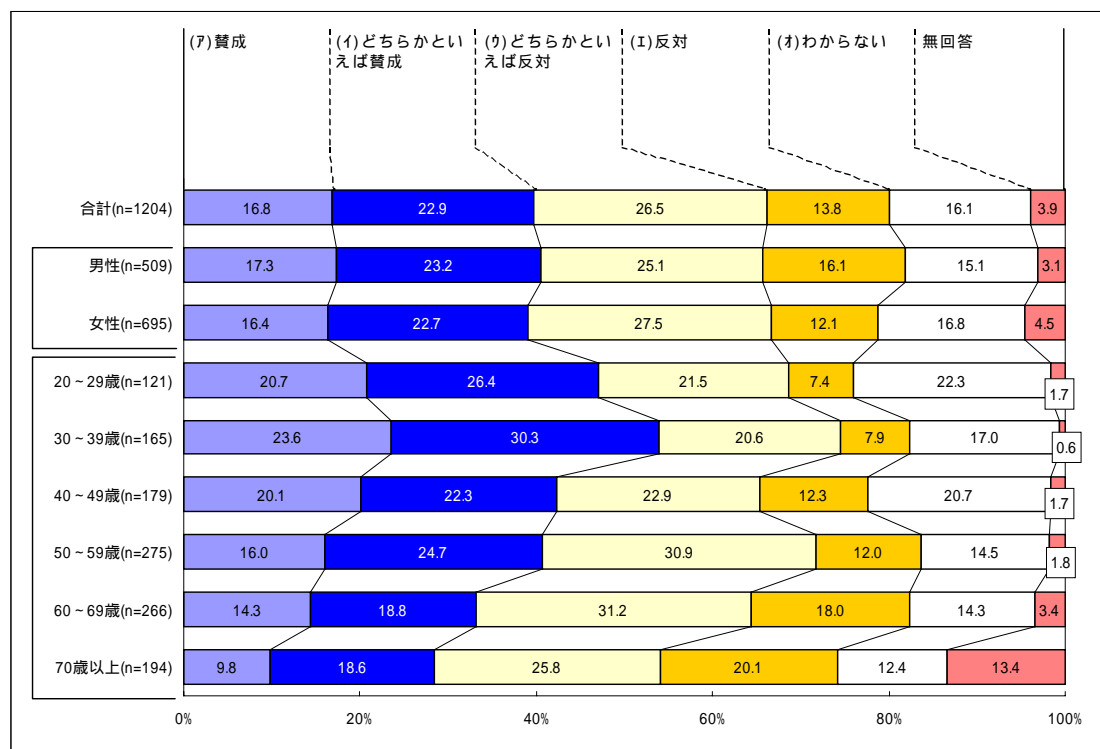
平成 16 年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに『反対派』が『賛成派』を上回っていることは全国調査と共通しているが、全体、女性では『賛成派』がより低い。男性では『賛成派』がより低く『反対派』がより高い。

〔 注意点：全国調査は、調査員がその場で聴き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。 〕

## 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

『賛成派』	男性 40.5%	女性 39.1%	全体 39.7%
『反対派』	男性 41.2%	女性 39.6%	全体 40.3%

「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」についての賛否



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「どちらかといえば反対」が26.5%、「どちらかといえば賛成」が22.9%と高く、「賛成」が16.8%で続いている。『反対派』(40.3%)と『賛成派』(39.7%)がほぼ同じ割合となっている。

### 【性別】

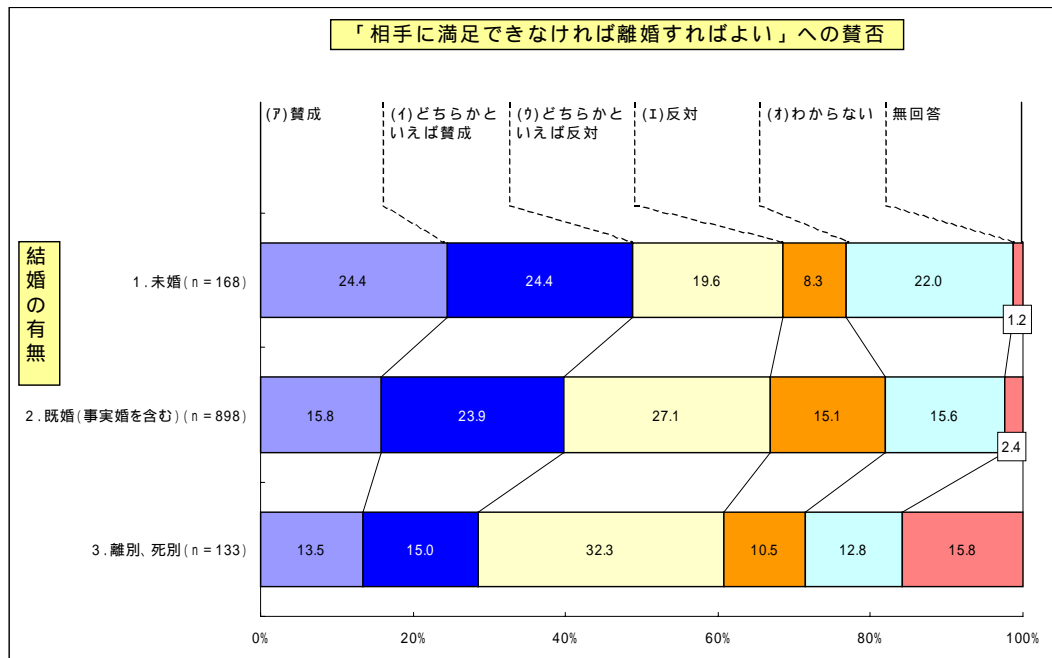
特に大きな差異は認められない。

### 【年齢別】

49歳以下で『賛成派』が『反対派』を大きく上回っている。一方、60歳以上では『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。50歳を境に『賛成派』と『反対派』の割合が逆転している。

## 参考：結婚の有無別にみた調査結果

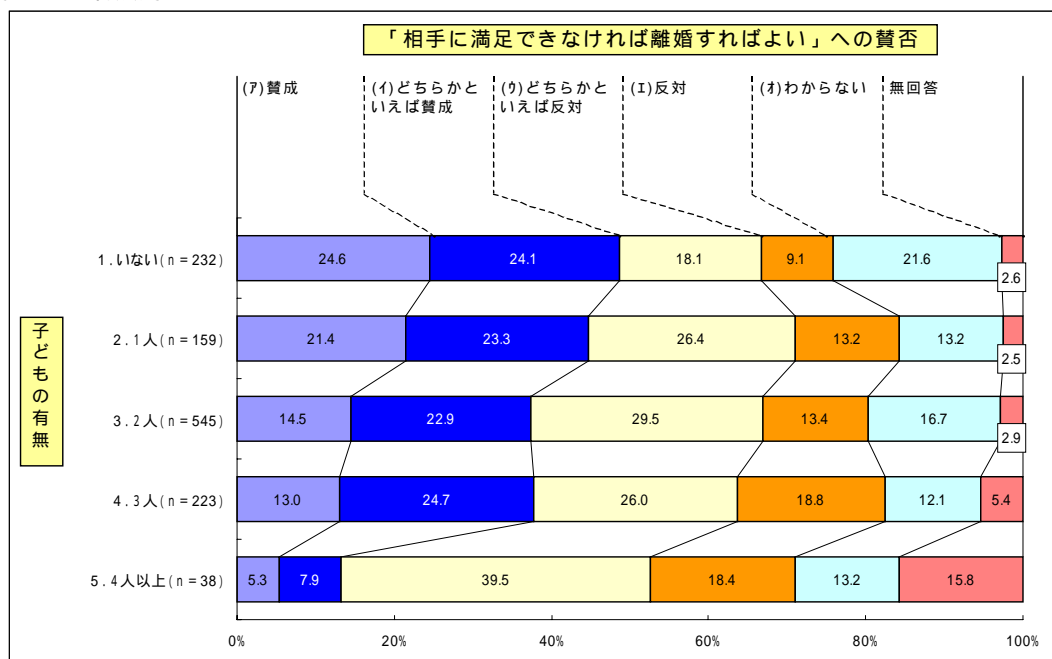
< 結婚の有無別 >



「未婚」で『賛成派』が48.8%と、結婚経験者（「既婚（事実婚を含む）」と「離別、死別」）に比べ特に高く、『賛成派』が『反対派』を大きく上回っている。一方、結婚経験者では『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。

## 参考：子どもの有無別にみた調査結果

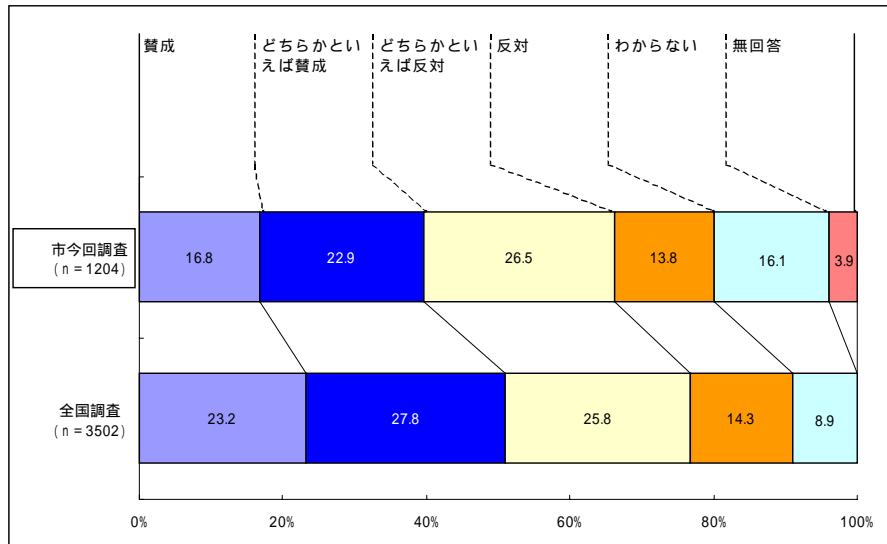
< 子どもの有無別 >



子どもが1人以下の人は『賛成派』が『反対派』を上回っている。一方、子どもが2人以上の人では、『反対派』が『賛成派』を上回っている。『反対派』は子どもの数が多い人ほど高くなる傾向が認められる。

**参考：全国調査との比較**

< 全体 >



< 性別 >

(%)

		n	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
男性	市今回調査	509	17.3	23.2	25.1	16.1	15.1	3.1
	全国調査	1616	23.1	26.1	27.3	14.0	9.5	
女性	市今回調査	695	16.4	22.7	27.5	12.1	16.8	4.5
	全国調査	1886	23.4	29.3	24.5	14.5	8.4	

平成 16 年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに『賛成派』が『反対派』を上回っている全国調査とは異なり、『反対派』が『賛成派』を上回っている。

（注意点：全国調査は、調査員がその場で聞き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。）



**参考：結婚、家庭に関する考え（問8 ～ ）についての相関関係**

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

< と について >

(%)

の『賛成派』である人は、の『反対派』である割合が高く、の『反対派』である人はの『賛成派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	6.6	26.9	22.0	28.4
	(イ)どちらかといえば賛成	6.3	35.0	37.0	14.6
	(ウ)どちらかといえば反対	10.5	48.0	21.4	11.5
	(エ)反対	24.8	36.9	20.1	14.8

< と について >

(%)

の『賛成派』である人は、の『反対派』である割合が高く、の『反対派』である人はの『賛成派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	11.0	28.9	24.0	26.3
	(イ)どちらかといえば賛成	6.3	37.0	35.8	11.8
	(ウ)どちらかといえば反対	12.2	48.0	27.3	7.9
	(エ)反対	27.5	36.2	25.5	8.7

< と について >

(%)

に賛成である人ほど、の『賛成派』である割合が高く、に反対である人ほど、の『反対派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	38.9	20.5	17.1	10.2
	(イ)どちらかといえば賛成	3.1	31.9	39.0	11.4
	(ウ)どちらかといえば反対	3.3	4.9	49.0	35.5
	(エ)反対	0.0	2.7	14.8	79.2

< と について >

(%)

に賛成である人ほど、の『賛成派』である割合が高く、に反対である人ほど、の『反対派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	33.8	26.1	13.6	7.4
	(イ)どちらかといえば賛成	11.0	35.4	31.1	7.9
	(ウ)どちらかといえば反対	7.6	21.1	38.8	17.8
	(エ)反対	9.4	7.4	36.2	38.3

< と について >

(%)

に賛成である人ほど、の『賛成派』である割合が高く、に反対である人ほど、の『反対派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	52.1	37.2	6.6	0.0
	(イ)どちらかといえば賛成	12.1	55.8	22.1	4.9
	(ウ)どちらかといえば反対	4.9	25.8	50.9	13.6
	(エ)反対	3.3	17.3	24.3	50.5

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい  
 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである  
 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい  
 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない  
 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

< と について >

(%)

に賛成である人ほど、 の『反対派』である割合が高く、 に反対である人ほど、 の『賛成派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	10.7	5.8	21.5	48.8
	(イ)どちらかといえば賛成	11.4	13.3	37.9	28.9
	(ウ)どちらかといえば反対	9.1	22.0	36.2	23.3
	(エ)反対	30.4	19.6	20.6	19.6

< と について >

(%)

に賛成である人ほど、 の『反対派』である割合が高く、 に反対である人ほど、 の『賛成派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	19.8	9.1	23.1	28.9
	(イ)どちらかといえば賛成	15.5	22.1	30.8	18.2
	(ウ)どちらかといえば反対	10.1	31.7	37.3	10.1
	(エ)反対	27.6	26.2	18.7	9.8

< と について >

(%)

の『賛成派』である人は、 の『反対派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	15.6	6.5	20.8	40.3
	(イ)どちらかといえば賛成	11.1	14.4	38.1	28.5
	(ウ)どちらかといえば反対	11.3	21.9	31.0	24.8
	(エ)反対	29.3	17.7	26.0	16.6

< と について >

(%)

に賛成である人ほど、 の『反対派』である割合が高く、 に反対である人ほど、 の『賛成派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	20.1	11.7	22.7	26.6
	(イ)どちらかといえば賛成	13.6	21.4	34.4	14.6
	(ウ)どちらかといえば反対	12.9	32.9	28.2	13.2
	(エ)反対	30.4	26.0	19.9	8.8

< と について >

(%)

に賛成である人ほど、 の『賛成派』である割合が高く、 に反対である人ほど、 の『反対派』である割合が高い。

n = 1204		問8			
		(ア)賛成	(イ)どちらかといえば賛成	(ウ)どちらかといえば反対	(エ)反対
問8	(ア)賛成	48.6	19.1	9.8	8.1
	(イ)どちらかといえば賛成	17.6	46.7	22.0	5.5
	(ウ)どちらかといえば反対	7.9	26.7	40.4	10.7
	(エ)反対	13.4	13.4	32.0	29.1

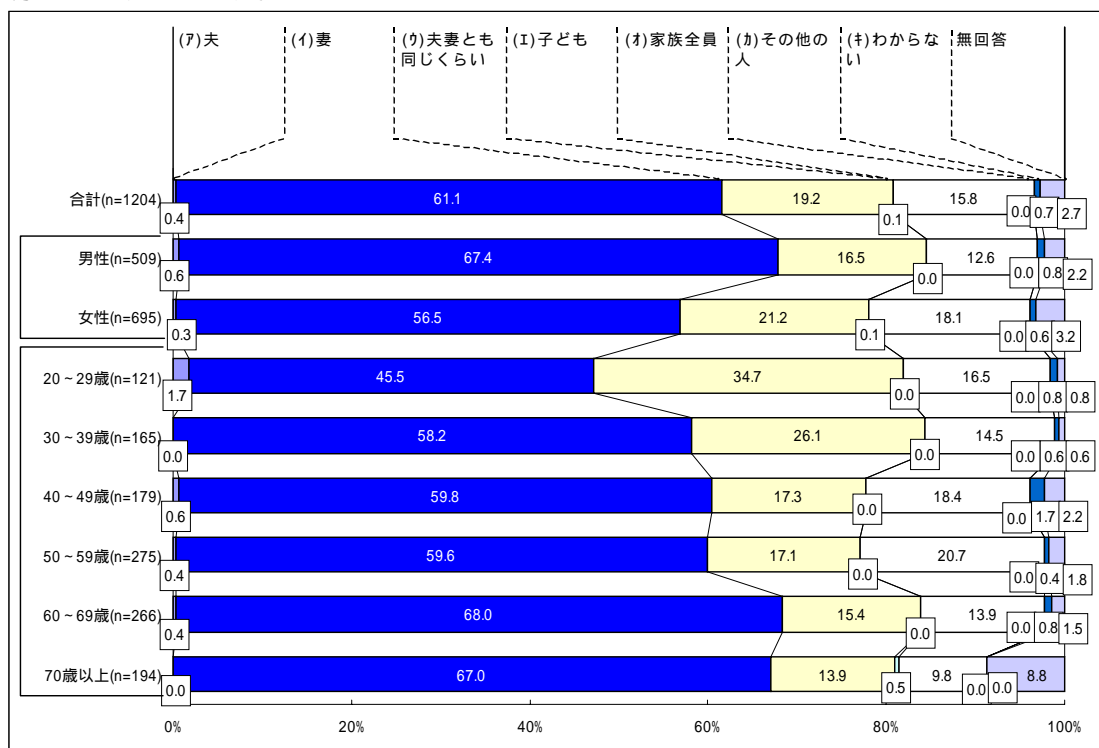
## (9) 家庭内の仕事の理想の分担

問9 あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。(1つ選択)

食事のしたく

「妻」が61.1%でトップ

食事のしたくの理想の分担



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「妻」が61.1%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が19.2%、「家族全員」が15.8%で続いている。

### 【性別】

男性で「妻」が67.4%と、女性(56.5%)に比べ10.9ポイント高い。

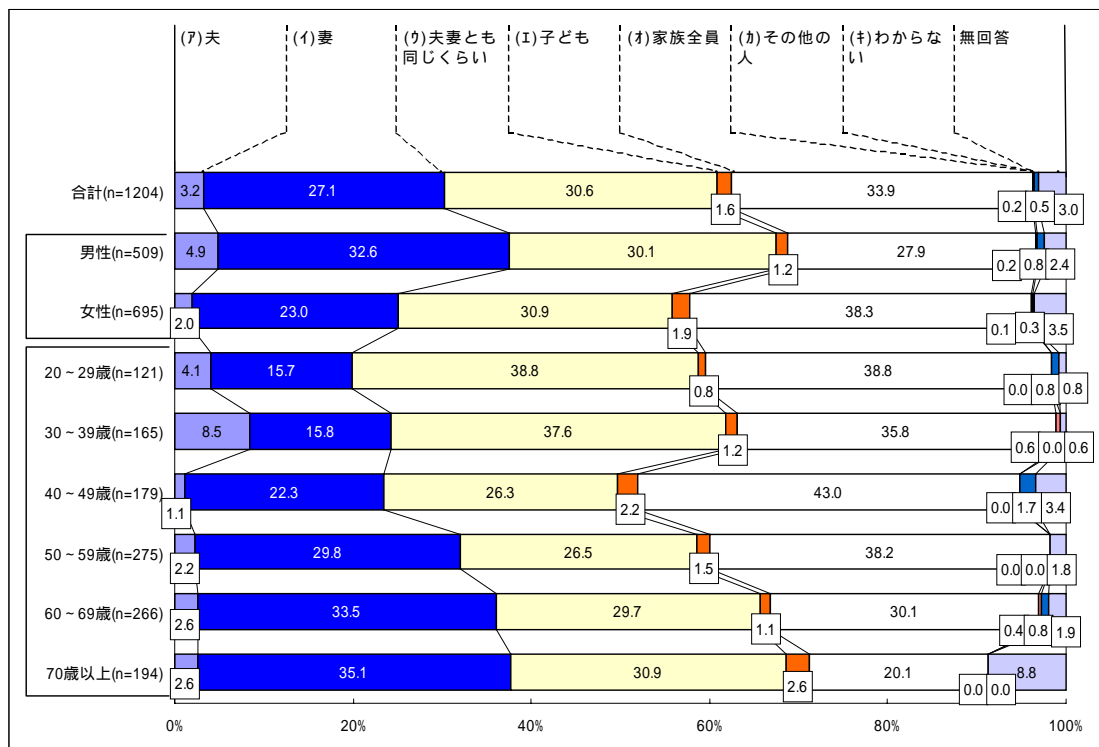
### 【年齢別】

60歳以上で「妻」が7割弱と、59歳以下に比べ特に高い。「夫妻とも同じくらい」は、年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

## 食事の後かたづけ、食器洗い

「家族全員」33.9%、「夫妻とも同じくらい」30.6%、「妻」27.1% の順

### 食事の後かたづけ、食器洗いの理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「家族全員」が33.9%、「夫妻とも同じくらい」が30.6%、「妻」が27.1%となっている。

#### 【性別】

男性で「妻」が32.6%と、女性(23.0%)に比べ9.6ポイント高い。一方、女性では「家族全員」が38.3%と、男性(27.9%)に比べ10.4ポイント高い。

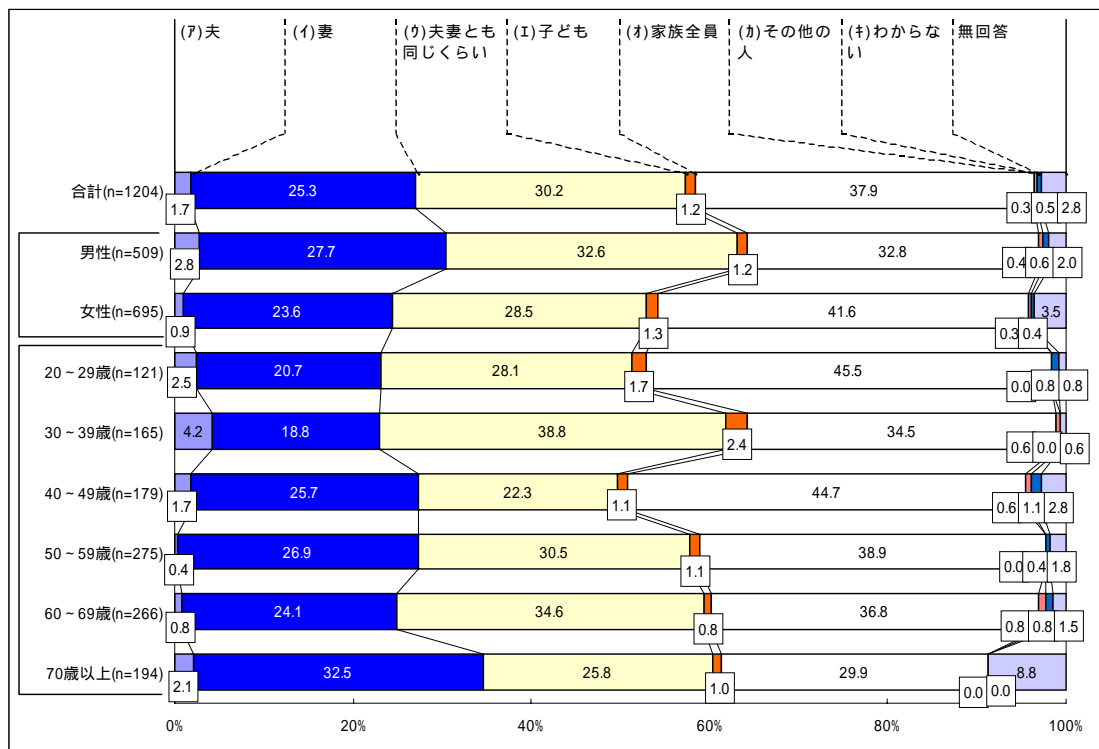
#### 【年齢別】

39歳以下で「夫妻とも同じくらい」が4割弱と、40歳以上に比べ高い。「妻」は、年代が上がるほど高くなる傾向が認められる。

## 掃除

「家族全員」が37.9%でトップ

### 掃除の理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「家族全員」が37.9%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が30.2%、「妻」が25.3%で続いている。

#### 【性別】

女性で「家族全員」が41.6%と、男性(32.8%)に比べ8.8ポイント高い。

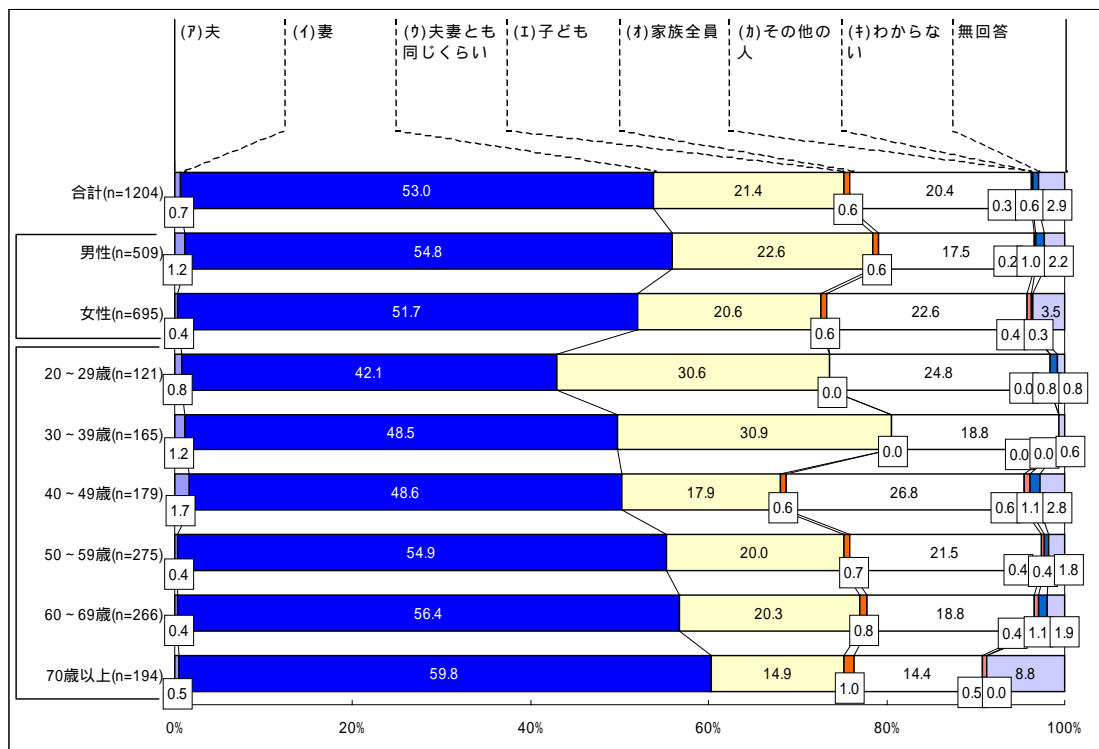
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 洗濯

「妻」が53.0%でトップ

### 洗濯の理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「妻」が53.0%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が21.4%、「家族全員」が20.4%で続いている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

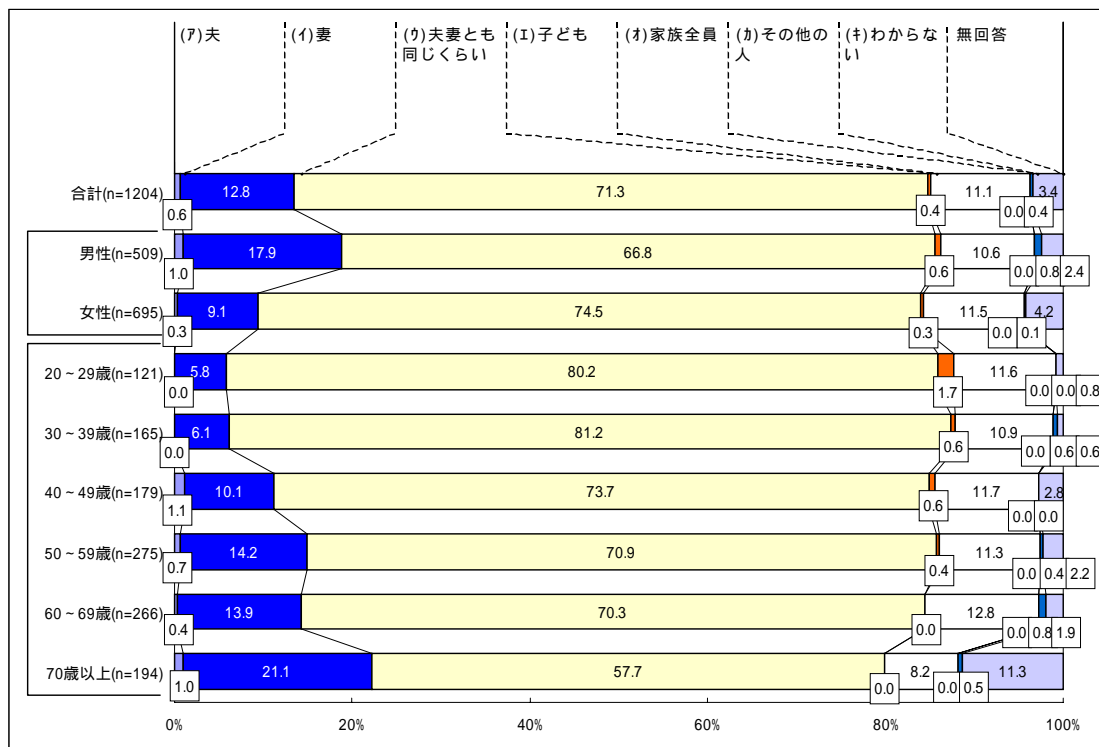
#### 【年齢別】

39歳以下で「夫妻とも同じくらい」が3割程度と、40歳以上に比べ高い。また、50歳以上で「妻」が5割以上と、49歳以下に比べ高い。

## 育児・しつけ

「夫妻とも同じくらい」が71.3%でトップ

### 育児・しつけの理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「夫妻とも同じくらい」が71.3%と最も高く、「妻」が12.8%、「家族全員」が11.1%で続いている。

#### 【性別】

男性で「妻」が17.9%と、女性(9.1%)に比べ8.8ポイント高い。一方、女性では「夫妻とも同じくらい」が74.5%と、男性(66.8%)に比べ7.7ポイント高い。

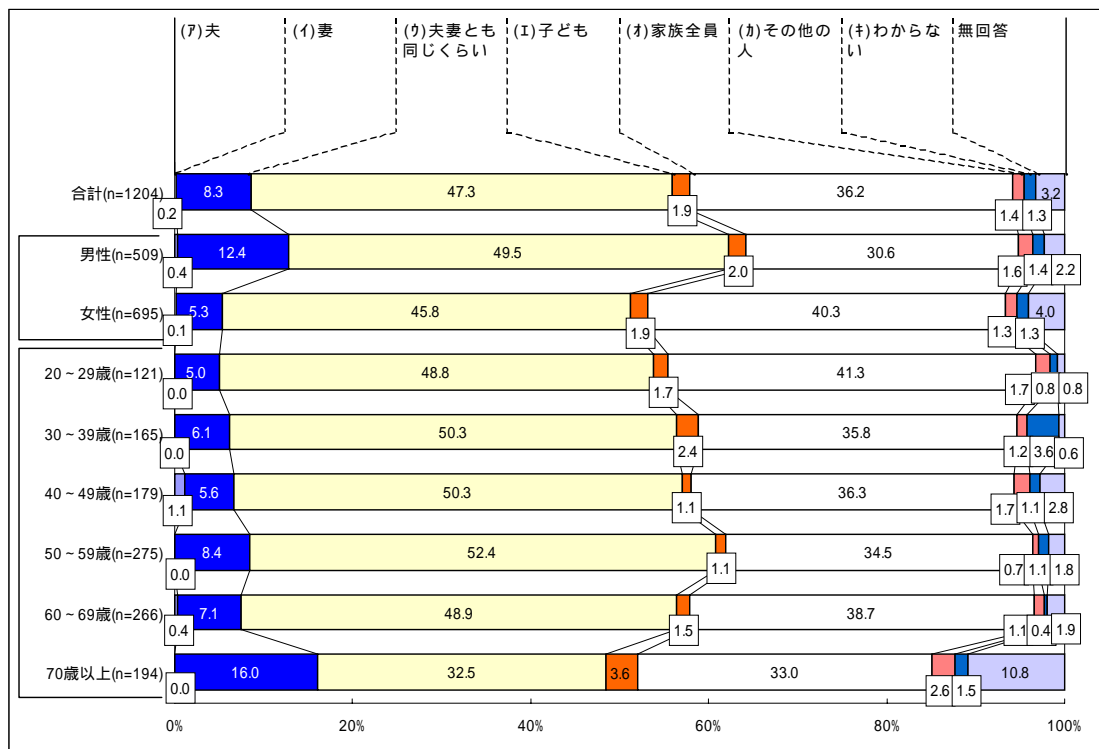
#### 【年齢別】

39歳以下で「夫妻とも同じくらい」が8割以上と、40歳以上に比べ特に高い。また、70歳以上で「妻」が21.1%と、69歳以下に比べ高い。

## 看護・介護

「夫妻とも同じくらい」が47.3%でトップ

### 看護・介護の理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「夫妻とも同じくらい」が47.3%と最も高く、「家族全員」が36.2%、「妻」が8.3%で続いている。

#### 【性別】

男性で「妻」が12.4%と、女性(5.3%)に比べ7.1ポイント高い。一方、女性では「家族全員」が40.3%と、男性(30.6%)に比べ9.7ポイント高い。

#### 【年齢別】

70歳以上で「妻」が16.0%と、69歳以下に比べ高い。なお、70歳以上では「夫妻とも同じくらい」が69歳以下に比べ低い、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。



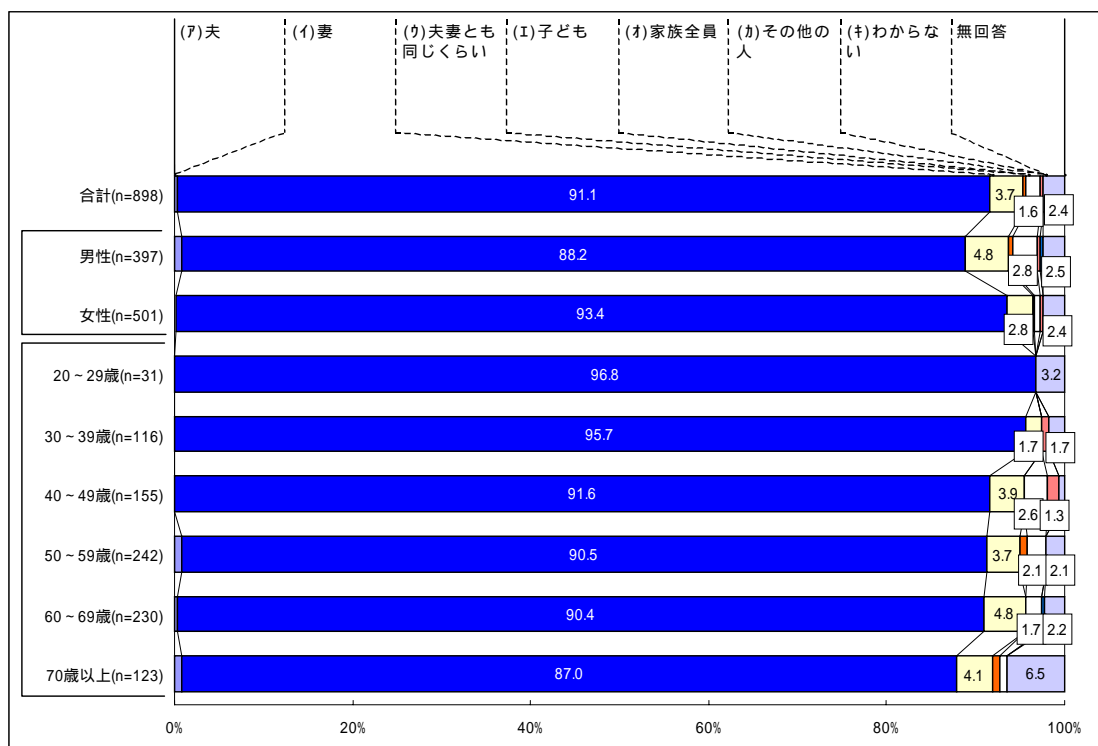
## (10) 家庭内の仕事の実際の分担

問10 あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に主にだれが分担していますか。(1つ選択)

食事のしたく

「妻」が91.1%でトップ

食事のしたくの実際の分担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「妻」が91.1%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が3.7%、「家族全員」が1.6%で続いている。

### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

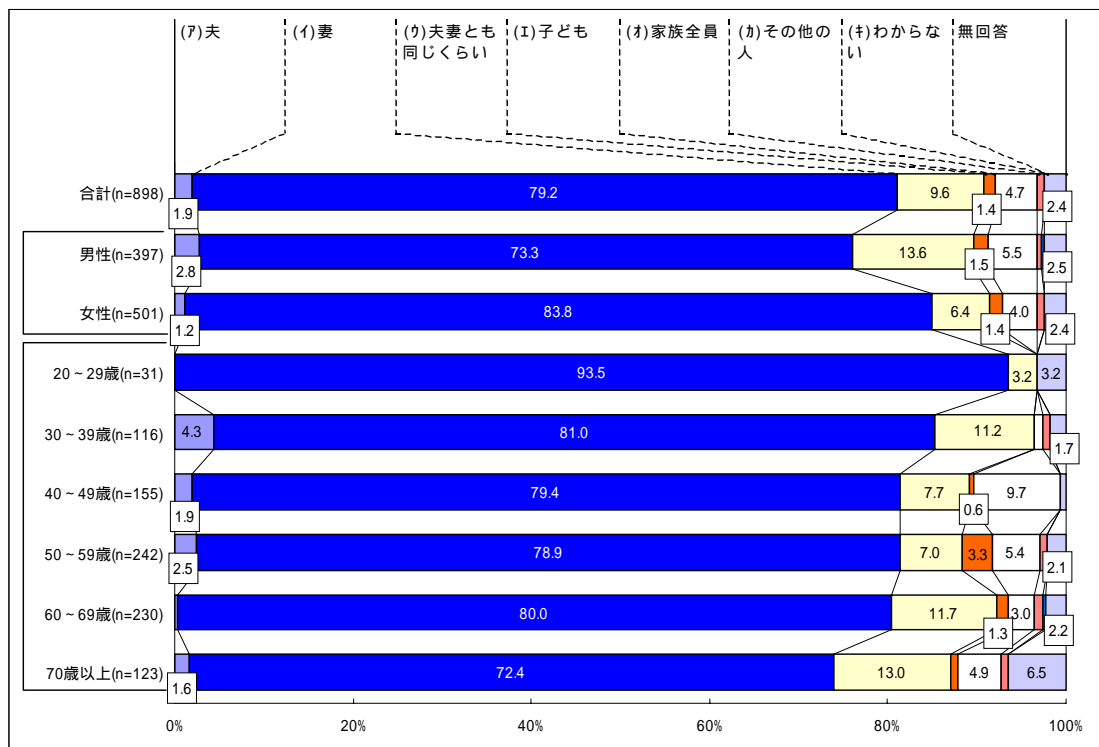
### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 食事の後かたづけ、食器洗い

「妻」が79.2%でトップ

### 食事の後かたづけ、食器洗いの実際の分担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「妻」が79.2%と最も高く、「夫婦とも同じくらい」が9.6%、「家族全員」が4.7%で続いている。

#### 【性別】

男性で「夫婦とも同じくらい」が13.6%と、女性(6.4%)に比べ7.2ポイント高い。一方、女性では「妻」が83.8%と、男性(73.3%)に比べ10.5ポイント高い。

なお、平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

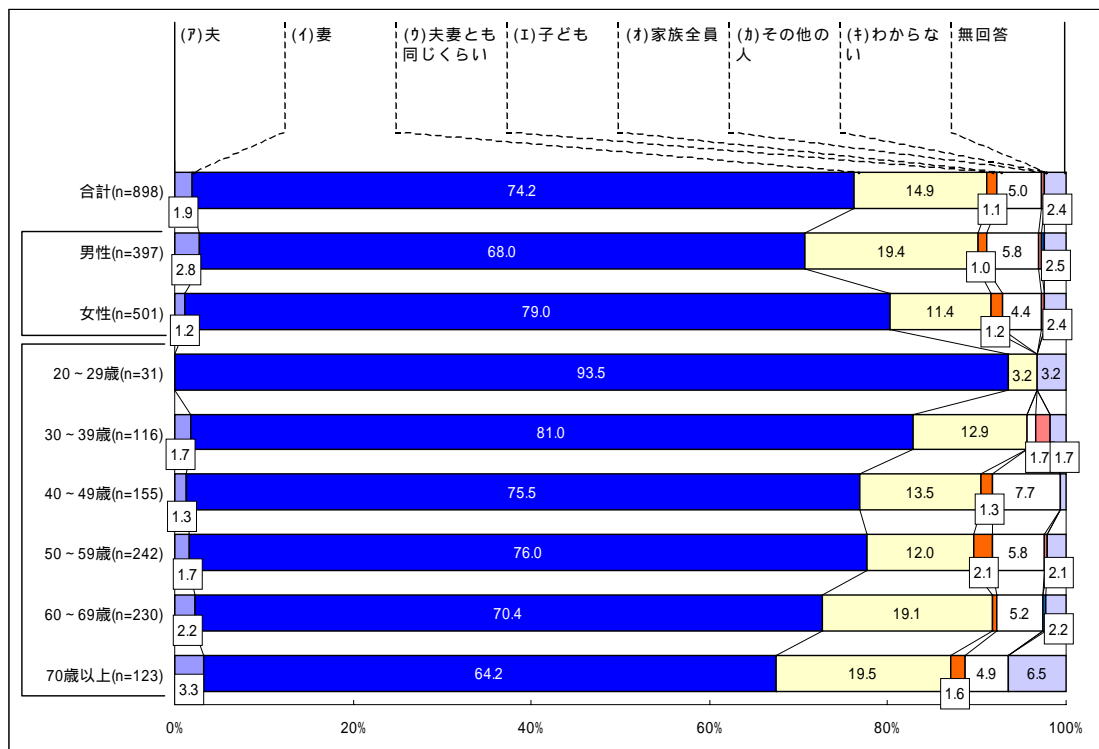
#### 【年齢別】

20～29歳で「妻」が93.5%と、30歳以上に比べ特に高い。

## 掃除

「妻」が74.2%でトップ

### 掃除の実際の分担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「妻」が74.2%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が14.9%、「家族全員」が5.0%で続いている。

#### 【性別】

男性で「夫妻とも同じくらい」が19.4%と、女性(11.4%)に比べ8.0ポイント高い。一方、女性では「妻」が79.0%と、男性(68.0%)に比べ11.0ポイント高い。

なお、平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

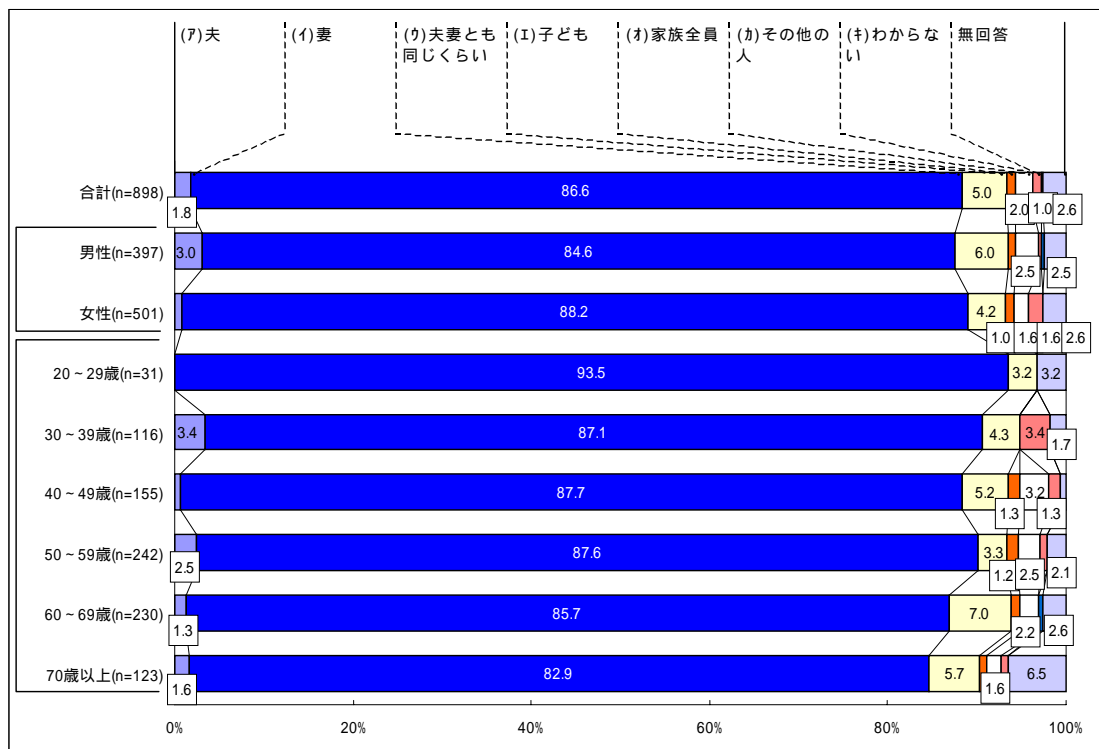
#### 【年齢別】

20～29歳で「妻」が93.5%と30歳以上に比べ特に高く、「夫妻とも同じくらい」が3.2%と30歳以上に比べ低い。

## 洗濯

「妻」が86.6%でトップ

### 洗濯の実際の分担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「妻」が86.6%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が5.0%、「家族全員」が2.0%で続いている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

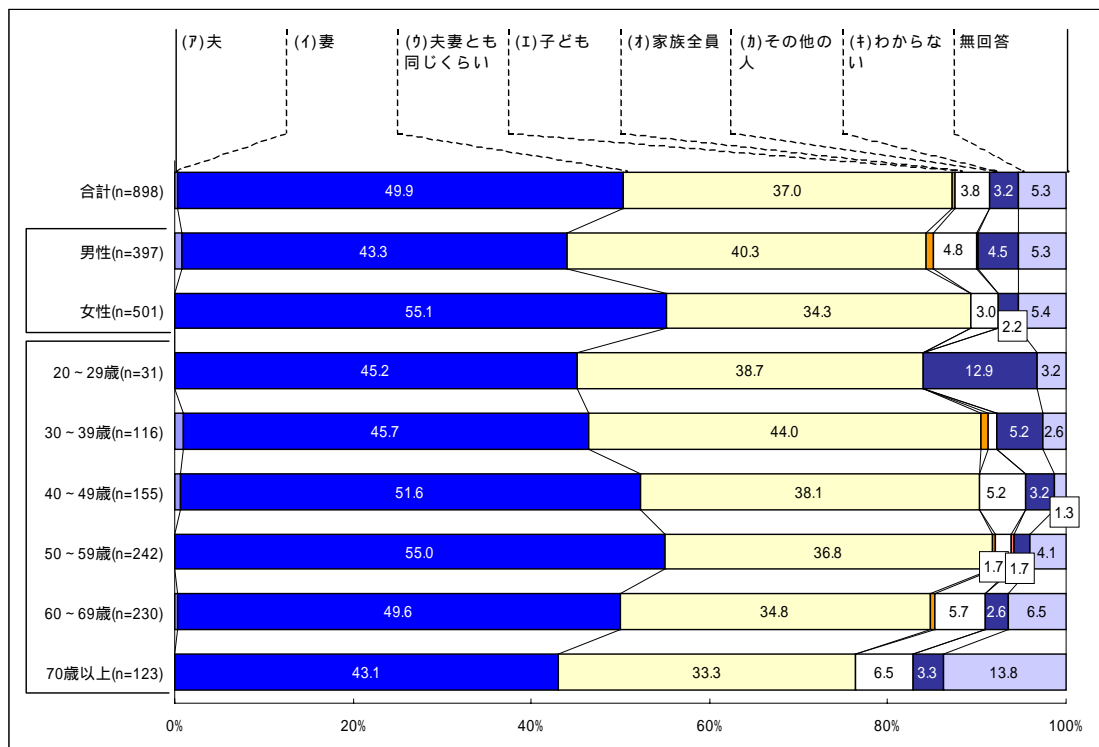
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 育児・しつけ

「妻」が49.9%でトップ

### 育児・しつけの実際の分担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「妻」が49.9%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が37.0%、「家族全員」が3.8%で続いている。

#### 【性別】

男性で「夫妻とも同じくらい」が40.3%と、女性(34.3%)に比べ6.0ポイント高い。一方、女性では「妻」が55.1%と、男性(43.3%)に比べ11.8ポイント高い。

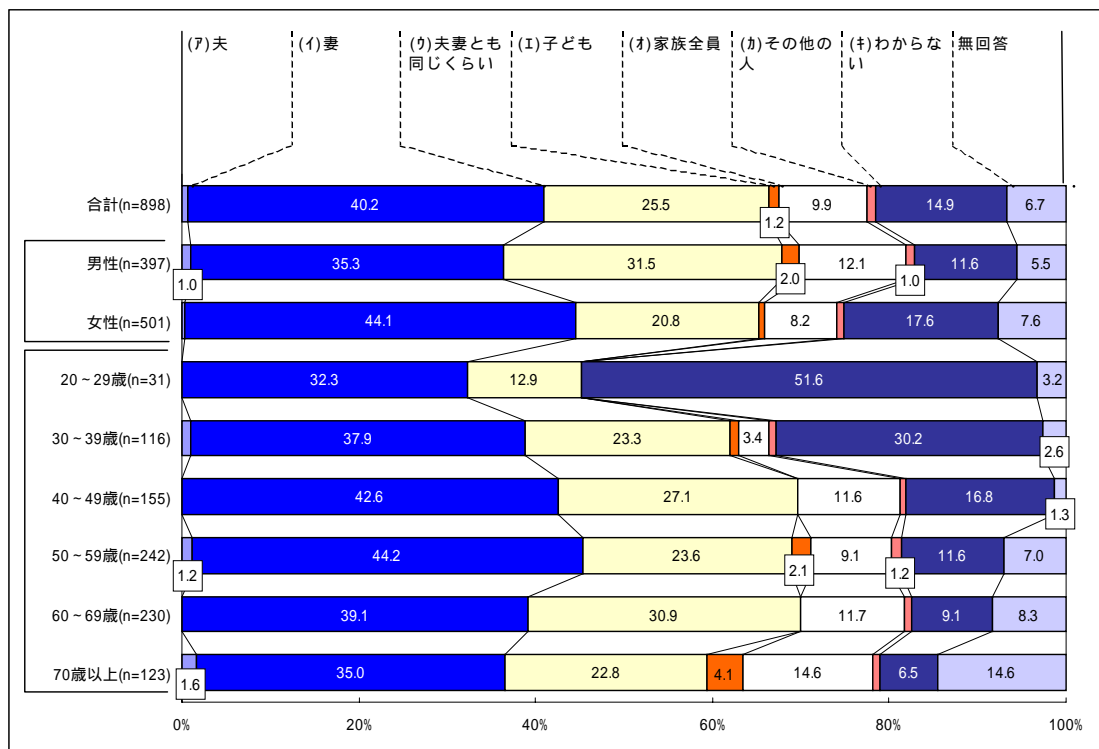
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 看護・介護

「妻」が40.2%でトップ

### 看護・介護の実際の負担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

「わからない」の回答が多いのは、「看護・介護」を必要とする人が身近にいないため、その役割が現実にはない方が選択したものと想定される。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「妻」が40.2%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が25.5%、「わからない」が14.9%で続いている。

#### 【性別】

男性で「夫妻とも同じくらい」が31.5%と、女性(20.8%)に比べ10.7ポイント高い。一方、女性では「妻」が44.1%と、男性(35.3%)に比べ8.8ポイント高い。

#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

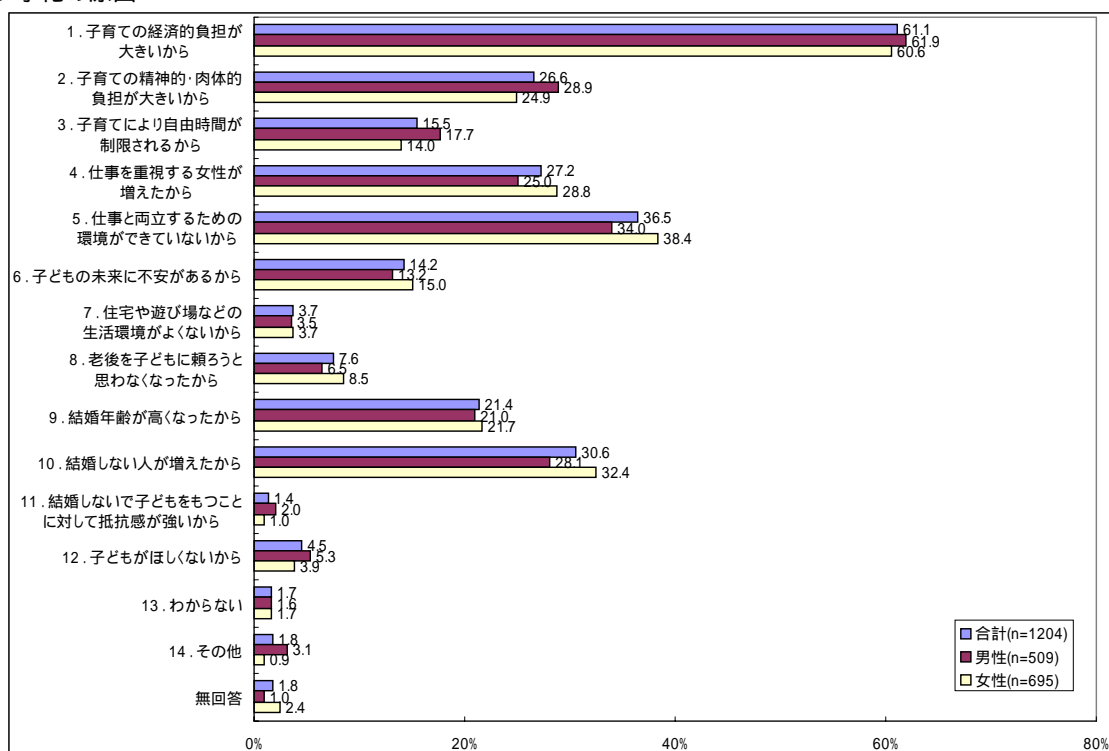
なお、20～29歳で「夫妻とも同じくらい」が30歳以上に比べ低いが、「わからない」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## (11) 少子化の原因

問11 あなたは、近年の少子化の原因は、どのようなことだと思いますか。(3つまで選択可)

「子育ての経済的負担が大きいから」が61.1%でトップ

### 少子化の原因



(全体・性別)

#### 【全体】

「子育ての経済的負担が大きいから」が61.1%と最も高く、「仕事と両立するための環境ができていないから」が36.5%、「結婚しない人が増えたから」が30.6%で続いている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

少子化の原因

(%)

	n	1 子育ての経済的負担が大きいから	2 子育ての精神的・肉体的負担が大きいから	3 子育てにより自由時間が制限されるから	4 仕事を重視する女性が増えたから	5 仕事と両立するための環境ができていないから	6 子どもの未来に不安があるから	7 住宅や遊び場などの生活環境がよくないから	8 老後を子どもに頼ろうと思わなくなったから	9 結婚年齢が高くなったから
合計	1204	61.1	26.6	15.5	27.2	36.5	14.2	3.7	7.6	21.4
20～29歳	121	71.1	22.3	16.5	33.1	42.1	15.7	5.8	0.0	19.8
30～39歳	165	67.3	33.3	18.2	18.2	50.3	12.1	4.2	3.6	21.2
40～49歳	179	66.5	29.1	16.2	24.6	33.5	15.6	3.4	5.0	21.2
50～59歳	275	65.1	24.4	17.5	25.8	37.5	18.2	4.7	7.6	22.5
60～69歳	266	57.9	24.8	13.5	30.8	37.6	14.3	3.0	9.0	21.8
70歳以上	194	43.8	27.3	12.4	30.9	22.2	7.7	1.5	16.5	20.1

	n	10 結婚しない人が増えたから	11 結婚しないで子どもをもつことに対して抵抗感が強いから	12 子どもがほしくないから	13 わからない	14 その他	無回答
合計	1204	30.6	1.4	4.5	1.7	1.8	1.8
20～29歳	121	19.8	0.8	3.3	0.0	1.7	0.0
30～39歳	165	26.1	1.2	4.8	0.6	2.4	0.6
40～49歳	179	35.8	1.7	6.7	1.7	3.9	0.6
50～59歳	275	30.5	2.5	4.7	1.1	1.1	1.1
60～69歳	266	33.1	1.5	3.8	2.3	1.1	0.8
70歳以上	194	32.5	0.0	3.6	3.6	1.0	7.7

(全体・年齢別)

【年齢別】

30～39歳で「仕事と両立するための環境ができていないから」が50.3%と他の年代に比べ特に高く、「仕事を重視する女性が増えたから」が18.2%と他の年代に比べ低い。70歳以上で「老後を子どもに頼ろうと思わなくなったから」が16.5%と、69歳以下に比べ高い。「子育ての経済的負担が大きいから」は、年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

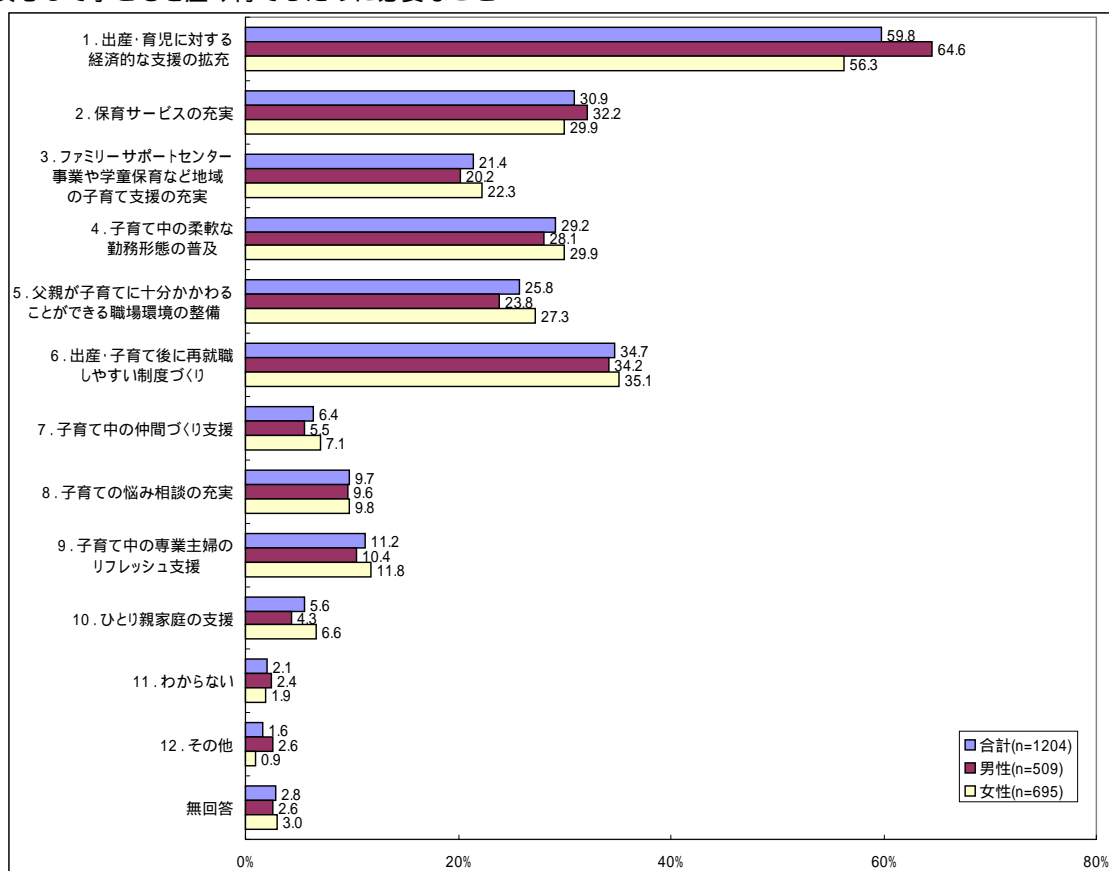


## (12) 安心して子どもを産み育てるために必要なこと

問12 安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思いますか。(3つまで選択可)

「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が59.8%でトップ

### 安心して子どもを産み育てるために必要なこと



(全体・性別)

#### 【全体】

「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が59.8%と最も高く、「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」が34.7%、「保育サービスの充実」が30.9%で続いている。

#### 【性別】

男性で「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が64.6%と、女性(56.3%)に比べ8.3ポイント高い。

安心して子どもを産み育てるために必要なこと

(%)

	n	1 出産・育児に対する経済的な支援の拡充	2 保育サービスの充実	3 ファミリーサポートセンター事業や学童保育など地域の子育て支援の充実	4 子育て中の柔軟な勤務形態の普及	5 父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備	6 出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり	7 子育て中の仲間づくり支援	8 子育ての悩み相談の充実	9 子育て中の専業主婦のリフレッシュ支援
合計	1204	59.8	30.9	21.4	29.2	25.8	34.7	6.4	9.7	11.2
20～29歳	121	63.6	29.8	19.0	31.4	38.0	26.4	12.4	11.6	12.4
30～39歳	165	64.2	38.8	22.4	32.1	31.5	33.9	4.8	4.2	13.9
40～49歳	179	58.1	27.9	20.7	34.1	27.9	26.8	6.1	8.4	17.3
50～59歳	275	60.0	31.6	24.0	31.3	22.9	38.5	6.5	13.1	8.4
60～69歳	266	62.8	27.1	23.3	24.8	22.9	40.6	4.9	9.8	9.0
70歳以上	194	51.0	32.5	16.5	24.2	19.1	35.1	6.2	9.8	9.3

	n	10 ひとり親家庭の支援	11 わからない	12 その他	無回答
合計	1204	5.6	2.1	1.6	2.8
20～29歳	121	10.7	0.0	0.8	0.8
30～39歳	165	7.3	0.6	4.2	1.2
40～49歳	179	5.6	2.8	3.9	1.7
50～59歳	275	4.4	2.5	0.7	1.8
60～69歳	266	3.4	2.6	0.4	3.4
70歳以上	194	6.2	2.6	0.0	7.2

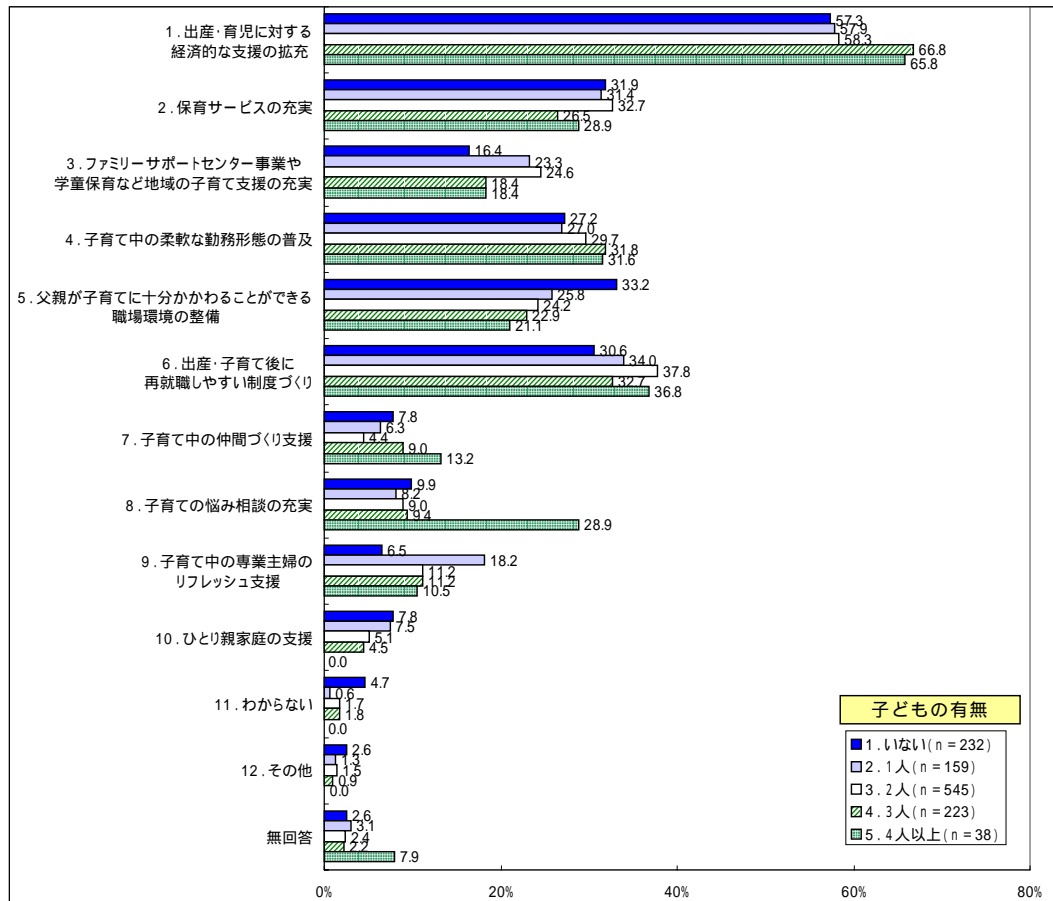
(全体・年齢別)

【年齢別】

20～29歳で「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」が38.0%、30～39歳で「保育サービスの充実」が38.8%とそれぞれ他の年代に比べ高い。また、59歳以下で「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」が3割以上と、60歳以上に比べ高い。

## 参考：子どもの有無別にみた調査結果

<子どもの有無別>



子どもがいる、いないに関わらず「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が第1位にあげられており、中でも、子どもが3人以上の人で特に重視していることがわかる。

なお、子どもがいない人では「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」、

子どもが1人の人では「子育て中の専業主婦のリフレッシュ支援」、

子どもが4人以上の人では「子育ての悩み相談の充実」

を、それぞれ他と比べ重視している傾向がある。

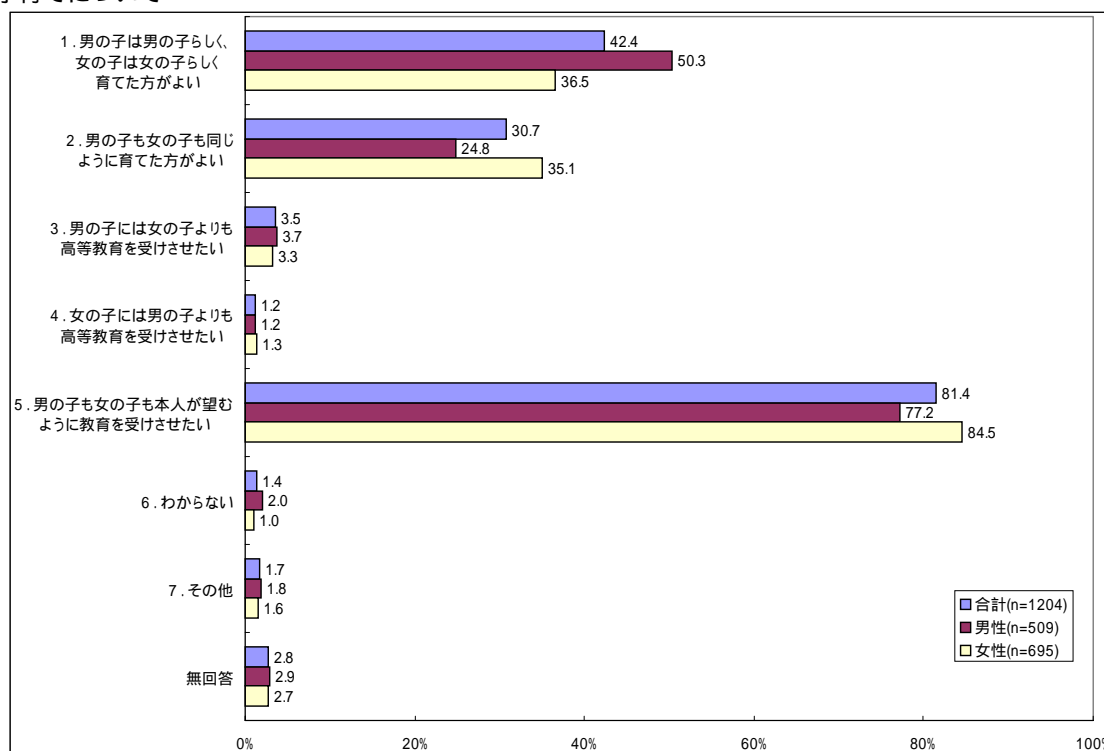
### (13) 子育てについて

問13 あなたは、子育てについて、どのように考えますか。(いくつでも選択可)

育て方について・・・「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」が42.4%  
「男の子も女の子も同じように」が30.7%

教育について・・・「本人が望むように教育を受けさせたい」が81.4%

#### 子育てについて



(全体・性別)

#### 【全体】

子どもの育て方に関わる選択肢では「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」が42.4%、「男の子も女の子も同じように育てた方がよい」が30.7%となっている。

教育に関わる選択肢では「男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい」が81.4%と最も高く、「男の子には女の子よりも高等教育を受けさせたい」が3.5%、「女の子には男の子よりも高等教育を受けさせたい」が1.2%となっている。

#### 【性別】

男性で「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」が50.3%と、女性(36.5%)に比べ13.8ポイント高い。一方、女性では「男の子も女の子も同じように育てた方がよい」が35.1%と、男性(24.8%)に比べ10.3ポイント高い。

また、女性で「男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい」が84.5%と、男性(77.2%)に比べ7.3ポイント高い。

子育てについて

(%)

	n	1 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい	2 男の子も女の子も同じように育てた方がよい	3 男の子には女の子よりも高等教育を受けさせたい	4 女の子には男の子よりも高等教育を受けさせたい	5 男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい	6 わからない	7 その他	無回答
合計	1204	42.4	30.7	3.5	1.2	81.4	1.4	1.7	2.8
20～29歳	121	30.6	33.1	1.7	1.7	81.8	0.8	5.0	0.8
30～39歳	165	30.9	40.6	2.4	0.0	83.6	1.8	1.2	0.6
40～49歳	179	36.3	30.7	1.1	0.0	81.6	1.1	1.1	1.7
50～59歳	275	45.1	28.4	2.9	1.5	81.5	0.7	1.8	2.2
60～69歳	266	48.5	30.1	2.6	1.9	82.7	2.6	1.9	3.4
70歳以上	194	52.6	25.8	9.8	2.1	77.3	1.0	0.0	6.7

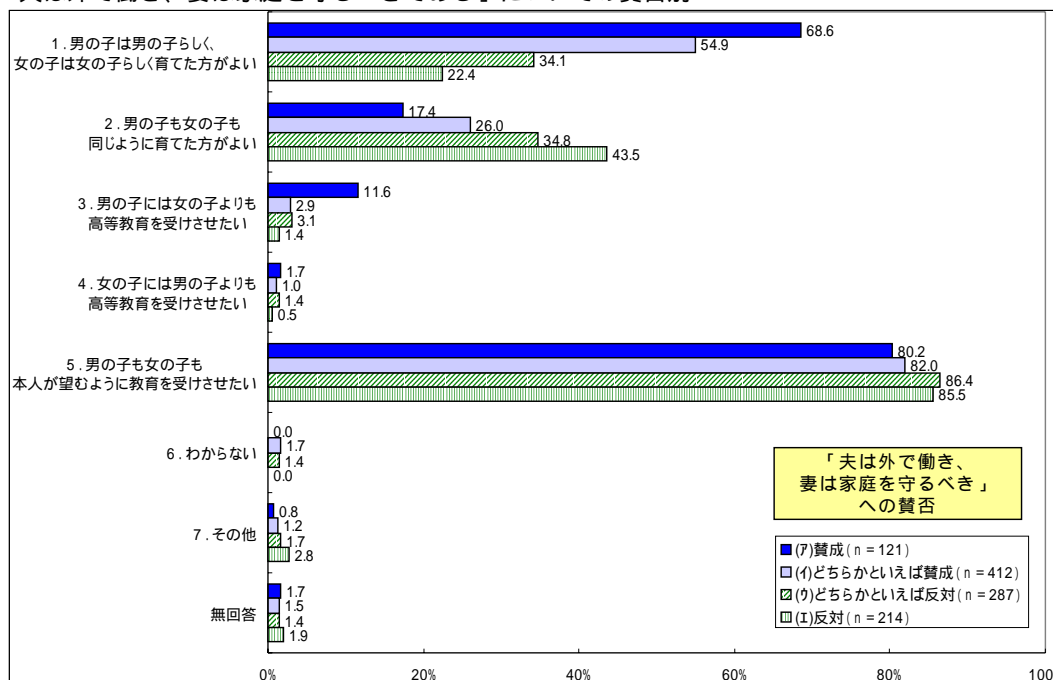
(全体・年齢別)

【年齢別】

30～39歳で「男の子も女の子も同じように育てた方がよい」が40.6%と、他の年代に比べ高い。「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」は、年代があがるほど高くなる傾向が認められる。

参考：「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」についての賛否別にみた調査結果

< 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」についての賛否別 >



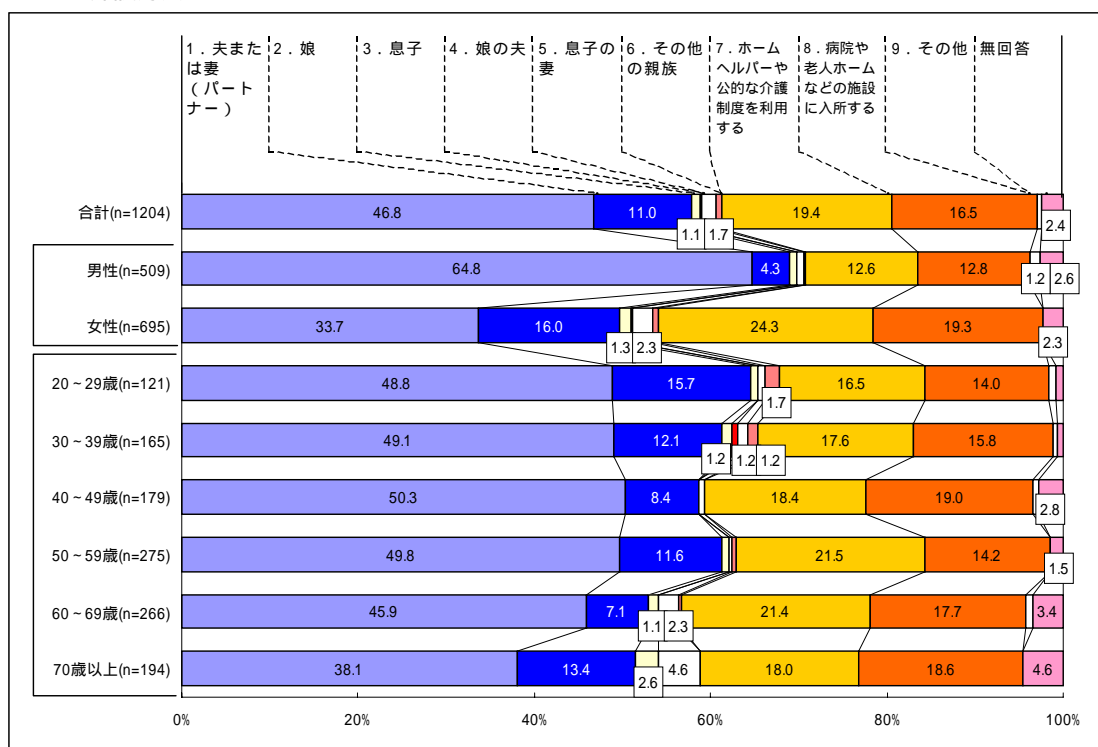
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について賛成であるほど「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」が高く、反対であるほど「男の子も女の子も同じように育てた方がよい」が高い。また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について「賛成」と回答した人では、「男の子には女の子よりも高等教育を受けさせたい」が11.6%と、その他の人に比べ高い。

## (14) 望ましい介護方法

問14 もし、あなたが介護が必要になったら、主にだれに世話をしてもらいたいですか。(1つ選択)

「夫または妻(パートナー)」が 男性64.8%、女性33.7%、全体46.8%でトップ

### 望ましい介護方法



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「夫または妻(パートナー)」が46.8%と最も高く、「ホームヘルパーや公的な介護制度を利用する」が19.4%、「病院や老人ホームなどの施設に入所する」が16.5%で続いている。

#### 【性別】

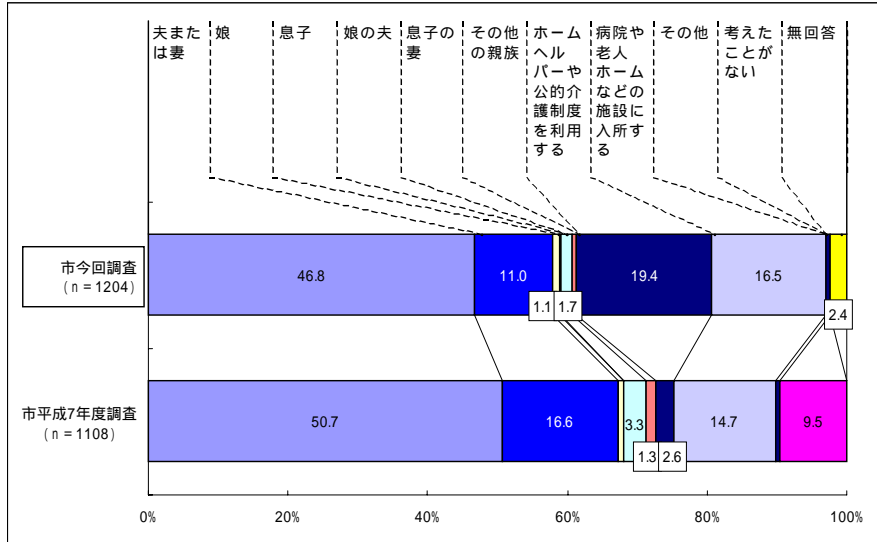
男性で「夫または妻(パートナー)」が64.8%と、女性(33.7%)に比べ31.1ポイント高い。一方、女性では「娘」が16.0%、「ホームヘルパーや公的な介護制度を利用する」が24.3%、「病院や老人ホームなどの施設に入所する」が19.3%とそれぞれ男性に比べ高い。

#### 【年齢別】

70歳以上で「夫または妻(パートナー)」が38.1%と、69歳以下に比べ低い。

**参考：過去の市実施の調査との比較**

< 全体 >



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

< 性別 >

(%)

		n	夫または妻	娘	息子	娘の夫	息子の妻	その他の親族	ホームヘルパーや公的介護制度を利用する	病院や老人ホームなどの施設に入所する	その他	考えたことがない	無回答
男性	市今回調査	509	64.8	4.3	0.8	0.0	0.8	0.2	12.6	12.8	1.2	2.6	2.6
	市平成7年度調査	432	73.5	2.8	1.0	0.0	1.9	0.4	1.4	9.2	0.7	9.0	0.0
女性	市今回調査	695	33.7	16.0	1.3	0.1	2.3	0.7	24.3	19.3	0.0	2.3	2.3
	市平成7年度調査	643	36.2	26.0	0.8	0.0	3.8	1.8	3.2	17.9	0.3	10.0	0.0

平成7年度実施の市の調査結果と比較すると、全体、男性、女性ともに「ホームヘルパーや公的介護制度を利用する」が増加している。また、男性では「夫または妻」が、女性では「娘」がそれぞれ減少している。

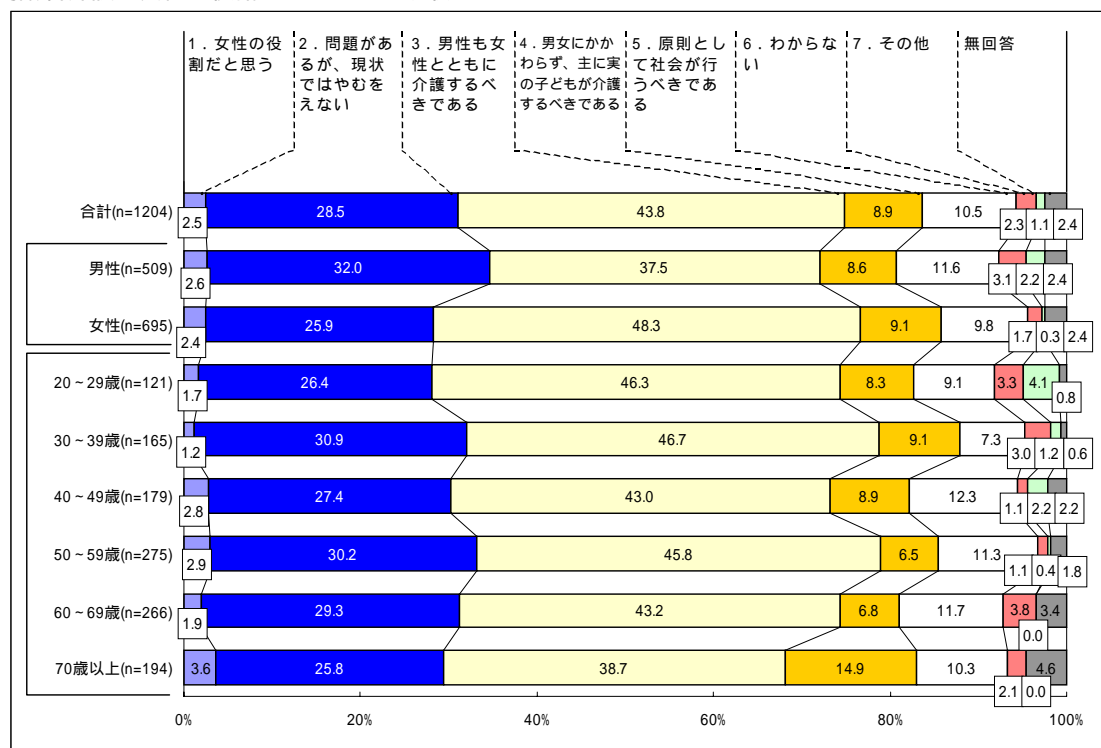
【注意点：平成7年度実施の調査では、「考えたことがない」の選択肢がある。  
平成7年度実施の調査の選択肢『孫』『姉妹』『兄弟』『その他の親族』の回答結果を合計して「その他親族」の回答結果、『特別養護老人ホームなどの施設』『病院』の回答結果を合計して「病院や老人ホームなどの施設に入所する」の回答結果、『地域の人』『その他』の回答結果を合計して「その他」の回答結果とした。

## (15) 高齢者介護が女性の役割となりがちな現状について

問15 厚生労働省が実施した国民生活基礎調査によると、介護者の76.4%が女性という実態が示されています。あなたは、高齢者介護が女性の役割となりがちなことについてどのように考えますか。(1つ選択)

「男性も女性とともに介護すべきである」が43.8%でトップ  
 「問題があるが、現状ではやむをえない」も28.5%と少なくない

### 高齢者介護が女性の役割となりがちな現状について



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「男性も女性とともに介護すべきである」が43.8%と最も高く、「問題があるが、現状ではやむをえない」が28.5%、「原則として社会が行うべきである」が10.5%で続いている。

#### 【性別】

男性で「問題があるが、現状ではやむをえない」が32.0%と、女性(25.9%)に比べ6.1ポイント高い。一方、女性では「男性も女性とともに介護すべきである」が48.3%と、男性(37.5%)に比べ10.8ポイント高い。

#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。



## 4 社会参加活動について

### (16) 社会活動への参加状況・参加意向

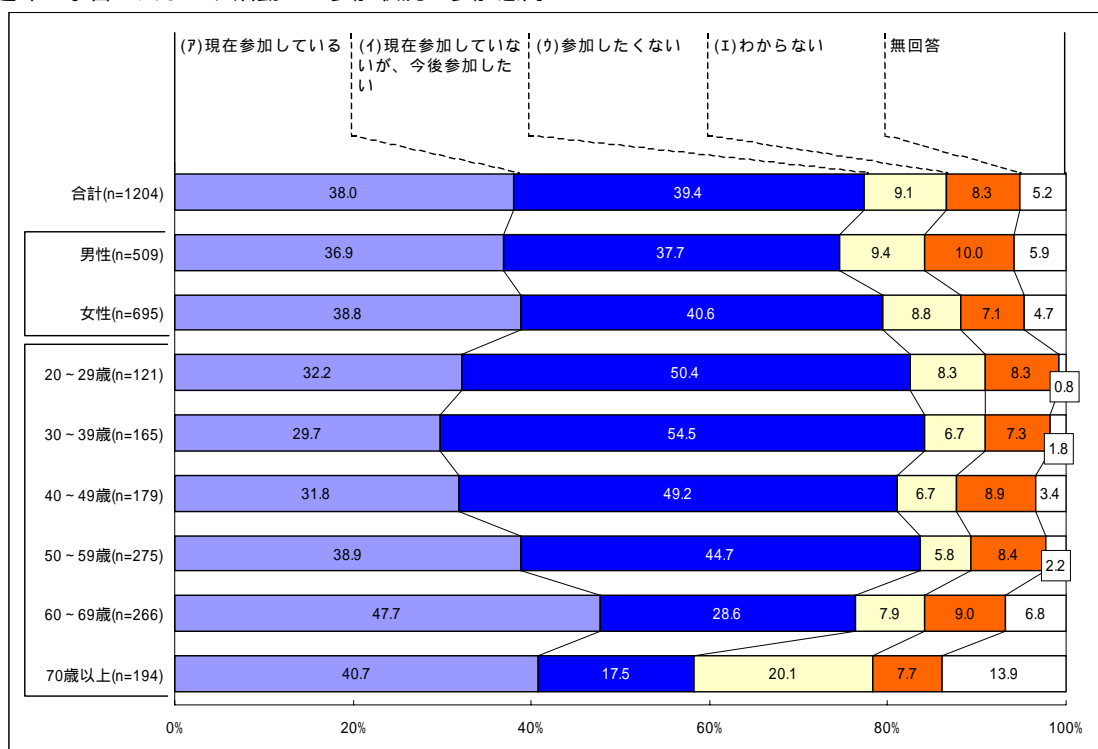
問16 あなたは、次のような活動に参加していますか。また、今後参加したい活動はありますか。(1つ選択)

「現在参加している」と「現在参加していないが、今後参加したい」を合わせて『参加意向がある』とする。

#### 趣味・学習・スポーツ活動

『参加意向がある』77.4% > 「参加したくない」9.1%

#### 趣味・学習・スポーツ活動への参加状況・参加意向



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「現在参加していないが、今後参加したい」が39.4%、「現在参加している」が38.0%と高く、「参加したくない」が9.1%で続いている。『参加意向がある』(77.4%)が、「参加したくない」(9.1%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

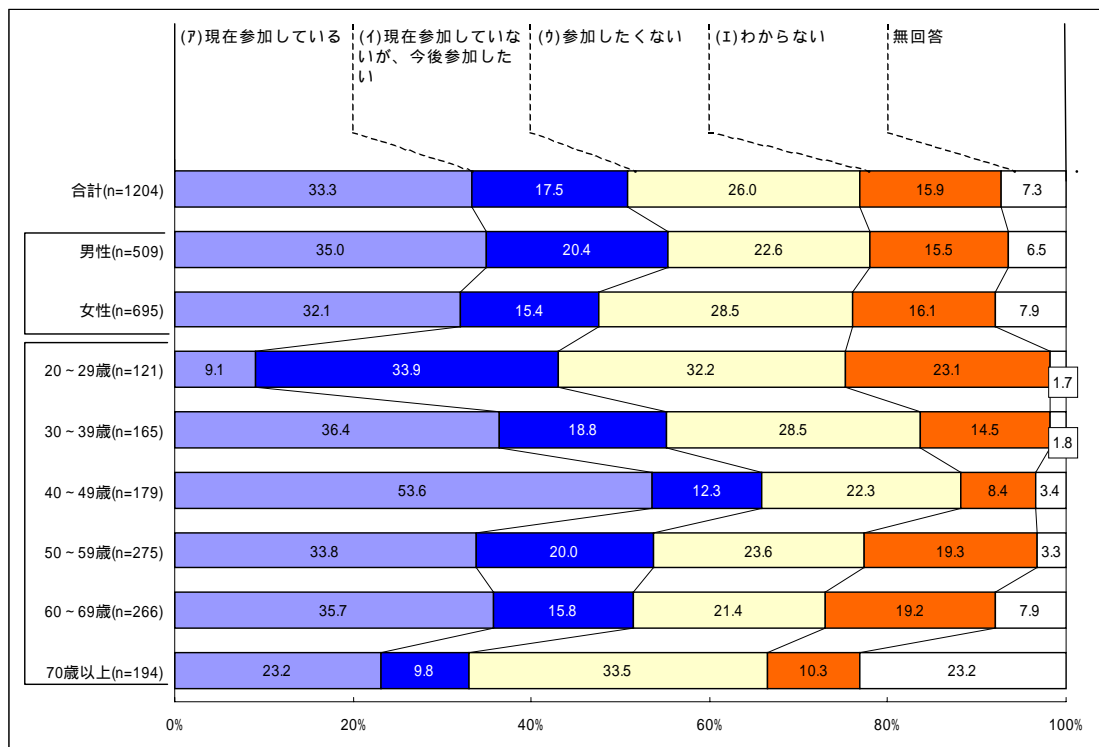
#### 【年齢別】

50歳以上で「現在参加している」が4割前後と、49歳以下に比べ高い。ただし、70歳以上では「参加したくない」も20.1%と、69歳以下に比べ高い。59歳以下で「現在参加していないが、今後参加したい」が4割以上と、60歳以上に比べ高い。

## 町内会・PTA・子ども会など地域活動

『参加意向がある』50.8% > 「参加したくない」26.0%

### 町内会・PTA・子ども会など地域活動への参加状況・参加意向



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「現在参加している」が33.3%と最も高く、「参加したくない」が26.0%、「現在参加していないが、今後参加したい」が17.5%で続いている。『参加意向がある』(50.8%)が、「参加したくない」(26.0%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で『参加意向がある』が55.4%と、女性(47.5%)に比べ7.9ポイント高い。

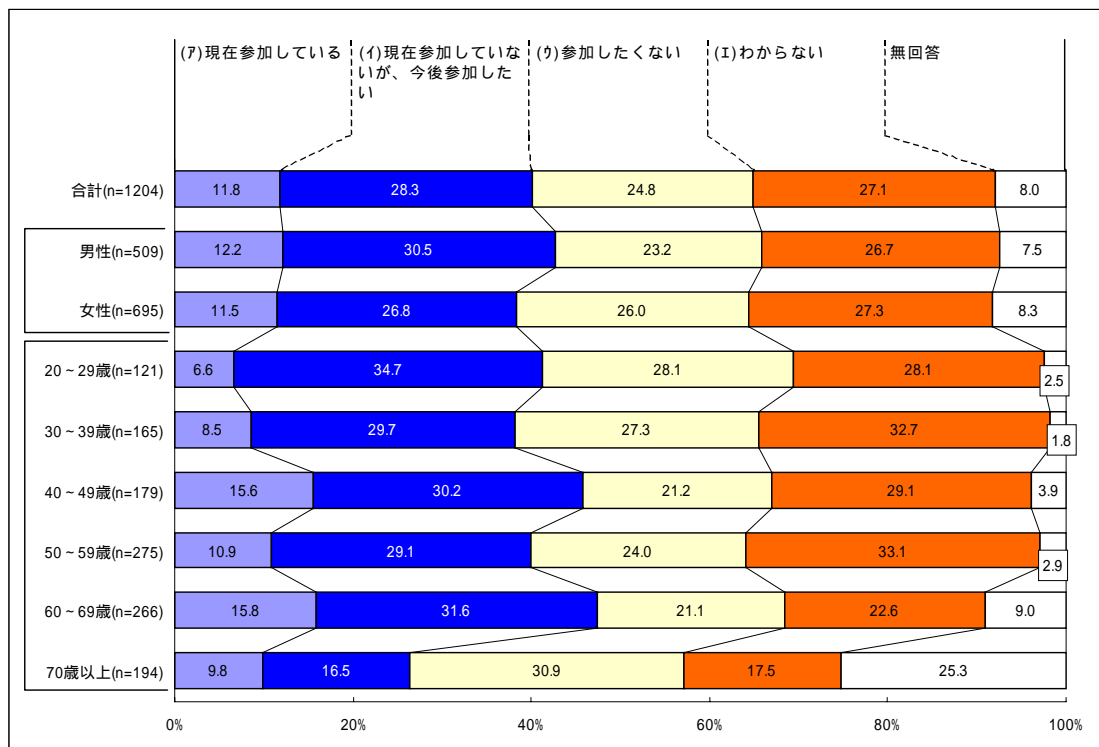
#### 【年齢別】

40～49歳で「現在参加している」が53.6%、20～29歳で「現在参加していないが、今後参加したい」が33.9%と、それぞれ他の年代に比べ高い。また、39歳以下、70歳以上で「参加したくない」が3割前後と、他の年代に比べ高い。

## リサイクル・消費生活活動

『参加意向がある』40.1% > 「参加したくない」24.8%

### リサイクル・消費生活活動への参加状況・参加意向



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「現在参加していないが、今後参加したい」が28.3%、「わからない」が27.1%、「参加したくない」が24.8%となっている。『参加意向がある』(40.1%)が、「参加したくない」(24.8%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

#### 【年齢別】

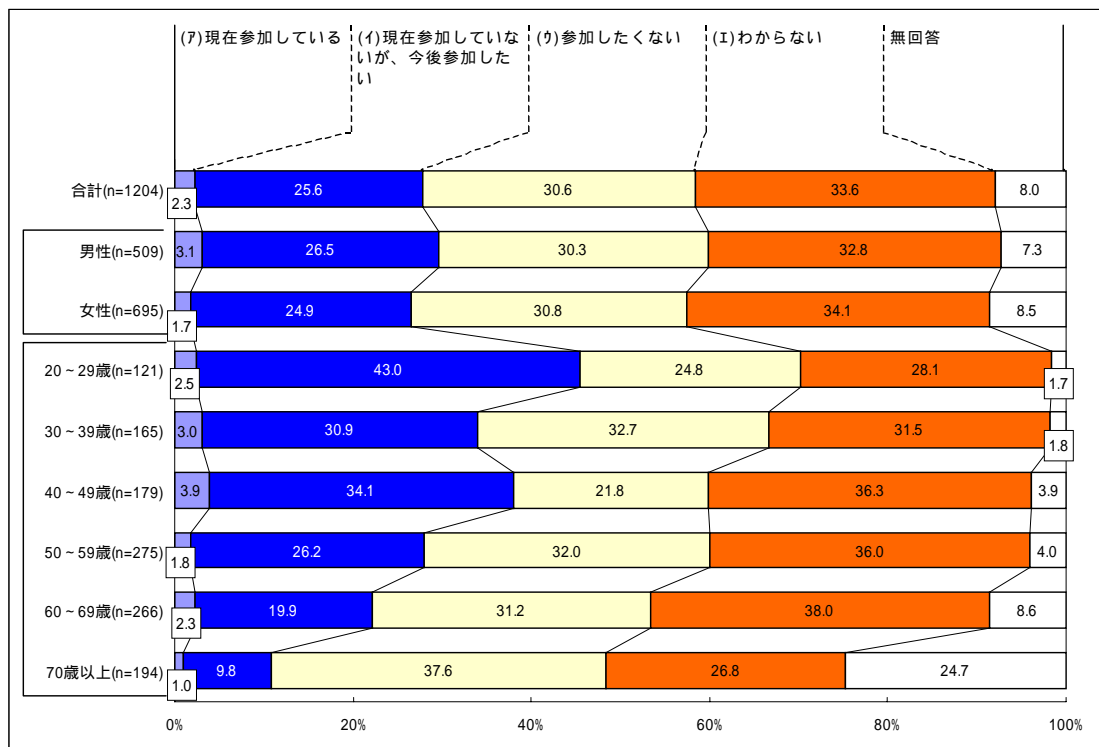
特に大きな差異は認められない。

なお、70歳以上で「現在参加していないが、今後参加したい」、『参加意向がある』がそれぞれ69歳以下に比べ低いが、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## 国際交流活動

「参加したくない」30.6% > 『参加意向がある』27.9%

### 国際交流活動への参加状況・参加意向



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「わからない」が33.6%、「参加したくない」が30.6%、「現在参加していないが、今後参加したい」が25.6%となっている。「参加したくない」(30.6%)が、『参加意向がある』(27.9%)をわずかに上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

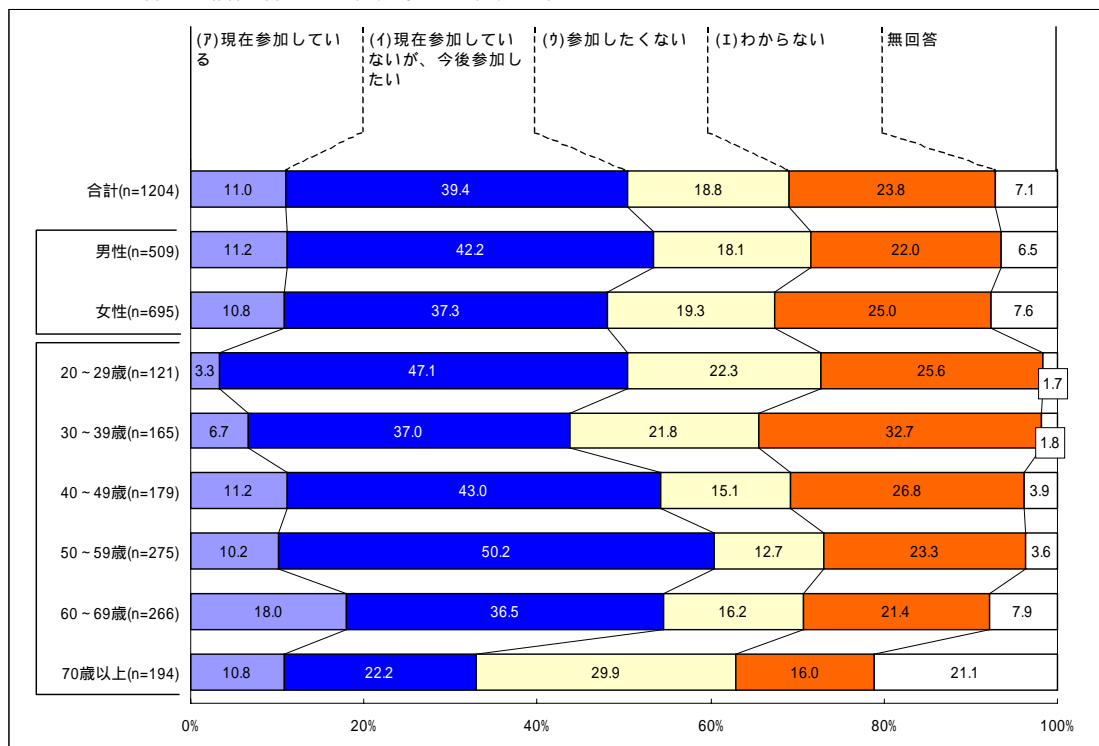
#### 【年齢別】

20～29歳で「現在参加していないが、今後参加したい」が43.0%と、30歳以上に比べ特に高い。なお、70歳以上で「現在参加していないが、今後参加したい」、『参加意向がある』がそれぞれ69歳以下に比べ低い、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## ボランティア活動・福祉活動

『参加意向がある』50.4% > 「参加したくない」18.8%

### ボランティア活動・福祉活動への参加状況・参加意向



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「現在参加していないが、今後参加したい」が39.4%と最も高く、「わからない」が23.8%、「参加したくない」が18.8%で続いている。『参加意向がある』(50.4%)が、「参加したくない」(18.8%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

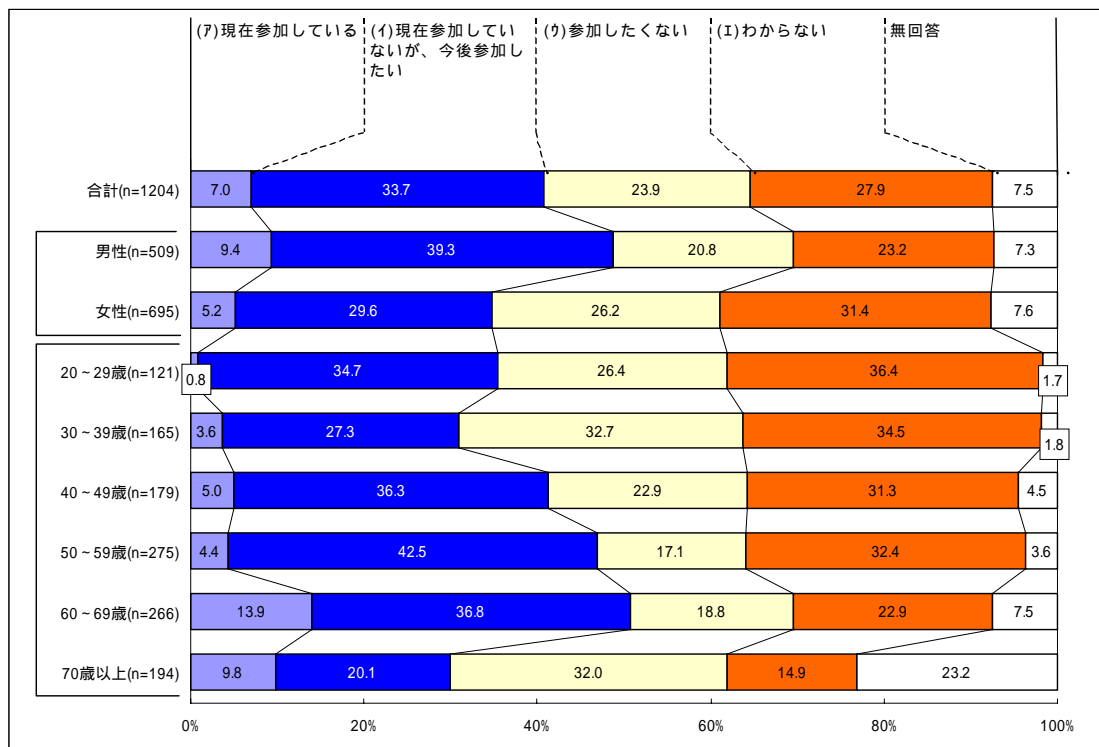
#### 【年齢別】

60～69歳で「現在参加している」が18.0%と、他の年代に比べ高い。また、20～29歳、40～49歳で「現在参加していないが、今後参加したい」が4割以上と、他の年代に比べ高い。一方、70歳以上では「参加したくない」が29.9%と、69歳以下に比べ高い。

## 環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動

『参加意向がある』40.7% > 「参加したくない」23.9%

### 環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動への参加状況・参加意向



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「現在参加していないが、今後参加したい」が33.7%、「わからない」が27.9%、「参加したくない」が23.9%となっている。『参加意向がある』(40.7%)が、「参加したくない」(23.9%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「現在参加していないが、今後参加したい」が39.3%、『参加意向がある』が48.7%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「わからない」が31.4%と、男性(23.2%)に比べ8.2ポイント高い。

#### 【年齢別】

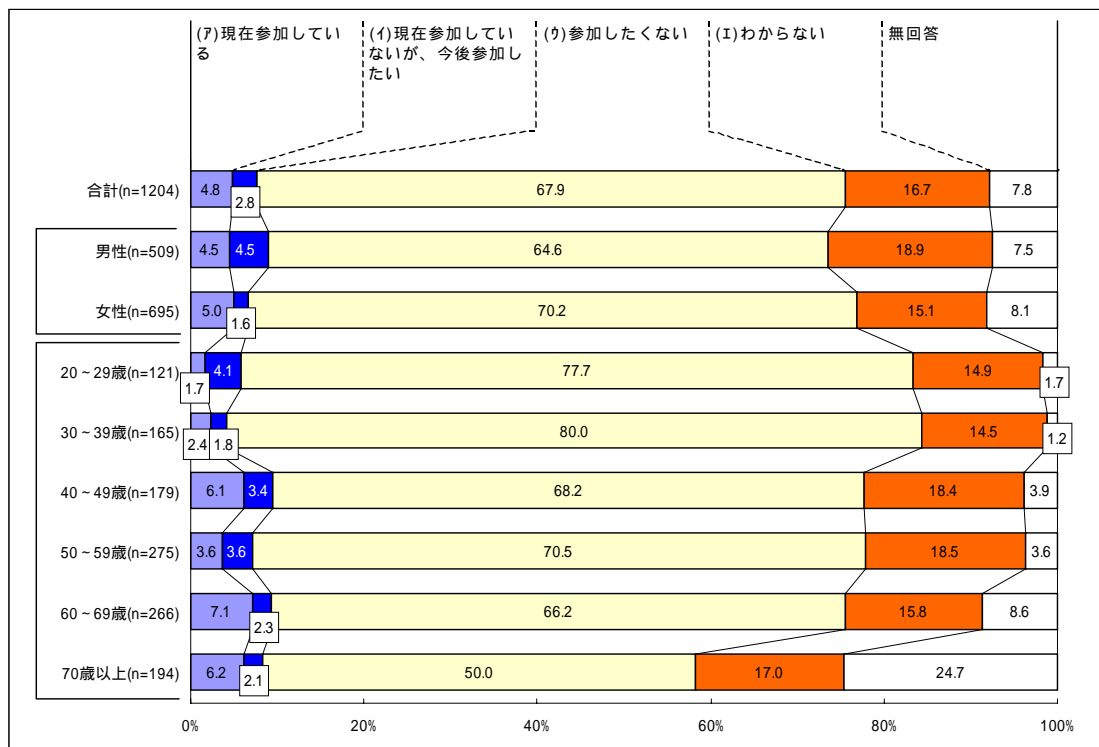
特に大きな差異は認められない。

なお、70歳以上で『参加意向がある』が69歳以下に比べ低い、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## 政治活動や宗教活動

「参加したくない」67.9% > 『参加意向がある』7.6%

### 政治活動や宗教活動への参加状況・参加意向



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「参加したくない」が67.9%と最も高く、「わからない」が16.7%、「現在参加している」が4.8%で続いている。「参加したくない」(67.9%)が、『参加意向がある』(7.6%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

#### 【年齢別】

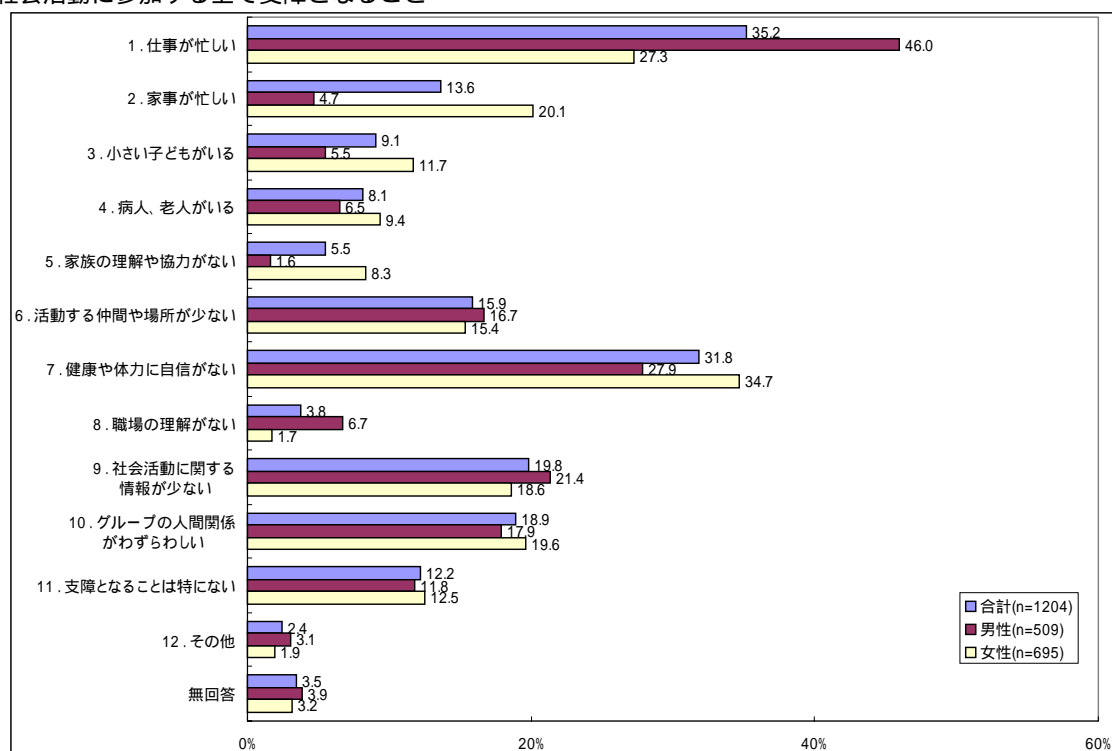
39歳以下で「参加したくない」が8割前後と、40歳以上に比べ特に高い。

## (17) 社会活動に参加する上で支障となること

問17 あなたが社会活動に参加しようとする上で、支障となることはどのようなことですか。(いくつでも選択可)

「仕事が忙しい」、「健康や体力に自信がない」が3割以上と高い

社会活動に参加する上で支障となること



(全体・性別)

### 【全体】

「仕事が忙しい」が35.2%、「健康や体力に自信がない」が31.8%と高く、「社会活動に関する情報が少ない」が19.8%で続いている。「支障となることは特にない」は12.2%となっている。

### 【性別】

男性で「仕事が忙しい」が46.0%と、女性(27.3%)に比べ18.7ポイント高い。一方、女性では「家事が忙しい」が20.1%、「小さい子どもがいる」が11.7%、「家族の理解や協力がでない」が8.3%、「健康や体力に自信がない」が34.7%とそれぞれ男性に比べ高い。



社会活動に参加する上で支障となること

(%)

	n	1 仕事が忙しい	2 家事が忙しい	3 小さい子どもがいる	4 病人、老人がいる	5 家族の理解や協力が ない	6 活動する仲間や場所 が少ない	7 健康や体力に自信が ない	8 職場の理解がない	9 社会活動に関する情 報が少ない
合計	1204	35.2	13.6	9.1	8.1	5.5	15.9	31.8	3.8	19.8
20～29歳	121	49.6	8.3	19.0	0.0	5.8	31.4	14.9	5.8	28.1
30～39歳	165	52.1	21.8	37.0	4.2	6.1	18.8	10.9	6.7	23.6
40～49歳	179	57.5	21.2	9.5	10.1	7.8	16.8	20.1	8.4	21.8
50～59歳	275	42.2	11.6	0.0	14.5	7.6	15.6	25.1	4.0	24.0
60～69歳	266	17.7	12.4	2.6	7.1	3.4	15.0	44.7	0.8	17.7
70歳以上	194	5.7	7.2	0.5	7.2	2.6	5.2	62.9	0.0	6.7

	n	10 グループの人間関 係がわずらわしい	11 支障となることは 特にない	12 その他	無回答
合計	1204	18.9	12.2	2.4	3.5
20～29歳	121	26.4	10.7	5.0	0.0
30～39歳	165	14.5	6.1	1.8	1.8
40～49歳	179	20.1	7.3	1.7	2.2
50～59歳	275	22.9	13.1	3.3	1.8
60～69歳	266	19.5	18.0	0.0	5.3
70歳以上	194	9.8	13.4	4.1	7.2

(全体・年齢別)

【年齢別】

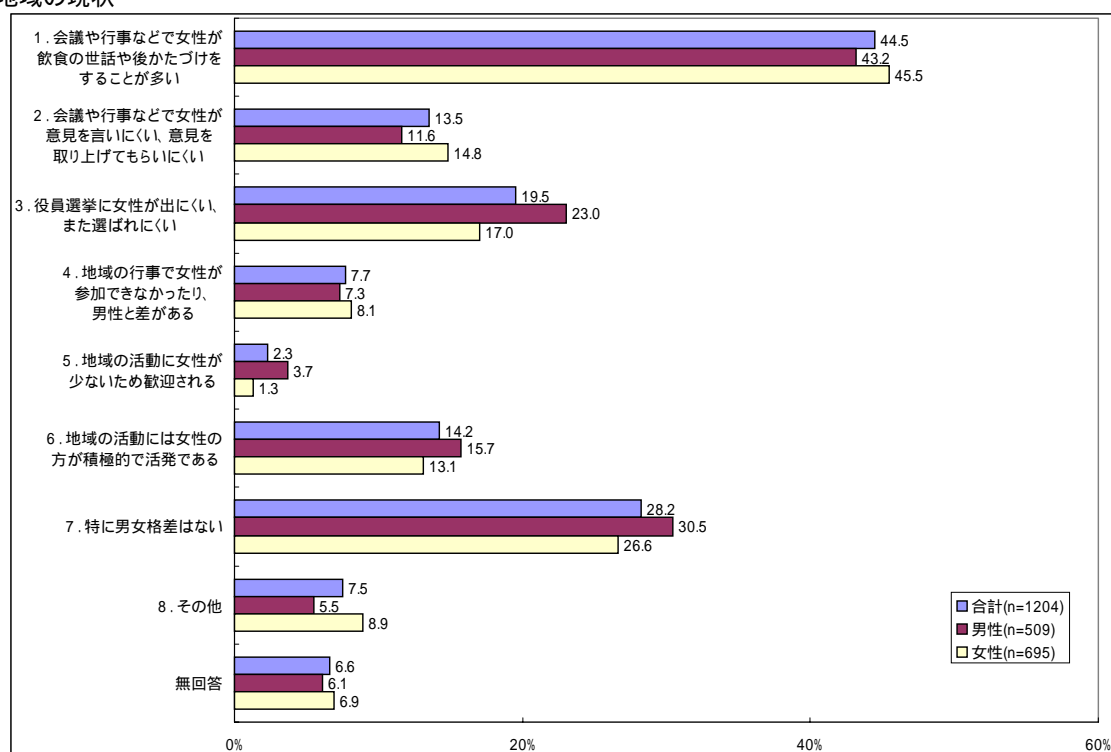
30～49歳で「家事が忙しい」が2割以上と、他の年代に比べ高い。30～39歳で「小さい子どもがいる」が37.0%と、他の年代に比べ特に高い。また、59歳以下で「仕事が忙しい」が4割以上と、60歳以上に比べ高い。60歳以上では「健康や体力に自信がない」が4割以上と、59歳以下に比べ高い。「活動する仲間や場所が少ない」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

## (18) 地域の現状

問18 あなたの住んでいる地域(自治会など)で、現在次のようなことがありますか。  
(いくつでも選択可)

「女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」が44.5%でトップ  
「特に男女格差はない」も28.2%と少なくない

### 地域の現状



(全体・性別)

#### 【全体】

「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」が44.5%と最も高いが、「特に男女格差はない」も28.2%と少なくない。次いで「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」が19.5%となっている。

#### 【性別】

男性で「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」が23.0%と、女性(17.0%)に比べ6.0ポイント高い。

地域の現状

(%)

	n	1 会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い	2 会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見をとり上げてもらいにくい	3 役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい	4 地域の行事で女性が参加できなかつたり、男性と差がある	5 地域の活動に女性が少ないため歓迎される	6 地域の活動には女性の方が積極的に活発である	7 特に男女格差はない	8 その他	無回答
合計	1204	44.5	13.5	19.5	7.7	2.3	14.2	28.2	7.5	6.6
20～29歳	121	44.6	9.9	10.7	9.1	2.5	11.6	18.2	19.8	5.8
30～39歳	165	39.4	12.1	17.0	6.7	2.4	12.1	20.0	18.8	6.1
40～49歳	179	60.3	16.8	20.1	10.6	1.7	15.6	18.4	2.2	5.6
50～59歳	275	46.9	16.0	28.0	10.5	2.2	12.4	28.4	5.5	4.0
60～69歳	266	42.1	12.4	19.2	6.8	1.5	17.3	35.7	3.4	6.4
70歳以上	194	34.0	11.3	15.5	2.6	4.1	14.4	39.7	3.6	12.4

(全体・年齢別)

【年齢別】

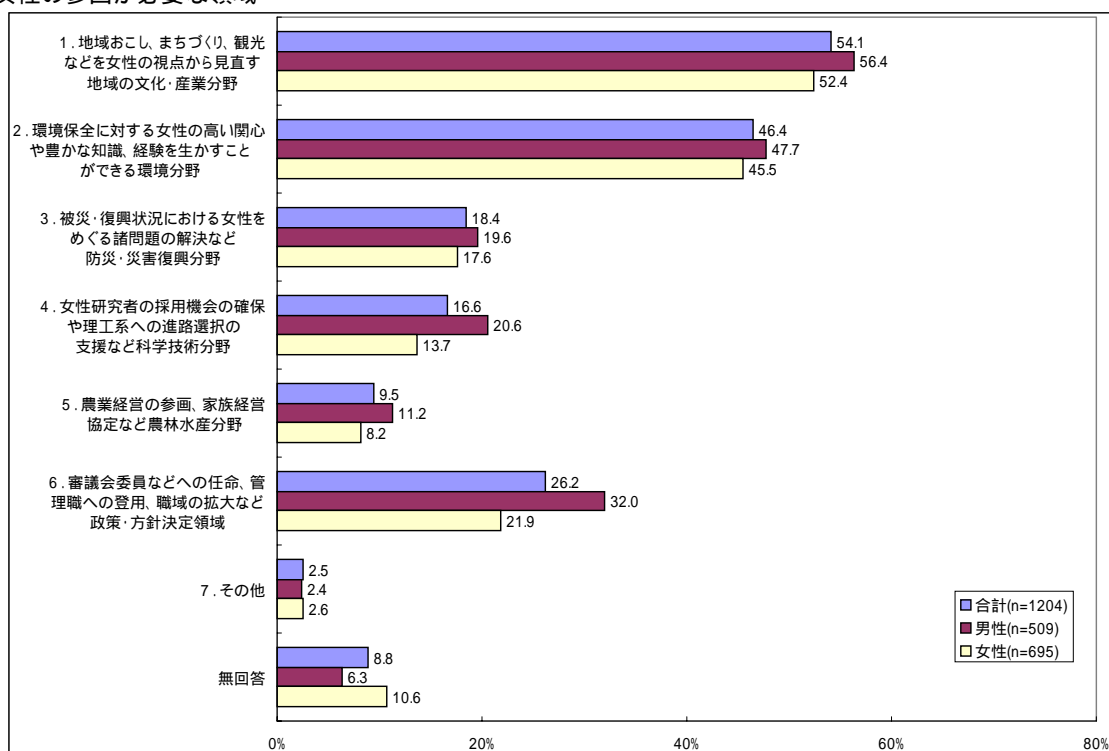
40～49歳で「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」が60.3%、50～59歳で「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」が28.0%と、それぞれ他の年代に比べ高い。また、「特に男女格差はない」は60歳以上で35%以上と、59歳以下に比べ高い。

## (19) 女性の参画が必要な領域

問19 あなたは、今後どのような分野、領域で女性の参画が必要になると思いますか。  
(いくつでも選択可)

「地域の文化・産業分野」が54.1%でトップ

### 女性の参画が必要な領域



(全体・性別)

#### 【全体】

「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」が54.1%と最も高く、「環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」が46.4%、「審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域」が26.2%で続いている。

#### 【性別】

男性で「女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など科学技術分野」が20.6%、「審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域」が32.0%とそれぞれ女性に比べ高い。

女性の参画が必要な領域

(%)

	n	1 地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野	2 環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野	3 被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野	4 女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など科学技術分野	5 農業経営の参画、家族経営協定など農林水産分野	6 審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域	7 その他	無回答
合計	1204	54.1	46.4	18.4	16.6	9.5	26.2	2.5	8.8
20～29歳	121	54.5	47.9	24.0	19.8	13.2	34.7	4.1	1.7
30～39歳	165	50.9	40.0	15.8	21.2	8.5	31.5	4.8	4.2
40～49歳	179	57.5	49.7	19.0	16.2	10.6	22.3	2.8	5.6
50～59歳	275	57.1	51.3	19.6	18.2	11.6	31.6	0.7	7.3
60～69歳	266	56.0	49.2	20.3	11.7	6.4	19.5	2.3	9.4
70歳以上	194	46.9	37.1	12.9	14.9	8.2	21.6	2.1	21.1

(全体・年齢別)

【年齢別】

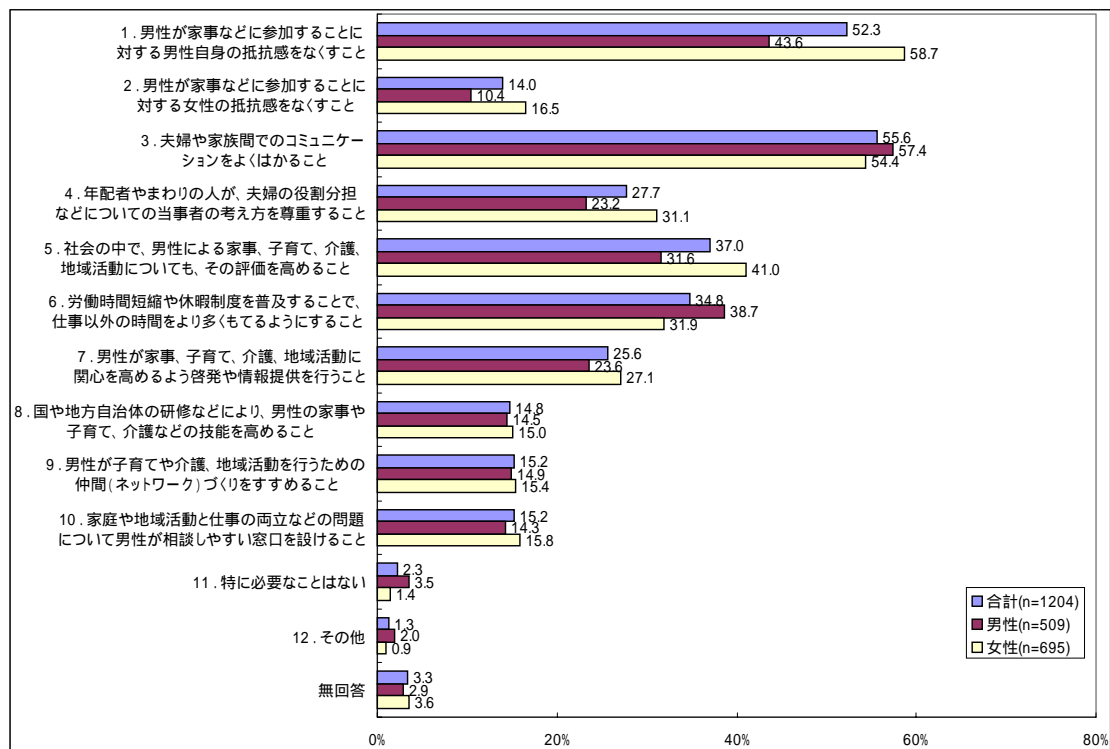
20～29歳、40～69歳で「環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」が5割前後、39歳以下、50～59歳で、「審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域」が3割以上とそれぞれ他の年代に比べ高い。

(20) 男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

問20 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも選択可)

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、  
「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が5割以上と高い

男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと



(全体・性別)

【全体】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が55.6%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が52.3%と高く、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が37.0%で続いている。「特に必要なことはない」は2.3%にとどまっている。

【性別】

男性で「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」が38.7%と、女性(31.9%)に比べ6.8ポイント高い。一方、女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が58.7%、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が31.1%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が41.0%とそれぞれ男性に比べ高い。

男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

(%)

	n	1 男性が家事などに参加することに 対する男性自身の抵抗感をなくす こと	2 男性が家事などに参加することに 対する女性の抵抗感をなくすこと	3 夫婦や家族間でのコミュニケーション をよくなること	4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割 分担などについての当事者の考え 方を尊重すること	5 社会の中で、男性による家事、子育 て、介護、地域活動についても、そ の評価を高めること	6 労働時間短縮や休暇制度を普及す ることで、仕事以外の時間をより多 くもてるようにすること	7 男性が家事、子育て、介護、地域活 動に関心を高めるよう啓発や情報 提供を行うこと	8 国や地方自治体の研修などにより、 男性の家事や子育て、介護などの技 能を高めること
合計	1204	52.3	14.0	55.6	27.7	37.0	34.8	25.6	14.8
20～29歳	121	59.5	9.1	62.0	35.5	41.3	55.4	29.8	23.1
30～39歳	165	58.2	10.9	55.8	27.3	47.3	52.1	24.2	19.4
40～49歳	179	44.1	15.6	53.1	30.2	41.9	36.9	24.0	15.1
50～59歳	275	53.5	13.1	49.5	29.5	43.3	36.0	26.2	13.1
60～69歳	266	53.0	15.8	61.3	20.3	27.8	25.9	27.1	13.5
70歳以上	194	48.5	17.0	55.2	28.4	25.8	16.5	23.2	9.3

	n	9 男性が子育てや介護、地域活動 を行うための仲間ネットワーク づくりをすすめること	10 家庭や地域活動と仕事の両立 などの問題について男性が相 談しやすい窓口を設けること	11 特に必要なことはない	12 その他	無回答
合計	1204	15.2	15.2	2.3	1.3	3.3
20～29歳	121	22.3	17.4	0.8	2.5	0.8
30～39歳	165	17.6	18.2	3.0	0.6	1.2
40～49歳	179	10.6	15.6	2.8	2.2	1.7
50～59歳	275	15.3	13.8	3.3	1.1	2.9
60～69歳	266	15.0	15.0	1.9	0.4	1.9
70歳以上	194	13.4	13.4	1.5	2.1	10.3

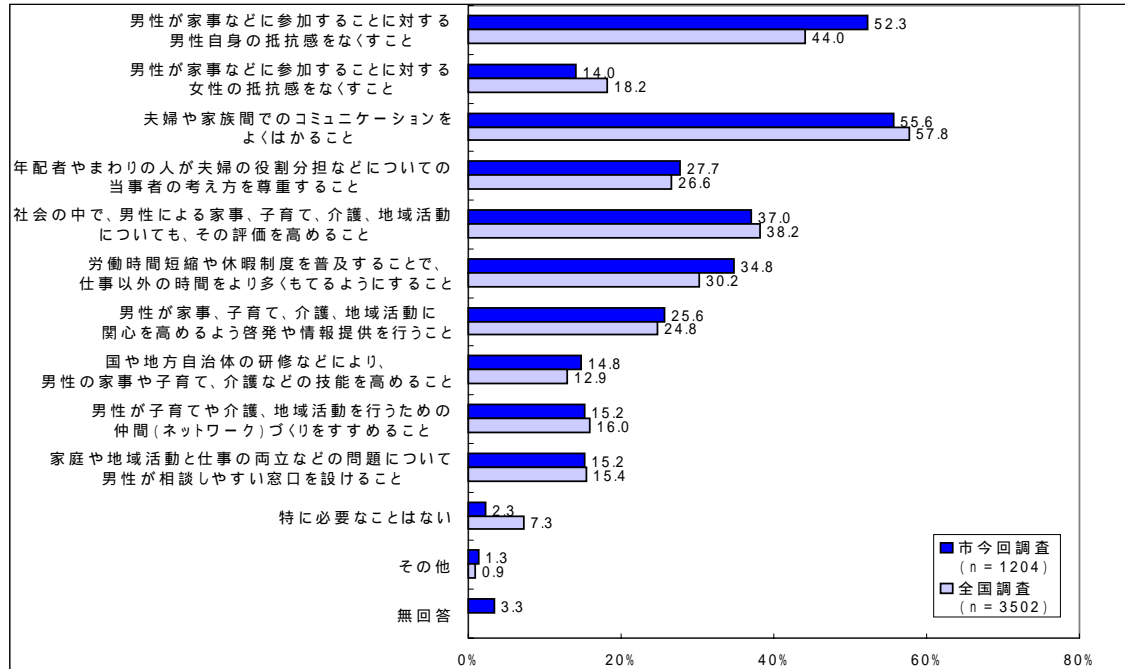
(全体・年齢別)

【年齢別】

59歳以下で「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が4割以上と、60歳以上に比べ高い。「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

**参考：全国調査との比較**

<全体>



<性別>

(%)

		n	1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくなること	4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること	7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	8 国や地方自治体の研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること	9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること	11 特に必要なことはない	12 その他	無回答
男性	市今回調査	509	43.6	10.4	57.4	23.2	31.6	38.7	23.6	14.5	14.9	14.3	3.5	2.0	2.9
	全国調査	1616	37.9	16.1	55.8	22.7	33.6	31.7	22.2	12.4	14.4	13.9	8.8	1.1	
女性	市今回調査	695	58.7	16.5	54.4	31.1	41.0	31.9	27.1	15.0	15.4	15.8	1.4	0.9	3.6
	全国調査	1886	49.2	19.9	59.5	30.0	42.1	28.9	27.1	13.3	17.3	16.7	6.1	0.7	

平成16年度実施の全国調査結果と比較すると、全体、女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が高い。また、男性では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」が高い。

【注意点：全国調査は、調査員がその場で聴き取る方法で調査をおこなっているため、「無回答」はない。】



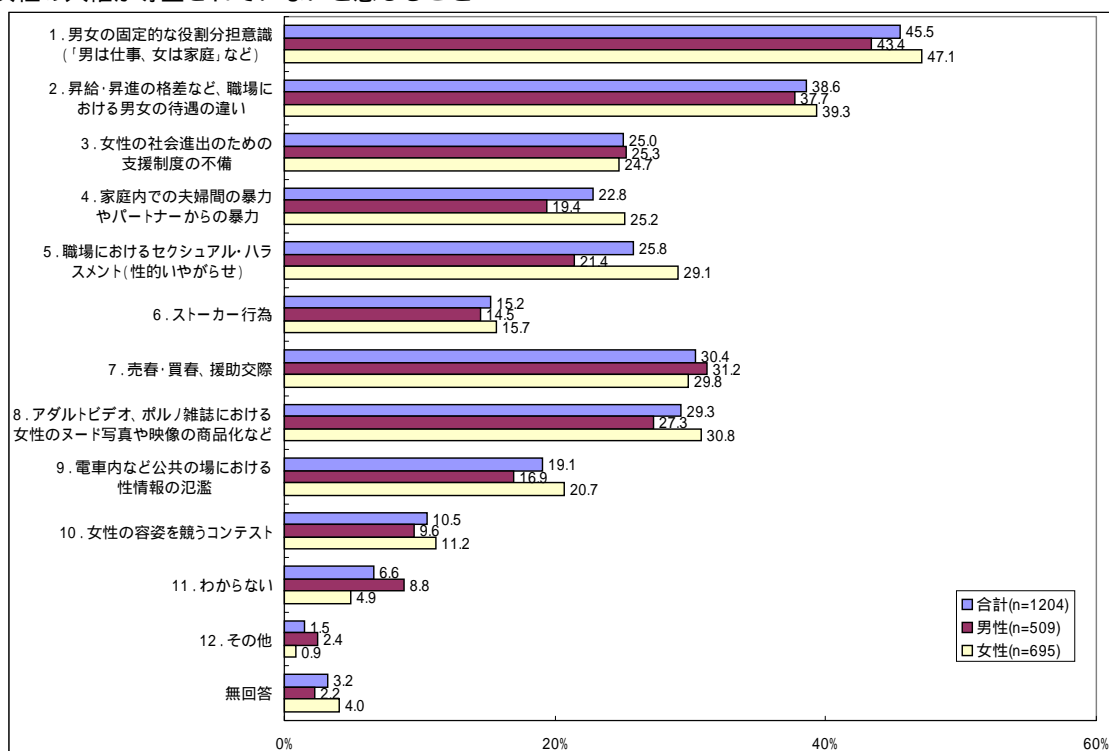
## 5 人権について

### (21) 女性の人権が尊重されていないと感じること

問21 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。(いくつでも選択可)

「男女の固定的な役割分担意識」が45.5%でトップ

#### 女性の人権が尊重されていないと感じること



(全体・性別)

#### 【全体】

「男女の固定的な役割分担意識」が45.5%と最も高く、「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」が38.6%、「売春・買春、援助交際」が30.4%で続いている。

#### 【性別】

女性で「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が29.1%と、男性(21.4%)に比べ7.7ポイント高い。

女性の人権が尊重されていないと感じること

(%)

	n	1 男女の固定的な役割分担意識 (「男は仕事、女は家庭」など)	2 昇給・昇進の格差など、職場に おける男女の待遇の違い	3 女性の社会進出のための支援 制度の不備	4 家庭内での夫婦間の暴力やパ ートナーからの暴力	5 職場におけるセクシュアル・ハ ラスメント(性的いやがらせ)	6 ストーカー行為	7 売春・買春、援助交際	8 アダルトビデオ、ポルノ雑誌に おける女性のヌード写真や映 像の商品化など	9 電車内など公共の場における 個人情報の氾濫
合計	1204	45.5	38.6	25.0	22.8	25.8	15.2	30.4	29.3	19.1
20～29歳	121	53.7	42.1	24.8	24.8	36.4	14.9	25.6	17.4	10.7
30～39歳	165	56.4	39.4	30.9	29.1	35.8	16.4	30.3	24.8	18.8
40～49歳	179	45.8	37.4	26.3	21.2	27.4	14.5	28.5	26.8	16.2
50～59歳	275	41.8	37.5	25.5	25.1	26.9	15.6	37.1	35.3	21.8
60～69歳	266	44.7	42.1	22.9	18.8	18.8	12.8	27.4	28.6	16.9
70歳以上	194	38.1	33.5	20.6	20.1	18.0	18.0	29.9	35.6	26.8

	n	10 女性の容姿を競うコ ンテスト	11 わからない	12 その他	無回答
合計	1204	10.5	6.6	1.5	3.2
20～29歳	121	7.4	9.1	0.8	1.7
30～39歳	165	7.9	4.2	1.8	0.6
40～49歳	179	8.4	5.6	3.4	1.7
50～59歳	275	12.7	5.5	0.7	2.9
60～69歳	266	9.8	7.1	1.9	2.6
70歳以上	194	14.4	8.2	0.5	9.3

(全体・年齢別)

【年齢別】

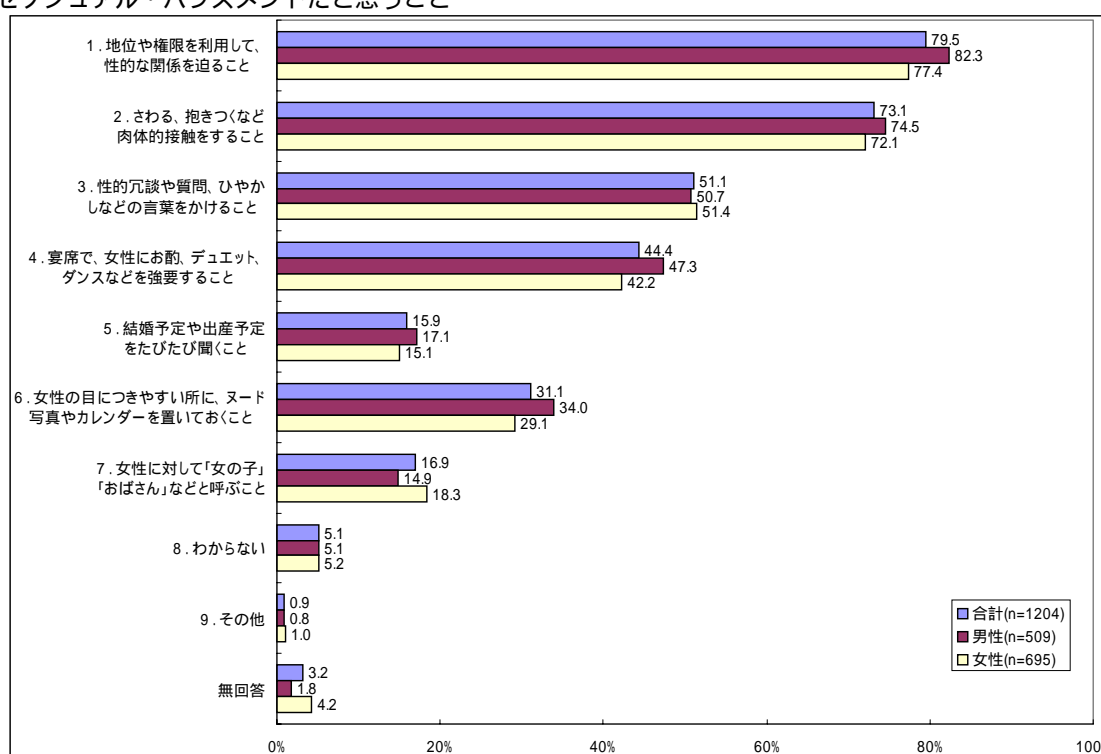
39歳以下で「男女の固定的な役割分担意識」が5割以上と、40歳以上に比べ高い。また、50～59歳で「売春・買春、援助交際」が37.1%、50～59歳、70歳以上で「アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など」が35%以上とそれぞれ他の年代に比べ高くなっている。「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

## (22) セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

問22 セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)が最近問題になっていますが、あなたが、セクシュアル・ハラスメントだと思うものはどれですか。(いくつでも選択可)

「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」、  
「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」が7割以上と高い

### セクシュアル・ハラスメントだと思うこと



(全体・性別)

#### 【全体】

「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」が79.5%、「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」が73.1%と高く、「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること」が51.1%で続いている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

(%)

	n	1 地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること	2 さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	3 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること	4 宴席で、女性にお酌、デュエツト、ダンスなどを強要すること	5 結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと	6 女性の目につきやすい所に、カード写真やカレンダーを置いておくこと	7 女性に対して「女の子」「おばさん」などと呼ぶこと	8 わからない	9 その他	無回答
合計	1204	79.5	73.1	51.1	44.4	15.9	31.1	16.9	5.1	0.9	3.2
20～29歳	121	90.1	87.6	57.9	47.9	19.8	39.7	14.0	3.3	0.8	0.0
30～39歳	165	89.1	78.8	63.0	61.2	25.5	45.5	14.5	1.8	1.2	0.6
40～49歳	179	85.5	78.2	58.1	45.8	21.8	30.7	21.2	2.2	0.0	0.6
50～59歳	275	81.5	76.4	57.1	50.9	16.7	37.5	19.6	4.4	1.1	2.5
60～69歳	266	76.7	69.5	43.2	36.1	8.6	19.2	16.2	6.4	1.1	3.0
70歳以上	194	60.8	55.2	33.5	29.4	9.3	22.2	13.9	11.3	1.0	10.3

(全体・年齢別)

【年齢別】

「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」、「さわる、抱きつくなど肉体的な接触をすること」は、年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

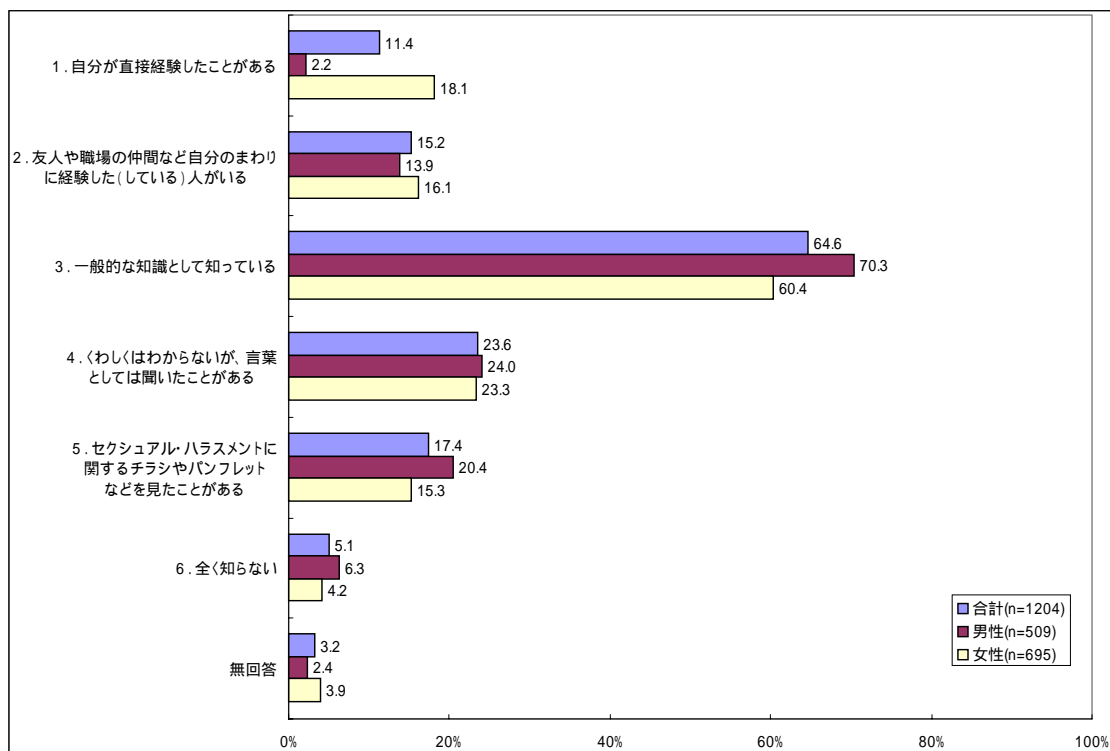
### (23) セクシュアル・ハラスメントの経験

問23 あなたは、セクシュアル・ハラスメントについて経験したり、見聞きしたことがありますか。(いくつでも選択可)

「自分が直接経験したことがある」全体 137 人 (11.4%)

男性 11 人 (2.2%)、女性 126 人 (18.1%)

#### セクシュアル・ハラスメントの経験



(全体・性別)

#### 【全体】

「一般的な知識として知っている」が 64.6% と最も高く、「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が 23.6%、「セクシュアル・ハラスメントに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある」が 17.4% で続いている。

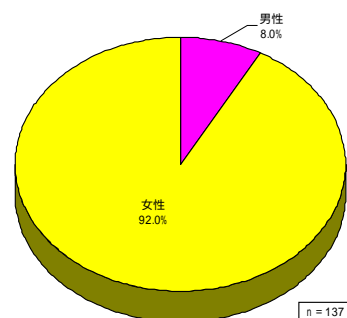
「自分が直接経験したことがある」人の実数は 137 人、「友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した(している)人がいる」人は 183 人であった。

#### 【性別】

男性で「一般的な知識として知っている」が 70.3% と、女性 (60.4%) に比べ 9.9 ポイント高い。

「自分が直接経験したことがある」人の性別内訳をみると、女性が 9 割以上を占めている。

「自分が直接経験したことがある」性別内訳



セクシュアル・ハラスメントの経験

(%)

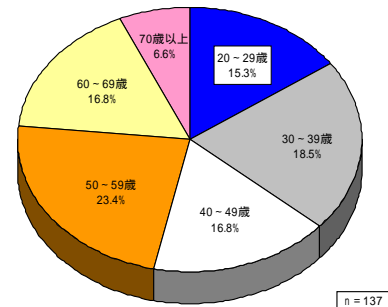
	n	1 自分が直接経験したことがある	2 友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した(している)人がいる	3 一般的な知識として知っている	4 くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある	5 セクシュアル・ハラスメントに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある	6 全く知らない	無回答
合計	1204	11.4	15.2	64.6	23.6	17.4	5.1	3.2
20～29歳	121	17.4	27.3	67.8	8.3	11.6	5.0	0.0
30～39歳	165	17.6	18.2	68.5	15.2	18.8	4.2	1.2
40～49歳	179	12.8	15.6	64.2	20.7	17.3	3.4	0.0
50～59歳	275	11.6	17.5	68.7	21.8	20.4	3.3	2.2
60～69歳	266	8.6	12.0	68.4	30.5	19.2	4.9	2.3
70歳以上	194	4.6	6.2	49.0	35.6	13.9	10.3	12.4

(全体・年齢別)

【年齢別】

20～29歳で「友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した(している)人がいる」が27.3%と、30歳以上に比べ高い。「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」は年代があがるほど高くなる傾向がある。

「自分が直接経験したことがある」年齢別内訳

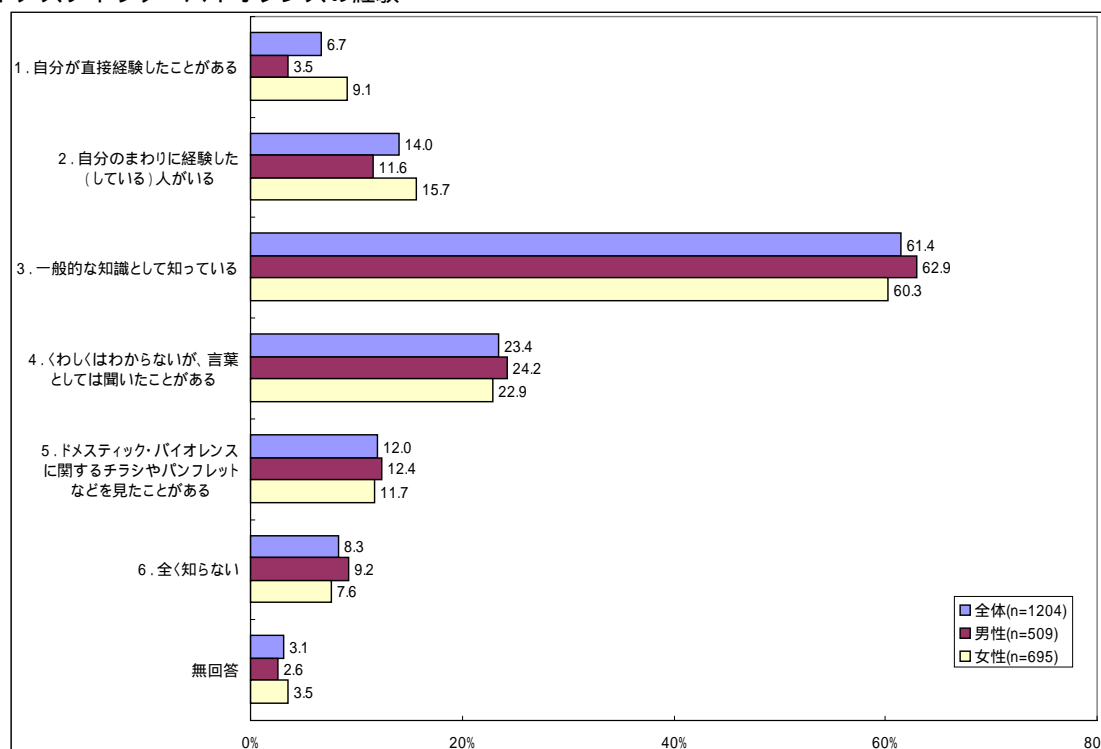


## (24) ドメスティック・バイオレンスの経験

問24 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（配偶者や恋人からふるわれる身体的・精神的・性的な暴力など）について経験したり、見聞きしたことがありますか。（いくつでも選択可）

「自分が直接経験したことがある」全体 81 人（6.7%）  
男性 18 人（3.5%）、女性 63 人（9.1%）

### ドメスティック・バイオレンスの経験



(全体・性別)

#### 【全体】

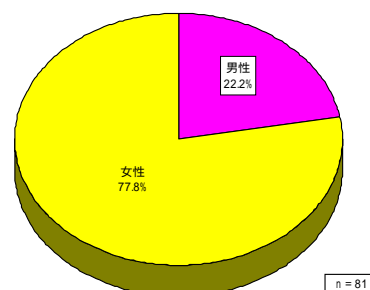
「一般的な知識として知っている」が61.4%と最も高く、「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が23.4%、「自分のまわりに経験した(している)人がある」が14.0%で続いている。

「自分が直接経験したことがある」人の実数は81人、「自分のまわりに経験した(している)人がある」人は168人であった。

「自分が直接経験したことがある」性別内訳

#### 【性別】

「自分が直接経験したことがある」人の性別内訳をみると、女性が8割弱を占めている。



## ドメスティック・バイオレンスの経験

(%)

	n	1 自分が直接 経験したことが ある	2 自分のまわりに 経験した（し ている）人が いる	3 一般的知識と して知っている	4 くわしくはわ からないが、言 葉としては聞 いたことがある	5 ドメスティック・ バイオレンスに 関するチラシや パンフレットな どを見たこと がある	6 全く知らない	無 回 答
合計	1204	6.7	14.0	61.4	23.4	12.0	8.3	3.1
20～29歳	121	4.1	15.7	73.6	13.2	13.2	4.1	0.0
30～39歳	165	9.1	18.8	64.8	18.2	13.3	3.6	1.2
40～49歳	179	8.9	18.4	66.5	17.9	9.5	3.9	0.0
50～59歳	275	7.6	14.5	64.4	23.6	14.2	6.9	1.8
60～69歳	266	6.8	12.4	61.7	30.5	12.4	9.0	2.6
70歳以上	194	3.1	6.2	41.8	28.9	8.8	20.1	11.3

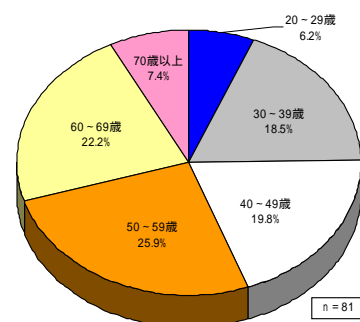
(全体・年齢別)

## 【年齢別】

20～29歳で「一般的な知識として知っている」が73.6%と、30歳以上に比べ高い。また、60歳以上で「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が3割前後と、59歳以下に比べ高い。

70歳以上では「全く知らない」が20.1%と高い。

「自分が直接経験したことがある」年齢別内訳





## 6 男女共同参画に関する施策などについて

### (25) 男女共同参画関連事項の認知度

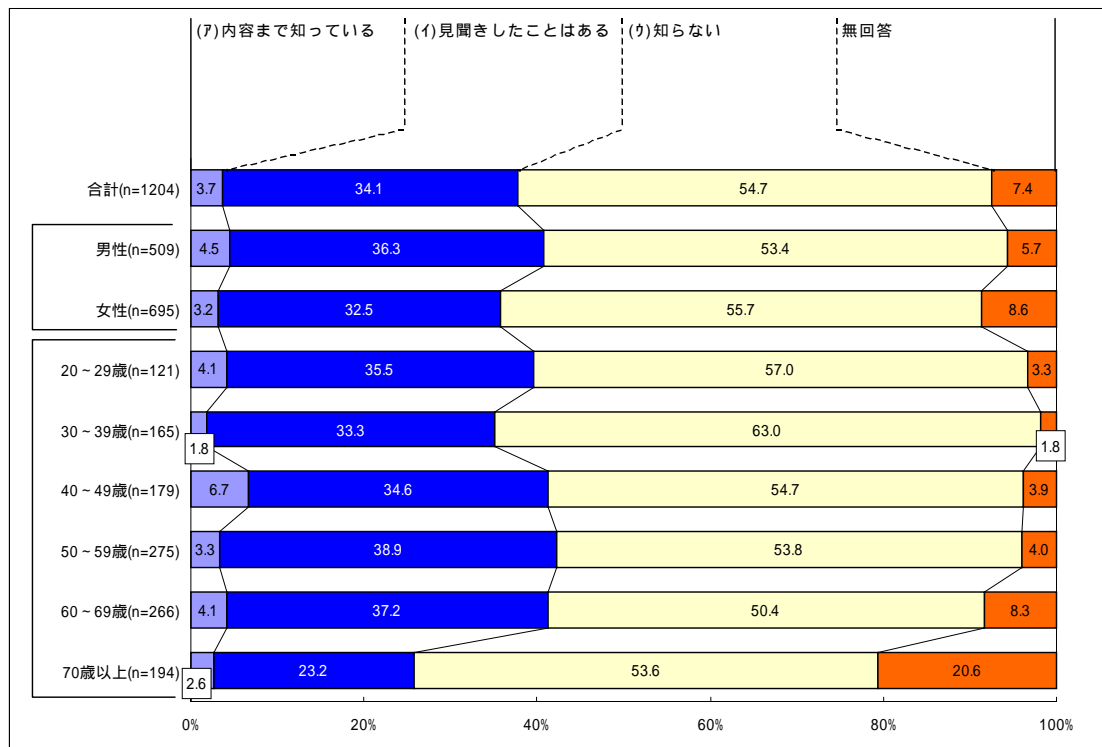
問25 次の男女共同参画に関する事項を、あなたはどの程度ご存知ですか。  
(1つ選択)

「内容まで知っている」と「見聞きしたことはある」を合わせて『知っている』とする。

男女共同参画社会

「知らない」54.7% > 『知っている』37.8%

「男女共同参画社会」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「知らない」が54.7%と最も高く、「見聞きしたことはある」が34.1%で続いており、「内容まで知っている」は3.7%にとどまっている。「知らない」(54.7%)が、『知っている』(37.8%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

#### 【年齢別】

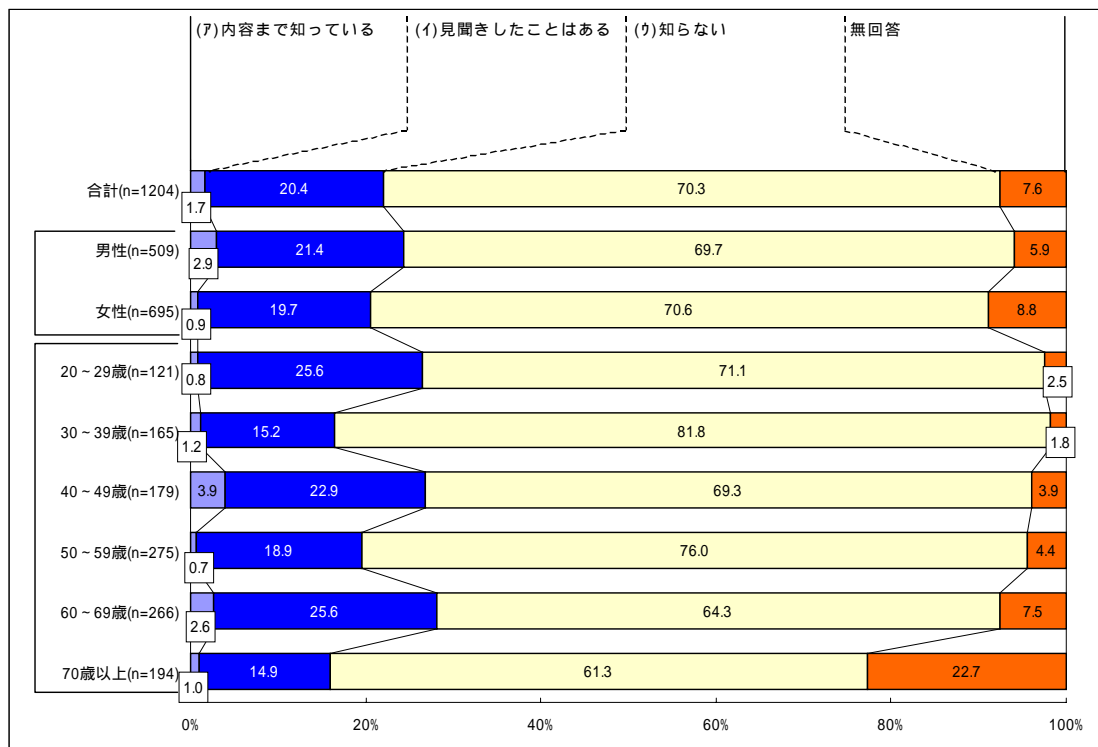
特に大きな差異は認められない。

なお、70歳以上で「見聞きしたことはある」、『知っている』が69歳以下に比べ低いが、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## 男女共同参画社会基本法

「知らない」70.3% > 「知っている」22.1%

### 「男女共同参画社会基本法」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「知らない」が70.3%と最も高く、「見聞きしたことはある」が20.4%で続いており、「内容まで知っている」は1.7%にとどまっている。「知らない」(70.3%)が、「知っている」(22.1%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

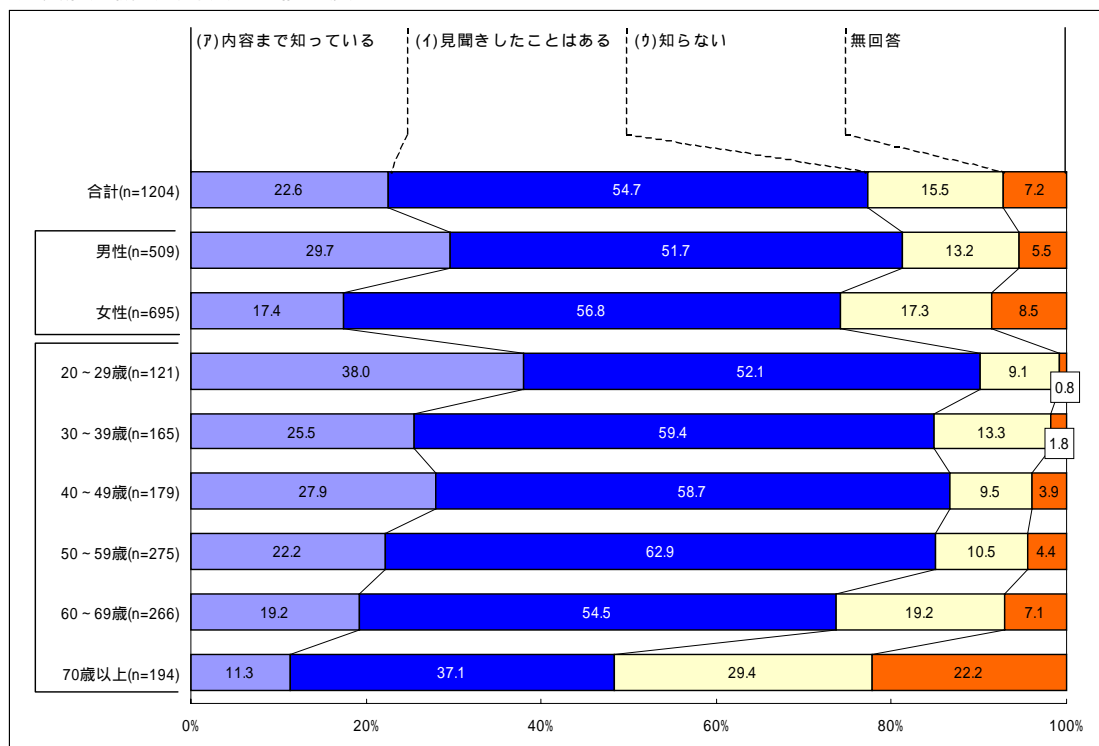
#### 【年齢別】

20～29歳、40～49歳、60～69歳で「知っている」が25%以上と、他の年代に比べ高い。

## 男女雇用機会均等法

『知っている』77.3% > 「知らない」15.5%

### 「男女雇用機会均等法」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「見聞きしたことはある」が54.7%と最も高く、「内容まで知っている」が22.6%、「知らない」が15.5%で続いている。『知っている』(77.3%)が、「知らない」(15.5%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「内容まで知っている」が29.7%と、女性(17.4%)に比べ12.3ポイント高い。

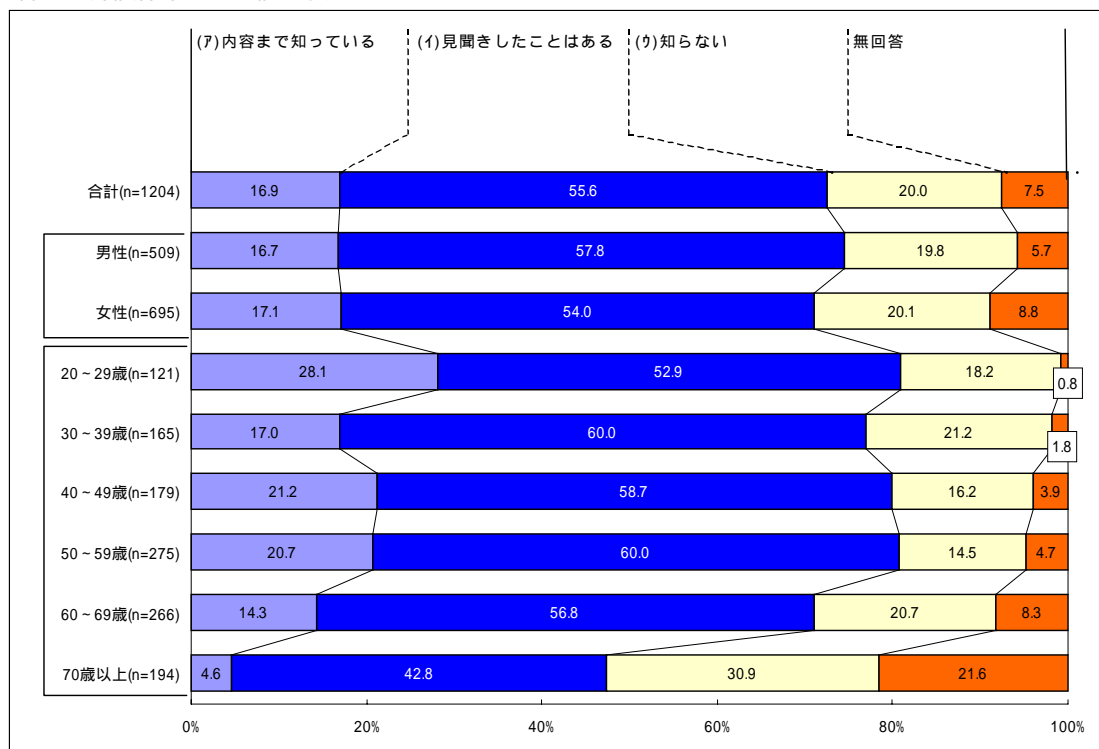
#### 【年齢別】

70歳以上で「知らない」が29.4%と、69歳以下に比べ高い。

## 育児・介護休業法

『知っている』72.5% > 「知らない」20.0%

### 「育児・介護休業法」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「見聞きしたことはある」が55.6%と最も高く、「知らない」が20.0%、「内容まで知っている」が16.9%で続いている。『知っている』(72.5%)が、「知らない」(20.0%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

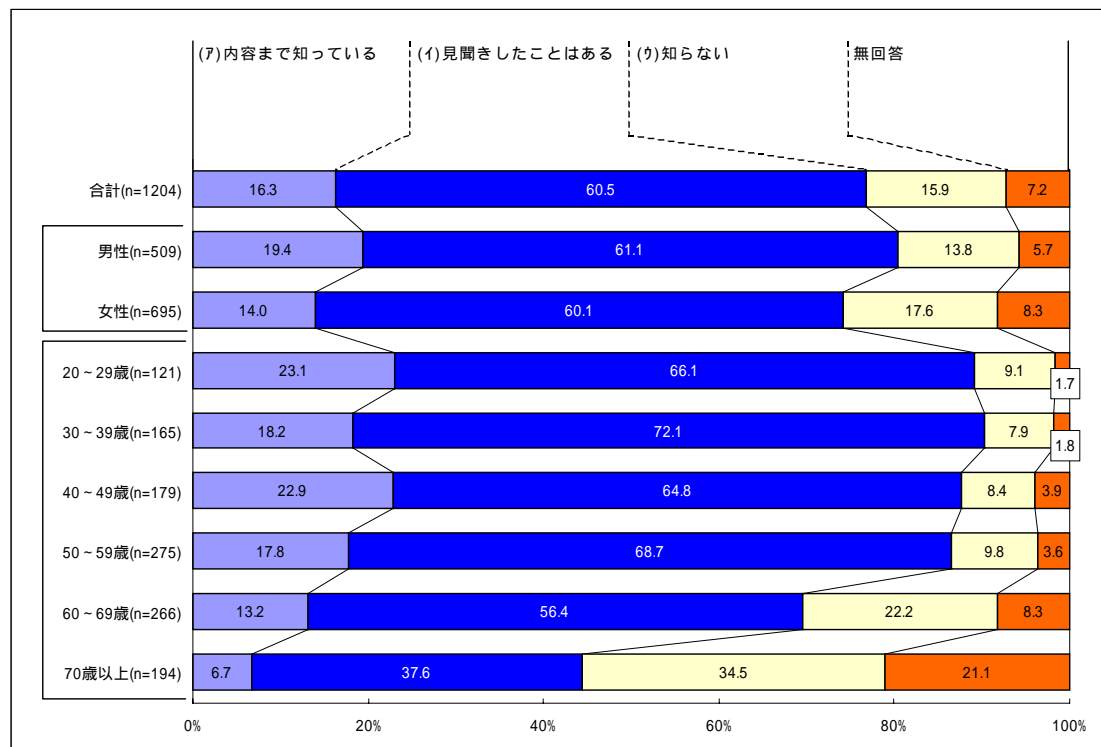
#### 【年齢別】

70歳以上で「知らない」が30.9%と、69歳以下に比べ高い。

## ストーカー規制法

『知っている』76.8% > 「知らない」15.9%

### 「ストーカー規制法」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「見聞きしたことはある」が60.5%と最も高く、「内容まで知っている」が16.3%、「知らない」が15.9%で続いている。『知っている』(76.8%)が、「知らない」(15.9%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

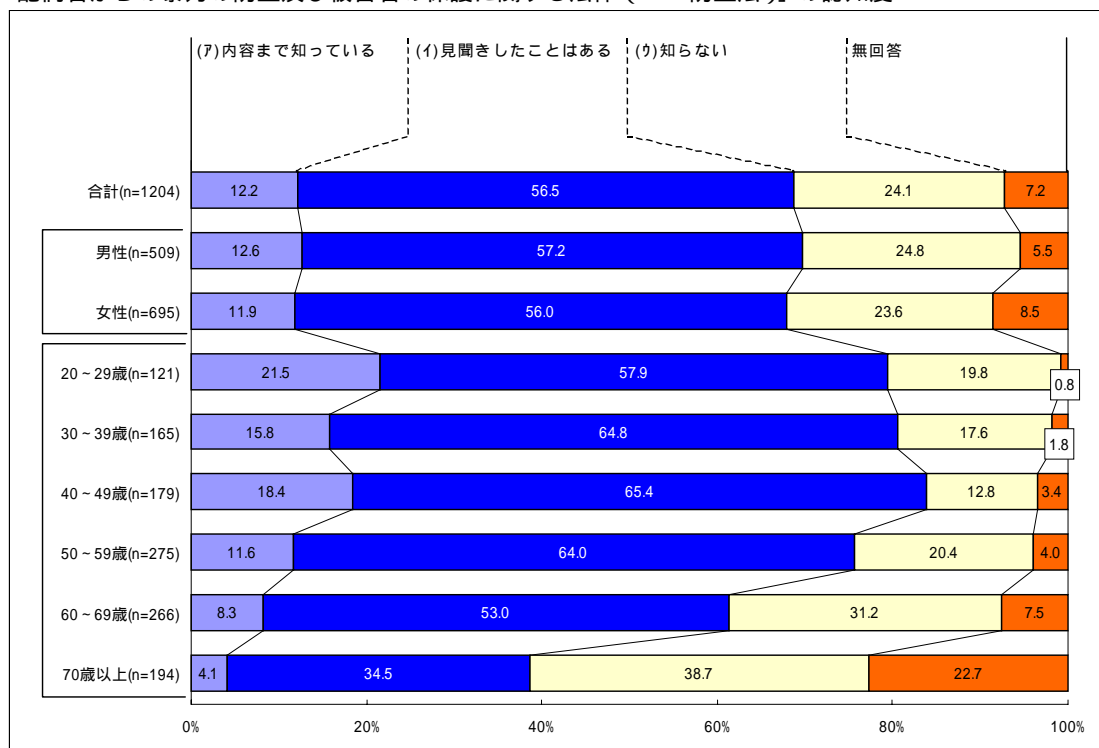
#### 【年齢別】

60歳以上で「知らない」が2割以上と、59歳以下に比べ高い。

## 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）

『知っている』68.7% > 「知らない」24.1%

### 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「見聞きしたことはある」が56.5%と最も高く、「知らない」が24.1%、「内容まで知っている」が12.2%で続いている。『知っている』(68.7%)が、「知らない」(24.1%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

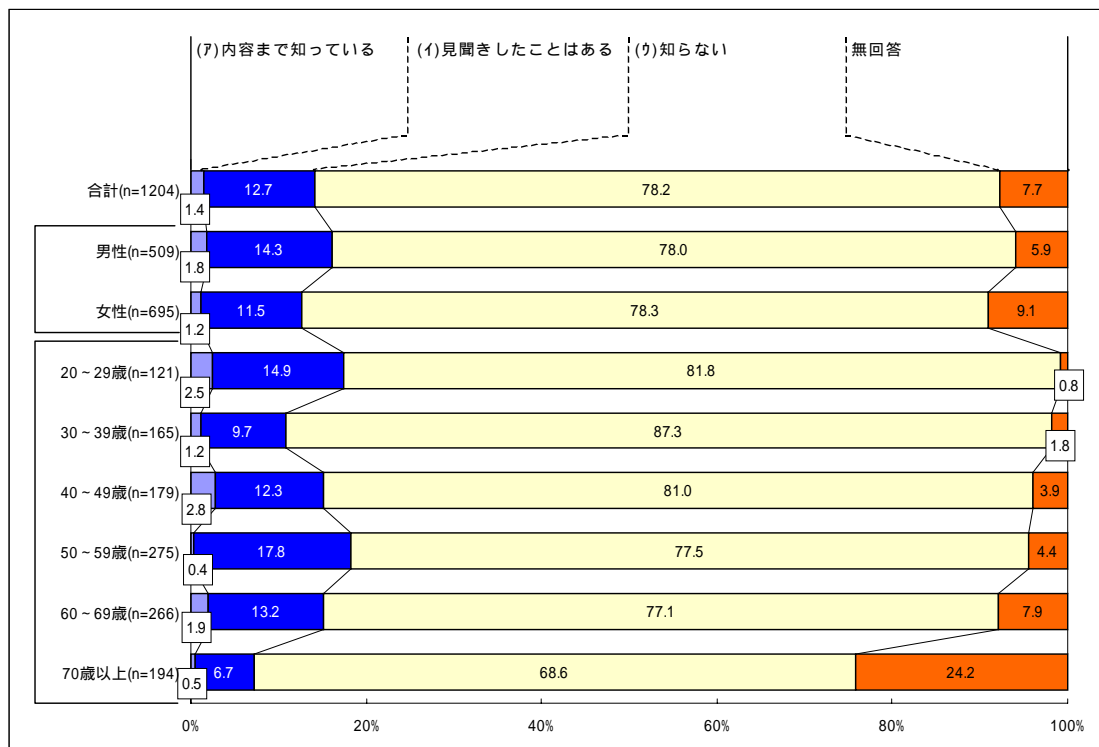
#### 【年齢別】

60歳以上で「知らない」が3割以上と、59歳以下に比べ高い。

## ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「知らない」78.2% > 『知っている』14.1%

### 「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「知らない」が78.2%と最も高く、「見聞きしたことはある」が12.7%で続いており、「内容まで知っている」は1.4%にとどまっている。「知らない」(78.2%)が、『知っている』(14.1%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

#### 【年齢別】

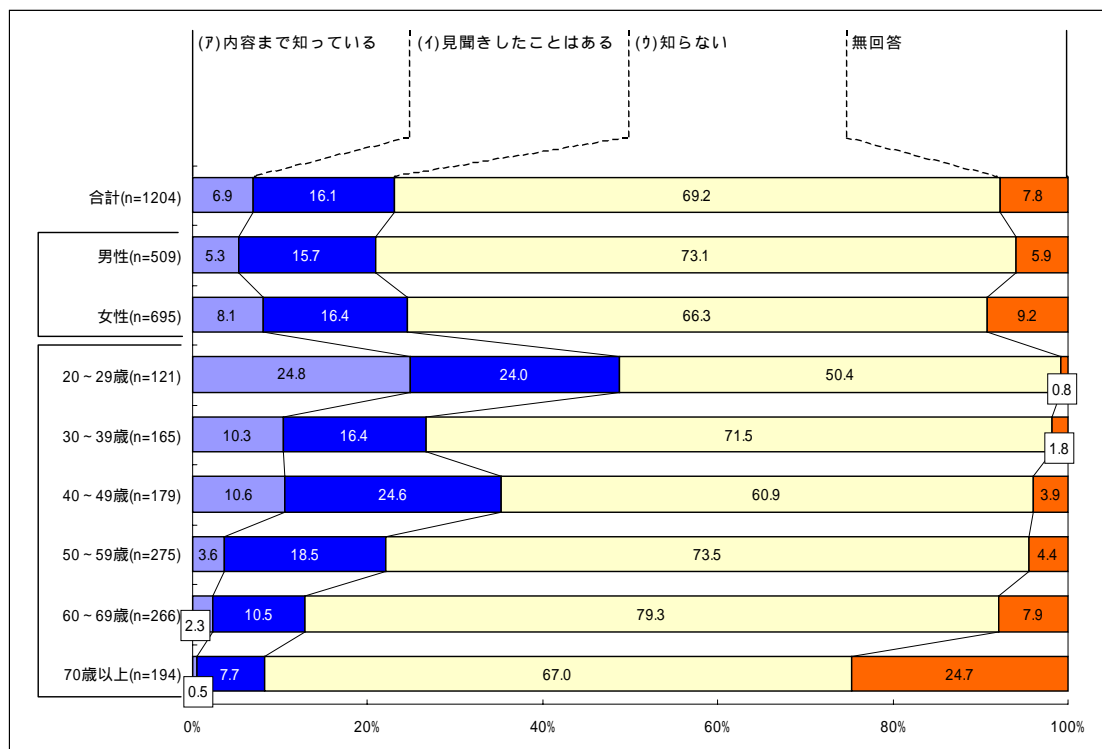
特に大きな差異は認められない。

なお、70歳以上で「知らない」が69歳以下に比べ低いが、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）

「知らない」69.2% > 「知っている」23.0%

### 「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」の認知度



（全体・性別・年齢別）

#### 【全体】

「知らない」が69.2%と最も高く、「見聞きしたことはある」が16.1%で続いており、「内容まで知っている」は6.9%にとどまっている。「知らない」(69.2%)が、「知っている」(23.0%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「知らない」が73.1%と、女性(66.3%)に比べ6.8ポイント高い。

#### 【年齢別】

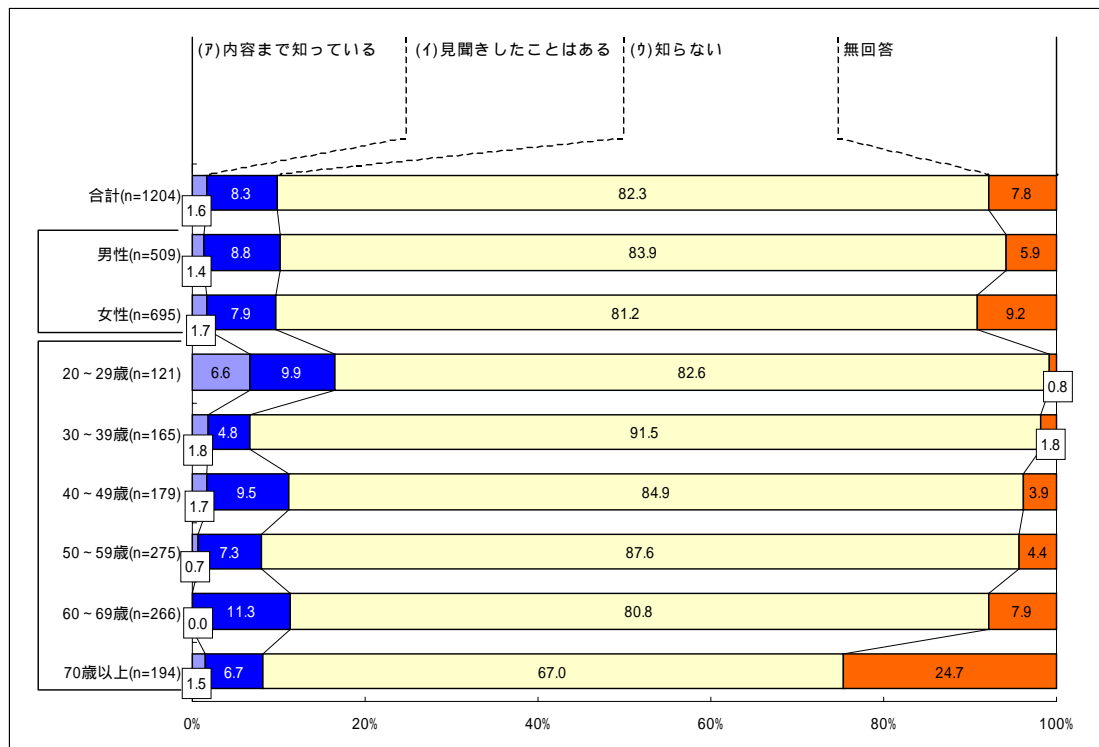
20～29歳で「内容まで知っている」が24.8%と、30歳以上に比べ特に高い。一方、30～39歳、50歳以上では「知らない」が7割前後と、他の年代に比べ高い。



## リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）

「知らない」82.3% > 「知っている」9.9%

### 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）」の認知度



（全体・性別・年齢別）

#### 【全体】

「知らない」が82.3%と最も高く、「見聞きしたことはある」が8.3%で続いており、「内容まで知っている」は1.6%にとどまっている。「知らない」(82.3%)が、「知っている」(9.9%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

#### 【年齢別】

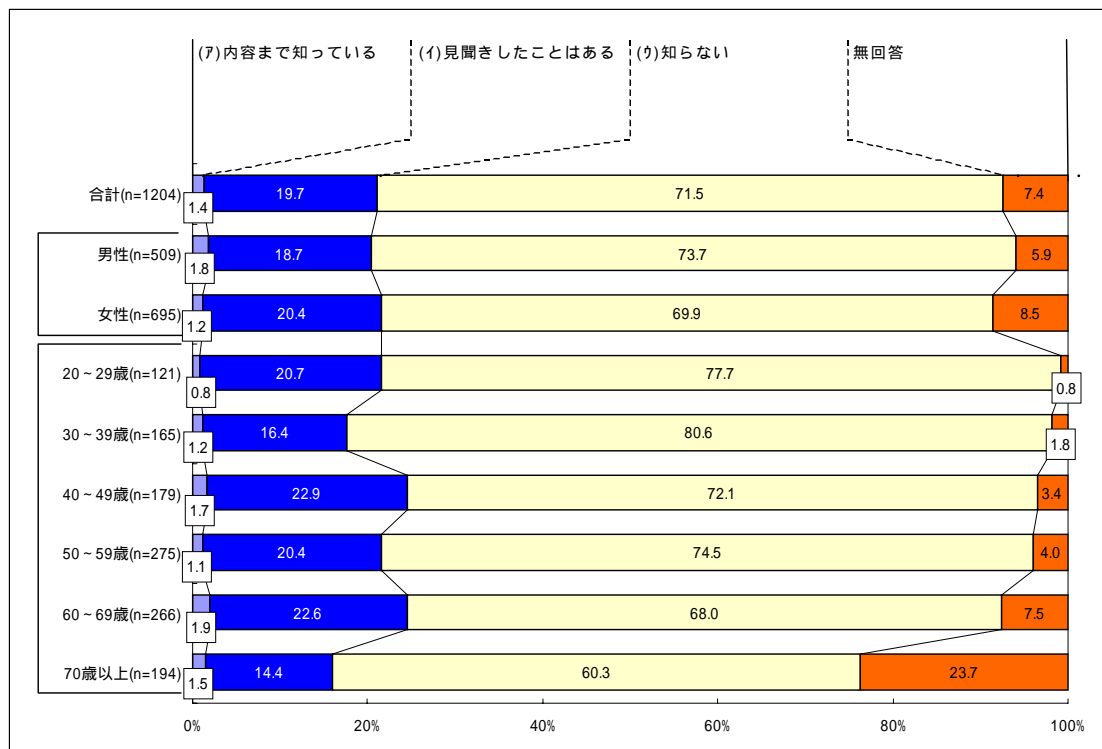
特に大きな差異は認められない。

なお、70歳以上で「知らない」が69歳以下に比べ低いが、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## 姫路市男女共同参画プラン

「知らない」71.5% > 「知っている」21.1%

### 「姫路市男女共同参画プラン」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「知らない」が71.5%と最も高く、「見聞きしたことはある」が19.7%で続いており、「内容まで知っている」は1.4%にとどまっている。「知らない」(71.5%)が、「知っている」(21.1%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

#### 【年齢別】

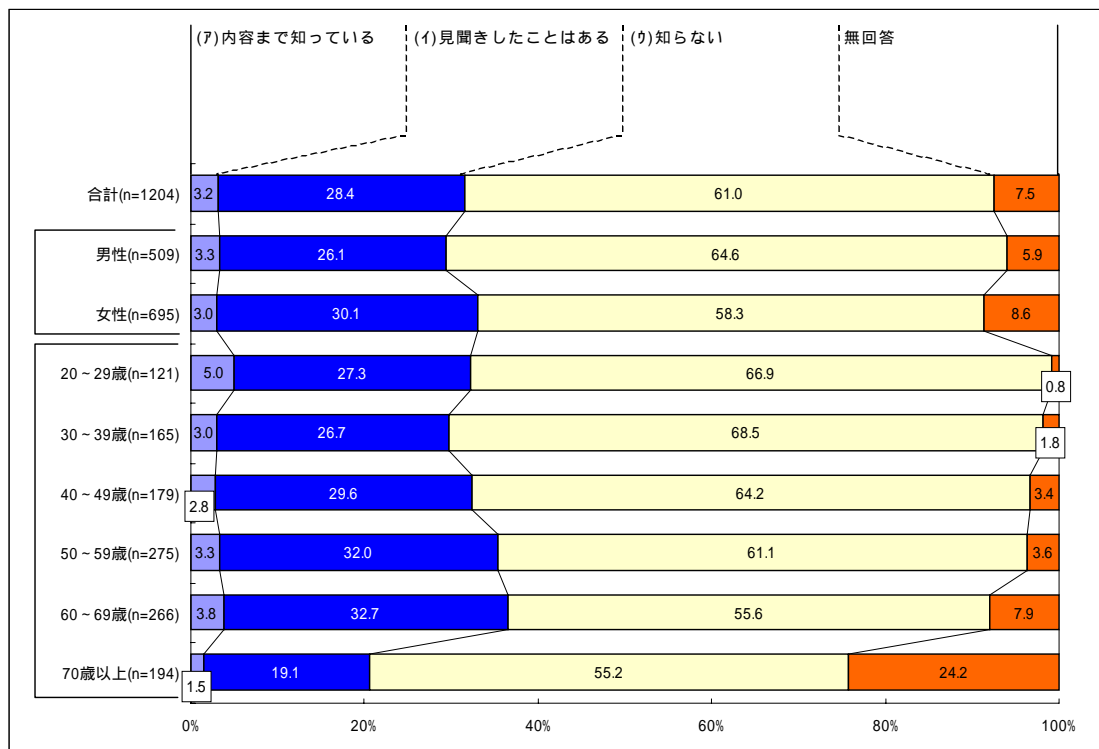
特に大きな差異は認められない。

なお、70歳以上で「知らない」が60.3%と69歳以下に比べ低いが、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## 配偶者暴力相談支援センター

「知らない」61.0% > 「知っている」31.6%

### 「配偶者暴力相談支援センター」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「知らない」が61.0%と最も高く、「見聞きしたことはある」が28.4%で続いており、「内容まで知っている」は3.2%にとどまっている。「知らない」(61.0%)が、「知っている」(31.6%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「知らない」が64.6%と、女性(58.3%)に比べ6.3ポイント高い。

#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

なお、70歳以上で「見聞きしたことはある」が19.1%と69歳以下に比べ低いが、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

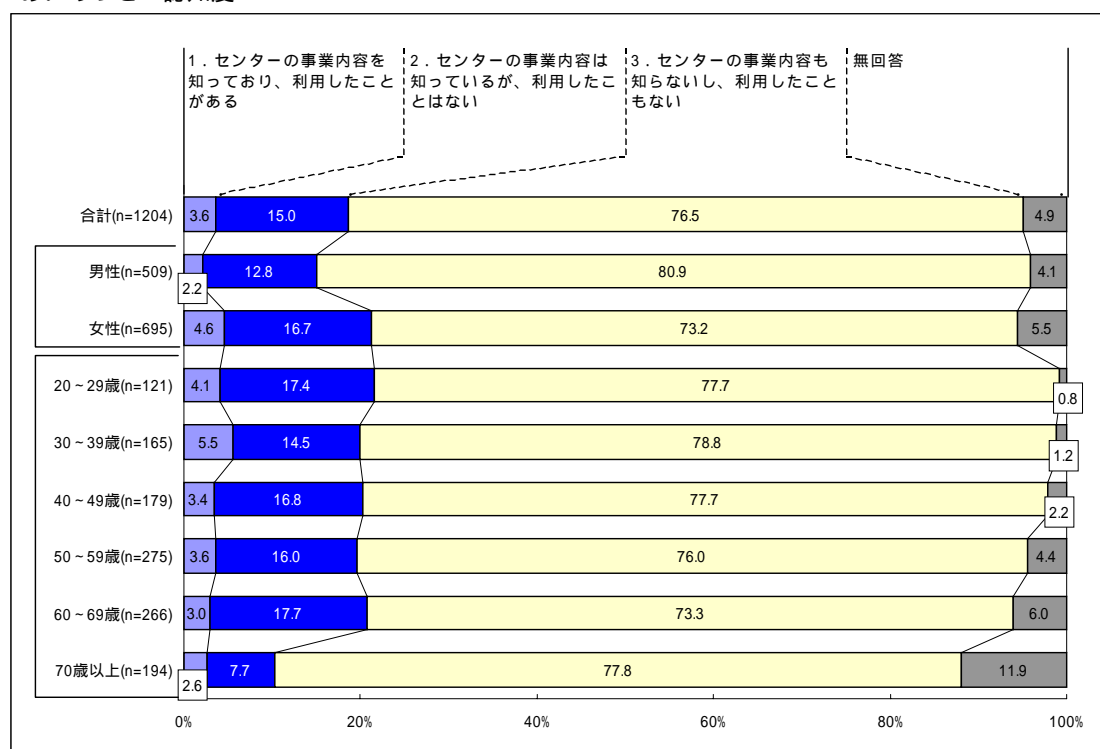
## (26) “あいめっせ” 認知度

問26 あなたは、姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”をご存知ですか。また、利用したことがありますか。(1つ選択)

「センターの事業内容を知っており、利用したことがある」と「センターの事業内容は知っているが、利用したことはない」を合わせて『センターの事業内容を知っている』とする。

「センターの事業内容を知らない」76.5% > 『センターの事業内容を知っている』18.6%

### “あいめっせ” 認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「センターの事業内容も知らないし、利用したこともない」が76.5%と最も高く、「センターの事業内容は知っているが、利用したことはない」が15.0%で続いており、「センターの事業内容を知っており、利用したことがある」は3.6%にとどまっている。「センターの事業内容を知らない」(76.5%)が、『センターの事業内容を知っている』(18.6%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「センターの事業内容も知らないし、利用したこともない」が80.9%と、女性(73.2%)に比べ7.7ポイント高い。

#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

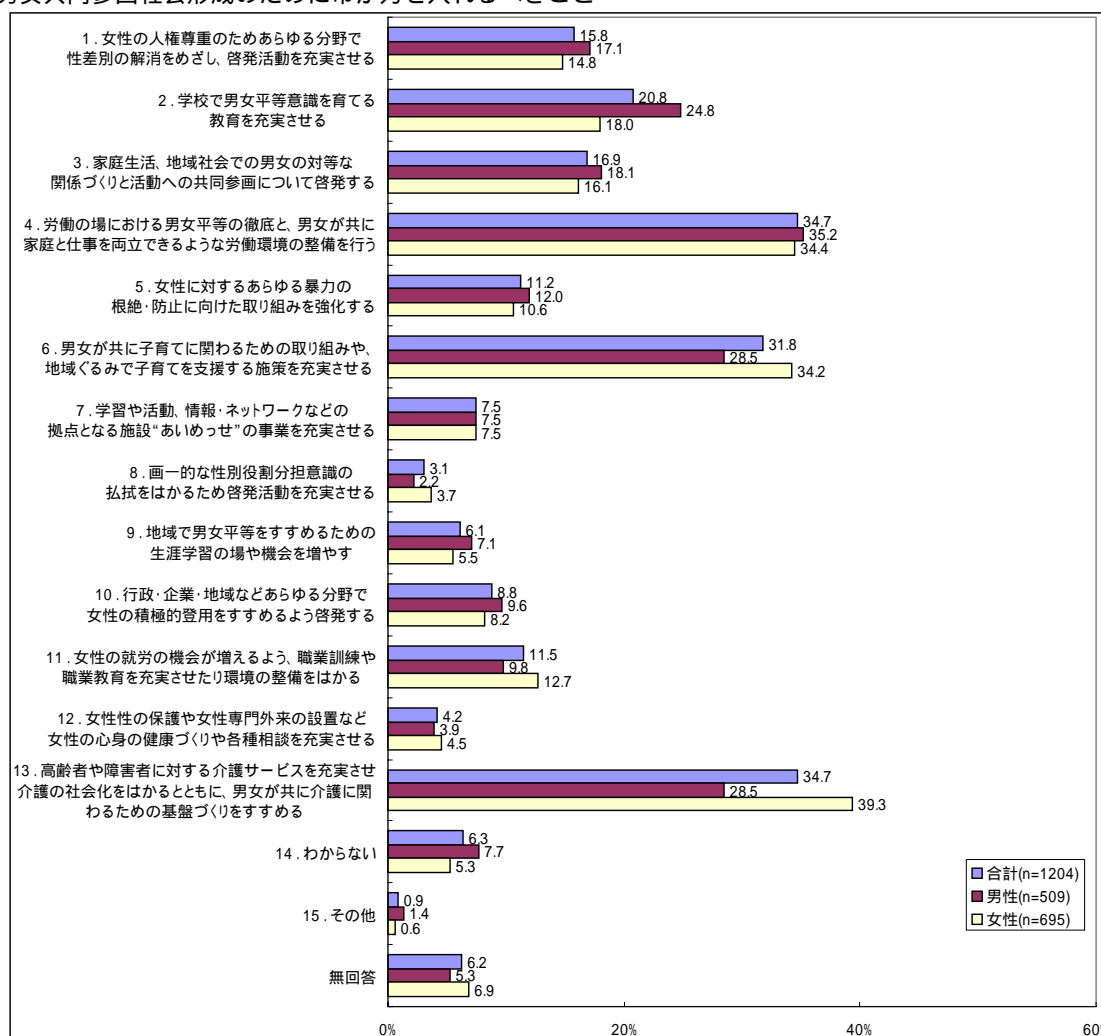
なお、70歳以上で「センターの事業内容は知っているが、利用したことはない」が7.7%と69歳以下に比べ低いが、「無回答」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## (27) 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと

問27 あなたは、男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(3つまで選択可)

「男女が共に家庭と仕事を両立できる労働環境の整備」、  
 「介護の社会化をはかり、男女が共に介護に関わるための基盤づくり」、  
 「地域ぐるみで子育てを支援する施策の充実」  
 が3割以上と高い

### 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと



(全体・性別)

#### 【全体】

「労働の場における男女平等の徹底と、男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」、「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女が共に介護に関わるための基盤づくりをすすめる」がともに34.7%、「男女が共に子育てに関わるための取り組みや、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」が31.8%と高く、育児・介護と仕事の両立を支援する施策が特に求められていることがわかる。

## 【性別】

男性で「学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる」が24.8%と、女性（18.0%）に比べ6.8ポイント高い。一方、女性では「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女が共に介護に関わるための基盤づくりをすすめる」が39.3%と、男性（28.5%）に比べ10.8ポイント高い。

### 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと

(%)

	n	1 女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別的解消をめざし、啓発活動を充実させる	2 学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる	3 家庭生活、地域社会での男女の対等な関係づくりと活動への共同参画について啓発する	4 労働の場における男女平等の徹底と、男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う	5 女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する	6 男女が共に子育てに関わるための取り組みや、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる	7 学習や活動、情報・ネットワークなどの拠点となる施設、あいちっせの事業を充実させる	8 画一的な性別役割分担意識の払拭をはかるため啓発活動を充実させる
合計	1204	15.8	20.8	16.9	34.7	11.2	31.8	7.5	3.1
20～29歳	121	13.2	23.1	15.7	42.1	11.6	41.3	8.3	5.8
30～39歳	165	13.3	21.2	19.4	46.1	11.5	43.0	6.1	4.8
40～49歳	179	17.3	21.2	20.1	38.5	10.6	29.6	10.6	3.4
50～59歳	275	12.7	20.0	18.5	37.1	11.6	32.7	7.6	2.5
60～69歳	266	13.9	22.6	16.2	33.1	10.9	29.7	7.9	2.3
70歳以上	194	24.7	18.0	11.9	16.5	11.3	20.6	4.6	1.5

	n	9 地域で男女平等をすすめるための生涯学習の場や機会を増やす	10 行政・企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的登用をすすめるよう啓発する	11 女性の就労の機会が増えるよう、職業訓練や職業教育を充実させたり環境の整備をはかる	12 女性性の保護や女性専門外来の設置など女性の心身の健康づくりや各種相談を充実させる	13 高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女が共に介護に関わるための基盤づくりをすすめる	14 わからない	15 その他	無回答
合計	1204	6.1	8.8	11.5	4.2	34.7	6.3	0.9	6.2
20～29歳	121	5.0	6.6	14.0	6.6	24.0	7.4	0.8	0.0
30～39歳	165	3.0	11.5	18.2	3.6	24.2	6.7	1.2	2.4
40～49歳	179	1.7	9.5	13.4	5.6	34.6	5.0	0.0	3.4
50～59歳	275	4.0	10.9	12.7	4.7	33.8	5.5	1.8	5.1
60～69歳	266	10.9	6.8	6.8	3.8	40.6	6.8	1.1	7.1
70歳以上	194	9.8	7.2	7.2	2.1	43.3	7.2	0.0	15.5

(全体・年齢別)

## 【年齢別】

39歳以下で「男女が共に子育てに関わるための取り組みや、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」が4割以上と、40歳以上に比べ高い。60歳以上では「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女が共に介護に関わるための基盤づくりをすすめる」が4割以上と、59歳以下に比べ高い。また、70歳以上では「女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別的解消をめざし、啓発活動を充実させる」が24.7%と、69歳以下に比べ高い。

# 自由回答意見一覽

## 自由回答意見一覧

男女共同参画に関する市政への意見・要望、また、姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”への意見・要望について自由解答欄を設けた結果、149人から回答が得られた。

以下、本調査の趣旨に直接関連のない意見・要望を除き、基本的に記述いただいたとおり紹介する。

年齢	性別	自由回答意見
20～29歳	男性	能力のある女性をどんどん登用しろというのはいいが、能力がないのに登用しろ、女性をとにかく登用しろという感じにはして欲しくない。
20～29歳	男性	“あいめっせ”などの施設ができたことをもっと市民に知らせてください。
20～29歳	男性	こういった問題は女性だけではなく男性の問題でもあることを考えて欲しい。
20～29歳	男性	男女の出会いの場をつくる。未婚者の減少、一人親家庭の減少も防げるのでは？
20～29歳	男性	女性に対することばかりが目されるが、必ずしも男性優位ではなく、女性が優遇され男性が厳しい立場になっていることも多くあります。そんなことも考えて今後の事業展開に活かしてってもらえればと思います。男女共に働きやすい、住みやすい地域になるよう願っています。
20～29歳	男性	社会の多様化により生活も変化してきている。行政が男女共同参画のできるような法整備をするべきだと思う。
20～29歳	男性	男女の差別はなくならないと思う。
20～29歳	男性	社会の中では、女性専用車両があったり、その点では、女性の方が有利。
20～29歳	女性	男性の家事参加に積極性がない。自ら動ける人が少なく、見かねて動くのは女性。
20～29歳	女性	専業主婦であり、小さい子どもがいます。結婚前も（アルバイト）定職がなかったため、経済的な不安からパートタイマーくらいは・・・と思いますがなかなか思い切れず、将来子どもの手が離れてからも専門的な職業知識能力がない自分の居場所に少々不安があります。
20～29歳	女性	昔の考え方をする年配の方（主に50歳以上）が堅い頭をもう少し柔らかくしてくれないと、女性の地位はいつまでも低いものになってしまう。かといって、子どもを預けっぱなしにして働く女性が増えるというのも困る。現状では、仕方がないことだと思うので、1日でも早く男性が家庭の役割を理解し、分担できることが普通に思える社会になったらな...と思います。時間が数十年とかかることなのでしょうけれど、いつかそんな日が来るといいなと思います。
20～29歳	女性	保育料が高すぎる。少子化をなくしたいなら改善すべき。姫路市は他の市より保育料、医療負担が高い。できるなら他市に行きたい。
20～29歳	女性	企業の面接で女性にだけ恋人はいるのか、結婚の予定はあるのか等聞くことを辞めて欲しい。それだけの理由で就きたい仕事に就けないなら、将来的にどうしても男性を頼りにするしかなくなるのが私には嫌だった。同じ立場なのに、男性は研修で上に上がられて、私には研修を受けさせてくれなくて、希望しているのに正社員になれないでいます。機会だけでも与えて欲しいと思いました。



年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
20～29 歳	女性	男女平等といいつつも、女性は女性で「女性だから…」という女性を武器にしているようなところがあり、男女平等と言えば、男性の意識改革というイメージがありますが、女性にも啓発を充実させるような活動が必要だと思えます。
20～29 歳	女性	戦後からの男性社会が長い間続き、大きく変化を迎えたことは、女性が社会に進出してきただけで柔軟に社会が対応できなかったツケがきているように思います。少しでも一人一人が生きやすいようになったらと思います。正しいことが正しいと言えるように私たちも努力しなければ・・・。
20～29 歳	女性	そもそもセンターがあること、またその事業内容も知らなかったのも、その存在、どのように利用すればよいか等、もっとアピールすべき。
20～29 歳	女性	私は小さい子どもがいますが、これから働きたいと考えています。しかし、保育園に入園できなかったり、子どもの病気の時、再就職口の少なさ等を考えるとなかなか働きません。まだまだ難しいとは思いますが、女性が安心して暮らせる社会をつくって下さい。お願いします。
30～39 歳	男性	チラシ・パンフ・ホームページ等で“あいめっせ”の事業内容をもっとアピールして下さい。これからはがんばって下さい。
30～39 歳	男性	幼少時からの啓発活動が重要。ジェンダーの概念で育っていない日本人が思いつくことには限界があるのでは？アメリカで実践されている方法をどんどん取り入れていけばよいのでは？
30～39 歳	男性	情報の発信方法等市民が知る・触れ合う機会を増やして欲しい。
30～39 歳	男性	男女平等は良いことだが、全て平等になるとは思わないし、限界がある。言葉の意味をはきちがえず、譲り合うということを根底に男女平等を目指して欲しい。また、保育料の計算方法を見直して欲しいです。
30～39 歳	男性	まずは地元姫路の有名企業から女性の有休、時短勤務の実績をつくりアピールして欲しい。男性の残業を減少し家庭や子どもとの時間を平日から持てるよう労働基準局等を通して単に推奨でなく努力義務として実践させて欲しい。
30～39 歳	男性	男女共同参画についてあまり知る機会がありません。もう少し PR をしてもらいわが家庭の一助になるようお願いします。
30～39 歳	女性	何よりも現在の社会において女性が仕事をできる環境が整っていない。小さい子どもの保育制度はもとより就学児童に対する学童保育など、子育てを安心してできる社会になっていない。子育て中は子育てに対して不安なため、地域の人や社会全体でフォローをして欲しい。
30～39 歳	女性	少子化について、幼児から成長するにつれ経済的負担の増加を理解して欲しい。義務教育でない高校大学でも出てないと職業に就けないのは明確。大学進学するためにどれくらい費用がかかるのか、小学生にあがる前の子を対象には補助が充実しているがそのころはもともとそんなに必要ない。そこを考えると少子化が進んでも不思議ではない。義務教育なのに、学年別に物品の色を変えて購入させるのは絶対におかしい。物品も安くないし、兄弟がいても綺麗でも利用できずその子限りで終わる。色分けは学校に都合がいいからなのか？冬の上下体操服で 8000 円近くするところあり。
30～39 歳	女性	結婚して家庭に入った時は、男女の役割があって男性が外で働き女性が家庭を守るという形で良いと思う。それは生まれもった性の違いであり、出産するのは女性だから。しかし、独身で外で働く女性にとって、職場ではすべての待遇が男女平等であって欲しい。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
30～39 歳	女性	日本の歴史や文化があるので何でも欧米化の真似をしていくのは良くないが、今の社会の中の啓発と同時に、上記にあるような学校での教育、家庭での教育（性教育、思春期の子育て体験）が早い段階から必要。男女平等という前に男にも女にも生活の自立（自炊、買い物、ゴミだし、洗濯等の一連の生活に必要な技術）を教えていくべきだ。
30～39 歳	女性	“ あいめっせ ” そのものの存在や活動内容を知ってる人がまだまだ少ないと思います。私もボランティア仲間から教えてもらうまでは名前すら知らず興味もありませんでした。情報提供も少なくともごく一部の人にしか情報が回っていない感があります。イーグレまで出向いた人だけが利用できるのではなくもっと幅広い層へのアピールが必要だと思います。
30～39 歳	女性	未来の子ども達に大切なことは何を伝えることなのでしょう？今、社会の中で人権は大切なことだと思う。学校や家庭が崩壊していくのは何故か？将来の子ども達のための環境を考えた時、男女共同がいいのか？一家の大黒柱の男の人を立てた生活、このけじめがあったからこそ、いや、そういう環境に育ったからこそ今の今を幸せに思えるのはおかしいでしょうか？権利、人権を主張し離婚が当たり前、我慢できない大人、子どもがわがままになって心が病んでいる。私は法が決めたことであるかもしれないけど、未来の子どもがこのことを当たり前とってしまう環境に育つことがかわいそうな気がする。今本当にしないといけないことは何なのでしょう？
30～39 歳	女性	私は、震災後神戸から移ってきましたが、子どもが大きくなるにつれ、姫路では、自治会・婦人会等の活動が多く仕事をしながらこなしていくのがとても負担に思い大変です。母子家庭の方で夜9時すぎに集金に来られる方もいて気の毒です。神戸では、自治会は60歳を過ぎて自由が多いお年よりの方が積極的に楽しく活動し、若い人は忙しいからと役も回ってきませんでした。子どものためと言われると何も言えませんが、少し疲れています。秋祭りの寄附を集めないで下さい。全く興味ないので。
30～39 歳	女性	少子化対策イコール金の支援という最近の流れに納得がいかない。保育サービスの充実が必要だろうが、誰かにまかせてしまうのもおかしい。家庭という世界で最も小さな社会を置き去りにしてはいけない。今までの女性がしてきた家庭内の仕事に対する評価、価値の社会的認識を高めていっていただきたい。
30～39 歳	女性	子どもを4人産んだら社会に貢献したねと言わせる社会がおかしい。少子化をなくすため、社会は経済的な面としっかりした援助をして欲しい。
30～39 歳	女性	カウンセリングセミナーや講演に参加したいが、平日常勤で休みがとれずにいる。時間帯を考慮して欲しい。男女共同参画には大いに賛成だが、高齢者等に「男とは・・・。女とは・・・。」の観念がまだまだ残っているように思う。当人どうしは理解しているものの・・・。
30～39 歳	女性	女性がいろいろな面で犠牲者になることがないように、活動しやすくなれば良いと思います。
30～39 歳	女性	子どもの春夏冬休み期間中、休める勤務先が増えるよう、また、会社側もパート職の勤務時間の分割をしてくれるよう市から会社側に要望して欲しい。土日祝が休みの勤務先を増やして欲しい。土日祝専用の人を雇うことでもして欲しい。
30～39 歳	女性	大阪、神戸に比べ姫路市は意識が低い。西播磨よりはマシであるが、女子への教育意識が低い。
30～39 歳	女性	お城の女王やミスゆかた等いつまでするのですか？企業から強制で何名か出さないといけないそうですが、年々応募者も少なくなっていると思います。市民の関心も薄いです。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
40～49 歳	男性	基本的に個々の意識の改善と自覚と責任
40～49 歳	男性	男女共同参画推進センターが有ることを初めて知りました。
40～49 歳	男性	今後も完全な男女平等意識を持つのは不可能ですが、学校や家庭での男女平等意識を持たせる教育しただけでは、これからの子どもが大人になっていく過程で徐々にではあるが変わってくると思います。頑張ってください。
40～49 歳	男性	もう少し踏み込んだ施策を継続して行う必要があると思います。神戸市や西宮市に比べ市役所を中心とする公務員のレベルが低いと痛感します。特にお年寄りや女性に対する態度には問題が多いと思います。
40～49 歳	男性	当アンケートは、男性が優遇されているという点からつくられたもののように思いますが、現状としては女性が優遇されている点が多いと思われれます。私は男女の平等問題が先んじているようにしか思えません。学校教育や行政のこのような考えを改め儒教の精神のような教育に変えていくことで子どもを産み育てる方も増えてくると思います。
40～49 歳	男性	女性自身の意識改革が必要。働く女性の多数は積極的に仕事をする意欲が無く、自分の仕事量を決めている。仕事に女性が入ると遅れることが多く周りの男性の負担増。より女性を積極的に登用するには、女性自身が変わる必要がある。女性だけの職場を多くつくることで女性の仕事に対する意識を変える。
40～49 歳	男性	男女平等、対等に仕事を望む女性はいるが、一部の職種を除き男性と対等に仕事をするには肉体的精神的に無理。独身女性や夫の理解ある女性ぐらしか仕事に専念できない。一部の女性が男女平等といっても家庭に入り子育てを望む女性も多い時代に難しい問題である。世間の同意を求めず、自分の力を職場で生かすなら本人のやる気次第は開ける。発揮させるには、どれだけ強い意志を持つかが重要。今は実力主義だから。女性だからダメというのは本人の言い訳にしかならない。
40～49 歳	男性	男女平等には女性も辛い仕事をしてもらうことが含まれることを忘れないで下さい。現実に男女平等を望まない女性もいます。
40～49 歳	男性	母子家庭と父子家庭との補助の差は何故あるのか？父子家庭も苦しい。
40～49 歳	女性	伝統的な秋祭りや男尊女卑が根強すぎると思う。縦社会なので自治会に意見を言えず子ども会の参加も苦痛。それ以外は住みよいところと感謝しています。
40～49 歳	女性	まだまだ男女平等とはいえないところが多くあります。女が前に出るという問題はかなり難しいと思いますが徐々に改善され、よりよい状況になって欲しいと望みます。今後ともご活躍願います。
40～49 歳	女性	“あいめっせ”について（私もそうですが）知らない人が多いです。センターの事業内容をもっと知った上でアンケートを書くべきだったかと思っています。
40～49 歳	女性	女性の社会進出は推進されるべきものですが、一方、子どもを産み育てていくことの大切さにもっと目を向けるべきである。将来の日本を担う子どもをもっとしっかり育てていくべきだと思う。仕事、仕事と追い求めて子育てがおろそかになってしまっている最近の傾向があるように思います。（少年事件など）精神的経済的余裕をもって仕事を休み、子育て期間を過ごせるような制度の整備が望まれる。
40～49 歳	女性	男女は平等であるべきだが、各々の特性は、別であり、特に父性と母性は違うので子どもを育てる上では、何から何まで父母が半分というわけにはいかないでしょう。また、女性男性は各々の人権を尊重しながら各々ができることを協力し合って社会生活を営むのが理想で男女が全く同じことをやるということではないと考えます。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
40～49 歳	女性	独身時は自由時間があり仕事にも力を注げたが、現在は子ども重視でパートタイムとして働いている。女性を雇用する事業者と学童保育の充実を望む。
40～49 歳	女性	ジェンダーが盛んに言われるようになり、小学校の名簿が男女混合になり、男女児共に、さんづけで呼ぶようになったとき違和感を覚え保護者の間でも不評、不便でした。形ばかりのジェンダーからは男女平等は生まれない。それ以来ジェンダーという言葉に懐疑的になっています。
40～49 歳	女性	男女平等を強調されてますが、現実には変わってないし、変えられていない。家庭・子ども・仕事もやはり女性の役割が多すぎて負担になっている。このようなアンケートをとっても雇用形態・社会も日々の生活の中では特に良くなって行くとも思えない。世の中一生懸命働いている人は損ばかり。楽に生きている人は待遇がよいというおかしな世の中でしょうか？そういうアンケートをとって見たらどうですか？
40～49 歳	女性	男女平等の教育も良いが男女の良さがなくなっているように思う。女の子の言葉の乱れ、日本語の良さが無くなり思いやりのある子も少なくなっている。男の子は陰湿なイジメをするし。男女平等を言い過ぎ。日本だけではないですか？男の人をゴミ扱いする人も多すぎると思います。
40～49 歳	女性	平等といっても女性は男性のように、男性は女性のようにはいかないのでお互いが尊重できていれば良いと思う。古いようですが、男は威張って女は慎ましくでうまくいっていたので、そのままがいいのではないのでしょうか？古臭いことは大事なことだと思います。世の中がうまくいっているのならいいですが、目に見えて下降線だと思います。
50～59 歳	男性	動物学的な男女（雄雌）の役割をよく研究理解をしていないと目先の現状打開の議論だけに終わってしまい根っここの問題（例えば少子化）に発展していかないと考えます。人類の将来を見据えたプランを策定してもらいたいと思います。
50～59 歳	男性	女性の人権より日本国民の人権を守るべき。より重要な問題に対して真剣に取り組んで欲しい。
50～59 歳	男性	ことさら女、女というより実際の世の中の方がもっと進んでいる。女の人がそんなに差別されていると思わない。そう思う人もいるが、それは少数派では？家庭には、色々な事情がある。それを決められた中から選ぶアンケートではこの本質にせまらないのでは？
50～59 歳	男性	真の意味の平等を大人が今一度考えてから学校教育等に生かすべきである。口先だけのまやかしは、通じなくなっていると思う。本当に皆さんは、平等にできると思われませんか。綺麗ごとはいりません。
50～59 歳	男性	環境も大切だが、女性の意識改革が最重要。海外は、はるかに進んでいる（実体験あり）、ちょっと設問が多すぎます。
50～59 歳	男性	男性・女性それぞれの人権があると思う。お互いを認め合う社会をつくってもらいたい。
50～59 歳	男性	パート、アルバイトを多数雇用し、正社員の数を押さえている。パートは女性が多く、重要視される職位への昇格を望んでいると思えない。日本の雇用（正社員）を増やすには、パート比率を限定しパートで生活程度を保つ関係を絶つべき。
50～59 歳	男性	今回のアンケートにより、姫路市に男女共同参画を推進する課・部があることを知りました。市民の意識も認識も性別・年齢・職業別等様々な意見が存在すると思われれます。大変だと思いますが、市、県民のため、ひいては国民のためになると思います。良い活動になりますよう願っております。
50～59 歳	男性	男女共同参画で対等の扱いを主張しながら、都合よく女性を女性と見て欲しい等の意識をなくす。



年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
50～59 歳	男性	今の時代、男は強く・女は弱いという被害者の考えは旧来からの固定観念と言えないか？当てはまるケースも多数あり十分承知してるが、こうした活動、社会傾向を見ると望ましい方向から脱線していないか？男女共に反省が必要。戦後強くなったのは、女と靴下といわれ久しいが、強くなる方向を誤らないことだ。高学歴の女にニートの男。現実の変化に意識の変化が追いつかない。男・女ではなくまず人間としての心を育てることが必要。それができれば、ここでやろうとしている問題は消える。センターがやるべきことは男女の問題ではなく人間性をテーマに取り組むべき。男女共、加害者被害者にもなりうる。自殺者は年3万人を越し、人の心を育てることで暮らしよい社会になると思う。是非大きな心でこの大きなテーマに取り組んで欲しい。高学歴、高収入の女・ニート男という社会情勢が未婚の増加、少子化に影響していると言われている。性差による特質まで否定するのはよくない。経済力があるから発言力が増すではなく、世の中男女で成り立ち互いに協力し、助け合わなければならない。助け合い、思いやりの心が大切。女性の地位向上・女性を守ることを論じる時、権利の前に心の教育が大切だと思う。
50～59 歳	女性	男女平等とあまり言い過ぎると男の良さ女の良さがなくなり個性がなくなります。最近子ども達を見ると中性的な子が増えてきて将来が不安になります。良い意味での男らしさ女らしさも大事ですよ！
50～59 歳	女性	ストーカー被害の経験者でも偏見の目で見ない企業を市や国全体で取り組むべき。ストーカーは互いの誤解から生じるので共に話し合うのが一番の解決策なので無料で話し合いができる場所を設けて欲しい。結婚の減少は出会いの場がないため結婚相談所等は費用が高いので市が安い料金で出会いの場を提供して欲しい。新聞等で宣伝すれば参加者は増え市が主催ならば安心して参加でき少子化問題も解決するのではないのでしょうか？
50～59 歳	女性	女性だけが特別に差別されているという意識は嫌い。一人の人間として自分を考える意識を持つことが大切。なんでも女性だからという差別意識にとらわれなくて、女性として良かったことに目をむけて。最近は男性もしいたげられている。女性は強い。
50～59 歳	女性	専業主婦として 40 年近く狭い社会で生きてきました。でも老人の介護だけは人並み以上に経験しました。周囲の理解がもっとあれば苦しみも少しは減ったのではないのでしょうか？
50～59 歳	女性	私の夫は、平成元年より脳梗塞のため私の所得で生計を立てました。母子家庭には補助があるが、所得のない父がいても補助を受けることができなかった。働きたくても働けない体になってしまったのに公の補助がないのに矛盾を感じた。当時子どもは高3、中1だったので困った。
50～59 歳	女性	イーグレひめじにはよく行きますのでセンターの存在は知っていますが、具体的にどんな活動をしているのかわかりにくい。もっともっとかみくだいた説明(具体例)を提示して下さっていると理解し易いのですが。
50～59 歳	女性	“あいめっせ”が事業開始して時間もたっています。今の時期にアンケートをとるようになった経過は何でしょう？時期が遅いのでは？いつまでもアンケートを取って…。そんな消極的活動で本当の参画の問題が解決前進するのでしょうか？場所が確保され会場が催しがおこなわれているだけで解決する問題ではないと思いますがどうでしょうか？
50～59 歳	女性	子どもが小学校を卒業するまで、父親が特に仕事先から帰って子どもとともに宿題やコミュニケーションがとれる家庭づくりを支援できれば豊かな子どもが育つのではないか？
50～59 歳	女性	男女は生まれつき身体的生理的な差があり絶対に平等になり得ないと思う。男は男らしく、女は女らしくなければいけない。今、このらしさがなくなって社会がおかしくなっていると思います。人間はみんな平等になんかなれません。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
50～59 歳	女性	男女平等、男女共同参画以前に男性と女性の役割や使命が違うこともしっかり考えるべきだと思う。女性の妊娠、出産、育児は女性だけに与えられた仕事だと思う。男性が社会に出て仕事をするのと比較にならない尊い仕事だと思う。それを今の若い人たちは、外に出て社会で認められ仕事をするのが、男性と並んで評価される事だと思いついでいると思う。これからの世の中がどうなっていくのか、この変化は必ずしも良い社会をつくり出すとは思えず、不安です。家庭教育の見直しを始めるべきだと考えます。
50～59 歳	女性	私はこの3月まで私立の幼稚園に勤務しておりました。そこは、女性ばかり（園長を除く）の世界でしたので幸せなことに男女不平等とか女性差別とかを感じたことはありませんでした。
50～59 歳	女性	“あいめっせ”の言葉だけではなく市民に活動内容が充分理解できる広報をして欲しい。
50～59 歳	女性	男女平等を唱えすぎ。家庭的には男らしさ、女らしさが必要。昔の日本人の良いところを見直すべき。
50～59 歳	女性	男女共同参画にどういう意味があるか分からないが、アンケートに参加したので興味を持つようになった。性差別で女性が助かったこともあるので、男女平等というのはおかしいと思う。
50～59 歳	女性	初めて聞いた言葉だったのでこれから勉強していきたい。
50～59 歳	女性	男女が共に職業人として能力を発揮するためには、家事について男女で充分話し合い分担することが大切である。少子化は、社会そのものが成り立たなくなる。次の時代をになう人間がいなければ、公的制度が保てない。社会の存在がなくなる。
50～59 歳	女性	保育問題をもっと広げて欲しいと思います。娘の実態を見て感じております。
50～59 歳	女性	男女共同参画という言葉を知りました。機会があれば参画したいです。また色々な人の話・考えも知りたいです。
50～59 歳	女性	共同参画より、子どもの躰・教育・良い環境づくりが大切。頭でっかちな人間が多く、自分に関係なければ見て見ぬふりの世の中、男女平等といっても矛盾が多く感じられる。地球温暖化も人間がもたらしたもので、基本的に人間が生きていく上で大切なことから取り組んで欲しい。
60～69 歳	男性	勉強不足で“あいめっせ”を知らなかった。
60～69 歳	男性	このアンケートは女性の性差別に対する問が多いように思いました。しかし、家庭内暴力においても女性のヒステリックな暴力が増えている。また、就職にしても50%以上が習慣として結婚までと考えている等、自覚のない女性まで性差別とは言わないでしょう。自覚のある方は性差別なんてありません。啓発活動は自覚のない女性にこそ必要だと思います。常識ある男性は性差別なんてありません。
60～69 歳	男性	アンケートに終わることなく、積極的に取り組むべきであり、本庁の中に部署を設置し積極的な人事活動を実施する。臨時職員や嘱託職員ではなく積極的な人事を実施すべきであり、アンケートの中味にマッチした配置をするべきであり期待する。
60～69 歳	男性	大きい企業と小さい個人会社とでは、女性に対する人権尊重は昔から変化していない。年金等でも、これからは女性にも男性と同じように受け取れるよう給料の改善を今の若い人のために望みます。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
60～69 歳	男性	女性は結婚し出産し子育てすることが当たり前。女性でなければできないことがある。子どもとのスキンシップを多く持ち、子どもの心を和ませたり安心感を持たせることができる。仕事は子育てがすんでからで良い。自分の贅沢のために仕事に行く人が多いと思う。母親であれば子どものことを考えること
60～69 歳	男性	“ あいめっせ ” は男性の立ち寄りがたい施設のように思います。
60～69 歳	男性	男女の生まれながらの性差を尊重しつつ、権利や環境や地位が男女平等に扱われるのにはやはりまだまだのように感じる。そのためには、行政や教育などの啓発啓蒙が必要だと思うので今後ともますますの行政の関わりを期待している。
60～69 歳	男性	このたびは無作為なこととはいえ、私を選んで頂いて感謝してます。人間は他の動物より少し頭が良く自由を与えて頂いた生きものとして全ての人々が自覚し行動していくべきと思っています。男女共同参画について一言。「男女雇用機会均等法」施行を多くの女性が勘違いして行動していませんか？男女の性の違い、素晴らしい特徴を大切に尊重しあって、その上で（すべて自由ではありません）共同参画し合っていくべきと考えます。
60～69 歳	男性	高齢者でも意欲のある者が仕事を選べる情報や支援機関が必要。“ あいめっせ ” の事業内容を各家庭に知らせるパンフレット・情報誌が必要。
60～69 歳	男性	男女平等になってから女性が結婚をしなくなったのでは？少子化になっていると思う。
60～69 歳	男性	姫路市が人材を登用する時、男女半々と最初に決めて登用すべきです。
60～69 歳	男性	男女共同参画を推進するのもいいが、家庭支援を充実して子どもが一定の年齢になるまで躰に力をいれて欲しい。
60～69 歳	男性	男女共同参画に関する何を何も知らなかったので今回の設問は難しかった。
60～69 歳	男性	男性が出産し、女性をバックアップできるなら男女均等により近づけるが、男女の役割の質を向上させる動きが大切では？電車であぐらをくんで座る女子高生をみると安っぽい男女均等の知識を誰かが植え付けているのでは？と思ったりする。女性が男社会に進出して出産育児を放棄すると日本は亡びてしまう。男も女も母の胎内から育ち、最終的には年をとっても、おふくろおふくろとしか言わないのに。女性の負担は国をあげての報いをもっと必要かもしれないが、国民の政冷経熱（国民意識等考えず、金もうけ等しか考えていない）を是正する動きも必要なのでは？民間マスコミも NHK 並みの考える番組をつくるべき。
60～69 歳	女性	どんなに素晴らしい企画をされても土日祝が多い。月曜日しか休日のない者には参加できない。いろんな人間にも合わせて欲しい。また、その子ども達も参加できないので友達づくりがうまくいかない。
60～69 歳	女性	姫路市男女共同参画推進センターがどこにあるのか内容も仕事も全く知りません。
60～69 歳	女性	“ あいめっせ ” について今まで自分自身があまりにも知らなさすぎたように思います。身近な場所でもっと知識を身につけられるよう、また、解りやすく資料など置いて頂ければ嬉しく思います。
60～69 歳	女性	私は現在 60 代ですが 54 歳まではぼつぼつですが元気に働いてきました。でも職場を辞め年齢とともに社会活動に参加しようと思っても身体的に無理になり現在医者通いになりました。でも前向きにがんばってなるべく家族に世話にならないようにと思って、一日を大切に過ごしたいと思います。介護に関わる基盤づくりを進めてください。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
60～69 歳	女性	人間として生まれて結婚して子どもも孫も恵まれる人生が最高だと思います。愛する国、家庭のため自分のためにも若い人はもっとがんばって下さい。男女の差別のない社会で楽しい家庭を築いて欲しいと思います。一度しかない人生だから。
60～69 歳	女性	障害者や退職者が働ける環境づくりを希望します。また、水害を防止するため、地盤の低い地域の排水の設備を希望します。
60～69 歳	女性	皆が助け合って、楽しい家庭になるよう願う。
60～69 歳	女性	世間で見ると限りでは、あまりにもある面で女性が強すぎ。男性をたてるところも十分ある。なぜ女性が結婚せず仕事ばかりに携わるのか女性にも根本より教育することが十分必要。男性が弱くなったのかもしれないが、女性の方が何もできないのに強すぎでまた口がえらすぎ。
70 歳以上	男性	女性の社会への進出、共同参画は大切なことであり積極的に推進しなければならないが、まずは、出産可能年齢の女性は積極的に出産し子育てに専念することが日本の将来のために最も重要であると考えます。
70 歳以上	男性	女性の人権といっても男にできることで女性にできないこともあるし、それぞれができることをすればよいのでは？家庭で言えば家の小修理、庭木の手入れ、重量物の運搬等は女性では少し無理があると思う。要は、分担でそれぞれが協力すればよい。
70 歳以上	男性	ともすれば、一部の有力な人々が参加するようで自分からは入りづらい雰囲気がある。もっと自由に誰でも簡単に行ってみようという気になれるようにして欲しい。
70 歳以上	男性	結婚相談所等多くありますが、行政としての相談所を多くつくる、また、昔のような仲人オバサン等ボランティアでつくるなど結婚の機会を多くする。女性も男性でも結婚して子どもをつくることに熱望（内心で）している方が多いのですが、なんとなく機会がなく行き遅れになっている人が多い。
70 歳以上	男性	市と住民との距離が広すぎて住民の要望事項が届かない。日頃より自治会の会合を利用し自由に話せる場をつくり、習慣づけることで上記のような内容が難しい問題でも正しい回答が得られると思う。市民は市政のあり方を細かく知りたいと思うが、本、文章を読む、字を書くことを嫌がる傾向があるように思われる。
70 歳以上	男性	男性は外で働き、女性は子どもを育てる。女性は細やかな心配り、愛情で世話をするので、生活の中で差がつくのは致し方ない。結局、男女共に助け合い、励ます以外ない。
70 歳以上	女性	現在社会は人権が大切にされてない。勝組ばかりをもてはやす風潮に憤りを感じる。行政は平等な社会をめざし弱者を大切にす姿勢をもつべき。「男女共同参画」の基本は男女共に人間が大切にされることでは？
70 歳以上	女性	男女とも相手の人格を尊重しあい、愛を持ってつくすべきだと思う。特に高齢者弱者に対して、優しく接する気持ちは大切であろう。
70 歳以上	女性	女性が参政権を獲得することに、それぞれの国にそれぞれの苦難の歴史があったことを思い起こします。男女の別なく人は平等でなければなりません。最近言われているジェンダーフリーにはなじめないものを覚えます。女性には女性の美しさがあり、男性には男性の美しさがあります。男と女は染色体の数も異なり、男性がいかにがんばっても子どもを出産することができないのですから・・・男女共同参画と言っても女が禪をしめて屋台を担ぐわけにもいかず。



年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
70 歳以上	女性	よいこととはわかっておりながら、皆さん家庭個々に違うのでむずかしいですね。度々会合して、お互いの立場を話しあい、内にとじこもらず大勢の意見を聞き反省点を見出し向上することですね。
70 歳以上	女性	この度の調査の機会に接し、貴課の存在を知りました。認識不足で申し訳ありません。日々陰に陽に市民のためご尽力いただいていることに対し、心強く、有難く感謝いたします。ありがとうございました。
70 歳以上	女性	老夫婦で生活していますが、一番心配なのは、後に残った時の老人福祉施設、介護サービスのことが不安です。良い介護サービスが受けられることを望みます。
70 歳以上	女性	男性は職を持ちあまり家庭を顧みず働き、女性は子育て・老人の世話・雑用ばかり。これから女性も職を身に付け社会に出て行く機会をつくる。女性もいろいろな分野に参加できるよう、昔の考え方をまず改善する。自由のあり方を間違えないようにする教育も必要である。人生の終着駅に近い年齢だから後悔もあり、また若き方への希望もありますが、良き姫路になりますことを願っています。
70 歳以上	女性	ある集団で活動の際、アンケートのことを話したが男女共同参画という言葉、“あいめっせ”の事業内容を誰も知らなかった。このアンケートを買わなかったらわからなかった。もっと少子化対策を急務として取り組み、対策、具体的に改善する等役立つことをして欲しい。親となる若者への子育ての大切さ、自覚教育、自分本位の出産はせず、本当に、自分、社会、ひいては日本のため、大切なことを気づかせる教育こそ急務。子育て対策こそ急務。権利と共に責任を重んじる日本社会をつくらう。

資料

# 男女共同参画に関する市民意識調査

## ご協力をお願い

日頃から、市政にあたたかいご理解とご協力をいただきありがとうございます。

姫路市では、全ての市民が人権尊重を基調に、性や世代にとらわれることなく一人ひとりの個性、資質、能力を認め合い、それらを十分に発揮し、支えあって暮らせる都市の実現を目指して、『男女共同参画プラン』を策定するなど、様々な取り組みを進めています。

本調査は、平成13年3月に策定した『男女共同参画プラン』の中間見直しにあたり、市民の皆様の男女共同参画社会に関する意識や意向、ニーズを的確に把握し今後の施策展開の参考とするため、皆様の日頃の生活やお考えをお聞きするものです。

調査対象者は、市内にお住まいの満20歳以上の男女3,000人を住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。ご記入は、無記名で、内容は全て統計的に処理を行いますので、ご回答いただいた方のお名前や回答内容が分かることはありません。また、調査結果を他の目的に使用することはありませんので、ありのままお答えください。

お忙しいところ恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成17年7月

姫路市長 石見利勝

### ご記入上のお願い

- 1 封筒のあて名の方ご本人がご記入ください。
- 2 回答は、設問ごとにあてはまる番号を選び、その番号に をつけていただくものがほとんどです。設問ごとに「1つ選んで をつけて」「3つまで選んで をつけて」など指定しておりますので、指示にしたがってご記入ください。
- 3 回答の際、「その他」に該当する場合は、具体的にその内容を( )内にご記入ください。
- 4 ご記入いただいたアンケート用紙は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、**8月12日(金)**までに、ご投函くださいますようお願い申し上げます。
- 5 このアンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

〒670-0012 姫路市本町68番地の290 イーグレひめじ3階  
姫路市男女共同参画推進課  
TEL: 0792-87-0803 FAX: 0792-87-0805

あなたご自身のことについておたずねします。

F1. あなたの性別はどちらですか。あてはまるものを 1つ選んで番号に をつけて ください。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F2. あなたの年齢はおいくつですか(平成17年7月20日現在)。あてはまるものを 1つ選んで番号に をつけて ください。

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20~29歳 | 2. 30~39歳 | 3. 40~49歳 |
| 4. 50~59歳 | 5. 60~69歳 | 6. 70歳以上  |

F3. あなたの職業は次のどれにあたりますか。あてはまるものを 1つ選んで番号に をつけて ください。

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 勤め人(常勤)                 | 2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど) |
| 3. 自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など) | 4. 学生                      |
| 5. 専業主婦・専業主夫               | 6. 無職(4及び5を除く)             |
| 7. その他( )                  |                            |

F4. あなたは結婚されていますか。あてはまるものを 1つ選んで番号に をつけて ください。

- |          |               |
|----------|---------------|
| 1. 未婚    | 2. 既婚(事実婚を含む) |
| 3. 離別、死別 |               |

F4-1 この問は、F4で「2.既婚(事実婚を含む)」と回答した方のみおたずねします。  
あなたの配偶者・パートナーの就労状況はどれですか。あてはまるものを 1つ選んで番号に をつけて ください。

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 勤め人(常勤)                 | 2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど) |
| 3. 自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など) | 4. 学生                      |
| 5. 専業主婦・専業主夫               | 6. 無職(4及び5を除く)             |
| 7. その他( )                  |                            |

F5. あなたはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものを 1つ選んで番号に をつけて ください。

- |        |       |       |       |         |
|--------|-------|-------|-------|---------|
| 1. いない | 2. 1人 | 3. 2人 | 4. 3人 | 5. 4人以上 |
|--------|-------|-------|-------|---------|

F6. あなたの世帯状況はどれですか。あてはまるものを 1つ選んで番号に をつけて ください。

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 単身世帯(ひとり暮らし) | 2. 一世帯世帯(夫婦のみ、兄弟姉妹のみ) |
| 3. 二世帯世帯(親と子など) | 4. 三世帯世帯(親と子と孫など)     |
| 5. その他( )       |                       |

## 男女平等意識についておたずねします。

問 1 あなたは、今の社会において、次の各分野で男女の地位はどのようになっていると思いますか。 から のそれぞれについて（ア）～（カ）の中からあなたの気持ちに最も近いものを 1つずつ選んで番号に をつけてください。

	（ア） 男性の方が 非常に優遇 されている	（イ） どちらか の方が優遇 されている	（ウ） 平等	（エ） どちらか の方が優遇 されている	（オ） 女性の方が 非常に優遇 されている	（カ） わからない
家庭生活では	1	2	3	4	5	6
職場では	1	2	3	4	5	6
学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
政治の場では	1	2	3	4	5	6
地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
法律や制度では	1	2	3	4	5	6
社会通念、慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
社会全体では	1	2	3	4	5	6

問 2 社会にはいろいろな面で男女不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。次の中から 3つまで（1つでもよい）選んで番号に をつけてください。

1. 男女の生まれつきの身体的・生理的な差
2. これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい
3. 男女の役割についての固定観念
4. 社会の慣習やしきたり
5. 法律や制度上の差
6. 職業生活面での有利・不利
7. 女性の自覚や理解の不足
8. 男性の自覚や理解の不足
9. 売買春、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮
10. 男女不平等な点はない
11. わからない
12. その他（ )

問 3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。次の中から 1つ選んで番号に をつけてください。

1. 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2. 女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上をはかること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること
5. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. わからない
7. その他（ )

職業生活についておたずねします。

問4 理想的な女性のライフスタイルと実際の状況（現実）についておうかがいします。あなたが女性の場合はあなた自身について、男性であればあなたの妻について、理想と現実をそれぞれ（ア）～（カ）の中から**1つずつ選んで番号にをつけてください。**  
**結婚されていない方も、結婚していると仮定してお答えください。**

	(ア) 職業をもたない	(イ) 結婚するまでは、職業をもつ	(ウ) 子どもができるまでは、職業をもつ	(エ) 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	(オ) ずっと職業を続ける	(カ) わからない
理想	1	2	3	4	5	6
現実	1	2	3	4	5	6

問5 あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。次の中から**3つまで（1つでもよい）選んで番号にをつけてください。**

- |                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 家事の負担が大きいこと    | 2. 夫・子どもの世話の負担が大きいこと      |
| 3. 老人の世話の負担が大きいこと | 4. 夫・子どもなどの理解や協力がでないこと    |
| 5. 保育体制の不備        | 6. 老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと |
| 7. 職場で男女差別があること   | 8. 職場での結婚・出産退職の慣例があること    |
| 9. 夫の転勤や長時間労働     | 10. 女性の働き口自体が少ないこと        |
| 11. 支障となることは特にない  | 12. わからない                 |
| 13. その他（          | ）                         |

問6 **この問は、F3で「1.勤め人（常勤）」「2.勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）」「3.自営業（事業の経営者、家業の手伝い、内職など）」と回答した方にのみおたずねします。**

**ただし、「4.学生」と回答した方でも、アルバイトなどで勤務している方は、お答えください。**

あなたの職場で、現在次のようなことがありますか。次の中から**あてはまるものをすべて選んで番号にをつけてください。**

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 女性は昇進・昇格が遅い、または望めない          |
| 2. 同期に同年齢で入社した男性との賃金、昇給の差がある    |
| 3. 社内研修や教育訓練、出張や視察などの機会が少ない     |
| 4. 定年の年齢に男女差がある                 |
| 5. 女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある         |
| 6. 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある      |
| 7. 女性は補助的な仕事しかさせてもらえない          |
| 8. お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い |
| 9. 特に男女格差はない                    |
| 10. その他（                        |

問 7 あなたは一般的に、男女が共に職業人として職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまで(1つでもよい)選んで番号にをつけてください。

- |   |
|---|
| 1. 職業人として自覚をもつこと                              |
| 2. 仕事に必要な職業能力を身につけること                         |
| 3. 「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること                |
| 4. 採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること           |
| 5. 能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること                 |
| 6. 男女共に育児休暇が取りやすくなること                         |
| 7. 男女共に介護休暇が取りやすくなること                         |
| 8. 結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること    |
| 9. わからない                                      |
| 10. その他（ <span style="float: right;">）</span> |

**結婚、家庭生活と男女の役割についておたずねします。**

問 8 あなたは、結婚、家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。から のそれぞれについて（ア）～（オ）の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つずつ選んで番号にをつけてください。

	(ア) 賛成	(イ) どちらかといえ ば賛成	(ウ) どちらかといえ ば反対	(エ) 反対	(オ) わからない
結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5

問 9 あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。 から のそれぞれについて(ア)～(キ)の中から 1つずつ選んで番号をつけてください。

結婚されていない方も、結婚していると仮定してお答えください。

	(ア) 夫	(イ) 妻	(ウ) 夫妻とも 同じくらい	(エ) 子ども	(オ) 家族 全員	(カ) その他 の人	(キ) わから ない
食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
掃除	1	2	3	4	5	6	7
洗濯	1	2	3	4	5	6	7
育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7
看護・介護	1	2	3	4	5	6	7

問 10 この問は、F4で「2. 既婚(事実婚を含む)」と回答した方にのみおたずねします。あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に主にだれが分担していますか。 から のそれぞれについて(ア)～(キ)の中から 1つずつ選んで番号をつけてください。

	(ア) 夫	(イ) 妻	(ウ) 夫妻とも 同じくらい	(エ) 子ども	(オ) 家族 全員	(カ) その他 の人	(キ) わから ない
食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
掃除	1	2	3	4	5	6	7
洗濯	1	2	3	4	5	6	7
育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7
看護・介護	1	2	3	4	5	6	7

問 11 あなたは、近年の少子化の原因は、どのようなことだと思いますか。次の中から 3つまで(1つでもよい)選んで番号をつけてください。

1. 子育ての経済的負担が大きいから
2. 子育ての精神的・肉体的負担が大きいから
3. 子育てにより自由時間が制限されるから
4. 仕事を重視する女性が増えたから
5. 仕事と両立するための環境ができていないから
6. 子どもの未来に不安があるから
7. 住宅や遊び場などの生活環境がよくないから
8. 老後を子どもに頼ろうと思わなくなったから
9. 結婚年齢が高くなったから
10. 結婚しない人が増えたから
11. 結婚しないで子どもをもつことに対して抵抗感が強いから
12. 子どもがほしくないから
13. わからない
14. その他 ( )



問 12 安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思いますか。次の中から 3つまで(1つでもよい)選んで番号に をつけてください。

1. 出産・育児に対する経済的な支援の拡充
2. 保育サービスの充実
3. ファミリーサポートセンター事業や学童保育など地域の子育て支援の充実
4. 子育て中の柔軟な勤務形態の普及
5. 父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備
6. 出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり
7. 子育て中の仲間づくり支援
8. 子育ての悩み相談の充実
9. 子育て中の専業主婦のリフレッシュ支援
10. ひとり親家庭の支援
11. わからない
12. その他 ( )

問 13 あなたは、子育てについて、どのように考えますか。次の中から あてはまるものをすべて選んで番号に をつけてください。  
お子さんのいない方もいるものと仮定してお答えください。

1. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい
2. 男の子も女の子も同じように育てた方がよい
3. 男の子には女の子よりも高等教育を受けさせたい
4. 女の子には男の子よりも高等教育を受けさせたい
5. 男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい
6. わからない
7. その他 ( )

問 14 もし、あなたが介護が必要になったら、主にだれに世話をしてもらいたいですか。次の中から 1つ選んで番号に をつけてください。

1. 夫または妻(パートナー)
2. 娘
3. 息子
4. 娘の夫
5. 息子の妻
6. その他の親族
7. ホームヘルパーや公的な介護制度を利用する
8. 病院や老人ホームなどの施設に入所する
9. その他 ( )

問 15 厚生労働省が実施した国民生活基礎調査によると、介護者の 76.4%が女性という実態が示されています。あなたは、高齢者介護が女性の役割となりがちであることについてどのように考えますか。次の中から 1つ選んで番号に をつけてください。

1. 女性の役割だと思う
2. 問題があるが、現状ではやむをえない
3. 男性も女性とともに介護するべきである
4. 男女にかかわらず、主に実の子どもが介護するべきである
5. 原則として社会が行うべきである
6. わからない
7. その他 ( )

社会参加活動についておたずねします。

問 16 あなたは、次のような活動に参加していますか。また、今後参加したい活動はありますか。 から のそれぞれについて(ア)～(エ)の中から 1つずつ選んで番号に をつけてください。

	(ア) 現在参加 している	(イ) 現在参加して いないが、今後 参加したい	(ウ) 参加したく ない	(エ) わからない
趣味・学習・スポーツ活動	1	2	3	4
町内会・PTA・子ども会など地域活動	1	2	3	4
リサイクル・消費生活活動	1	2	3	4
国際交流活動	1	2	3	4
ボランティア活動・福祉活動	1	2	3	4
環境保護、まちづくりなどの住民運動や 社会活動	1	2	3	4
政治活動や宗教活動	1	2	3	4
その他( )	1	2	3	4

問 17 あなたが社会活動に参加しようとする上で、支障となることはどのようなことですか。次の中から あてはまるものをすべて選んで番号に をつけてください。

1. 仕事が忙しい	2. 家事が忙しい
3. 小さい子どもがいる	4. 病人、老人がいる
5. 家族の理解や協力がでない	6. 活動する仲間や場所が少ない
7. 健康や体力に自信がない	8. 職場の理解がない
9. 社会活動に関する情報が少ない	10. グループの人間関係がわずらわしい
11. 支障となることは特にない	12. その他( )

問 18 あなたの住んでいる地域(自治会など)で、現在次のようなことがありますか。次の中から あてはまるものをすべて選んで番号に をつけてください。

1. 会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い
2. 会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見を取り上げてもらいにくい
3. 役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい
4. 地域の行事で女性が参加できなかつたり、男性と差がある
5. 地域の活動に女性が少ないため歓迎される
6. 地域の活動には女性の方が積極的で活発である
7. 特に男女格差はない
8. その他( )

問 19 あなたは、今後どのような分野、領域で女性の参画が必要になるとお思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号にをつけてください。

1. 地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野
2. 環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野
3. 被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野
4. 女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など科学技術分野
5. 農業経営への参画、家族経営協定など農林水産分野
6. 審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域
7. その他 ( )

問 20 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だとお思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号にをつけてください。

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
8. 国や地方自治体の研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること
9. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
10. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること
11. 特に必要なことはない
12. その他 ( )

## 人権についておたずねします。

問 21 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号にをつけてください。

1. 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）
2. 昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い
3. 女性の社会進出のための支援制度の不備
4. 家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力
5. 職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
6. ストーカー行為
7. 売春・買春、援助交際
8. アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など
9. 電車内など公共の場における性情報の氾濫
10. 女性の容姿を競うコンテスト
11. わからない
12. その他 ( )

問 22 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）が最近問題になっていますが、あなたが、セクシュアル・ハラスメントだと思うものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号にをつけてください。

1. 地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること
2. さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること
3. 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること
4. 宴席で、女性にお酌、デュエット、ダンスなどを強要すること
5. 結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと
6. 女性の目につきやすい所に、ヌード写真やカレンダーを置いておくこと
7. 女性に対して「女の子」「おばさん」などと呼ぶこと
8. わからない
9. その他（

問 23 あなたは、セクシュアル・ハラスメントについて経験したり、見聞きしたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号にをつけてください。

1. 自分が直接経験したことがある
2. 友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した（している）人がいる
3. 一般的な知識として知っている
4. くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある
5. セクシュアル・ハラスメントに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある
6. 全く知らない

問 24 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（配偶者や恋人からふるわれる身体的・精神的・性的な暴力など）について経験したり、見聞きしたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号にをつけてください。

1. 自分が直接経験したことがある
2. 自分のまわりに経験した（している）人がいる
3. 一般的な知識として知っている
4. くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある
5. ドメスティック・バイオレンスに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある
6. 全く知らない

男女共同参画に関する施策などについておたずねします。

問 25 次の男女共同参画に関する事項を、あなたはどの程度ご存知ですか。 から のそれぞれについて(ア)～(ウ)の中から 1つずつ選んで番号に をつけてください。

	(ア) 内容まで知っている	(イ) 見聞きしたことはある	(ウ) 知らない
男女共同参画社会	1	2	3
男女共同参画社会基本法	1	2	3
男女雇用機会均等法	1	2	3
育児・介護休業法	1	2	3
ストーカー規制法	1	2	3
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	1	2	3
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する女性の健康/権利)	1	2	3
姫路市男女共同参画プラン	1	2	3
配偶者暴力相談支援センター	1	2	3

問 26 あなたは、姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”をご存知ですか。また、利用したことがありますか。次の中から 1つ選んで番号に をつけてください。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. センターの事業内容を知っており、利用したことがある</li> <li>2. センターの事業内容は知っているが、利用したことはない</li> <li>3. センターの事業内容も知らないし、利用したこともない</li> </ol> |
|---|

問 27 あなたは、男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を  
入れていくべきだと思いますか。次の中から 3つまで(1つでもよい) 選んで番号に  
をつけてください。

1. 女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別の解消をめざし、啓発活動を充実させる
2. 学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる
3. 家庭生活、地域社会での男女の対等な関係づくりと活動への共同参画について啓発する
4. 労働の場における男女平等の徹底と、男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う
5. 女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する
6. 男女が共に子育てに関わるための取り組みや、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる
7. 学習や活動、情報・ネットワークなどの拠点となる施設“あいめっせ”の事業を充実させる
8. 画一的な性別役割分担意識の払拭をはかるため啓発活動を充実させる
9. 地域で男女平等をすすめるための生涯学習の場や機会を増やす
10. 行政・企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的登用をすすめるよう啓発する
11. 女性の就労の機会が増えるよう、職業訓練や職業教育を充実させたり環境の整備をはかる
12. 女性性の保護や女性専門外来の設置など女性の心身の健康づくりや各種相談を充実させる
13. 高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女が共に介護に関わるための基盤づくりをすすめる
14. わからない
15. その他( )

男女共同参画に関する市政へのご意見・ご要望、また、姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

**ご協力ありがとうございました。**

## 第2部 職員意識調査

---

## 調査の概要



## 調査の概要

### 1 調査の目的

本調査は、男女共同参画社会の実現を目指すにあたり、全庁的に男女共同参画施策を推進していくための意識づくりを進めるとともに、職員の男女共同参画社会に関する意識や実態、ニーズを的確に把握し、今後の施策展開の参考とすることを目的に行った。

### 2 調査対象者及び調査方法など

調査対象	特別職、嘱託職員、再任用職員、臨時職員を除く全職員
標本数	3,568
調査方法	庁内LANを利用した調査票データ配布・回収 調査票(紙)の配布・回収
調査期間	平成17年8月19日(金)～8月31日(水)

### 3 調査内容

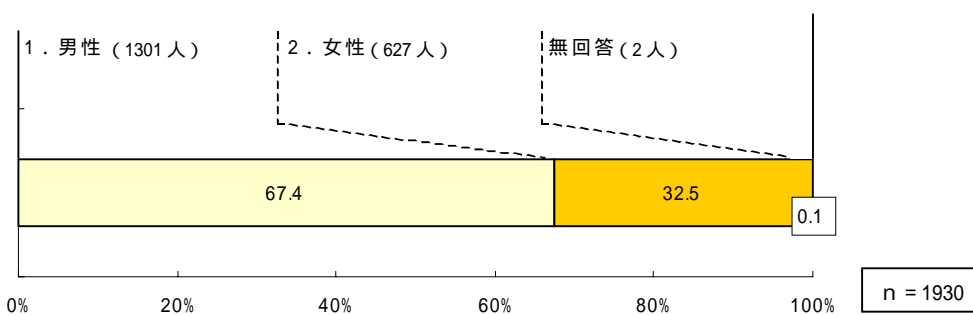
男女平等意識について  
職業生活について  
人権について  
結婚、家庭生活と男女の役割について  
男女共同参画に関する施策などについて

### 4 回収結果

	票 数	回収率
配布票数	3,568	-
回収票数	1,930	54.1%
有効票数	1,930	54.1%

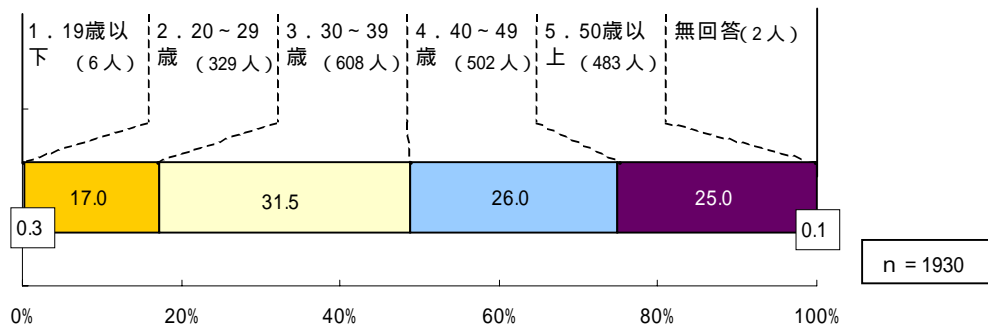
### 5 回答者の属性

性別



回答者の性別は、「男性」が67.4%、「女性」が32.5%であり、男性の方が女性より34.9ポイント高い。

## 年齢

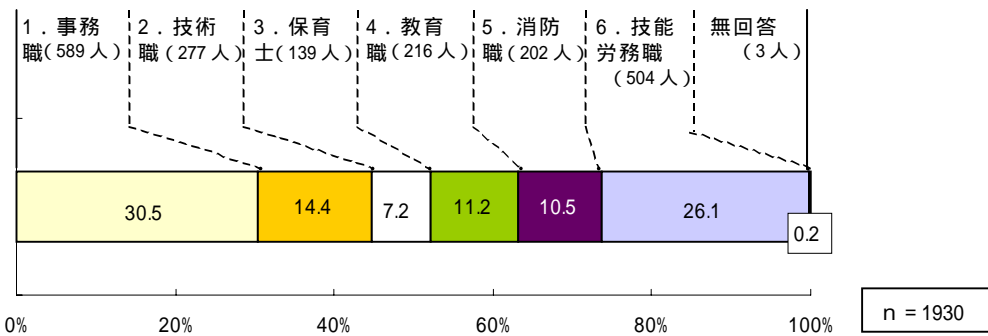


回答者の年齢は、「30～39歳」が31.5%と最も高く、「40～49歳」が26.0%、「50歳以上」が25.0%、「20～29歳」が17.0%、「19歳以下」が0.3%となっている。

## - 1 性-年齢別構成

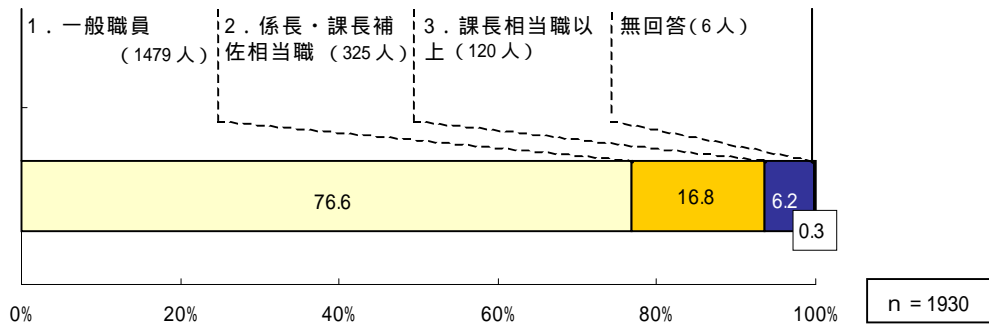
性	年齢	年齢					無回答	合計
		1. 19歳以下	2. 20~29歳	3. 30~39歳	4. 40~49歳	5. 50歳以上		
男性	人数(人)	4	193	395	369	340	0	1301
	割合 (%)	0.3	14.8	30.4	28.4	26.1	0.0	100.0
女性	人数(人)	2	136	213	133	143	0	627
	割合 (%)	0.3	21.7	34.0	21.2	22.8	0.0	100.0
無回答	人数(人)	0	0	0	0	0	2	2
	割合 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
合計	人数(人)	6	329	608	502	483	2	1930
	割合 (%)	0.3	17.0	31.5	26.0	25.0	0.1	100.0

## 職種



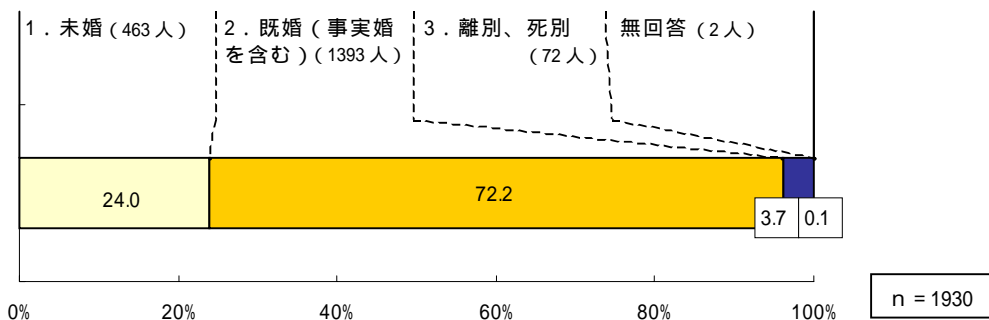
回答者の職種は、「事務職」が30.5%と最も高く、「技能労務職」が26.1%、「技術職」が14.4%、「教育職」が11.2%、「消防職」が10.5%、「保育士」が7.2%となっている。

## 職位



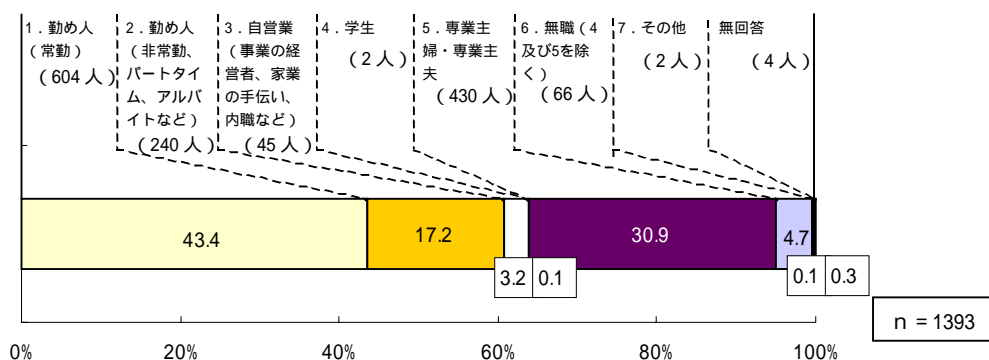
回答者の職位は、「一般職員」が76.6%と最も高く、「係長・課長補佐相当職」が16.8%、「課長相当職以上」が6.2%となっている。

## 結婚の有無



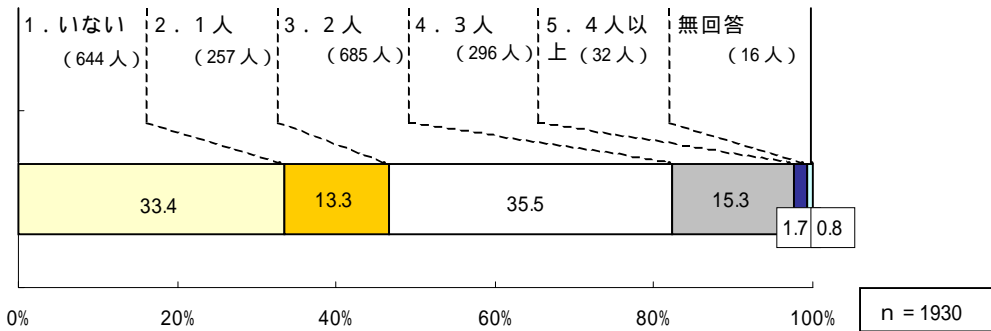
回答者の婚姻状況は、「既婚 (事実婚を含む)」が72.2%と最も高く、「未婚」が24.0%、「離別、死別」が3.7%となっている。

## -1 配偶者の職業



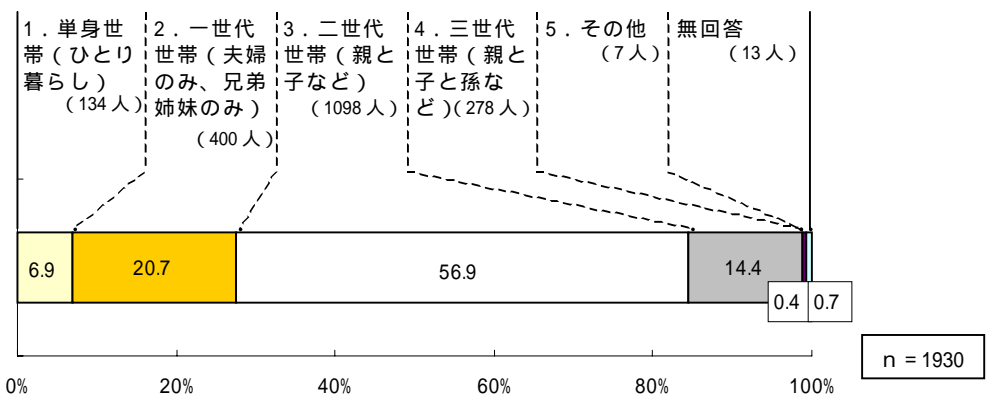
回答者の配偶者の職業は、「勤め人 (常勤)」が43.4%と最も高く、「専業主婦・専業主夫」が30.9%、「勤め人 (非常勤、パートタイム、アルバイトなど)」が17.2%、「無職」が4.7%、「自営業 (事業の経営者、家業の手伝い、内職など)」が3.2%、「学生」、「その他」がともに0.1%となっている。

## 子どもの有無



回答者の子どもの有無については、「2人」が35.5%と最も高く、「いない」が33.4%、「3人」が15.3%、「1人」が13.3%、「4人以上」が1.7%となっている。

## 世帯状況



回答者の世帯状況は、「二世帯世帯(親と子など)」が56.9%と最も高く、「一世帯世帯(夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)」が20.7%、「三世帯世帯(親と子と孫など)」が14.4%、「単身世帯(ひとり暮らし)」が6.9%、「その他」が0.4%となっている。

## 6 本報告書の見方について

### 標本誤差

本調査は、調査対象となる母集団から一部を抽出した標本(サンプル)の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、比率算出の基数(n)、回答の比率(p)によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

今回の職員意識調査結果の標本誤差は下記ようになる。

回答の 比率 票数	(%)				
	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
2500票	±0.6	±0.9	±1.0	±1.1	±1.1
1930票	±0.9	±1.2	±1.4	±1.5	±1.5
1500票	±1.2	±1.5	±1.8	±1.9	±1.9
1000票	±1.6	±2.1	±2.4	±2.6	±2.6
500票	±2.4	±3.3	±3.7	±4.0	±4.1

この表の計算式の信頼度は95%である。

N = 母集団  
 (特別職、嘱託職員、再任用職員、臨時職員を除く姫路市全職員 = 3,568人)  
 n = 比率算出の基数(回答者数)  
 p = 回答の比率

#### 分析における留意点

集計表の比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。したがって、合計が100%を上下する場合もある。

基数となるべき実数は、“n = ”として掲載し、各比率はnを100%として算出した。

「(複数回答)」とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、したがって、各回答の合計比率が100%を超える場合がある。

グラフ・表として示したものの中には「無回答者」を省略した部分がある。そのため区分ごとの標本数の合計(例えば、性別の合計、年齢別の合計)が全体の標本数と一致しないことがある。

本報告書では、性別、年齢別などの比較分析を必要に応じて行っている。ただし、サンプル数が30未満と少ないものについては、集計結果を参考程度に留める必要があるため、本文中のグラフ・表に示しているが、基本的に分析の対象からは除いている。つまり、本調査において年齢別の比較分析を行う際には、19歳以下(サンプル数6)の調査結果は、基本的に分析の対象から除いている。

比較分析において利用した調査名は次のとおりである。  
 姫路市平成17年度実施「男女共同参画に関する市民意識調査」

# 調査結果のまとめ

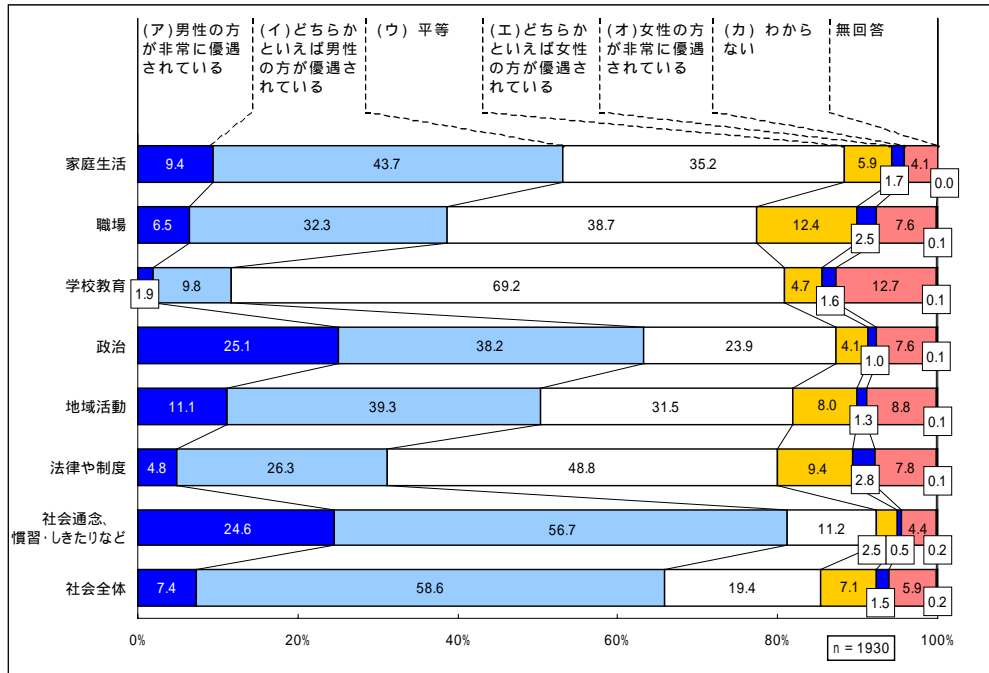
# 調査結果のまとめ

## 1 男女平等意識について

各分野における男女の地位は、全体で「家庭生活」、「政治の場」、「地域活動の場」、「社会通念、慣習・しきたりなど」、「社会全体」の分野では、『男性優遇』が「平等」、「女性優遇」を大きく上回っている。特に「政治の場」、「社会通念、慣習・しきたりなど」、「社会全体」では、『男性優遇』が6割を超えており、男女不平等と特に強く感じられている分野であることがわかる。「学校教育の場」、「法律や制度」では「平等」が最も高く、男女平等が比較的進んでいる分野と感じられていることがわかる。「職場」では『男性優遇』と「平等」が4割弱となっている。なお、すべての分野において、女性で男性に比べ『男性優遇』とより感じている傾向が認められる。

また、市民意識調査結果と比較すると、「家庭生活」、「職場」、「学校教育の場」、「政治の場」、「社会全体」の分野では、「平等」が市民より高い値となっている。(問1)

各分野における男女の地位(全体)



男女不平等が生じる原因は、全体で「男女の役割についての固定観念」、「社会の慣習やしきたり」が6割前後と高い。「社会の慣習やしきたり」が高いことは、問1の「社会通念、慣習・しきたりなど」の分野において『男性優遇』と感じている人が特に多いという結果を反映しているといえる。(問2)

男女が平等になるために重要なことは、問2で男女不平等が生じる原因として「男女の役割についての固定観念」、「社会の慣習やしきたり」が高くあげられていることを反映し、全体で「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が43.0%と最も高くなっている。なお、市民意識調査結果と比較すると、この「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」は、職員で市民より重要視している傾向がある。(問3)

## 「男女平等意識について」調査結果からわかる今後の課題

市民意識調査との比較から、職員は市民に比べ、社会の各分野において男女平等が進んでいるとやや感じている傾向が認められる。このことから、職場（庁内）において男女平等が進みつつある状況は読み取れるものの、未だ男女不平等と感じられている分野はやはり多く、その原因としては「男女の役割についての固定観念」、「社会の慣習やしきたり」があげられている。固定的な性別役割分担意識を払拭し、男女共に自分らしく生きることができるよう、市民と同様に、職員の意識啓発もより推進していく必要がある。

男女平等意識について性別による大きな差が認められたことから、男女間、夫婦間、家族間でコミュニケーションを密にし、相互理解を深めるための啓発などの取り組みも必要である。

## 2 職業生活について

姫路市の職場における男女の地位は、全体で「募集・採用」、「能力評価」、「仕事の内容」、「研修や教育訓練」、「出張・会議参加の機会」、「全体として」では、「平等」が最も高く、次いで『男性優遇』となっている。

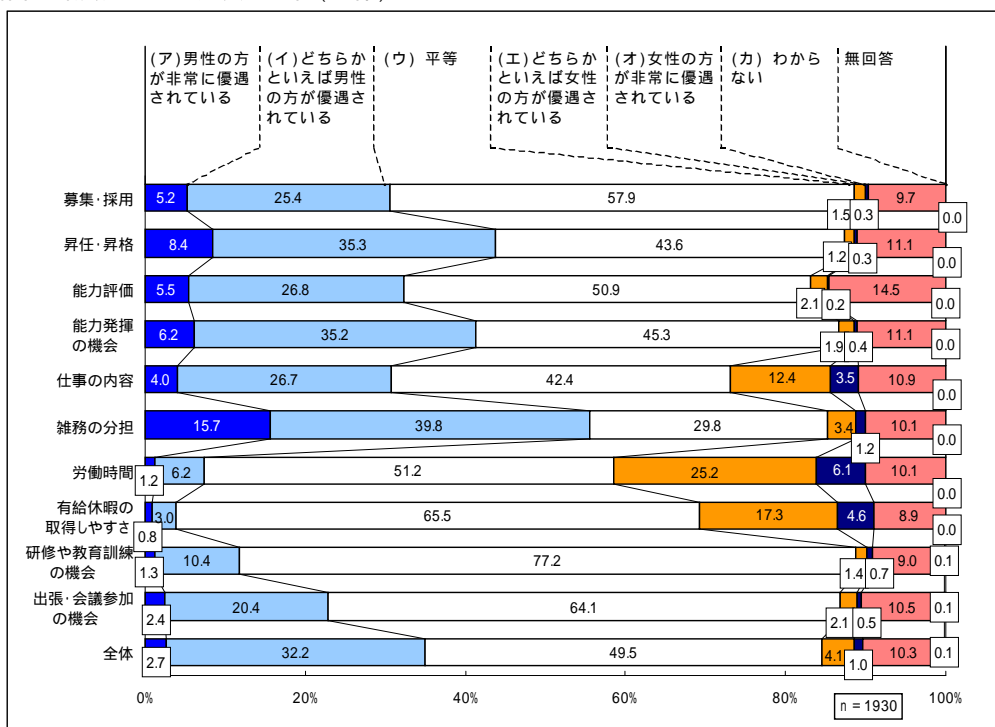
「労働時間」、「有給休暇の取得しやすさ」は、「平等」が最も高いが、次いで『女性優遇』となっており、『男性優遇』は1割未満となっている。なお、「仕事の内容」、「労働時間」、「有給休暇の取得しやすさ」以外の事項では、『女性優遇』は5%前後にとどまっている。

「雑務の分担」では、『男性優遇』が55.5%と、「平等」、「女性優遇」を大きく上回っている。「昇任・昇格」、「能力発揮の機会」は、『男性優遇』と「平等」が4割程度となっている。

**問1**の各分野における男女の地位と同様、多くの事項で、女性で男性に比べ『男性優遇』とより感じている傾向が認められ、男女間に意識の差があることがわかる。**(問4)**



姫路市の職場における男女の地位(全体)



育児休業・介護休業制度の利用状況・利用意向については、「利用したことがある」では、「育児休業制度」が男性0.4%、ただし、調査時点(平成17年8月)の姫路市における男性職員の育児休業取得者は実質いない。本調査で「利用したことがある」と回答した人は、出産時の特別休暇や年次休暇を育児休業と思い違いしたことなどが想定される、女性36.0%、「介護休業制度」が男性0.8%、ただし、調査時点(平成17年8月)の姫路市における男性職員の介護休業取得者は実質いない。本調査で「利用したことがある」と回答した人は、小学校就学前の子どもの看護等の特別休暇や年次休暇を介護休業と思い違いしたことなどが想定される、女性1.0%にとどまっている。

また、「利用したいが抵抗がある」では、「育児休業制度」、「介護休業制度」ともに男性で女性に比べ高い。これは、問4の「有給休暇の取得しやすさ」の男女差で、「平等」が最も高いものの『女性優遇』が21.9%であったのに対し『男性優遇』が3.8%であった結果に反映されているといえる。なお、「利用したくない」では、「育児休業制度」が男性19.4%、女性5.7%、「介護休業制度」が男性10.5%、女性1.4%となっている。

**(問5)**

育児休業・介護休業制度を利用する上で支障となることは、全体で「他の職員の負担が増える」が68.7%と最も高く、「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」、「即戦力となる代替要員の確保が難しい」が4割以上で続いている。「支障となることは特にない」は2.6%にとどまっている。**(問6)**

姫路市における女性職員の職域拡大・登用の現状については、全体で「現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用を進めるべきである」が31.2%と最も高い。女性職員の職域拡大・登用が『現状で不十分』とした人が、「現状で十分である」とした人を大きく上回っている。**(問7)**

姫路市において女性職員の職域拡大・登用が進まない理由は、全体で「家庭における

家事負担や育児など、業績を積み上で女性には支障が多いから」が 63.4%と最も高い。これは、問1の「家庭生活」の分野において『男性優遇』と感じている人が特に多いという結果を反映しているといえる。(問8)

姫路市において女性職員の職域拡大・登用を進めるために必要なことは、全体で「女性職員が多様な経験をつめるよう、人事配置や職務分担を進める」、「育児・介護などの社会的条件の整備を進める」が4割以上と高い。また、「家事・育児などは女性がすべきという固定的な役割分担意識の変革をはかる」も30.5%と少なくない。問8の女性職員の職域拡大・登用が進まない理由として「家庭における家事負担や育児など、業績を積み上で女性には支障が多いから」が最も高くあげられていることを反映し、女性の家事・育児・介護などの負担を軽減する取り組みが求められていることがわかる。(問9)

男女がともに職業人として活躍するための重要なことは、全体で「職業人として自覚をもつこと」が41.1%と最も高く、「『男は仕事、女は家庭』という従来の社会通念が変わること」、「仕事に必要な職業能力を身につけること」、「男女共に育児休暇が取りやすくなること」が3割以上で続いている。(問10)

姫路市で仕事上の旧姓使用を認めたことについての是非は、全体で「使用を認めてよかった」が41.4%と最も高く、『(現時点では)認めない方がよかった』を大きく上回っている。『(現時点では)認めない方がよかった』は年代があがるほど高い。(問11)

#### 「職業生活について」調査結果からわかる今後の課題

本市の職場においては、「雑務の分担」、「昇任・昇格」、「能力発揮の機会」以外は男女平等が進んでいると感じている人が多いが、男女格差があるという声も少なくない。特に「雑務の分担」については改善の必要があることがわかる。

また、「労働時間」、「有給休暇の取得」については、職場内の理解を深め、男性職員を中心に働き方の見直しなどの意識改革を推進する必要がある。

庁内が、市内企業の男女共同参画のモデルとなるよう、職員に対する男女平等意識の啓発を行い、固定的な男女観にとらわれず、職業人としての資質・能力を評価するように促していくことが重要である。

本市における育児休業・介護休業制度の利用については、男性職員自身の取得に対する抵抗感が強い。男女を問わず職員の休業制度の利用に対する職場内の理解を深めるための啓発活動が必要である。

また、休業することにより他の職員の負担が増えることが、利用することの主な支障とされていることから、休業制度そのものだけでなく、休業しやすくするための、代替職員の確保や休業中の経済的援助、休業中の職場からの情報提供や職場復帰に向けた研修などの制度をより充実させていくことが重要である。

本市の女性職員の職域拡大・登用については、多くの職員から現状では不十分と認識されている。職域拡大・登用を進めるためには、固定的な性別役割分担意識を解消し、家庭内での男女協働により女性の負担を軽減するための啓発を行うことが重要である。

また、庁内で女性職員が多様な経験をつめる人材配置や職務分担を進めるとともに、育児・介護についての社会的な支援を推進することが求められている。

本市で仕事上の旧姓使用を認めたことを支持する人は4割程度である。このような積極的な取り組みを今後増やしていくことが、職員の男女共同参画社会に関する意識をより高め、男女共同参画社会の実現につながるといえる。

### 3 人権について

セクシュアル・ハラスメントだと思ふことは、全体で「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」、「さわる、抱きつくなど肉体的な接触をすること」などの直接的な行為が9割前後、また、「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること」、「宴席で、女性にお酌、デュエット、ダンスなどを強要すること」も7割以上と高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「その他」以外の)すべての行為について、セクシュアル・ハラスメントであるという認識が市民に比べより高い。(問12)

セクシュアル・ハラスメントの経験は、「自分が直接経験したことがある」男性27人(2.1%)女性128人(20.4%)全体155人(8.0%)であり、女性が全体の8割以上を占めている。これは、市民意識調査結果とほぼ同様の割合となっている。(問13)

セクシュアル・ハラスメントへの対応は、全体で「相手にはっきり抗議した」と「仕方がないと思い、何も対応しなかった」がどちらも38.1%と最も高い。直接抗議をする人と全く何もしない人との二極化が認められる。また、「相手にはっきり抗議した」は40歳以上で特に高く、「仕方がないと思い、何も対応しなかった」は年代が若いほど高くなっている。(問13-1)

セクシュアル・ハラスメントをなくすために重要なことは、全体で「被害者がはっきり拒絶・抗議する」が51.5%と最も高い。「加害者に対して、懲戒処分も含めきびしく対応する」は年代が若い人ほど重要視していることがわかる。(問14)

#### 「人権について」調査結果からわかる今後の課題

市民意識調査との比較から、職員は市民に比べ、セクシュアル・ハラスメントに対する意識が高い。今後は、啓発冊子や研修などさまざまな機会をとらえ継続的に意識啓発を行うことにより、直接的な行為だけでなく「女の子」「おばさん」といった表現に対する意識も高め、職員がセクシュアル・ハラスメントについてより理解し、市民の先頭に立ち、セクシュアル・ハラスメント防止に努める必要がある。

本市職員のセクシュアル・ハラスメントの直接被害者は、市民意識調査結果と同様であり、決して少なくない。

さらに、被害を受けてははっきり抗議する人も少なくないものの、被害を受けても誰にも相談しない人も4割弱おり、特に若い年代において被害が潜在することが考えられる。誰でも気軽に安心して相談できる体制整備、相談窓口についての情報提供が重要である。

## 4 結婚、家庭生活と男女の役割について

結婚、家庭に関する考えについては、性別では女性、年齢別では若い年代、結婚の有無別では未婚者で、結婚・離婚や子どもをもつことについてより自由な選択を望んでいる傾向がある。なお、市民意識調査結果と比較すると、結婚・離婚や子どもをもつことについて自由な選択を望む人の割合は市民に比べより高い。(問15)

家庭内の仕事の理想の分担として、全体で「食事のしたく」では「妻」、「食事の後かたづけ、食器洗い」、「洗濯」、「育児・しつけ」、「看護・介護」では「夫妻とも同じくらい」、「掃除」では「家族全員」の分担を理想とする人がそれぞれ最も多い。

家庭内の多くの仕事について、男性で女性に比べ「妻」の分担を理想とする人がより多い一方、女性では男性に比べ「夫妻とも同じくらい」、「家族全員」の分担をより望んでいる傾向が認められる。また、若い年代で「夫妻とも同じくらい」の分担をより望んでいる傾向も認められる。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「育児・しつけ」、「看護・介護」以外の仕事で、「夫妻とも同じくらい」の分担を望む人の割合が市民に比べ高く、「妻」の分担を望む人の割合が低い傾向が認められる。

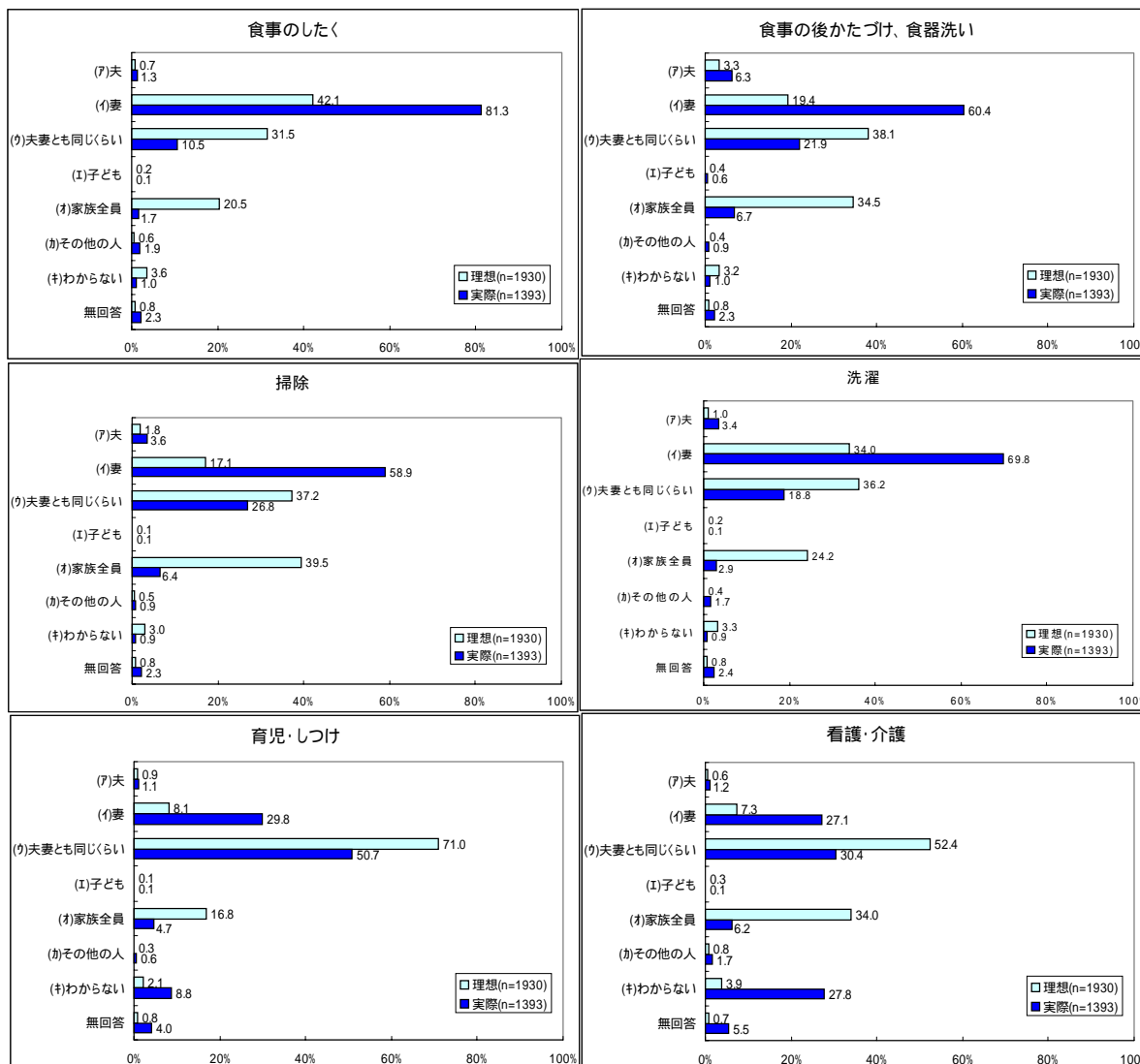
また、「育児・しつけ」、「看護・介護」以外の仕事で、配偶者が「勤め人(常勤)」、「自営業」の人では、「夫妻とも同じくらい」や「家族全員」の分担をより望んでいる傾向が認められる。一方、配偶者が「勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)」、「専業主婦・専業主夫」の人では「妻」の分担をより望んでいる傾向が認められ、配偶者の職業によって、家庭内の仕事の理想の分担に差異が認められる。(問16)

家庭内の仕事の実際の分担をみると、問16の理想の分担と比べ「妻」の分担が増大しており、「夫妻とも同じくらい」、「家族全員」の分担は理想より少なくなっている。家庭内における妻(女性)の負担が大きいことが示されており、問8の女性職員の職域拡大・登用が進まない理由として「家庭における家事負担や育児など、業績を積む上で女性には支障が多いから」が最も高くあげられていることは、これを反映しているといえる。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「看護・介護」以外の仕事で、「夫妻とも同じくらい」の分担の割合が市民に比べ高く、「妻」の分担の割合が低い傾向が認められる。

また、「食事の後かたづけ、食器洗い」、「掃除」、「洗濯」について、配偶者が「勤め人(常勤)」の人では「夫妻とも同じくらい」の分担の割合が高い傾向が認められる。(問17)

家庭内の仕事の理想の分担・実際の分担(全体)



「結婚、家庭生活と男女の役割について」調査結果からわかる今後の課題

市民意識調査との比較から、職員は市民に比べ、結婚・離婚や子どもをもつことについて自由な選択を望む人が多いが、性別役割分担意識にとらわれている人も少なくない。この現状を踏まえ、性的役割分担意識を払拭し、あらゆる分野に男女が共に参画できる社会を目指して、今後も意識啓発を継続する必要がある。

また、結婚、家庭に関する考えについては、性別、年齢による意識の差も認められたため、男女間、世代間、家族間でコミュニケーションを密にし、相互理解を深めるための啓発などの取り組みも必要である。

家庭内の仕事の分担において、男女が協力することが望ましいとしながらも、実際は女性の負担が非常に重くなっている。夫婦とも常勤の共働きである家庭においては、男女協働が進んでいる傾向が若干認められるが、やはり女性の負担が重いことには変わらない。このことから、男性の家事、育児、介護参加を促進、支援していくため、意識啓発を行うとともに、庁内において、男女共に柔軟な働き方を可能とするなどの取り組みが必要である。



## 5 男女共同参画に関する施策などについて

男女共同参画関連事項について、全体で認知度が特に低い事項（「知らない」が7割以上であったもの）は、「ポジティブ・アクション」、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」である。また、市の施策である「男女平等に関する表現指針」、「姫路市審議会等委員への女性の登用促進に関する指針」では、「知らない」が5割以上と『知っている』を大きく上回っている。

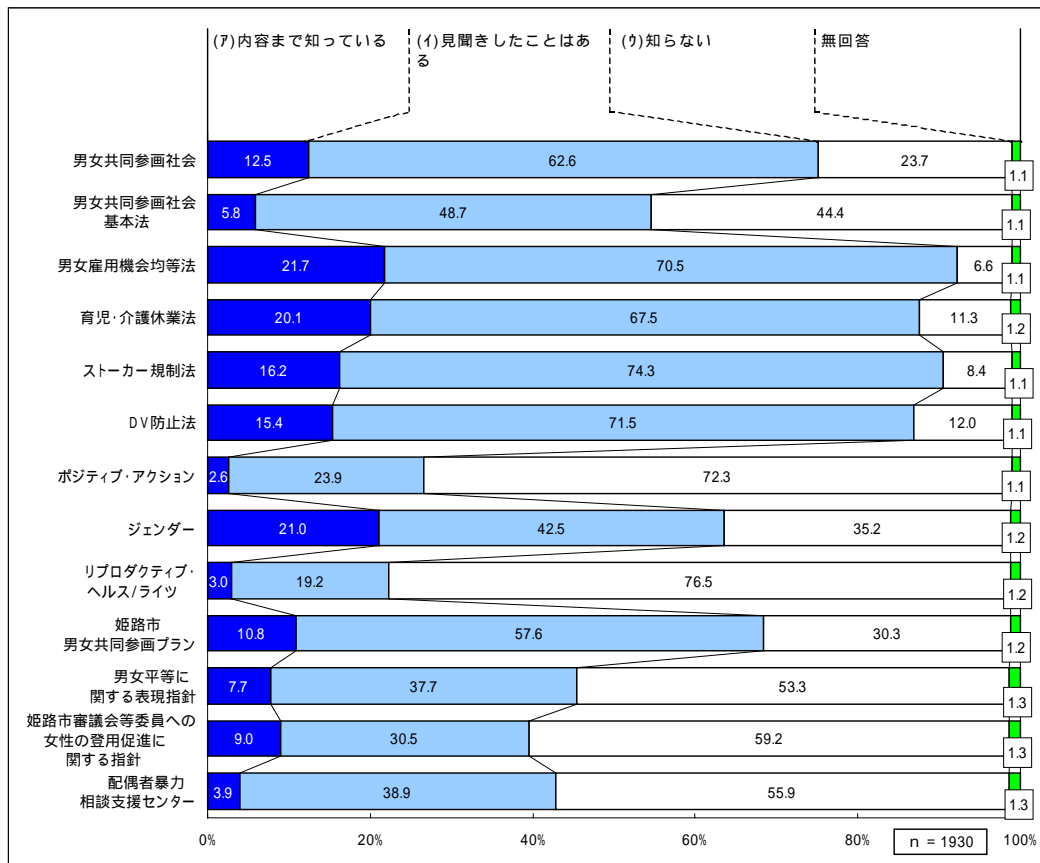
一方、認知度が高い事項（『知っている』が8割以上であったもの）は「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」、「ストーカー規制法」、「DV防止法」である。

「内容まで知っている」はすべての事項で3割未満となっている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、すべての事項で職員の認知度は市民に比べ高い。

### （問18）

男女共同参画関連事項の認知度(全体)



### 「男女共同参画に関する施策などについて」調査結果からわかる今後の課題

市民意識調査との比較から、職員は市民に比べ、男女共同参画関連事項の認知度は全体として高いものの、本市の施策であるにもかかわらず、「男女平等に関する表現指針」、「姫路市審議会等委員への女性の登用促進に関する指針」の認知度は高いとはいえない。また、「内容まで知っている」はすべての事項で3割未満である。

職員の男女共同参画に対する関心を高め、本市の男女共同参画社会実現のための取り組みに対する理解を深めることが必要である。

## 各設問調查結果

## 1 男女平等意識について

### (1) 各分野における男女の地位

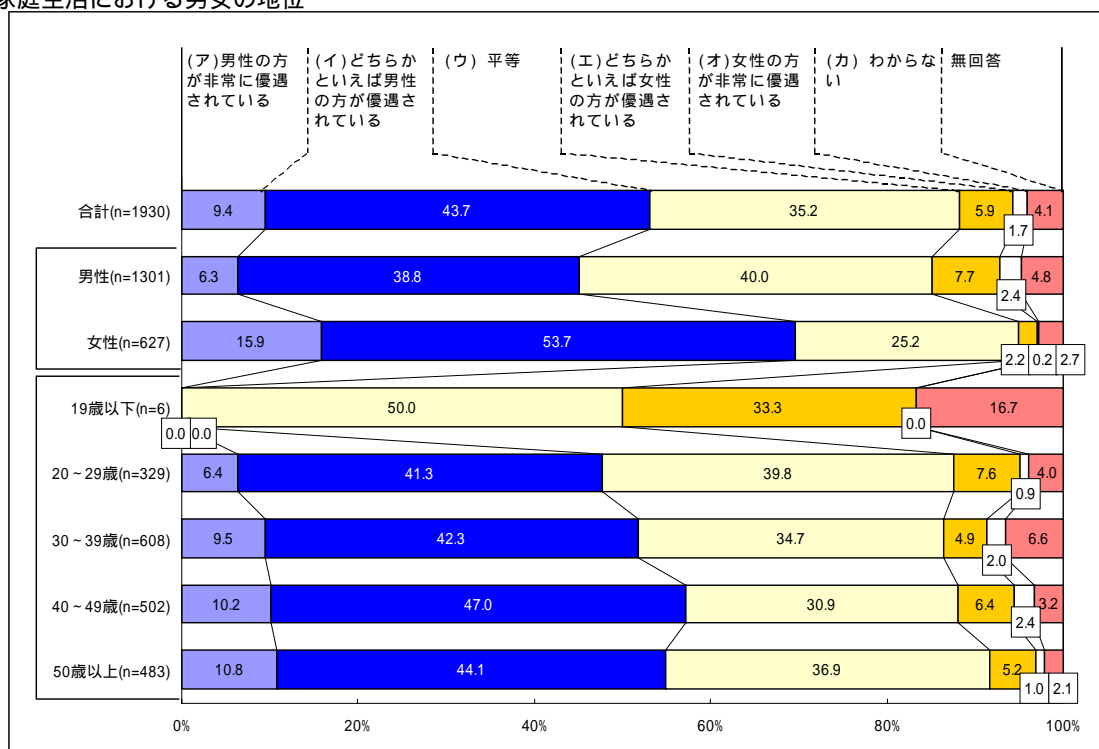
問1 あなたは、今の社会において、次の各分野で男女の地位はどのようになっていると思いますか。(1つ選択)

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』とする。

家庭生活では

『男性優遇』53.1% > 「平等」35.2% > 『女性優遇』7.6%

家庭生活における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が43.7%と最も高く、「平等」が35.2%、「男性の方が非常に優遇されている」が9.4%で続いている。『男性優遇』(53.1%)が、「平等」(35.2%)、『女性優遇』(7.6%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「平等」が市民に比べより高い。

#### 【性別】

男性で「平等」が40.0%、『女性優遇』が10.1%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が15.9%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が53.7%、『男性優遇』が69.6%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、女性で『男性優遇』が市民に比べより高い。

#### 【年齢別】

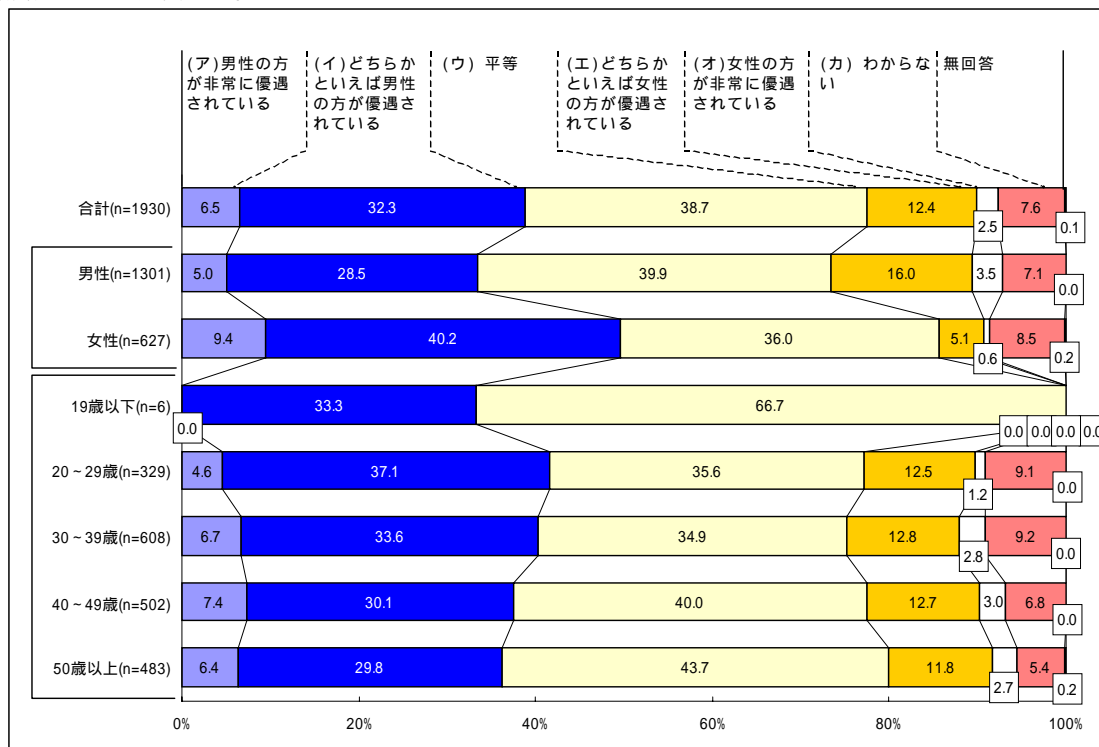
特に大きな差異は認められない。



## 職場では

『男性優遇』38.8%、「平等」38.7% > 『女性優遇』14.9%

### 職場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が38.7%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.3%と高く、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が12.4%で続いている。『男性優遇』と「平等」が4割弱と、『女性優遇』(14.9%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「平等」、『女性優遇』が市民に比べより高く、『男性優遇』がより低い。

#### 【性別】

男性で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が16.0%、『女性優遇』が19.5%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.2%、『男性優遇』が49.6%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「平等」が市民に比べより高く、『男性優遇』がより低い。また、男性では『女性優遇』が市民に比べより高い。

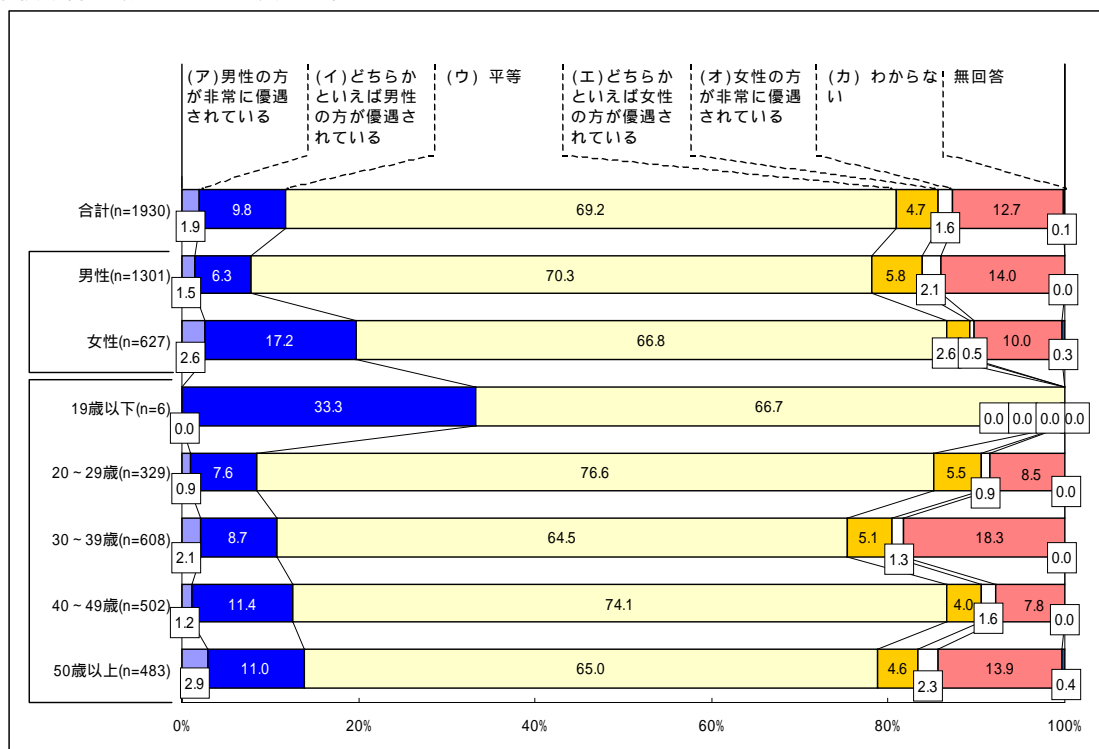
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 学校教育の場では

「平等」69.2% > 『男性優遇』11.7% > 『女性優遇』6.3%

### 学校教育の場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が69.2%と最も高く、「わからない」が12.7%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が9.8%で続いている。「平等」(69.2%)が、『男性優遇』(11.7%)、『女性優遇』(6.3%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「平等」が市民に比べより高い。

#### 【性別】

女性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が17.2%、『男性優遇』が19.8%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、女性で「平等」が市民に比べより高い。

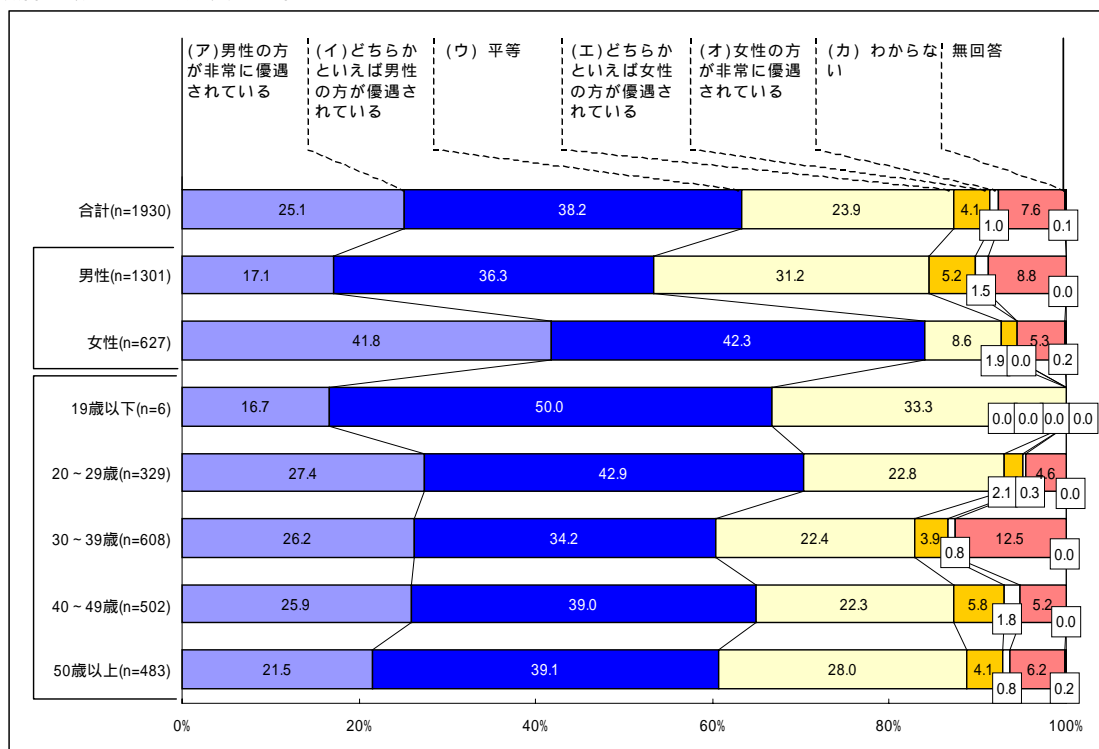
#### 【年齢別】

20~29歳、40~49歳で「平等」が75%前後と、他の年代に比べ高い。

## 政治の場では

『男性優遇』63.3% > 「平等」23.9% > 『女性優遇』5.1%

### 政治の場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が38.2%と最も高く、「男性の方が非常に優遇されている」が25.1%、「平等」が23.9%で続いている。『男性優遇』(63.3%)が、「平等」(23.9%)、『女性優遇』(5.1%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「平等」が市民に比べより高い。

#### 【性別】

男性で「平等」が31.2%と、女性(8.6%)に比べ22.6ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が41.8%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.3%、『男性優遇』が84.1%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性で「平等」が市民に比べより高く、『男性優遇』がより低い。また、女性では『男性優遇』が市民に比べより高い。

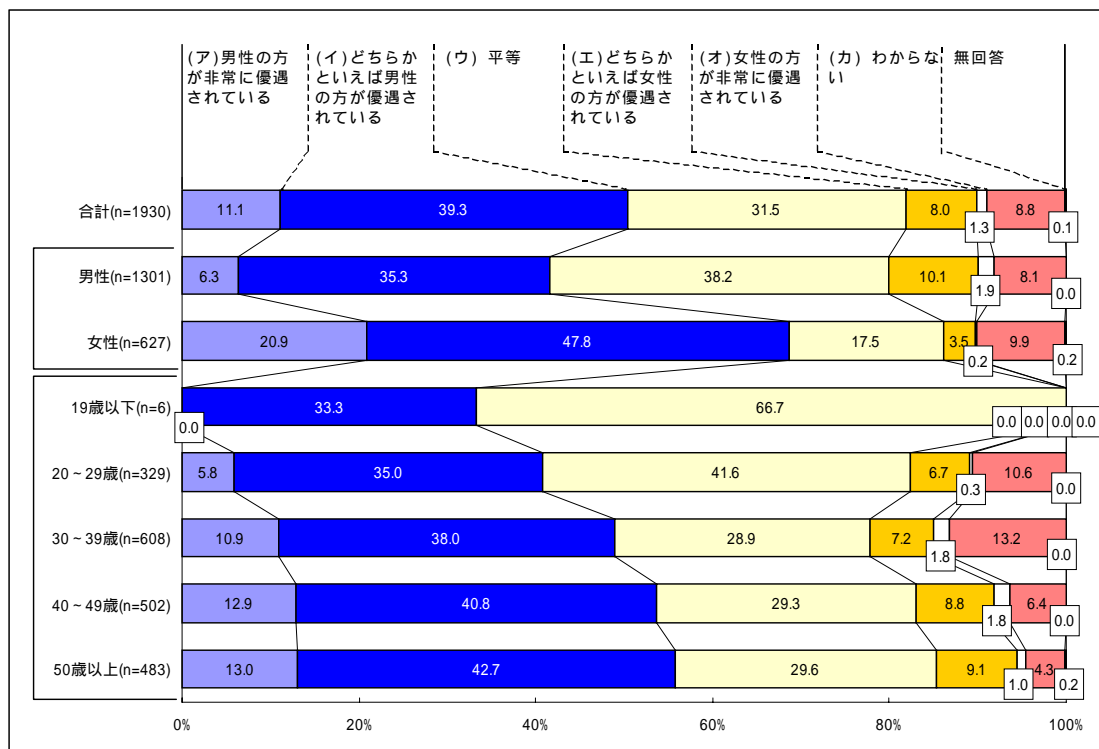
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 地域活動の場では

『男性優遇』50.4% > 「平等」31.5% > 『女性優遇』9.3%

### 地域活動の場における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が39.3%と最も高く、「平等」が31.5%、「男性の方が非常に優遇されている」が11.1%で続いている。『男性優遇』(50.4%)が、「平等」(31.5%)、「女性優遇」(9.3%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、ほぼ同様の値となっている。

#### 【性別】

男性で「平等」が38.2%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が10.1%、『女性優遇』が12.0%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が20.9%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が47.8%、『男性優遇』が68.7%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、女性で『男性優遇』が市民に比べより高い。

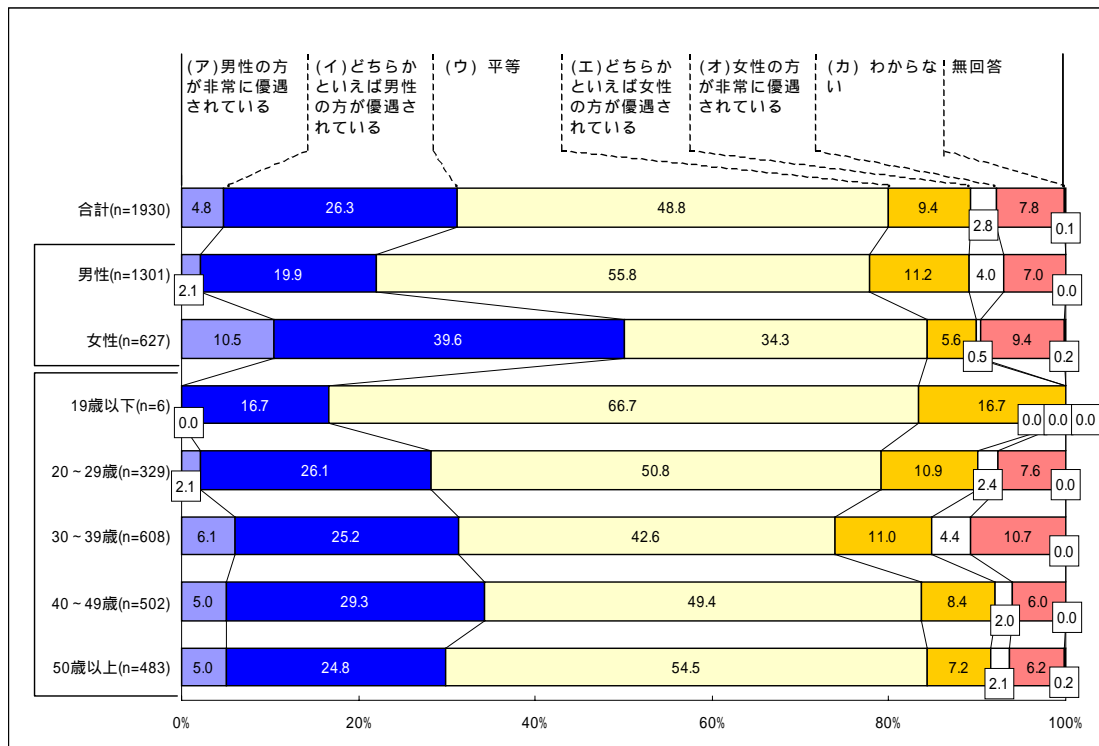
#### 【年齢別】

20～29歳で「平等」が41.6%と他の年代に比べ高く、『男性優遇』が40.8%と他の年代に比べ低い。

## 法律や制度では

「平等」48.8% > 『男性優遇』31.1% > 『女性優遇』12.2%

### 法律や制度における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が48.8%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が26.3%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が9.4%が続いている。「平等」(48.8%)が、『男性優遇』(31.1%)、『女性優遇』(12.2%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、『女性優遇』が市民に比べより高く、『男性優遇』がより低い。

#### 【性別】

男性で「平等」が55.8%、『女性優遇』が15.2%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が10.5%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が39.6%、『男性優遇』が50.1%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性で『男性優遇』が市民に比べより低い。また、女性では「平等」が市民に比べより高い。

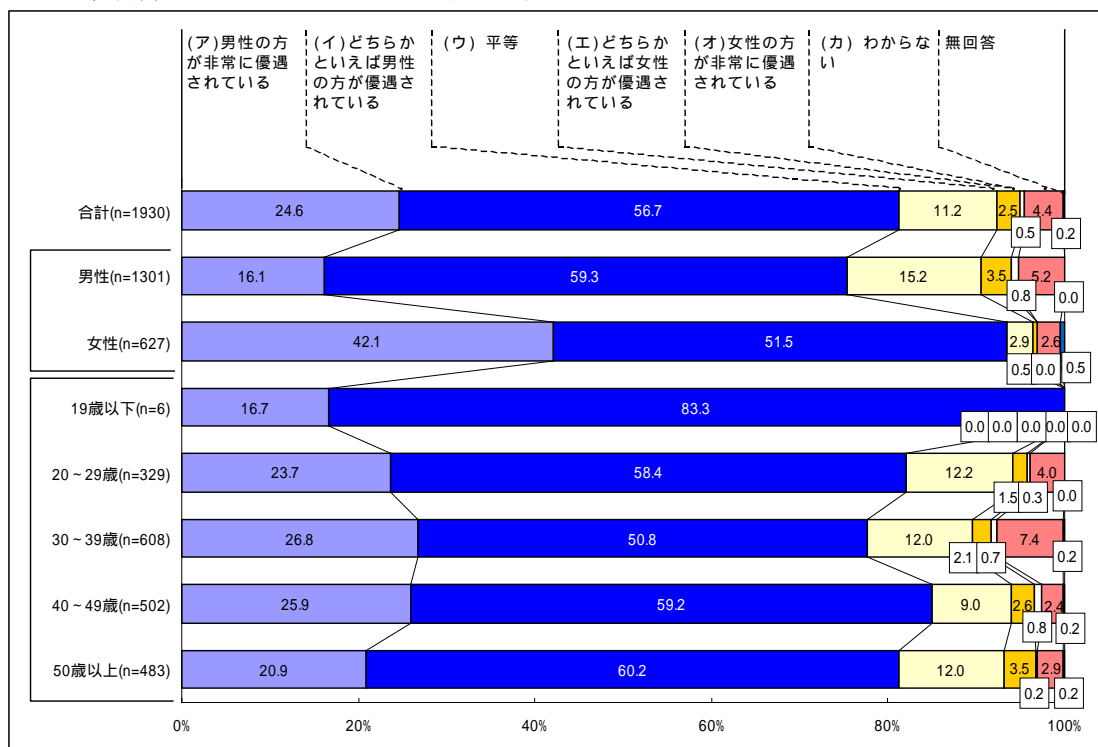
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

社会通念、慣習・しきたりなどでは

『男性優遇』81.3% > 「平等」11.2% > 『女性優遇』3.0%

社会通念、慣習・しきたりなどにおける男女の地位



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が56.7%と最も高く、「男性の方が非常に優遇されている」が24.6%、「平等」が11.2%で続いている。『男性優遇』(81.3%)が、「平等」(11.2%)、『女性優遇』(3.0%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、ほぼ同様の値となっている。

【性別】

男性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が59.3%、「平等」が15.2%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が42.1%、『男性優遇』が93.6%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、女性で『男性優遇』が市民に比べより高い。

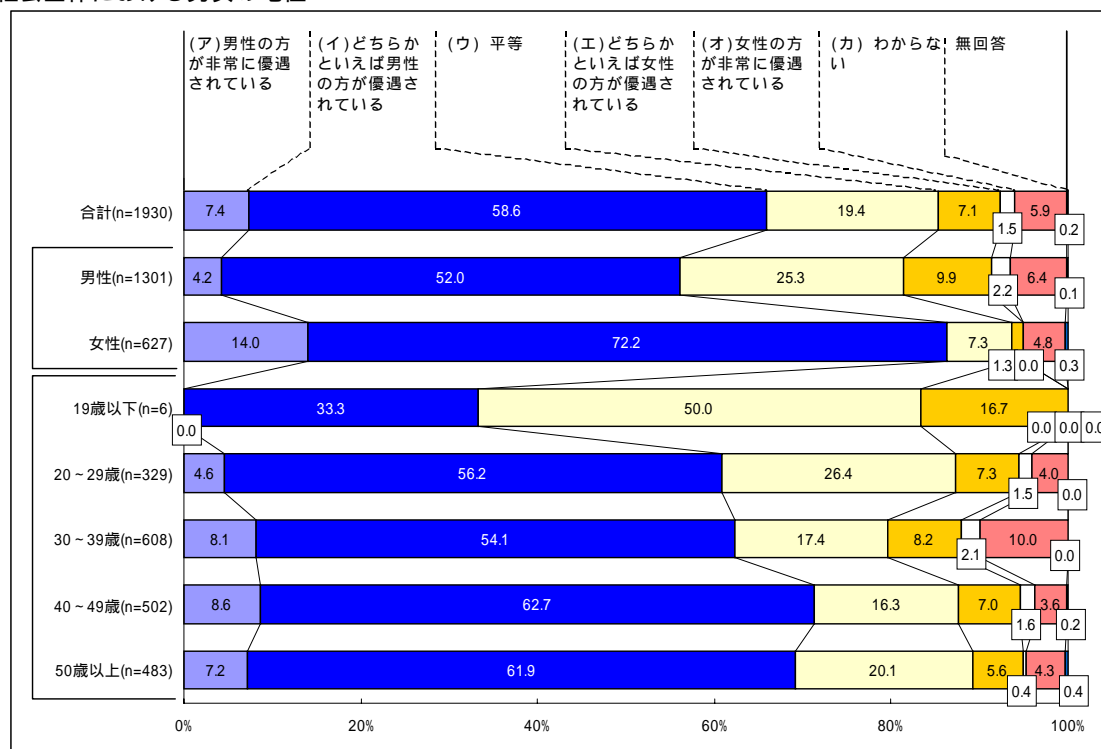
【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 社会全体では

『男性優遇』66.0% > 「平等」19.4% > 『女性優遇』8.6%

### 社会全体における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が58.6%と最も高く、「平等」が19.4%、「男性の方が非常に優遇されている」が7.4%で続いている。『男性優遇』(66.0%)が、「平等」(19.4%)、「女性優遇」(8.6%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「平等」が市民に比べより高く、『男性優遇』がより低い。

#### 【性別】

男性で「平等」が25.3%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が9.9%、『女性優遇』が12.1%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が14.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が72.2%、『男性優遇』が86.2%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性で「平等」、『女性優遇』が市民に比べより高く、『男性優遇』がより低い。また、女性では『男性優遇』が市民に比べより高い。

#### 【年齢別】

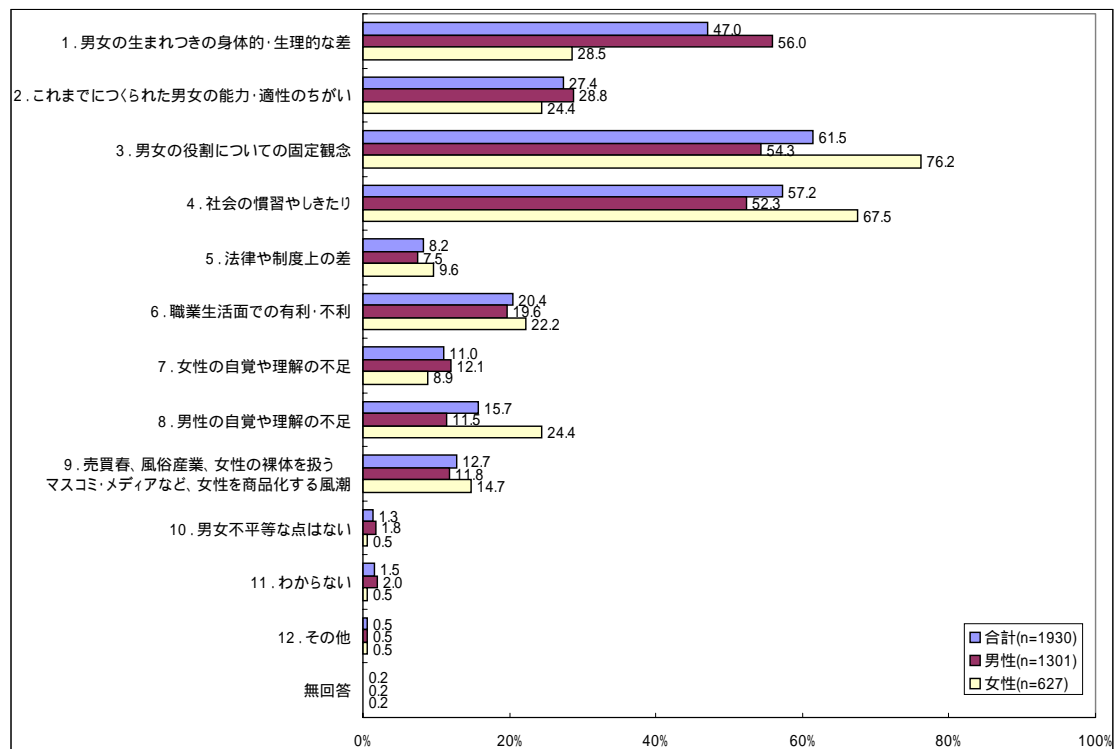
20～29歳で「平等」が26.4%と、他の年代に比べ高い。また、40歳以上で『男性優遇』が7割前後と、他の年代に比べ高い。

## (2) 男女不平等が生じる原因

問2 社会にはいろいろな面で男女不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。(3つまで選択可)

「男女の役割についての固定概念」、「社会の慣習やしきたり」が6割前後と高い

男女不平等が生じる原因



(全体・性別)

### 【全体】

「男女の役割についての固定概念」が61.5%、「社会の慣習やしきたり」が57.2%と高く、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」が47.0%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」が市民に比べより高い。

### 【性別】

男性で「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」が56.0%と、女性(28.5%)に比べ27.5ポイント高い。一方、女性では「男女の役割についての固定概念」が76.2%、「社会の慣習やしきたり」が67.5%、「男性の自覚や理解の不足」が24.4%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性で「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」が市民に比べより高い。また、女性では「男女の役割についての固定概念」、「社会の慣習やしきたり」、「男性の自覚や理解の不足」が市民に比べより高い。



男女不平等が生じる原因

(%)

	n	1 男女の生まれつきの身体的・生理的な差	2 これまでにつくられた男女の能力・適性の違い	3 男女の役割についての固定観念	4 社会の慣習やしきたり	5 法律や制度上の差	6 職業生活面での有利・不利	7 女性の自覚や理解の不足	8 男性の自覚や理解の不足	9 売買春、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮
合計	1930	47.0	27.4	61.5	57.2	8.2	20.4	11.0	15.7	12.7
(19歳以下)	(6)	(50.0)	(50.0)	(50.0)	(66.7)	(0.0)	(16.7)	(0.0)	(0.0)	(33.3)
20～29歳	329	55.9	30.7	66.6	54.7	7.6	23.4	8.2	13.4	6.7
30～39歳	608	49.2	24.7	56.9	57.1	8.7	17.6	11.3	15.8	13.2
40～49歳	502	42.6	29.3	67.1	61.0	9.0	18.3	9.8	17.9	13.5
50歳以上	483	42.9	26.3	58.0	55.3	7.2	24.2	14.1	15.1	15.1

	n	10 男女不平等な点はない	11 わからない	12 その他	無回答
合計	1930	1.3	1.5	0.5	0.2
(19歳以下)	(6)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	0.9	0.6	0.0	0.0
30～39歳	608	1.2	2.5	1.0	0.2
40～49歳	502	1.0	0.8	0.4	0.2
50歳以上	483	2.3	1.7	0.2	0.4

(全体・年齢別)

【年齢別】

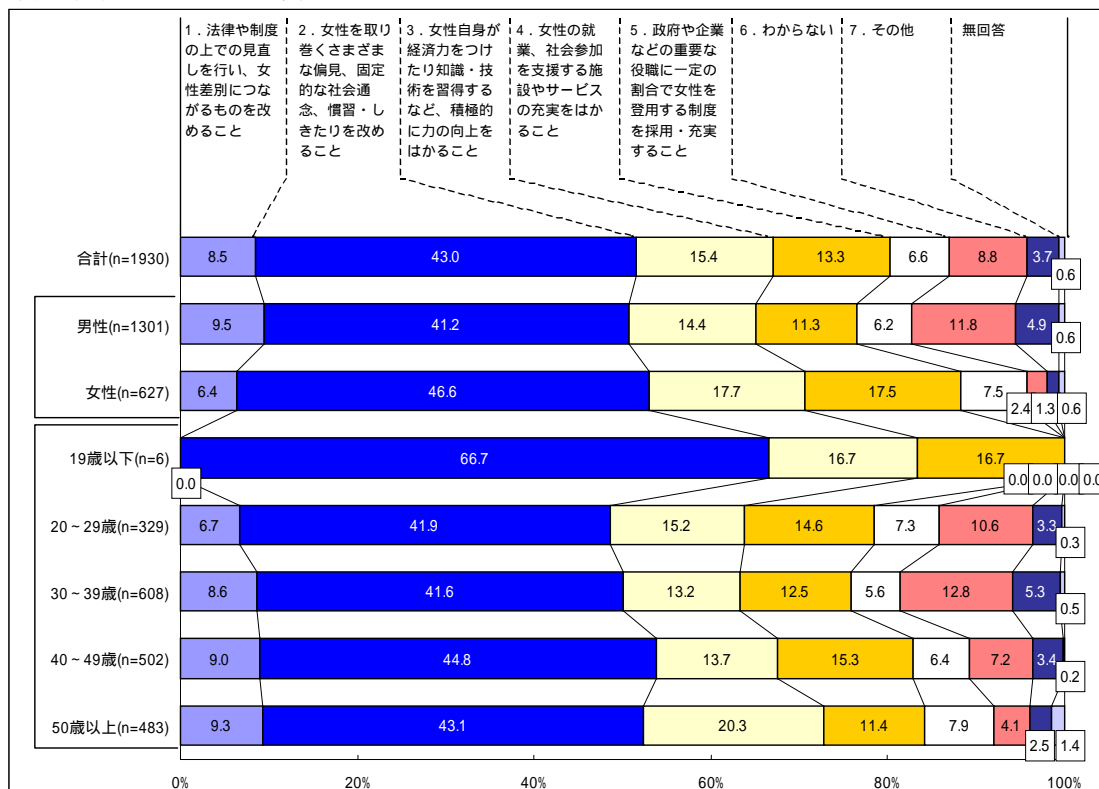
20～29歳で「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」が55.9%、20～29歳、40～49歳で「男女の役割についての固定観念」が65%以上と、他の年代に比べ高い。また、20～29歳では「売買春、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮」が6.7%と、他の年代に比べ低い。

### (3) 男女が平等になるために重要なこと

問3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。(1つ選択)

「さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が43.0%でトップ

男女が平等になるために重要なこと



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が43.0%と最も高く、「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上をはかること」が15.4%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」が13.3%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が市民に比べより高い。

#### 【性別】

女性で「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が46.6%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」が17.5%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、女性で「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が市民に比べより高い。

#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 2 職業生活について

### (4) 姫路市の職場における男女の地位

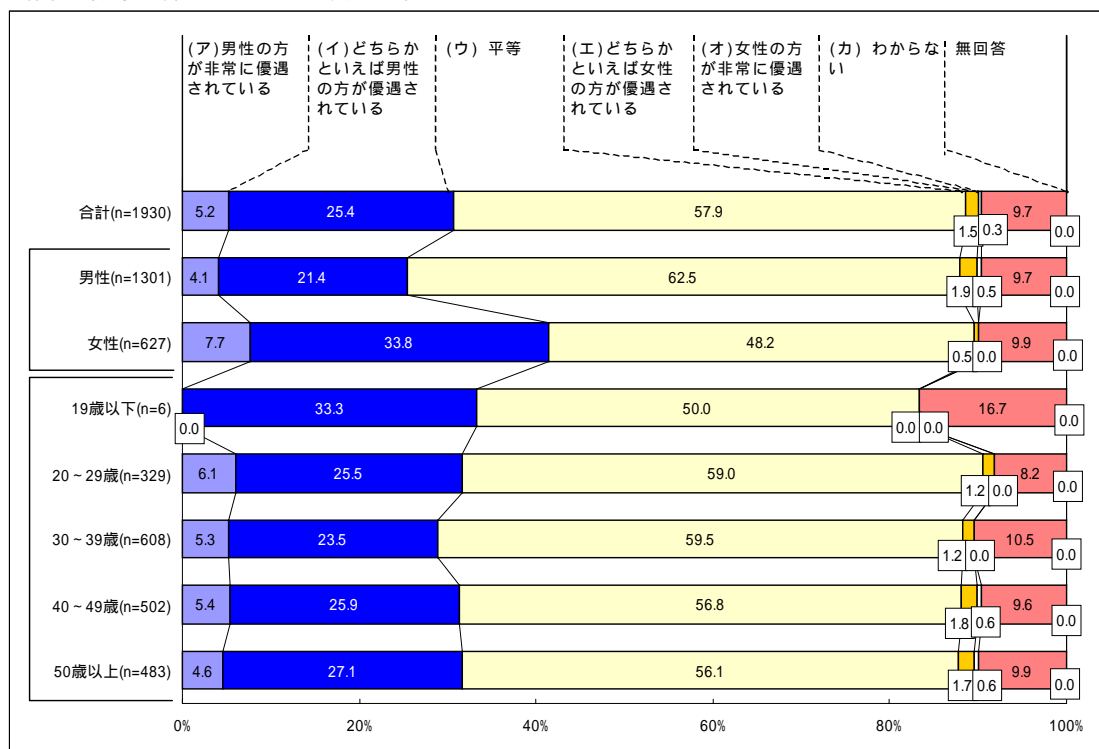
問4 あなたは、姫路市において、次の各事項で男女の差はどのようになっていると思いますか。(1つ選択)

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』とする。

#### 募集・採用

「平等」57.9% > 『男性優遇』30.6% > 『女性優遇』1.8%

#### 姫路市の募集・採用における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が57.9%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が25.4%、「わからない」が9.7%で続いている。「平等」(57.9%)が『男性優遇』(30.6%)、『女性優遇』(1.8%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が62.5%と、女性(48.2%)に比べ14.3ポイント高い。一方、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が33.8%、『男性優遇』が41.5%とそれぞれ男性に比べ高い。

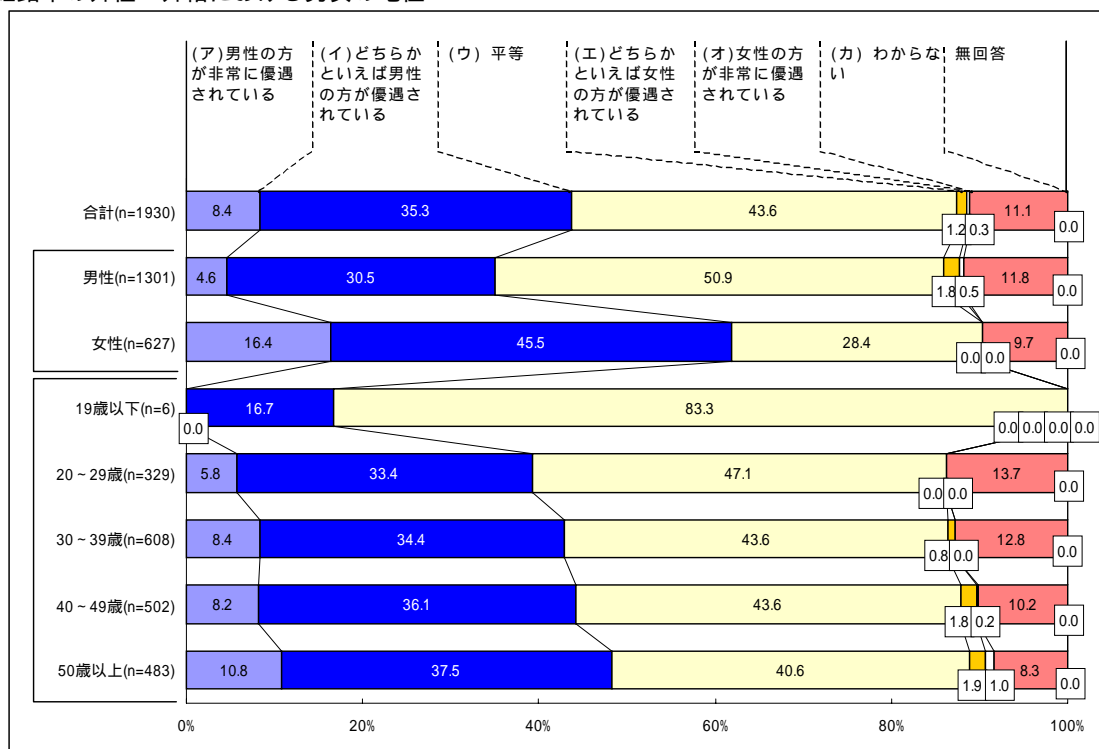
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 昇任・昇格

『男性優遇』43.7%、「平等」43.6% > 『女性優遇』1.5%

### 姫路市の昇任・昇格における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が43.6%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が35.3%、「わからない」が11.1%で続いている。『男性優遇』と「平等」が4割以上と、『女性優遇』(1.5%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が50.9%と、女性(28.4%)に比べ22.5ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が16.4%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.5%、『男性優遇』が61.9%とそれぞれ男性に比べ高い。

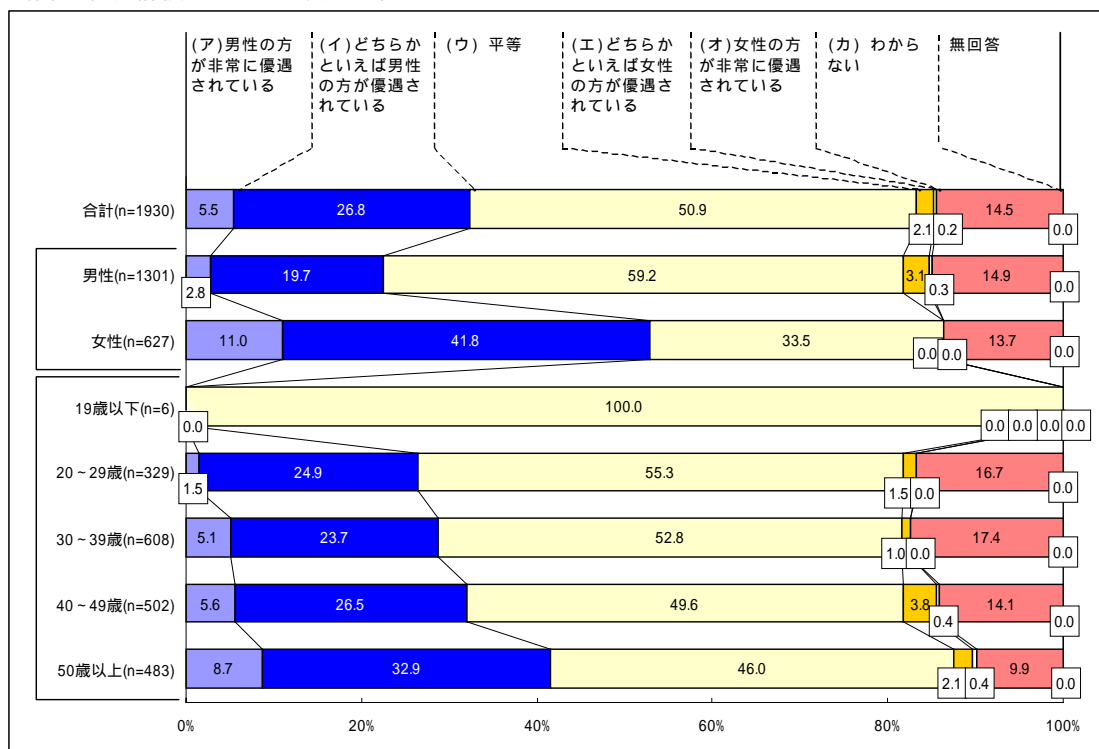
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 能力評価

「平等」50.9% > 『男性優遇』32.3% > 『女性優遇』2.3%

### 姫路市の能力評価における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が50.9%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が26.8%、「わからない」が14.5%で続いている。「平等」(50.9%)が、『男性優遇』(32.3%)、『女性優遇』(2.3%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が59.2%と、女性(33.5%)に比べ25.7ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が11.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が41.8%、『男性優遇』が52.8%とそれぞれ男性に比べ高い。

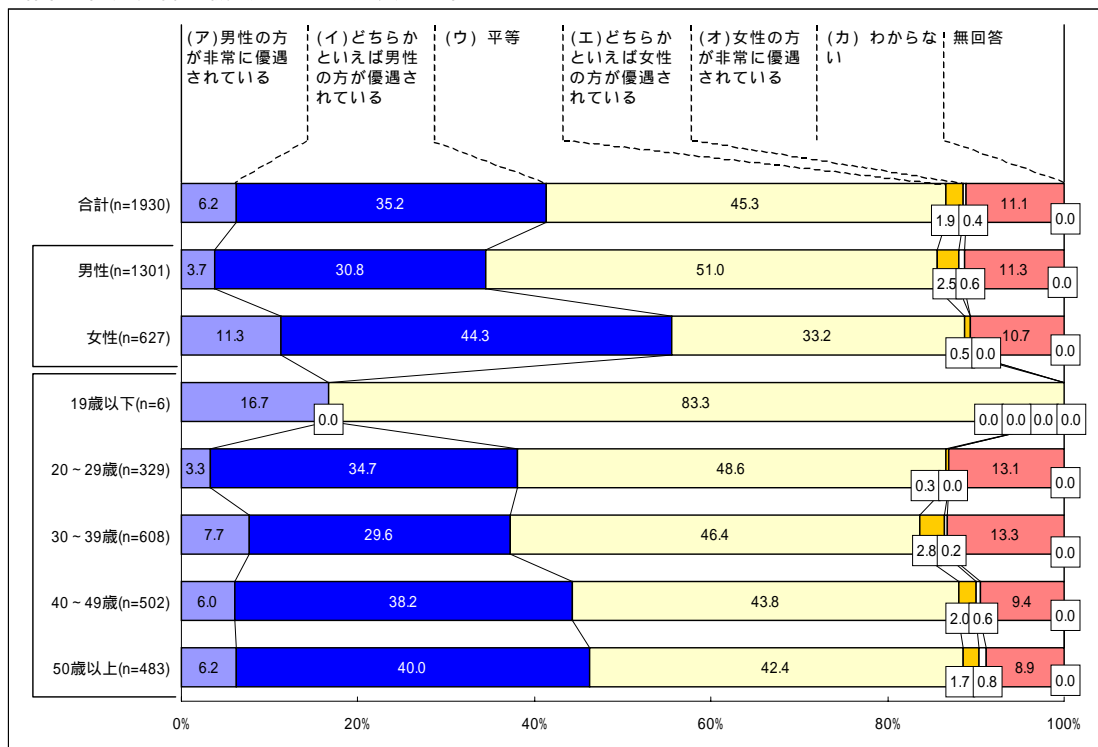
#### 【年齢別】

50歳以上で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.9%、『男性優遇』が41.6%と、他の年代に比べ高い。

## 能力発揮の機会

「平等」45.3%、『男性優遇』41.4% > 『女性優遇』2.3%

姫路市の能力発揮の機会における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「平等」が45.3%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が35.2%、「わからない」が11.1%で続いている。「平等」と『男性優遇』が4割以上と、『女性優遇』(2.3%)を大きく上回っている。

### 【性別】

男性で「平等」が51.0%と、女性(33.2%)に比べ17.8ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が11.3%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が44.3%、『男性優遇』が55.6%とそれぞれ男性に比べ高い。

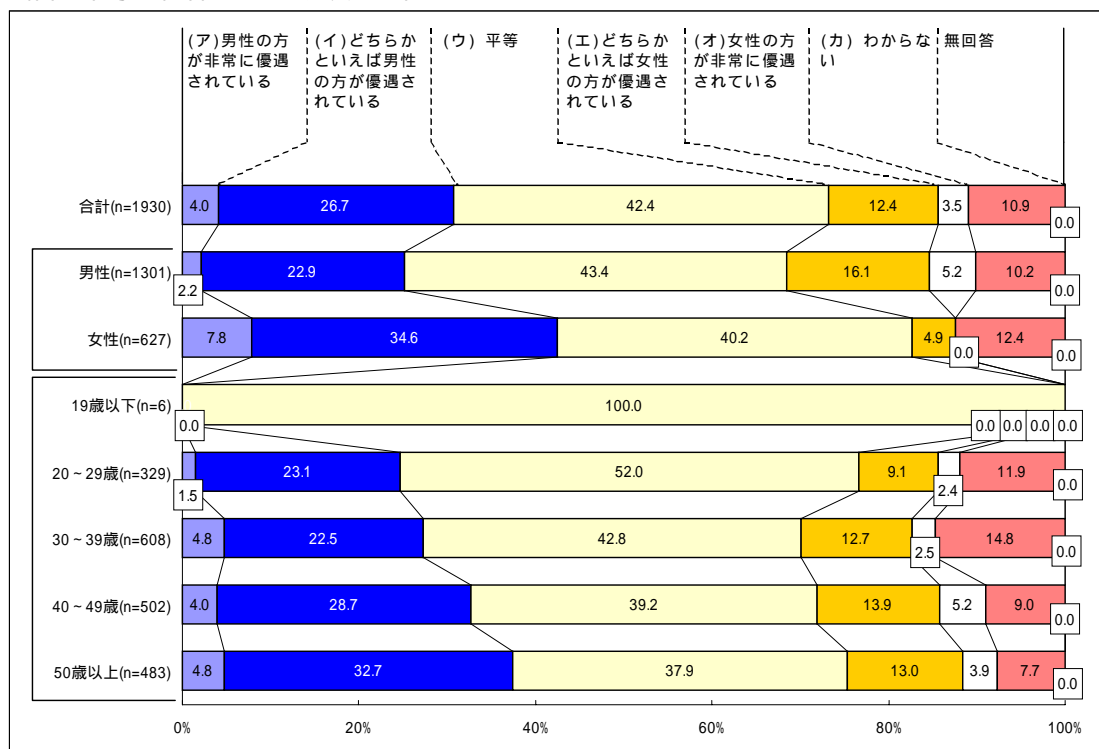
### 【年齢別】

40歳以上で『男性優遇』が4割以上と、他の年代に比べ高い。

## 仕事の内容

「平等」42.4% > 『男性優遇』30.7% > 『女性優遇』15.9%

### 姫路市の仕事の内容における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が42.4%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が26.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が12.4%で続いている。「平等」(42.4%)が、『男性優遇』(30.7%)、『女性優遇』(15.9%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「どちらかといえば女性が優遇されている」が16.1%、『女性優遇』が21.3%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が34.6%、『男性優遇』が42.4%とそれぞれ男性に比べ高い。

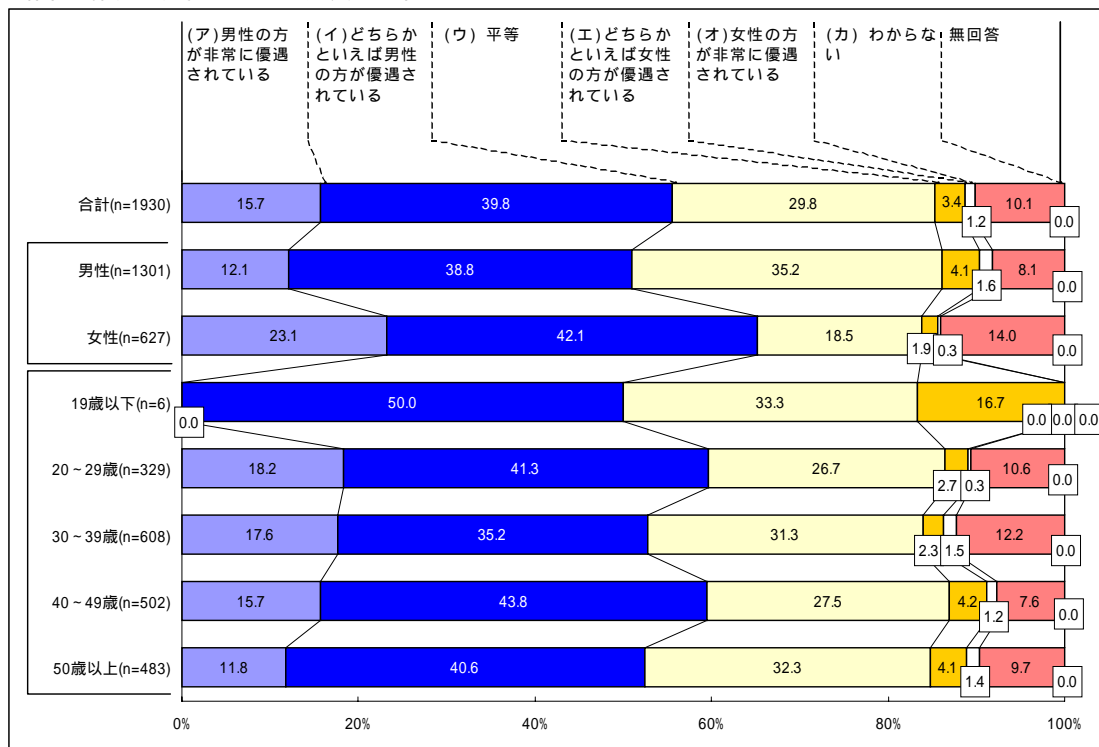
#### 【年齢別】

20～29歳で「平等」が52.0%と、他の年代に比べ高い。

## 雑務（お茶くみ、掃除、コピー取りなど）の分担

『男性優遇』55.5% > 「平等」29.8% > 『女性優遇』4.6%

### 姫路市の雑務の分担における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が39.8%と最も高く、「平等」が29.8%、「男性の方が非常に優遇されている」が15.7%が続いている。『男性優遇』(55.5%)が、「平等」(29.8%)、「女性優遇」(4.6%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が35.2%と、女性(18.5%)に比べ16.7ポイント高い。一方、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が23.1%、「男性優遇」が65.2%とそれぞれ男性に比べ高い。

#### 【年齢別】

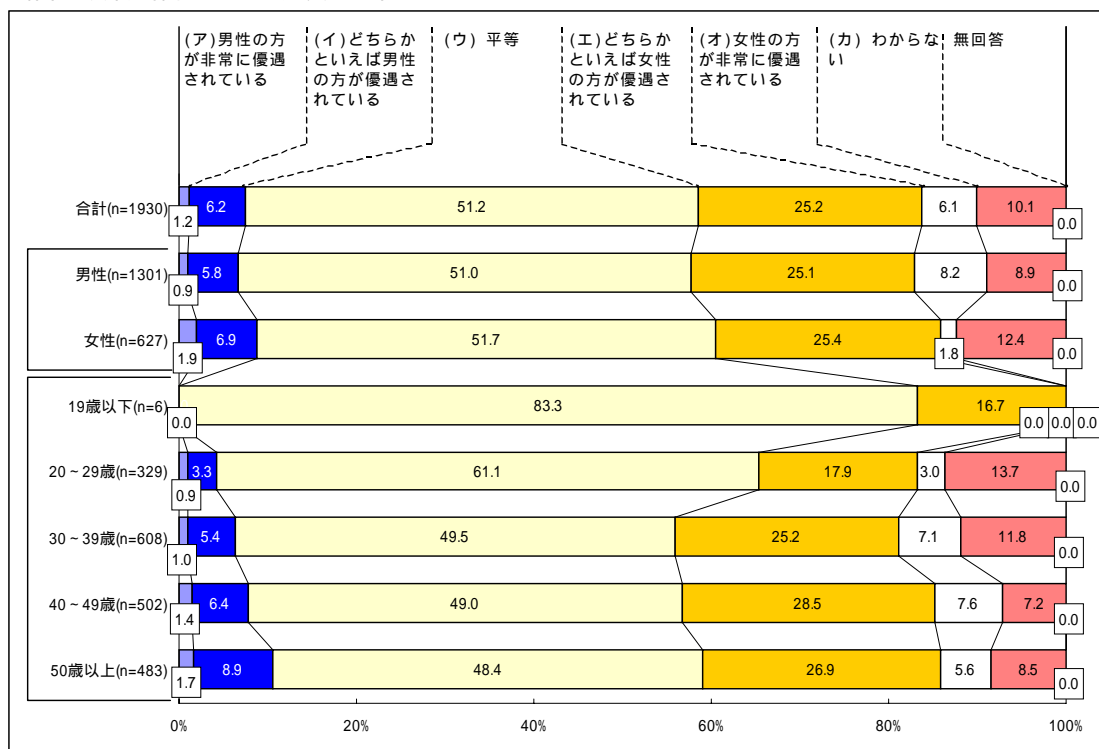
20~29歳、40~49歳で『男性優遇』が6割弱と、他の年代に比べ高い。



## 労働時間（時間外勤務、休日出勤など）

「平等」51.2% > 『女性優遇』31.3% > 『男性優遇』7.4%

### 姫路市の労働時間における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が51.2%と最も高く、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が25.2%、「わからない」が10.1%で続いている。「平等」(51.2%)が、『女性優遇』(31.3%)、『男性優遇』(7.4%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「女性の方が非常に優遇されている」が8.2%、『女性優遇』が33.3%とそれぞれ女性に比べ高い。

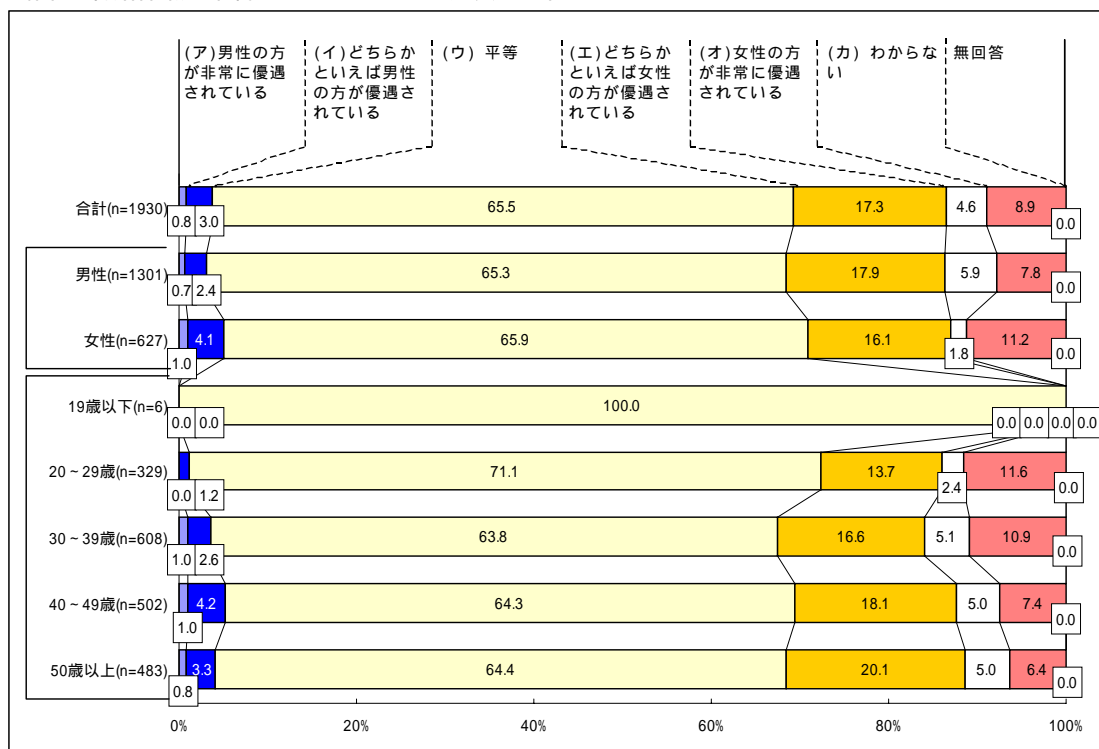
#### 【年齢別】

20～29歳で「平等」が61.1%と他の年代に比べ高く、『女性優遇』が20.9%と他の年代に比べ低い。

## 有給休暇の取得しやすさ

「平等」65.5% > 『女性優遇』21.9% > 『男性優遇』3.8%

### 姫路市の有給休暇の取得しやすさにおける男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が65.5%と最も高く、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が17.3%、「わからない」が8.9%で続いている。「平等」(65.5%)が、『女性優遇』(21.9%)、『男性優遇』(3.8%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

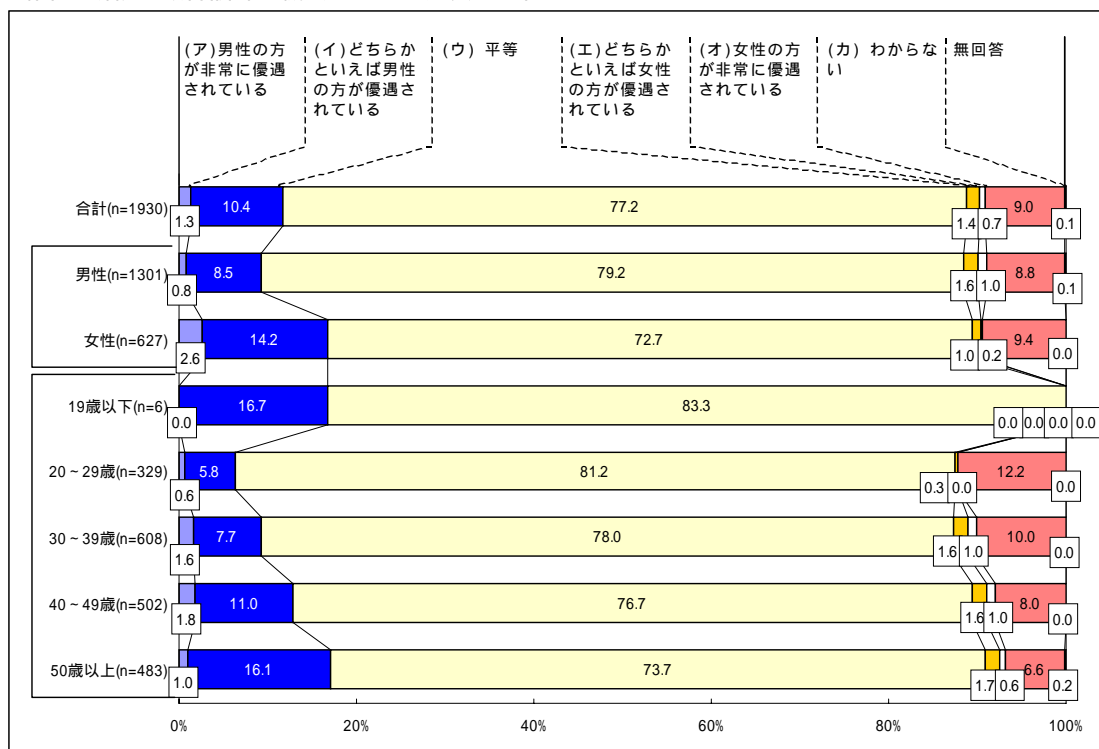
#### 【年齢別】

20～29歳で「平等」が71.1%と、他の年代に比べ高い。

## 研修や教育訓練の機会

「平等」77.2% > 『男性優遇』11.7% > 『女性優遇』2.1%

### 姫路市の研修や教育訓練の機会における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が77.2%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が10.4%、「わからない」が9.0%で続いている。「平等」(77.2%)が、『男性優遇』(11.7%)、『女性優遇』(2.1%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で「平等」が79.2%と、女性(72.7%)に比べ6.5ポイント高い。一方、女性では『男性優遇』が16.8%と、男性(9.3%)に比べ7.5ポイント高い。

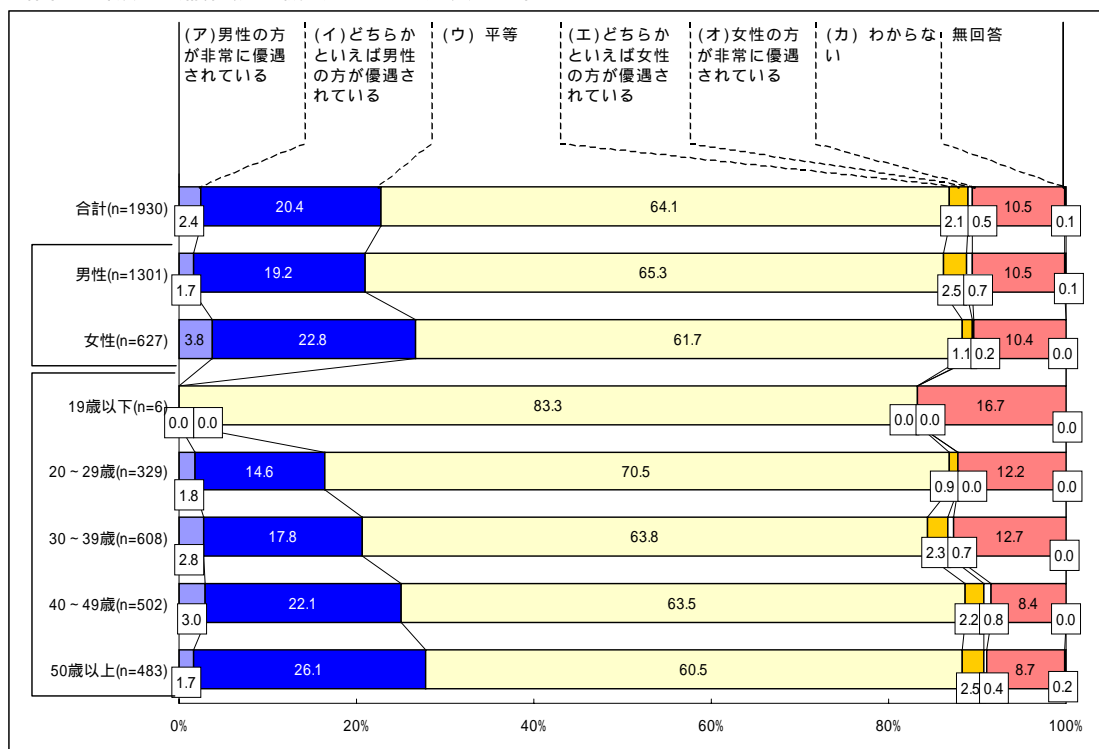
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 出張・会議参加の機会

「平等」64.1% > 『男性優遇』22.8% > 『女性優遇』2.6%

### 姫路市の出張・会議参加の機会における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が64.1%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が20.4%、「わからない」が10.5%で続いている。「平等」(64.1%)が、『男性優遇』(22.8%)、『女性優遇』(2.6%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

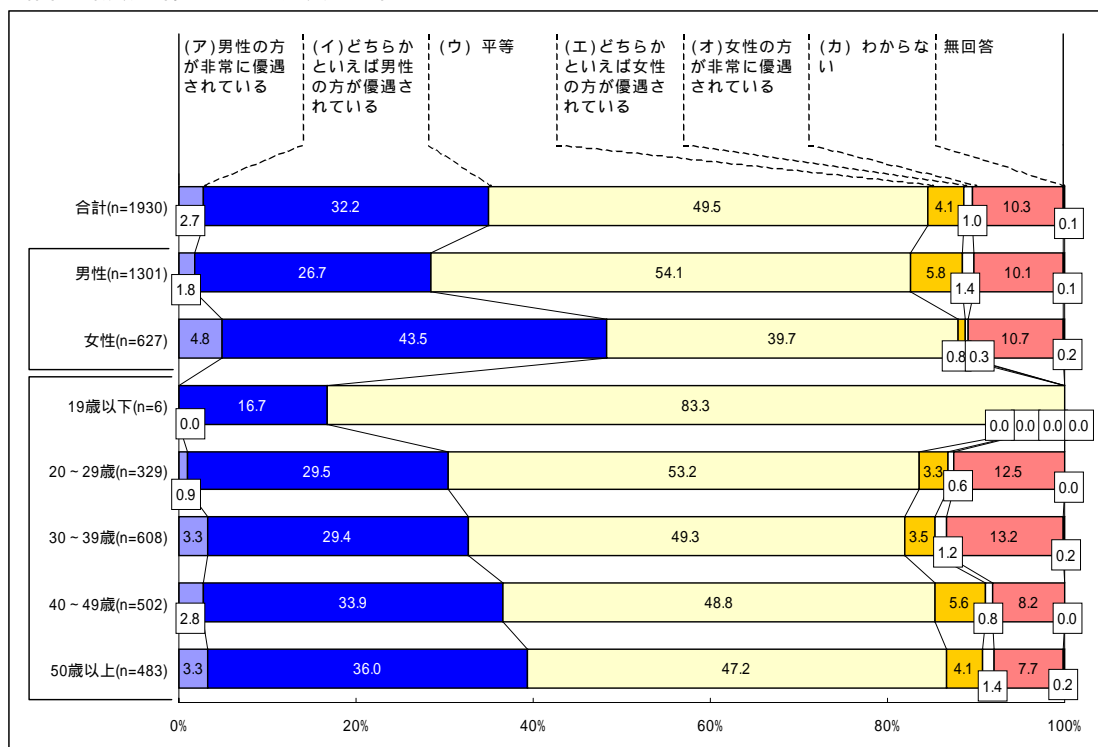
#### 【年齢別】

20～29歳で「平等」が70.5%と、他の年代に比べ高い。

## 全体として

「平等」49.5% > 『男性優遇』34.9% > 『女性優遇』5.1%

### 姫路市の職場全体における男女の地位



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「平等」が49.5%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.2%、「わからない」が10.3%で続いている。「平等」(49.5%)が、『男性優遇』(34.9%)、『女性優遇』(5.1%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

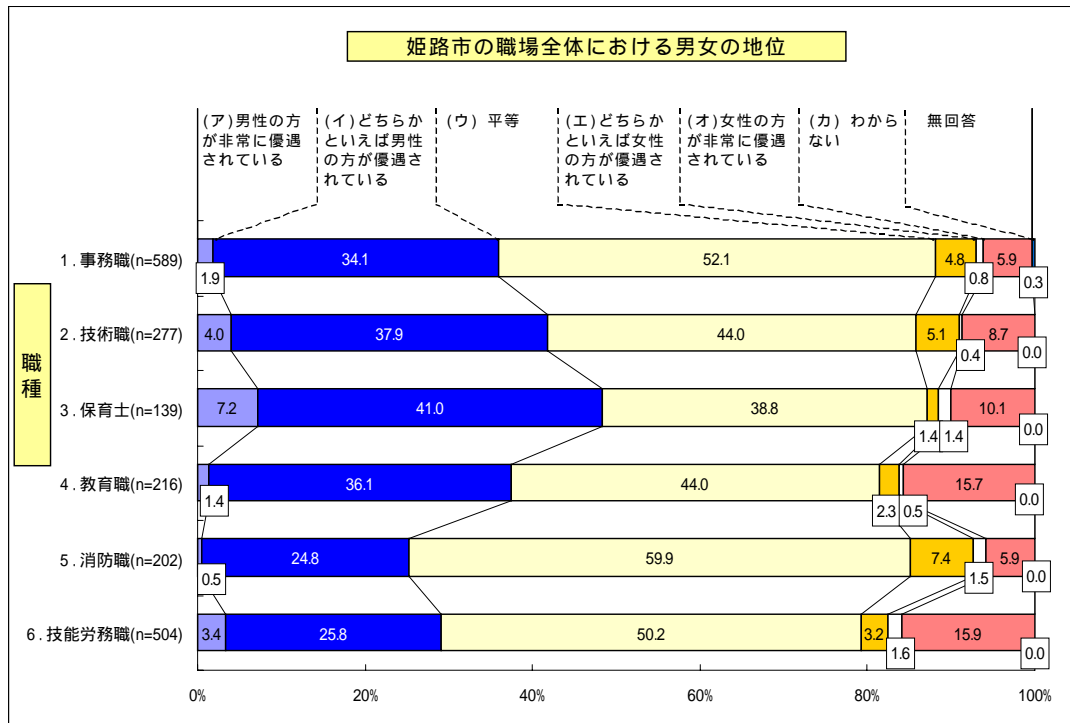
男性で「平等」が54.1%、『女性優遇』が7.2%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が43.5%、『男性優遇』が48.3%とそれぞれ男性に比べ高い。

#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 参考：職種別に見た調査結果

< 職種別 >



「保育士」以外の職種では、「平等」が、『男性優遇』と『女性優遇』を上回っている。特に「事務職」、「消防職」、「技能労務職」では「平等」が5割以上と高い。

「保育士」では『男性優遇』が48.2%と他の職種に比べ高く、「平等」と『女性優遇』を大きく上回っている。

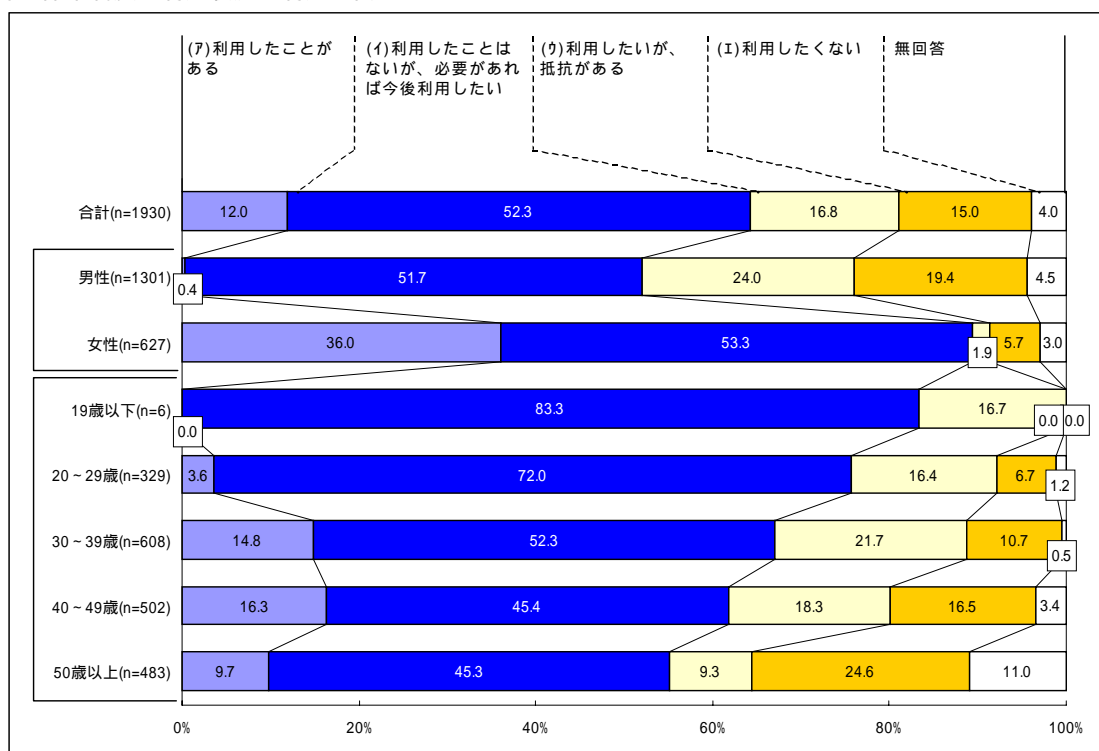
## (5) 育児休業・介護休業制度の利用状況・利用意向

問5 あなたは、育児や介護を行うために、これまでに育児休業・介護休業制度を利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。(1つ選択)

### 育児休業制度

「利用したことがある」男性0.4%、女性36.0%、全体12.0%  
 「利用したいが、抵抗がある」男性24.0%、女性1.9%、全体16.8%

### 育児休業制度の利用状況・利用意向



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「利用したことはないが、必要があれば今後利用したい」が52.3%と最も高く、「利用したいが、抵抗がある」が16.8%、「利用したくない」が15.0%で続いている。「利用したことがある」は12.0% (231人) となっている。

#### 【性別】

男性で「利用したいが、抵抗がある」が24.0%、「利用したくない」が19.4%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「利用したことがある」が36.0%と、男性(0.4%)に比べ35.6ポイント高い。

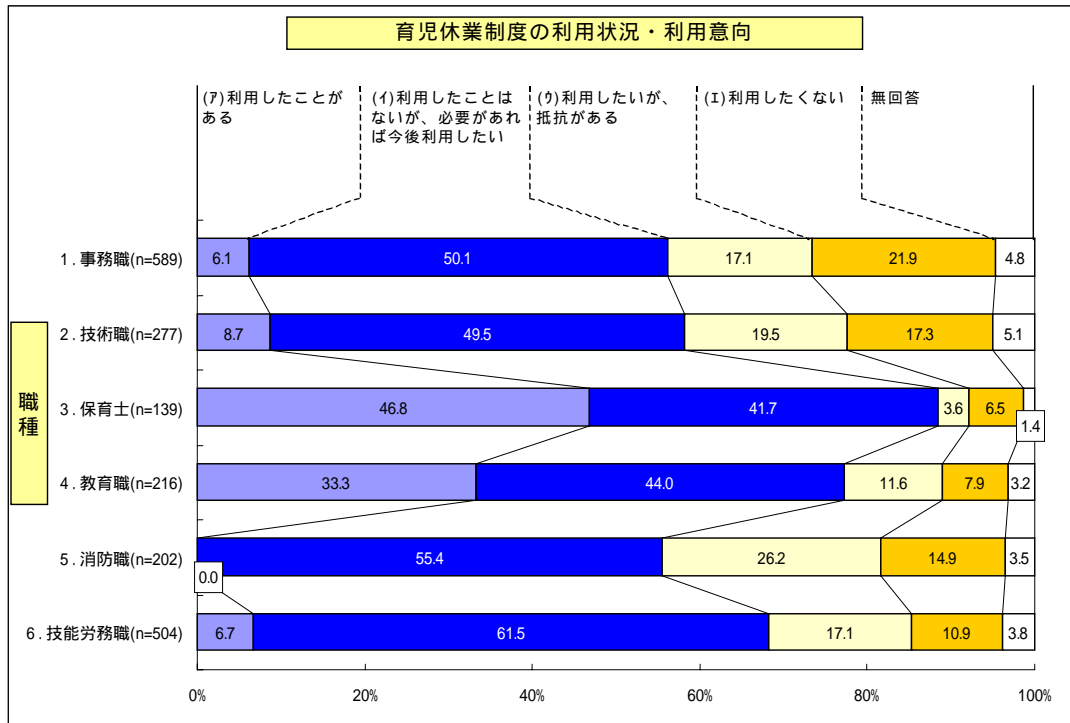
ただし、調査時点(平成17年8月)の姫路市における男性職員の育児休業取得者は実質いない。本調査で「利用したことがある」と回答した人は、出産時の特別休暇や年次休暇を育児休業と思い違いましたことなどが想定される。

#### 【年齢別】

20～29歳で「利用したことはないが、必要があれば今後利用したい」が72.0%と、他の年代に比べ高い。また、50歳以上で「利用したくない」が24.6%と、他の年代に比べ高い。

## 参考：職種別にみた調査結果

< 職種別 >



「保育士」、「教育職」で「利用したことがある」が3割以上と、他の職種に比べ特に高い。また、「技能労務職」で「利用したことはないが、必要があれば今後利用したい」が61.5%と、他の職種に比べ高い。「消防職」では「利用したいが抵抗がある」が26.2%と、他の職種に比べ高い。

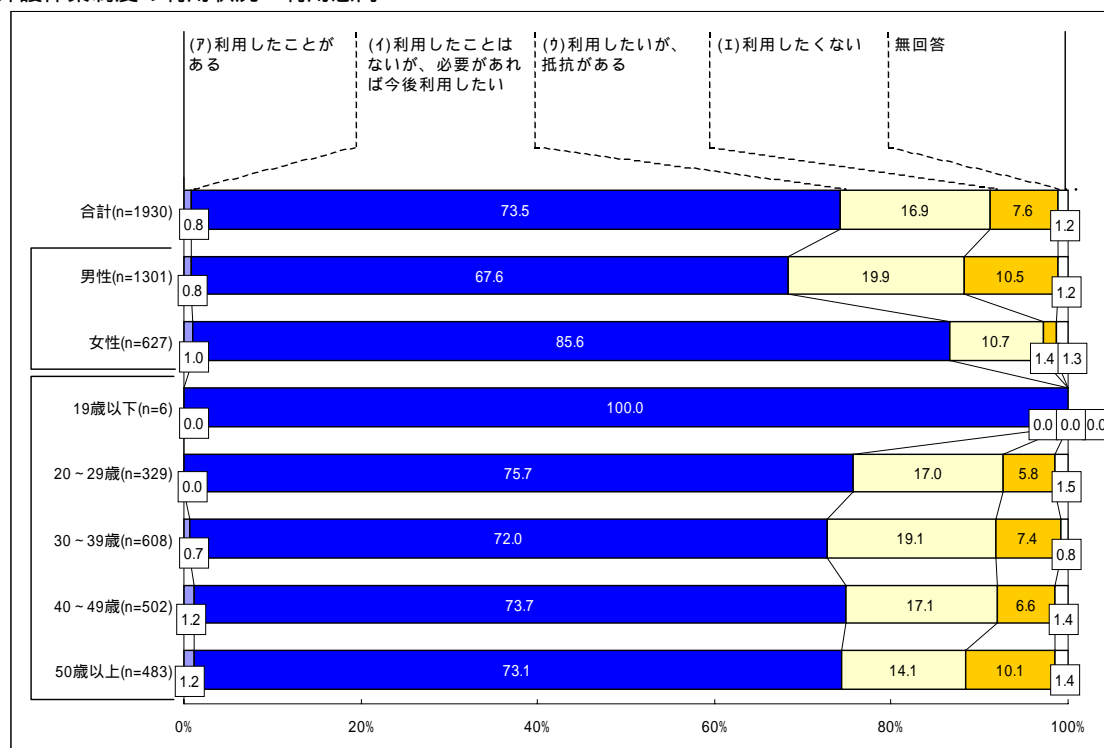


## 介護休業制度

「利用したことがある」男性0.8%、女性1.0%、全体0.8%

「利用したいが、抵抗がある」男性19.9%、女性10.7%、全体16.9%

### 介護休業制度の利用状況・利用意向



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「利用したことはないが、必要があれば今後利用したい」が73.5%と最も高く、「利用したいが、抵抗がある」が16.9%、「利用したくない」が7.6%で続いている。「利用したことがある」は0.8%（16人）にとどまっている。

#### 【性別】

男性で「利用したいが、抵抗がある」が19.9%、「利用したくない」が10.5%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「利用したことはないが、必要があれば今後利用したい」が85.6%と、男性（67.6%）に比べ18.0ポイント高い。

ただし、調査時点（平成17年8月）の姫路市における男性職員の介護休業取得者は実質いない。本調査で「利用したことがある」と回答した人は、小学校就学前の子どもの看護等の特別休暇や年次休暇を介護休業と間違いしたことなどが想定される。

#### 【年齢別】

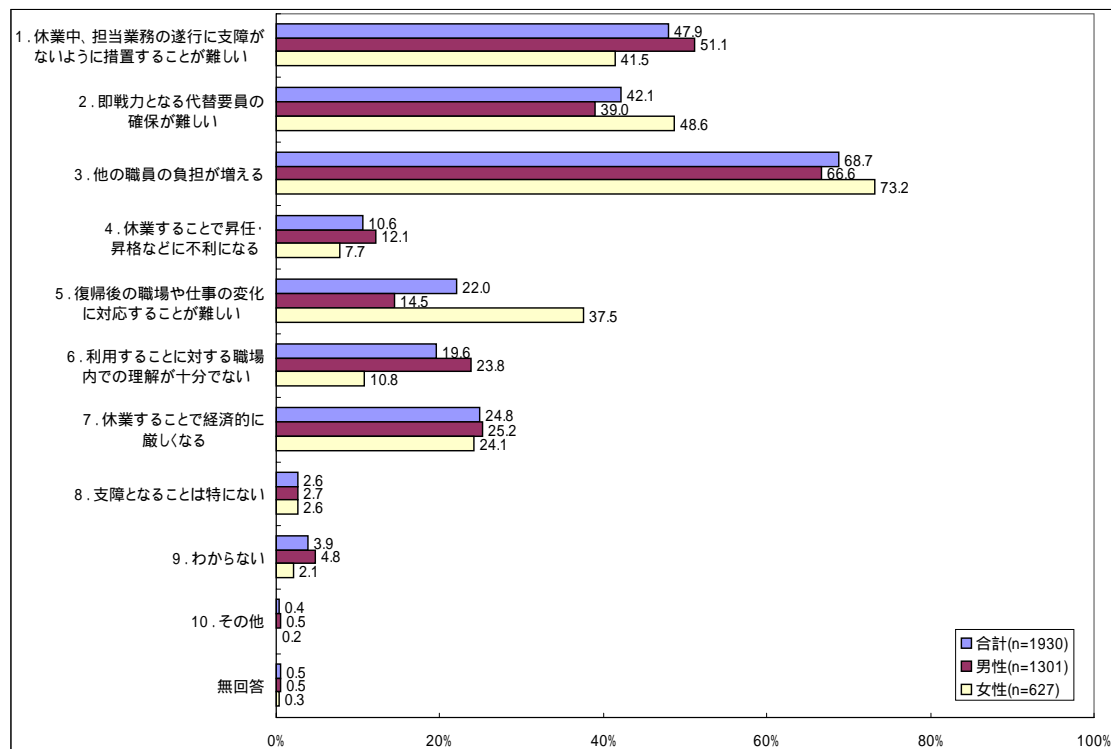
特に大きな差異は認められない。

## (6) 育児休業・介護休業制度を利用する上で支障となること

問6 あなたは、姫路市において、育児休業・介護休業制度を利用しようとする上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。(3つまで選択可)

「他の職員の負担が増える」が68.7%でトップ

### 育児休業・介護休業制度を利用する上で支障となること



(全体・性別)

#### 【全体】

「他の職員の負担が増える」が68.7%と最も高く、「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」が47.9%、「即戦力となる代替要員の確保が難しい」が42.1%で続いている。「支障となることは特にはない」は2.6%にとどまっている。

#### 【性別】

男性で「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」が51.1%、「利用することに対する職場内での理解が十分でない」が23.8%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「即戦力となる代替要員の確保が難しい」が48.6%、「他の職員の負担が増える」が73.2%、「復帰後の職場や仕事の変化に対応することが難しい」が37.5%とそれぞれ男性に比べ高い。

育児休業・介護休業制度を利用する上で支障となること

(%)

	n	1 休業中、担当業務の遂行に 支障がないように措置す ることが難しい	2 即戦力となる代替要員の 確保が難しい	3 他の職員の負担が増える	4 休業することで昇任・昇格 などに不利になる	5 復帰後の職場や仕事の変 化に対応することが難し い	6 利用することに対する職 場内での理解が十分でな い	7 休業することで経済的に 厳しくなる	8 支障となることは特にな い	9 わからない
合計	1930	47.9	42.1	68.7	10.6	22.0	19.6	24.8	2.6	3.9
(19歳以下)	(6)	(66.7)	(16.7)	(100.0)	(0.0)	(50.0)	(16.7)	(33.3)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	54.4	35.3	72.3	12.5	31.6	16.7	21.9	1.2	3.3
30～39歳	608	42.8	40.1	68.3	12.5	27.0	21.7	30.8	2.0	3.5
40～49歳	502	50.8	43.2	66.9	10.0	16.9	20.5	27.5	1.8	4.0
50歳以上	483	47.0	48.7	68.3	7.9	14.1	18.0	16.6	5.4	4.8

	n	10 その他	無 回 答
合計	1930	0.4	0.5
(19歳以下)	(6)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	0.3	0.0
30～39歳	608	0.7	0.3
40～49歳	502	0.2	1.0
50歳以上	483	0.4	0.4

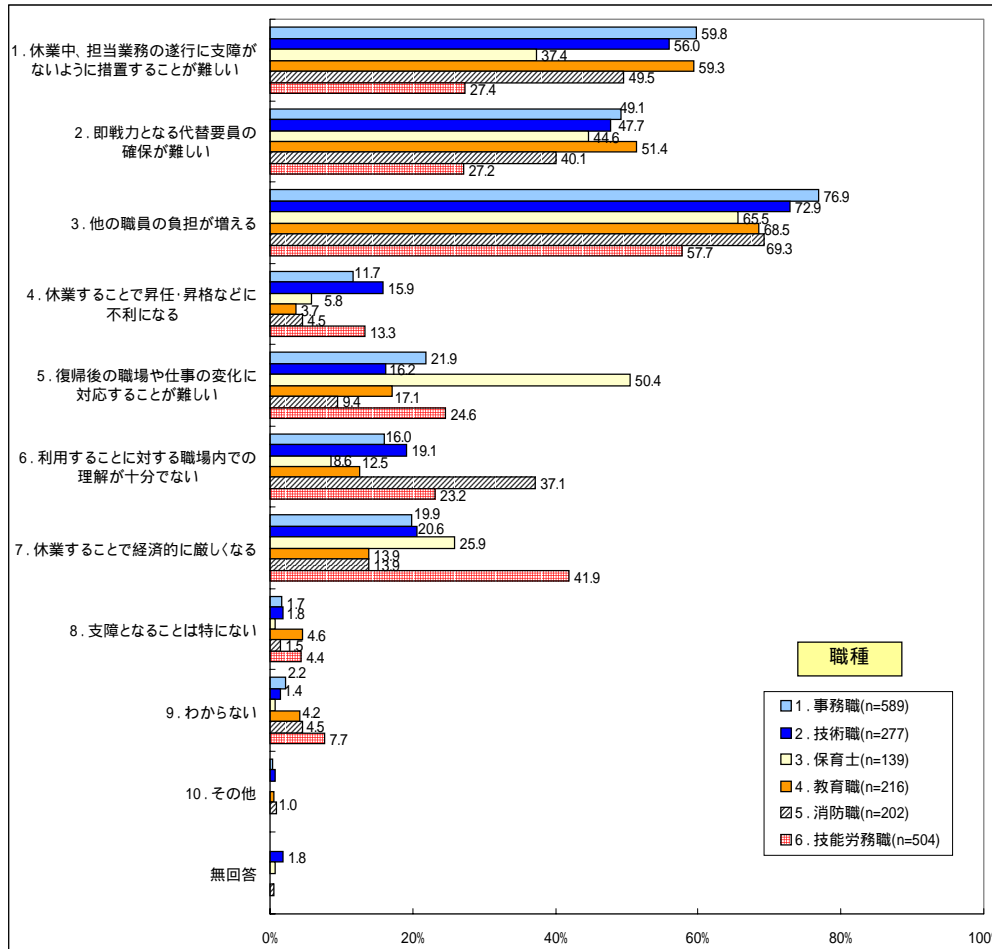
(全体・年齢別)

【年齢別】

20～39歳で「復帰後の職場や仕事の変化に対応することが難しい」が3割前後と、他の年代に比べ高い。

## 参考：職種別にみた調査結果

< 職種別 >

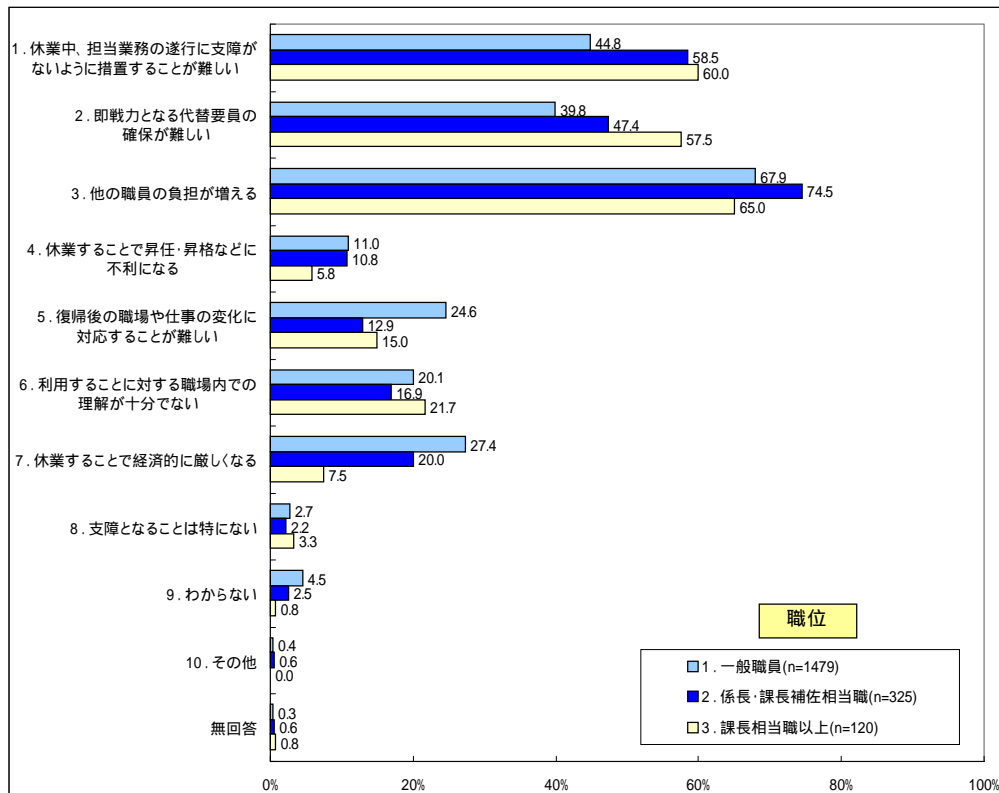


このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

「事務職」、「技術職」、「教育職」では「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」が5割以上、「保育士」では「復帰後の職場や仕事の変化に対応することが難しい」が50.4%、「消防職」では「利用することに対する職場内での理解が十分でない」が37.1%、「技能労務職」では「休業することで経済的に厳しくなる」が41.9%とそれぞれ他の職種に比べ高い。

## 参考：職位別にみた調査結果

< 職位別 >



「一般職員」で「復帰後の職場や仕事の変化に対応することが難しい」が24.6%と、他の職位に比べ高い。「係長・課長補佐相当職」で「ほかの職員の負担が増える」が74.5%と、他の職位に比べ高い。

また、「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」、「即戦力となる代替要員の確保が難しい」は職位があがるほど高くなる傾向が認められる。一方、「休業することで経済的に厳しくなる」は職位がさがるほど高くなる傾向が認められる。

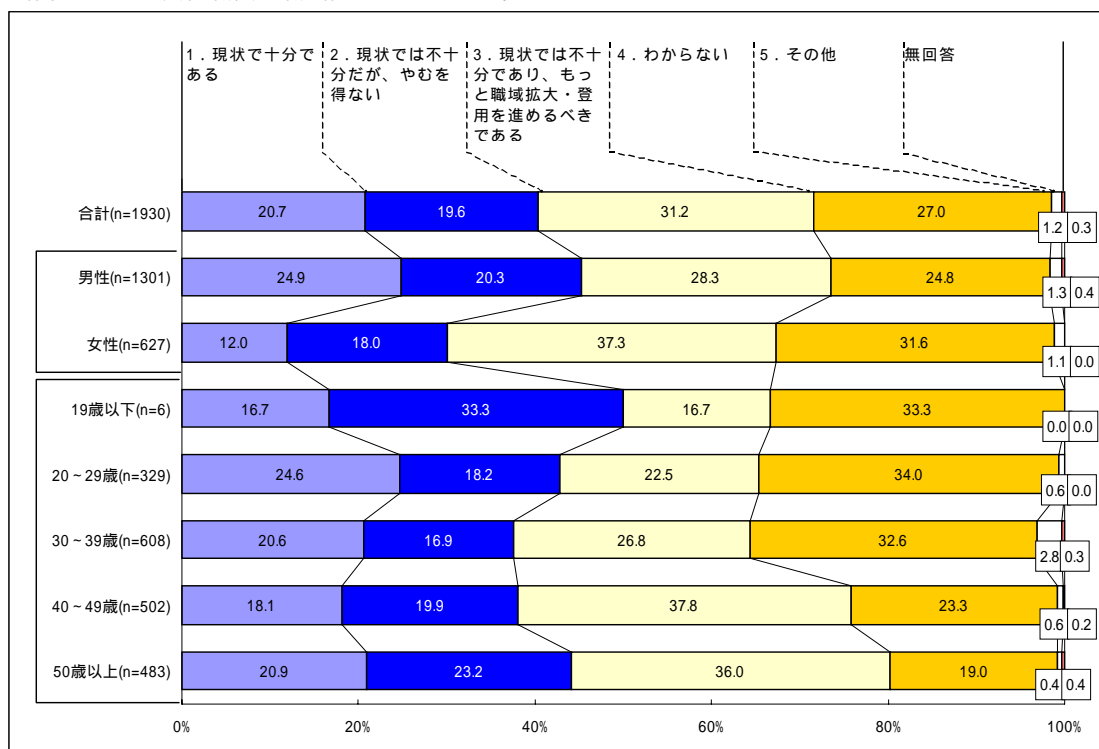
## (7) 姫路市における女性職員の職域拡大・登用の現状

問7 あなたは、姫路市における女性職員の職域拡大・登用の現状についてどのように思いますか。(1つ選択)

「現状では不十分だが、やむを得ない」と「現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用を進めるべきである」を合わせて『現状では不十分である』とする。

『現状では不十分である』50.8% > 「現状で十分である」20.7%

姫路市における女性職員の職域拡大・登用の現状



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用を進めるべきである」が31.2%、「わからない」が27.0%と高く、「現状で十分である」が20.7%で続いている。『現状では不十分である』(50.8%)が、「現状で十分である」(20.7%)を大きく上回っている。

### 【性別】

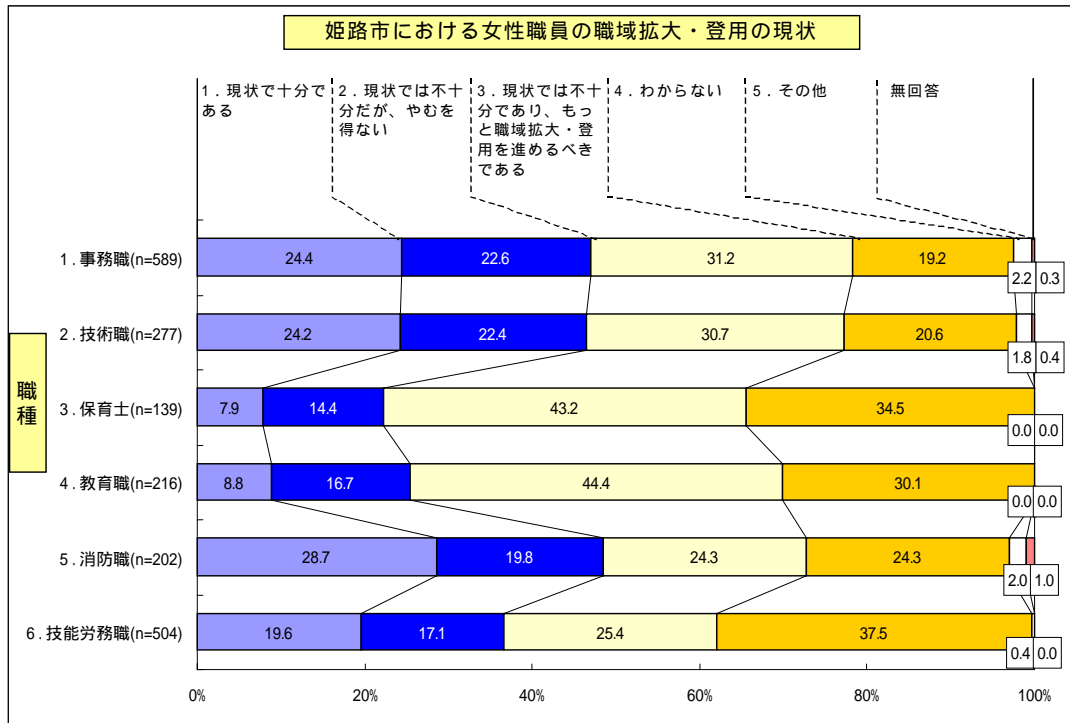
男性で「現状で十分である」が24.9%と、女性(12.0%)に比べ12.9ポイント高い。一方、女性では「現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用を進めるべきである」が37.3%、「現状では不十分である」が55.3%、「わからない」が31.6%とそれぞれ男性に比べ高い。

### 【年齢別】

20~39歳で「わからない」が3割以上と、他の年代に比べ高い。また、40歳以上では「現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用を進めるべきである」が35%以上と、他の年代に比べ高い。

## 参考：職種別にみた調査結果

< 職種別 >



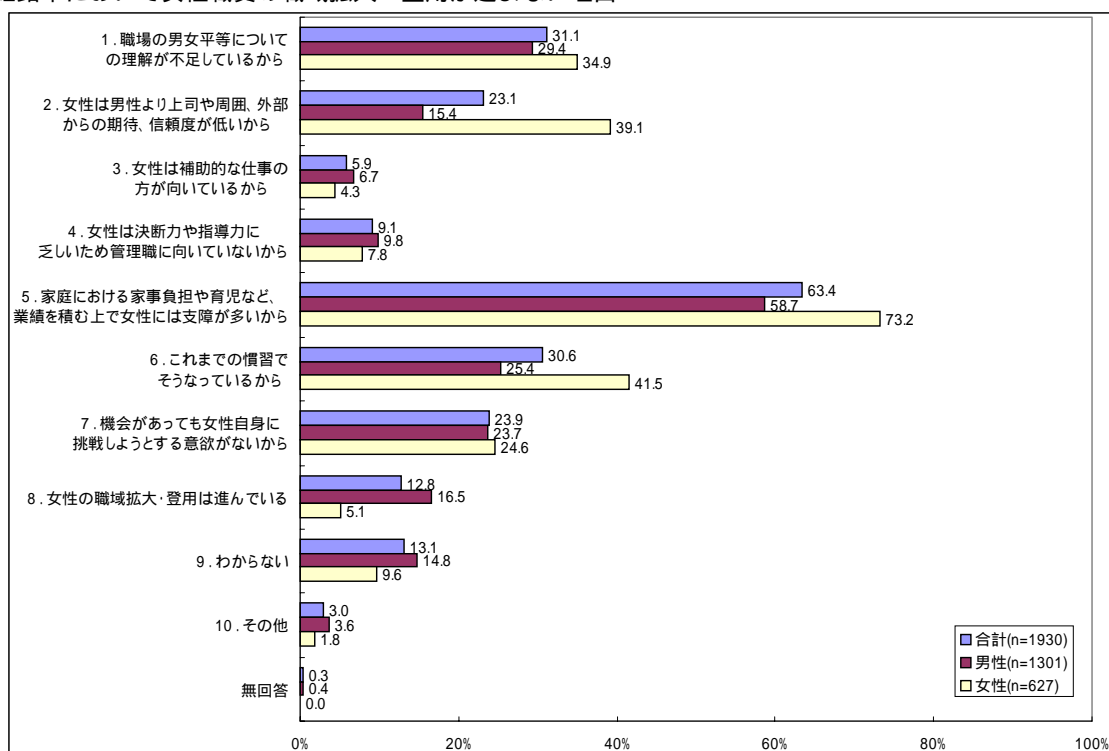
「事務職」、「技術職」、「消防職」で「現状で十分である」が2割以上と、他の職種に比べ特に高い。「保育士」、「教育職」では「現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用を進めるべきである」が4割以上と、他の職種に比べ特に高い。

## (8) 姫路市において女性職員の職域拡大・登用が進まない理由

問8 あなたは、姫路市において、女性職員の職域拡大・登用が進まないのはなぜだと思いますか。(いくつでも選択可)

「家事負担や育児など、業績を積む上で女性には支障が多いから」が63.4%でトップ

### 姫路市において女性職員の職域拡大・登用が進まない理由



(全体・性別)

#### 【全体】

「家庭における家事負担や育児など、業績を積む上で女性には支障が多いから」が63.4%と最も高く、「職場の男女平等についての理解が不足しているから」が31.1%、「これまでの慣習でそうになっているから」が30.6%で続いている。「女性の職域拡大・登用は進んでいる」は12.8%となっている。

#### 【性別】

男性で「女性の職域拡大・登用は進んでいる」が16.5%、「わからない」が14.8%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「女性は男性より上司や周囲、外部からの期待、信頼度が低いから」が39.1%、「家庭における家事負担や育児など、業績を積む上で女性には支障が多いから」が73.2%、「これまでの慣習でそうになっているから」が41.5%とそれぞれ男性に比べ高い。



姫路市において女性職員の職域拡大・登用が進まない理由

(%)

	n	1 職場の男女平等について の理解が不足しているか ら	2 女性は男性より上司や周 囲、外部からの期待、信頼 度が低いから	3 女性は補助的な仕事の方 が向いているから	4 女性は決断力や指導力に 乏しいため管理職に向い ていないから	5 家庭における家事負担や 育児など、業績を積み上で 女性には支障が多いから	6 これまでの慣習でそうな っているから	7 機会があっても女性自身 に挑戦しようとする意欲 がないから	8 女性の職域拡大・登用は進 んでいる
合計	1930	31.1	23.1	5.9	9.1	63.4	30.6	23.9	12.8
(19歳以下)	(6)	(0.0)	(16.7)	(0.0)	(0.0)	(50.0)	(50.0)	(16.7)	(16.7)
20～29歳	329	27.7	19.5	5.8	3.0	65.3	37.1	15.5	10.6
30～39歳	608	28.3	22.9	4.6	7.2	62.0	32.4	21.9	9.5
40～49歳	502	34.1	20.7	4.4	9.2	66.1	32.1	26.7	14.5
50歳以上	483	34.6	28.4	9.3	15.7	61.3	22.2	29.6	16.6

	n	9 わからない	10 その他	無回答
合計	1930	13.1	3.0	0.3
(19歳以下)	(6)	(33.3)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	11.2	2.1	0.3
30～39歳	608	16.9	3.8	0.0
40～49歳	502	11.4	2.8	0.6
50歳以上	483	11.2	2.9	0.2

(全体・年齢別)

【年齢別】

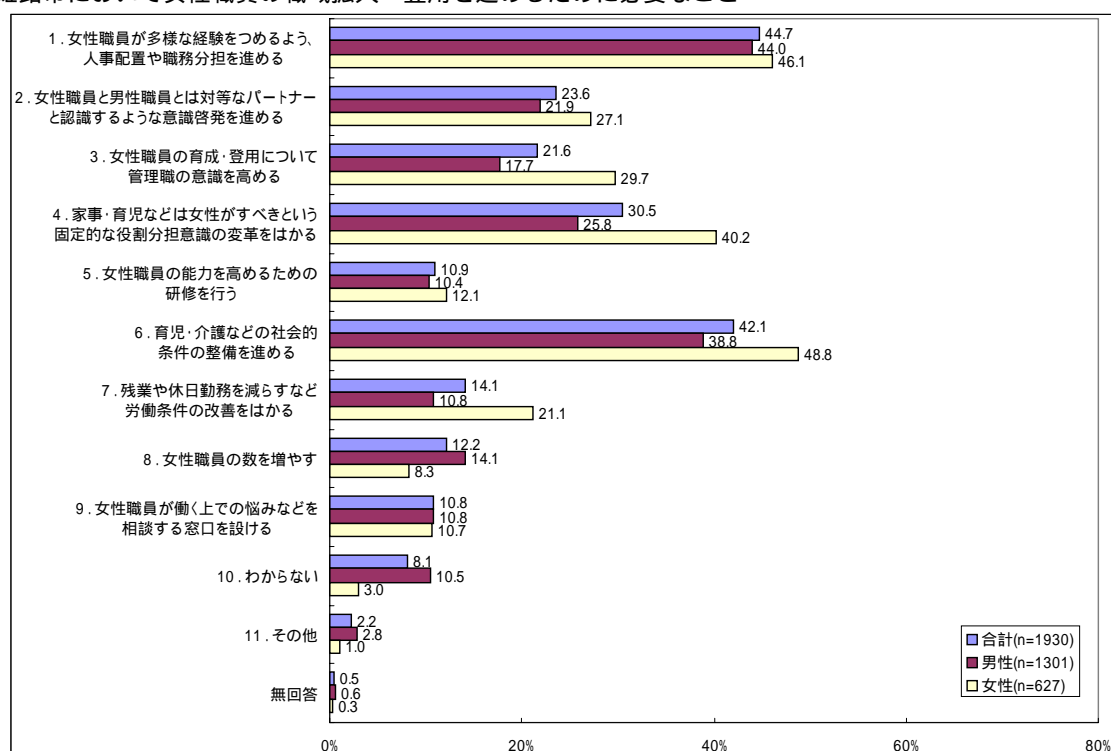
50歳以上で「女性は決断力や指導力に乏しいため管理職に向いていないから」が15.7%と他の年代に比べ高く、「これまでの慣習でそうなっているから」が22.2%と他の年代に比べ低い。また、20～29歳では「機会があっても女性自身に挑戦しようとする意欲がないから」が15.5%と、他の年代に比べ低い。

## (9) 姫路市において女性職員の職域拡大・登用を進めるために必要なこと

問9 あなたは、姫路市において、女性職員の職域拡大・登用を進めるにはどのようにしたらよいと思いますか。(3つまで選択可)

「女性職員が多様な経験をつめるよう、人事配置や職務分担を進める」、  
「育児・介護などの社会的条件の整備を進める」が4割以上と高い

### 姫路市において女性職員の職域拡大・登用を進めるために必要なこと



(全体・性別)

#### 【全体】

「女性職員が多様な経験をつめるよう、人事配置や職務分担を進める」が44.7%、「育児・介護などの社会的条件の整備を進める」が42.1%と高く、「家事・育児などは女性がすべきという固定的な役割分担意識の変革をはかる」が30.5%で続いている。

#### 【性別】

男性で「わからない」が10.5%と、女性(3.0%)に比べ7.5ポイント高い。一方、女性では「女性職員の育成・登用について管理職の意識を高める」が29.7%、「家事・育児などは女性がすべきという固定的な役割分担意識の変革をはかる」が40.2%、「育児・介護などの社会的条件の整備を進める」が48.8%、「残業や休日勤務を減らすなど労働条件の改善をはかる」が21.1%とそれぞれ男性に比べ高い。

姫路市において女性職員の職域拡大・登用を進めるために必要なこと

(%)

	n	1 女性職員が多様な経験をつめるよう、人事配置や職務分担任を進める	2 女性職員と男性職員とは対等なパートナーと認識するよう意識啓発を進める	3 女性職員の育成・登用について管理職の意識を高める	4 家事・育児などは女性がすべきという固定的な役割分担意識の变革をはかる	5 女性職員の能力を高めるための研修を行う	6 育児・介護などの社会的条件の整備を進める	7 残業や休日勤務を減らすなど労働条件の改善をはかる	8 女性職員の数を増やす
合計	1930	44.7	23.6	21.6	30.5	10.9	42.1	14.1	12.2
(19歳以下)	(6)	(50.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(33.3)	(50.0)	(16.7)	(50.0)
20～29歳	329	37.7	23.7	21.6	35.9	8.8	49.5	17.3	16.4
30～39歳	608	39.3	21.4	19.7	28.9	6.9	41.3	13.0	13.7
40～49歳	502	50.0	22.7	22.3	31.9	11.4	41.6	16.3	11.0
50歳以上	483	50.7	27.5	23.4	27.3	16.8	38.3	11.2	8.5

	n	9 女性職員が働く上で の悩みなどを相談する 窓口を設ける	10 わからない	11 その他	無回答
合計	1930	10.8	8.1	2.2	0.5
(19歳以下)	(6)	(50.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	11.2	5.8	1.5	0.0
30～39歳	608	11.0	11.7	3.6	0.3
40～49歳	502	10.0	7.4	0.8	0.4
50歳以上	483	10.6	5.8	2.3	1.2

(全体・年齢別)

【年齢別】

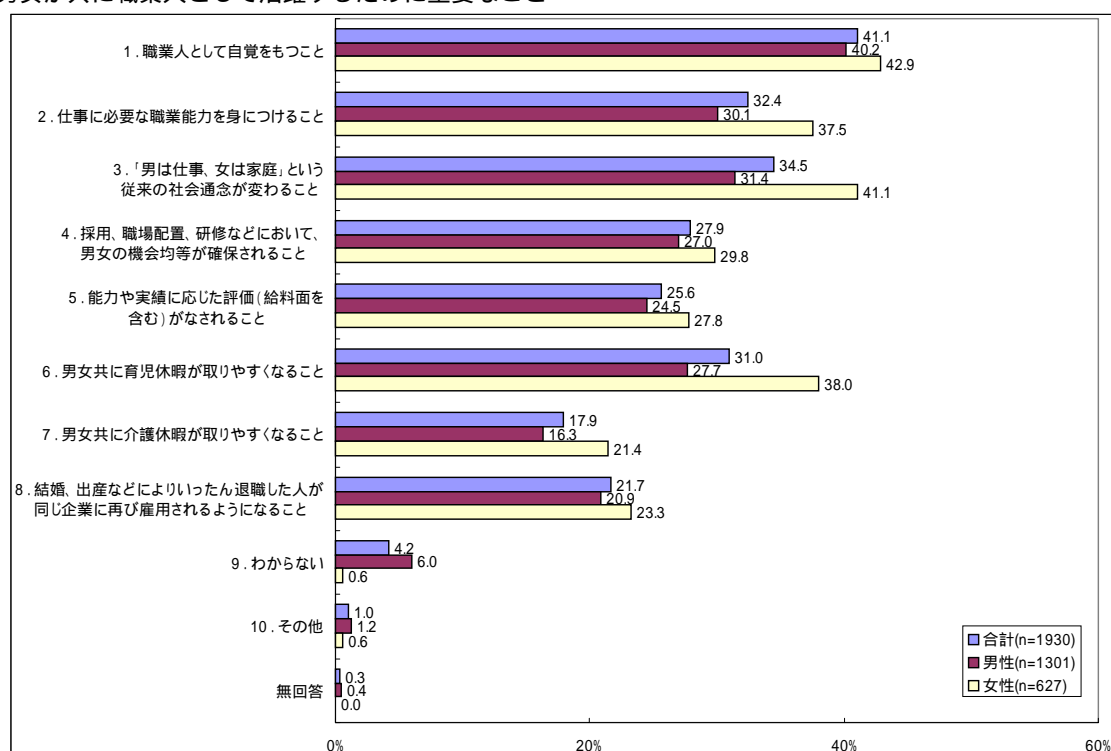
20～29歳で「育児・介護などの社会的条件の整備を進める」が49.5%と、他の年代に比べ高い。また、40歳以上では「女性職員が多様な経験をつめるよう、人事配置や職務分担任を進める」が5割以上と、他の年代に比べ高い。

## (10) 男女が共に職業人として活躍するために重要なこと

問10 あなたは一般的に、男女が共に職業人として職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためには、どのようなことが重要だと思いますか。  
(3つまで選択可)

「職業人として自覚をもつこと」が41.1%でトップ

### 男女が共に職業人として活躍するために重要なこと



(全体・性別)

#### 【全体】

「職業人として自覚を持つこと」が41.1%と最も高く、「『男は仕事、女は家庭』という従来の社会通念が変わること」が34.5%、「仕事に必要な職業能力を身につけること」が32.4%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「『男は仕事、女は家庭』という従来の社会通念が変わること」、「採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること」が市民に比べより高く、「仕事に必要な職業能力を身につけること」、「能力や実績に応じた評価(給料面を含む)がなされること」、「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」が市民に比べより低い。

#### 【性別】

女性で「仕事に必要な職業能力を身につけること」が37.5%、「『男は仕事、女は家庭』という従来の社会通念が変わること」が41.1%、「男女共に育児休暇が取りやすくなること」が38.0%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性では「『男は仕事、女は家庭』という従来の社会通念が変わること」、「採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること」が市民に比べより高く、「仕事に必要な職業能力を身につけること」、「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」、「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」が市民に比べより低い。また、女性では、「職業人として自覚をもつこと」、「『男は仕事、女は家庭』という従来の社会通念が変わること」、「採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること」が市民に比べより高く、「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」が市民に比べより低い。

男女が共に職業人として活躍するために重要なこと

(%)

	n	1 職業人として自覚をもつこと	2 仕事に必要な職業能力を身につけること	3 「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること	4 採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること	5 能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること	6 男女共に育児休暇が取りやすくなること	7 男女共に介護休暇が取りやすくなること	8 結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること
合計	1930	41.1	32.4	34.5	27.9	25.6	31.0	17.9	21.7
(19歳以下)	(6)	(50.0)	(16.7)	(66.7)	(0.0)	(33.3)	(33.3)	(0.0)	(50.0)
20～29歳	329	32.8	28.6	38.9	24.3	19.8	46.5	21.3	28.3
30～39歳	608	41.8	29.9	34.9	24.5	21.5	32.6	16.4	22.2
40～49歳	502	38.2	30.5	35.9	32.1	30.5	27.5	20.7	21.3
50歳以上	483	48.7	40.6	29.4	30.6	29.4	22.2	14.9	16.6

	n	9 わからない	10 その他	無回答
合計	1930	4.2	1.0	0.3
(19歳以下)	(6)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	4.0	0.6	0.0
30～39歳	608	6.3	1.8	0.3
40～49歳	502	4.2	0.8	0.2
50歳以上	483	2.1	0.6	0.4

(全体・年齢別)

#### 【年齢別】

20～29歳で「男女共に育児休暇が取りやすくなること」が46.5%、「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」が28.3%とそれぞれ他の年代に比べ高い。40歳以上で「採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること」と「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」が3割前後とそれぞれ他の年代に比べ高い。また、50歳以上では「職業人として自覚をもつこと」が48.7%、「仕事に必要な職業能力を身につけること」が40.6%とそれぞれ他の年代に比べ高い。

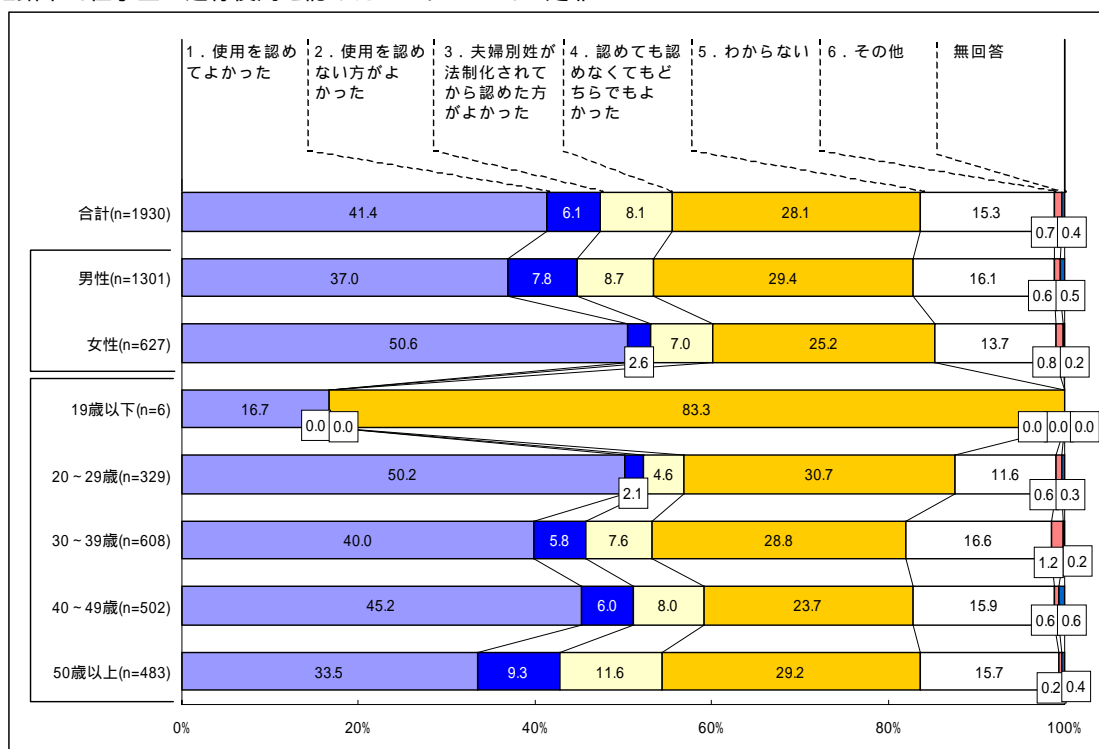
## (11) 姫路市で仕事上の通称使用を認めたことについての是非

問11 今年4月から姫路市では、結婚で改姓した場合など、仕事上の旧姓使用(通称使用)を認めています。あなたはこのことについてどのように思いますか。  
**(1つ選択)**

「使用を認めない方がよかった」と「夫婦別姓が法制化されてから認めたほうがよかった」を合わせて『(現時点では)認めない方がよかった』とする。

「認めてよかった」41.4% > 『(現時点では)認めない方がよかった』14.2%

### 姫路市で仕事上の通称使用を認めたことについての是非



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「使用を認めてよかった」が41.4%と最も高く、「認めても認めなくてもどちらでもよかった」が28.1%、「夫婦別姓が法制化されてから認めた方がよかった」が8.1%で続いている。「使用を認めてよかった」(41.4%)が、『(現時点では)認めない方がよかった』(14.2%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

男性で『(現時点では)認めない方がよかった』が16.5%と、女性(9.6%)に比べ6.9ポイント高い。一方、女性では「使用を認めてよかった」が50.6%と、男性(37.0%)に比べ13.6ポイント高い。

#### 【年齢別】

50歳以上で「使用を認めてよかった」が33.5%と、他の年代に比べ低い。また、『(現時点では)認めない方がよかった』は年代があがるほど高くなる傾向が認められる。

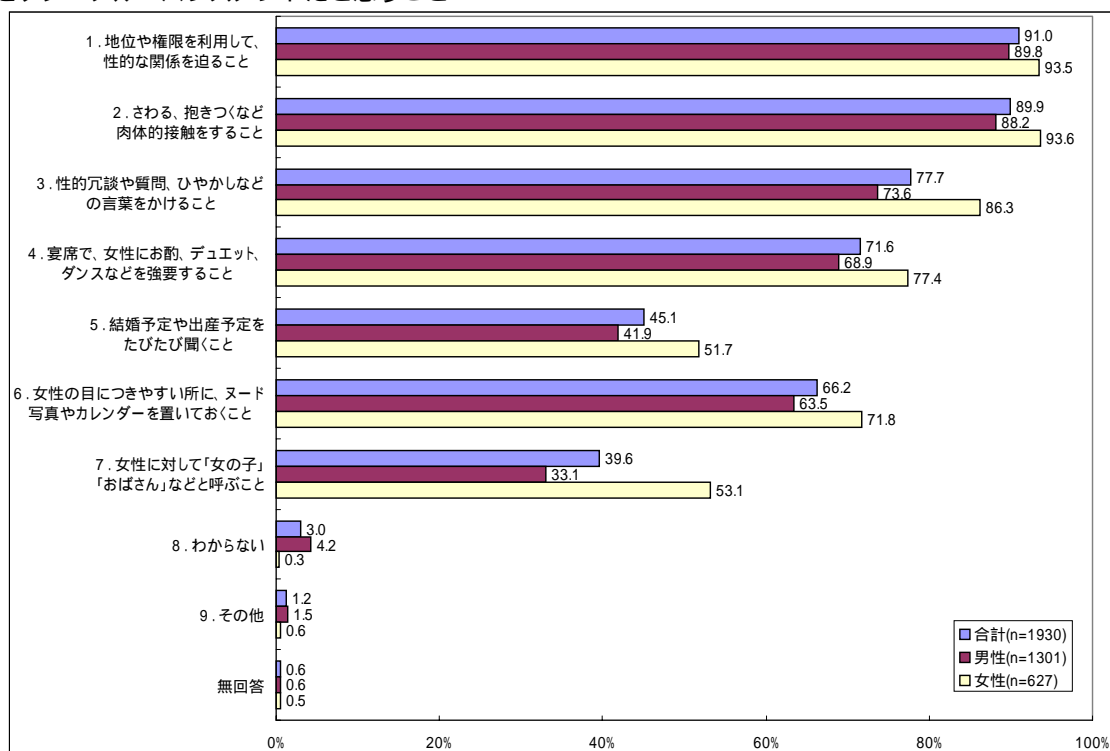
### 3 人権について

#### (12) セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

問12 セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)が最近問題になっていますが、あなたが、セクシュアル・ハラスメントだと思うものはどれですか。(いくつでも選択可)

「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」、  
「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」が9割前後と高い

#### セクシュアル・ハラスメントだと思うこと



(全体・性別)

#### 【全体】

「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」が91.0%、「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」が89.9%と高く、「性的冗談や質問、ひやかしの言葉をかけること」が77.7%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「その他」以外のすべての行為について、セクシュアル・ハラスメントであるという認識が市民に比べより高い。

#### 【性別】

女性で「性的冗談や質問、ひやかしの言葉をかけること」が86.3%、「宴席で、女性にお酌、デュエット、ダンスなどを強要すること」が77.4%、「結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと」が51.7%、「女性の目につきやすい所に、ヌード写真やカレンダーを置いておくこと」が71.8%、「女性に対して『女の子』『おばさん』などと呼ぶこと」が53.1%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「その他」以外のすべての行為について、セクシュアル・ハラスメントであるという認識が市民に比べより高い。

セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

(%)

	n	1 地位や権限を利用して、性的 な関係を迫ること	2 さわる、抱きつくなど肉体的 接触をすること	3 性的冗談や質問、ひやかしな どの言葉をかけること	4 宴席で、女性にお酌、デュエ ット、ダンスなどを強要する こと	5 結婚予定や出産予定をたび たび聞くこと	6 女性の目につきやすい所に、 ヌード写真やカレンダーを 置いておくこと	7 女性に対して「女の子」「おば さん」などと呼ぶこと	8 わからない
合計	1930	91.0	89.9	77.7	71.6	45.1	66.2	39.6	3.0
(19歳以下)	(6)	(83.3)	(100.0)	(66.7)	(33.3)	(0.0)	(33.3)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	92.7	93.9	78.1	71.4	47.1	65.7	33.1	1.8
30～39歳	608	90.5	90.5	73.2	69.9	41.9	63.0	34.7	4.4
40～49歳	502	93.6	90.4	82.3	77.9	48.8	71.1	45.2	2.2
50歳以上	483	87.8	86.1	78.7	67.9	44.3	65.8	44.9	2.7

	n	9 その他	無回答
合計	1930	1.2	0.6
(19歳以下)	(6)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	0.9	0.0
30～39歳	608	1.8	0.3
40～49歳	502	1.4	0.2
50歳以上	483	0.6	1.7

(全体・年齢別)

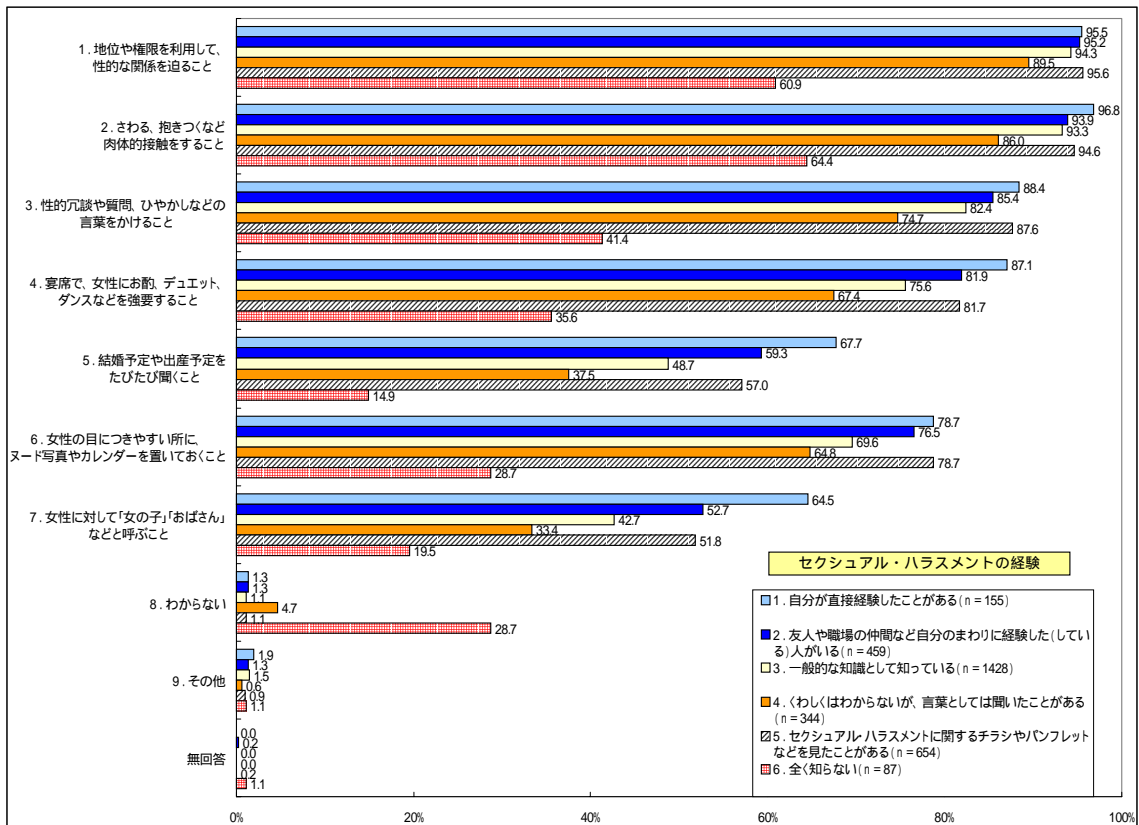
【年齢別】

40～49歳で「宴席で、女性にお酌、デュエット、ダンスなどを強要すること」が77.9%と、他の年代に比べ高い。また、40歳以上で「女性に対して『女の子』『おばさん』などと呼ぶこと」が45%前後と、他の年代に比べ高い。



## 参考：セクシュアル・ハラスメントの経験別にみた調査結果

### <セクシュアル・ハラスメントの経験別>



「(セクシュアル・ハラスメントを)全く知らない」人で、すべての行為について、他の人に比べセクシュアル・ハラスメントであるという認識が低く、「わからない」が28.7%と特に高い。

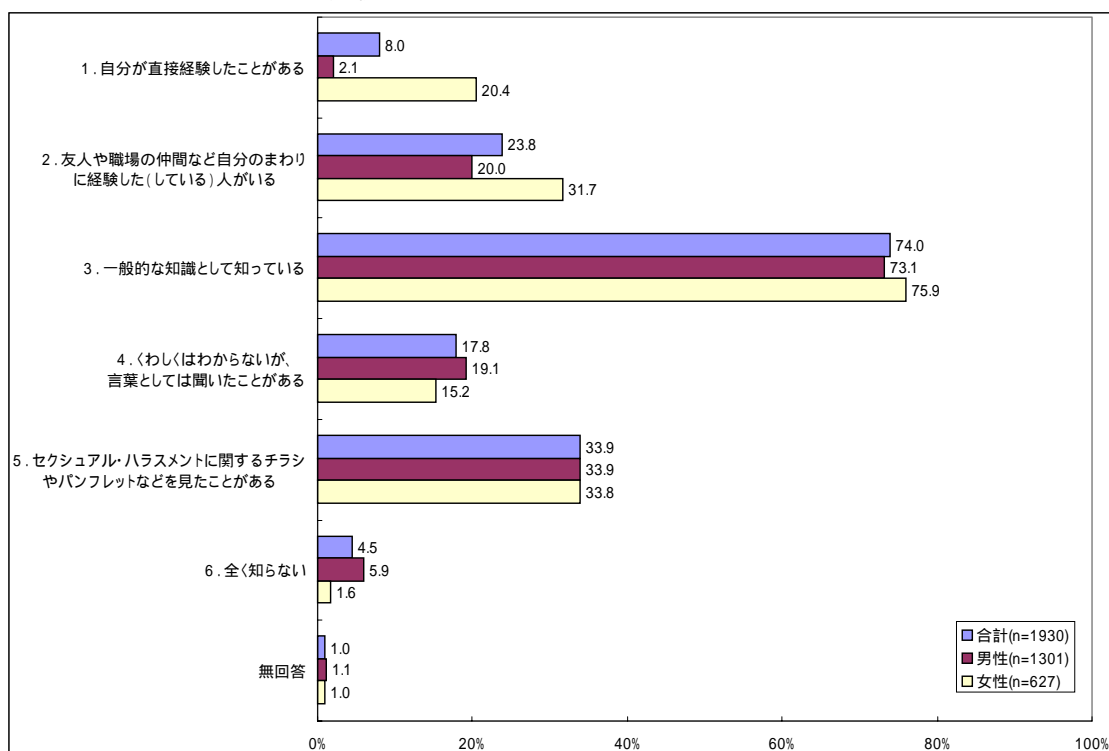
また、「自分が直接経験したことがある」人と「友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した(している)人がいる」人と「セクシュアル・ハラスメントに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある」人は、「一般的な知識として知っている」人と「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」人に比べ、各行為についてセクシュアル・ハラスメントであるという認識がやや高い傾向が認められる。

### (13) セクシュアル・ハラスメントの経験

問13 あなたは、セクシュアル・ハラスメントについて経験したり、見聞きしたことがありますか。(いくつでも選択可)

「自分が直接経験したことがある」全体 155 人 (8.0%)  
男性 27 人 (2.1%)、女性 128 人 (20.4%)

#### セクシュアル・ハラスメントの経験



(全体・性別)

#### 【全体】

「一般的な知識として知っている」が74.0%と最も高く、「セクシュアル・ハラスメントに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある」が33.9%、「友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した(している)人がいる」が23.8%で続いている。

「自分が直接経験したことがある」人の実数は155人、「友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した(している)人がいる」人は459人であった。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した(している)人がいる」、「一般的な知識として知っている」、「セクシュアル・ハラスメントに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある」が市民に比べより高い。

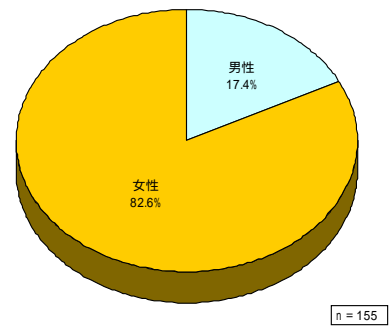
【性別】

女性で「友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した（している）人がいる」が31.7%と、男性（20.0%）に比べ11.7ポイント高い。

「自分が直接経験したことがある」人の性別内訳をみると、女性が8割以上を占めている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した（している）人がいる」、「セクシュアル・ハラスメントに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある」が市民に比べより高い。また、女性では「一般的な知識として知っている」も市民と比べより高い。

「自分が直接経験したことがある」性別内訳



セクシュアル・ハラスメントの経験

(%)

	n	1 自分が直接 経験したこ とがある	2 友人や職 場の仲間 など自分 のまわり に経験し た（して いる）人 がいる	3 一般的 な知識と して知っ ている	4 くわしく はわから ないが、 言葉とし ては聞い たことが ある	5 セクシユ アル・ハ ラスメン トに関す るチラシ やパンフ レットな どを見た ことがあ る	6 全く知 らない	無 回 答
合計	1930	8.0	23.8	74.0	17.8	33.9	4.5	1.0
(19歳以下)	(6)	(0.0)	(16.7)	(50.0)	(50.0)	(16.7)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	9.1	26.4	75.1	11.6	25.8	5.5	0.6
30～39歳	608	10.0	26.5	70.2	16.3	25.8	5.8	0.5
40～49歳	502	6.8	23.3	75.7	17.1	37.3	3.4	1.4
50歳以上	483	6.2	19.3	76.6	24.2	46.2	3.5	1.7

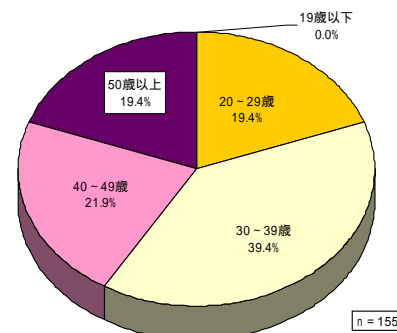
(全体・年齢別)

【年齢別】

40歳以上で「セクシュアル・ハラスメントに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある」が35%以上と、他の年代に比べ高い。また、50歳以上で「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が24.2%と、他の年代に比べ高い。

「自分が直接経験したことがある」人の年齢別内訳をみると、30～39歳が最も多く、4割弱を占めている。

「自分が直接経験したことがある」年齢別内訳

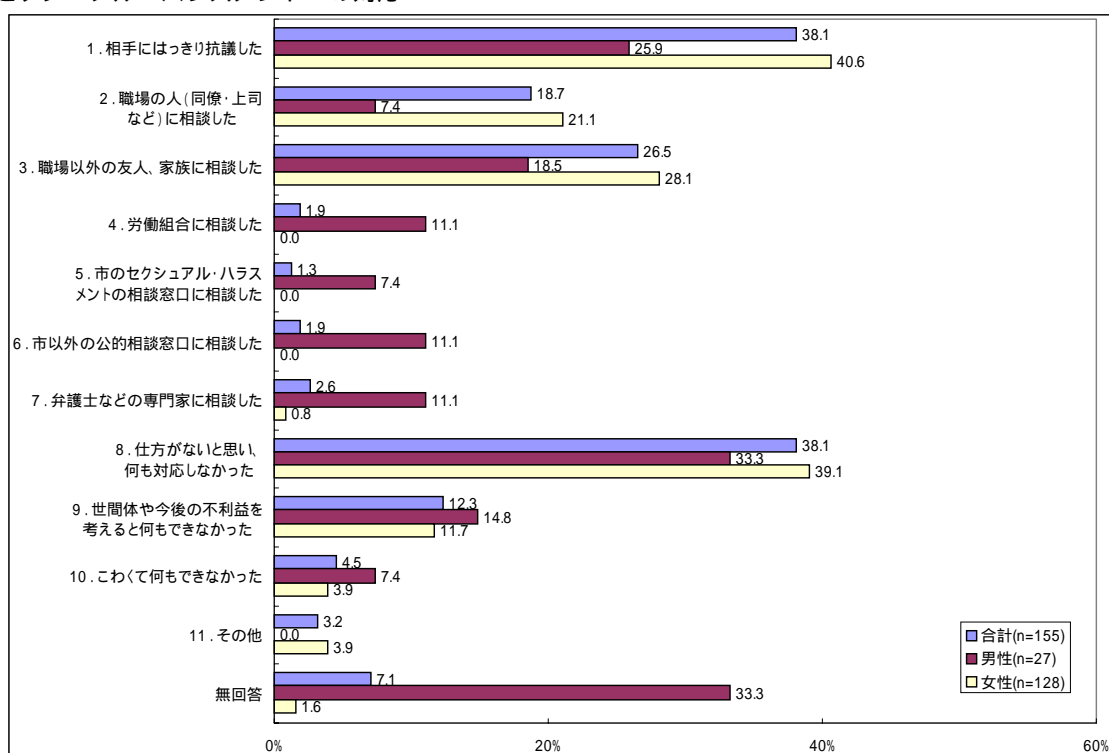


## (13-1) セクシュアル・ハラスメントへの対応

問13-1 あなたがセクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後で、どのような対応をされましたか。(いくつでも選択可)

「相手にはっきり抗議した」と「仕方がないと思い、何も対応しなかった」が38.1%でトップ

### セクシュアル・ハラスメントへの対応



(全体・性別)

#### 【全体】

「相手にはっきり抗議した」、「仕方がないと思い、何も対応しなかった」がともに38.1%と高く、「職場以外の友人、家族に相談した」が26.5%で続いている。直接抗議をする人と全く何もしない人との二極化が認められる。

#### 【性別】

男性のサンプル数が27と少ないため、結果を参考程度にとどめる必要があるが、男性で、労働組合、市の相談窓口や市以外の公的相談窓口、弁護士などの公的機関や専門家に相談する割合が、女性に比べ高い傾向が認められる。一方、女性では、職場の同僚や上司、友人や家族などの身近な人に相談する割合が男性に比べ高いとともに、相手にはっきり抗議した割合も男性に比べ高い傾向が認められる。

セクシュアル・ハラスメントへの対応

(%)

	n	1 相手にはっきり抗議 した	2 職場の人(同僚・上 司など)に相談した	3 職場以外の友人、家 族に相談した	4 労働組合に相談した	5 市のセクシュアル・ ハラスメントの相談 窓口相談した	6 市以外の公的相談窓 口に相談した	7 弁護士などの専門家 に相談した	8 仕方がないと思い、 何も対応しなかった
合計	155	38.1	18.7	26.5	1.9	1.3	1.9	2.6	38.1
(19歳以下)	(0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	30	26.7	26.7	36.7	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
30～39歳	61	34.4	21.3	24.6	3.3	3.3	3.3	3.3	39.3
40～49歳	34	47.1	11.8	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	35.3
50歳以上	30	46.7	13.3	23.3	3.3	0.0	3.3	6.7	26.7

	n	9 世間体や今後の不 利益を考えると何 もできなかった	10 こわくて何もでき なかった	11 その他	無 回 答
合計	155	12.3	4.5	3.2	7.1
(19歳以下)	(0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	30	20.0	3.3	0.0	0.0
30～39歳	61	9.8	8.2	6.6	4.9
40～49歳	34	11.8	0.0	0.0	14.7
50歳以上	30	10.0	3.3	3.3	10.0

(全体・年齢別)

【年齢別】

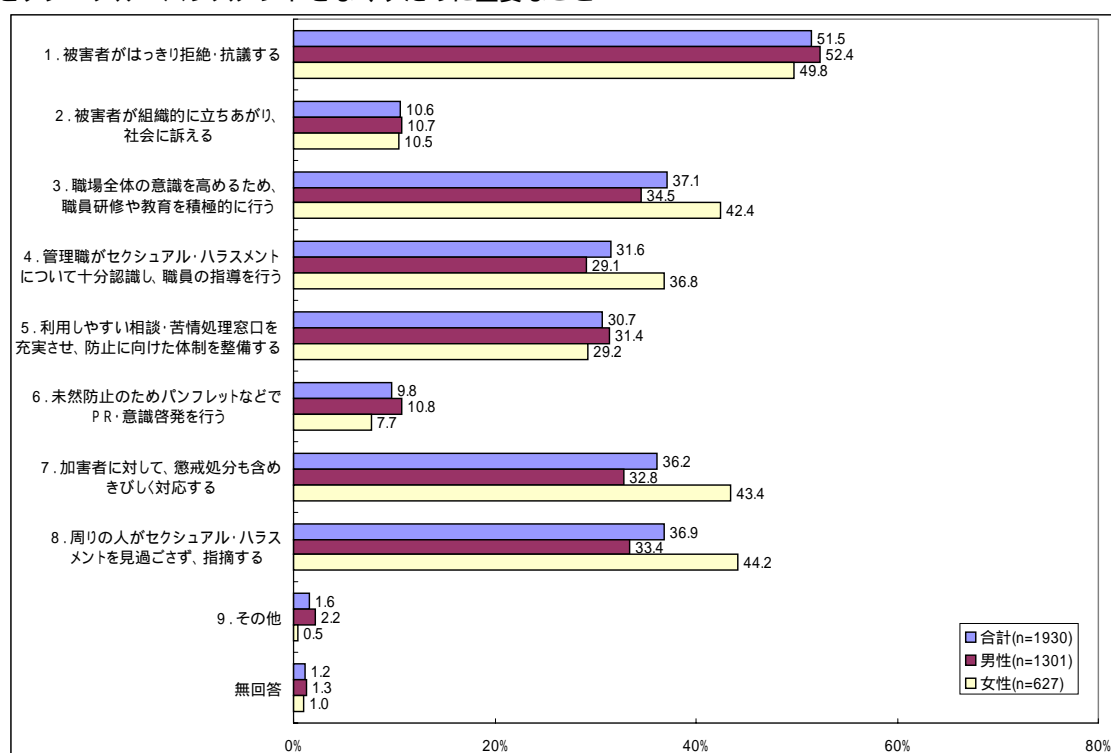
20～29歳で「職場以外の友人、家族に相談した」が36.7%、「仕方がないと思い、何も対応しなかった」が50.0%、「世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった」が20.0%とそれぞれ他の年代に比べ高い。20～39歳で「職場の人(同僚・上司など)に相談した」が2割以上と、他の年代に比べ高い。また、40歳以上で「相手にはっきり抗議した」が45%以上と、他の年代に比べ高い。

## (14) セクシュアル・ハラスメントをなくすために重要なこと

問14 あなたは、セクシュアル・ハラスメントをなくすためには、どのようなことが重要だと思いますか。(3つまで選択可)

「被害者がはっきり拒絶・抗議する」が51.5%でトップ

### セクシュアル・ハラスメントをなくすために重要なこと



(全体・性別)

#### 【全体】

「被害者がはっきり拒絶・抗議する」が51.5%と最も高く、「職場全体の意識を高めるため、職員研修や教育を積極的に行う」が37.1%、「周りの人がセクシュアル・ハラスメントを見過ごさず、指摘する」が36.9%で続いている。

#### 【性別】

女性で「職場全体の意識を高めるため、職員研修や教育を積極的に行う」が42.4%、「管理職がセクシュアル・ハラスメントについて十分認識し、職員の指導を行う」が36.8%、「加害者に対して、懲戒処分も含めきびしく対応する」が43.4%、「周りの人がセクシュアル・ハラスメントを見過ごさず、指摘する」が44.2%とそれぞれ男性に比べ高い。

セクシュアル・ハラスメントをなくすために重要なこと

(%)

	n	1 被害者がはっきり拒絶・抗議する	2 被害者が組織的に立ちあがり、社会に訴える	3 職場全体の意識を高めるため、職員研修や教育を積極的に行う	4 管理職がセクシュアル・ハラスメントについて十分認識し、職員の指導を行う	5 利用しやすい相談・苦情処理窓口を充実させ、防止に向けた体制を整備する	6 未然防止のためパンフレットなどでPR・意識啓発を行う	7 加害者に対して、懲戒処分も含めきびしく対応する	8 周りの人がセクシュアル・ハラスメントを見過さず、指摘する
合計	1930	51.5	10.6	37.1	31.6	30.7	9.8	36.2	36.9
(19歳以下)	(6)	(33.3)	(0.0)	(33.3)	(0.0)	(50.0)	(16.7)	(33.3)	(83.3)
20～29歳	329	50.5	15.2	27.4	32.5	35.0	7.9	44.7	41.3
30～39歳	608	47.7	8.4	30.6	33.2	28.8	9.2	38.5	38.5
40～49歳	502	49.8	11.0	43.4	33.1	32.3	10.8	36.7	34.5
50歳以上	483	59.2	10.1	45.3	27.7	28.4	10.6	27.3	34.0

	n	9 その他	無回答
合計	1930	1.6	1.2
(19歳以下)	(6)	(0.0)	(0.0)
20～29歳	329	1.2	0.3
30～39歳	608	2.8	1.0
40～49歳	502	0.6	1.4
50歳以上	483	1.4	1.9

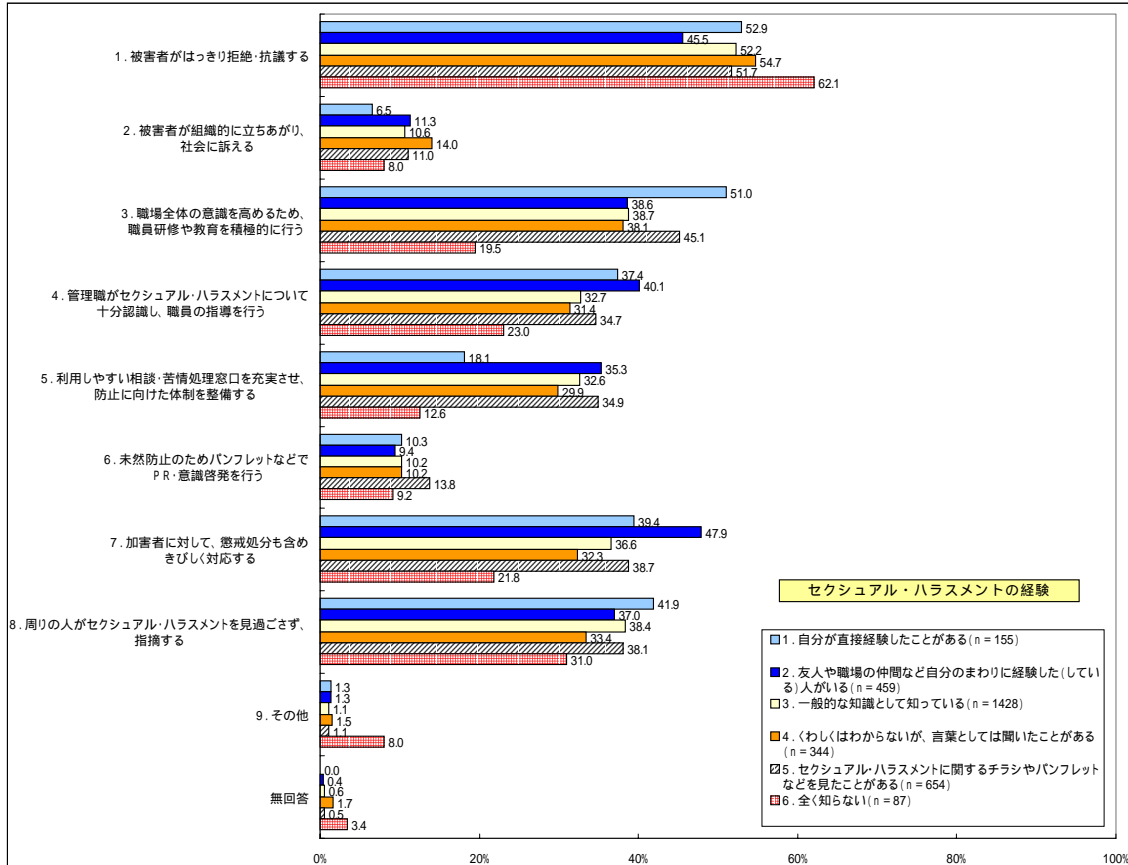
(全体・年齢別)

【年齢別】

40歳以上で「職場全体の意識を高めるため、職員研修や教育を積極的に行う」が45%前後と、他の年代に比べ高い。また、50歳以上で「被害者がはっきり拒絶・抗議する」が59.2%と、他の年代に比べ高い。「加害者に対して、懲戒処分も含めきびしく対応する」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

## 参考：セクシュアル・ハラスメントの経験別にみた調査結果

### <セクシュアル・ハラスメントの経験別>



「自分が直接経験したことがある」人で「職場全体の意識を高めるため、職員研修や教育を積極的に行う」が51.0%、「友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した人がいる」人で「加害者に対して、懲戒処分も含めきびしく対応する」が47.9%、「(セクシュアル・ハラスメントについて)全く知らない」人で「被害者がはっきり拒絶・抗議する」が62.1%とそれぞれ他の人に比べ高い。



## 4 結婚、家庭生活と男女の役割について

### (15) 結婚、家庭に関する考え

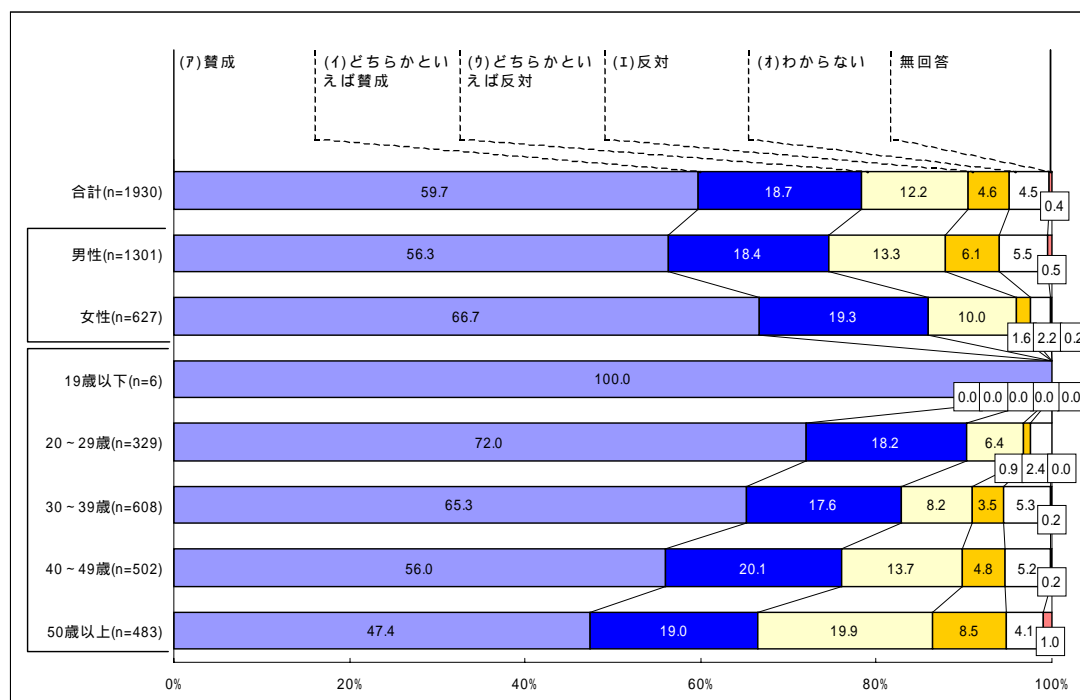
問15 あなたは、結婚、家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。(1つ選択)

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて『賛成派』、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせて『反対派』とする。

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

『賛成派』	男性 74.7%	女性 86.0%	全体 78.4%
『反対派』	男性 19.4%	女性 11.6%	全体 16.8%

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」についての賛否



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「賛成」が59.7%と最も高く、「どちらかといえば賛成」が18.7%、「どちらかといえば反対」が12.2%で続いている。『賛成派』(78.4%)が、『反対派』(16.8%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、『賛成派』が市民に比べより高く、『反対派』がより低い。

#### 【性別】

男性で『反対派』が19.4%と、女性(11.6%)に比べ7.8ポイント高い。一方、女性では「賛成」が66.7%、『賛成派』が86.0%とそれぞれ男性に比べ高い。

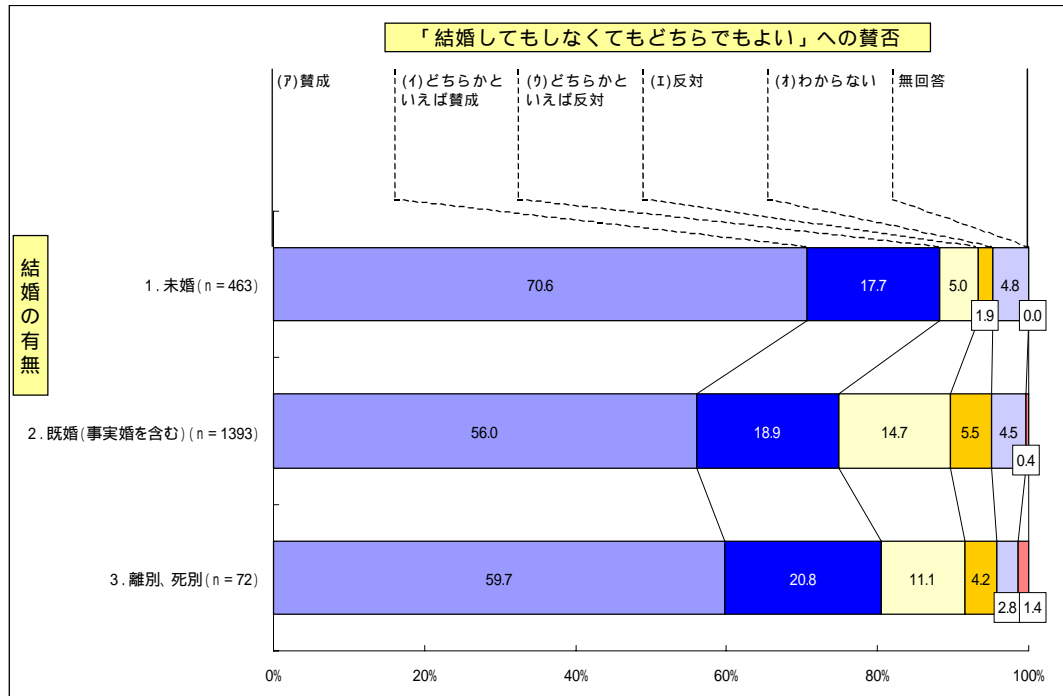
なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに『賛成派』が市民に比べより高く、『反対派』がより低い。

#### 【年齢別】

「賛成」、『賛成派』は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。一方、『反対派』は年代があがるほど高くなる傾向が認められる。

## 参考：結婚の有無別にみた調査結果

< 結婚の有無別 >

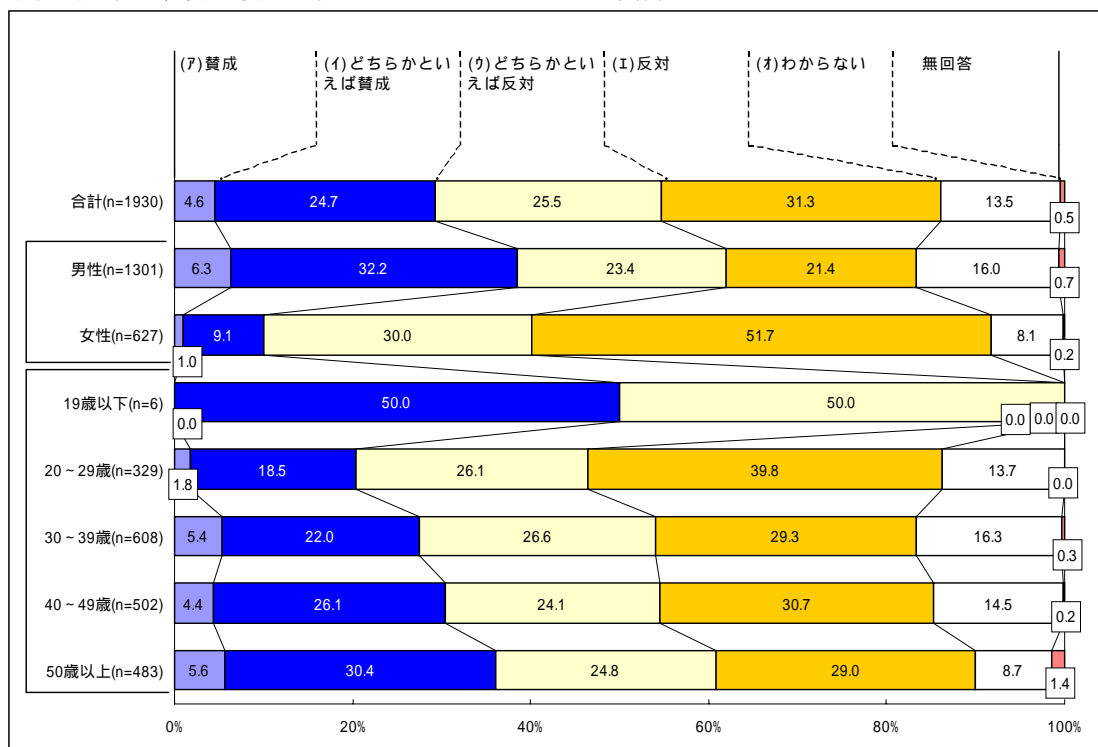


「未婚」で『賛成派』が88.3%と、結婚経験者（「既婚（事実婚を含む）」と「離別、死別」）に比べ高く、『反対派』が6.9%と、結婚経験者に比べ低い。

## 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

『賛成派』 男性 38.5% 女性 10.1% 全体 29.3%  
 『反対派』 男性 44.8% 女性 81.7% 全体 56.8%

### 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」についての賛否



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「反対」が31.3%、「どちらかといえば反対」が25.5%、「どちらかといえば賛成」が24.7%となっている。『反対派』(56.8%)が、『賛成派』(29.3%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、『反対派』が市民に比べより高い。『反対派』と『賛成派』の割合が市民とは逆転している。

#### 【性別】

男性で「どちらかといえば賛成」が32.2%、『賛成派』が38.5%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「反対」が51.7%、「どちらかといえば反対」が30.0%、『反対派』が81.7%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに『反対派』が市民に比べより高く、『賛成派』がより低い。『反対派』と『賛成派』の割合が市民とは逆転している。

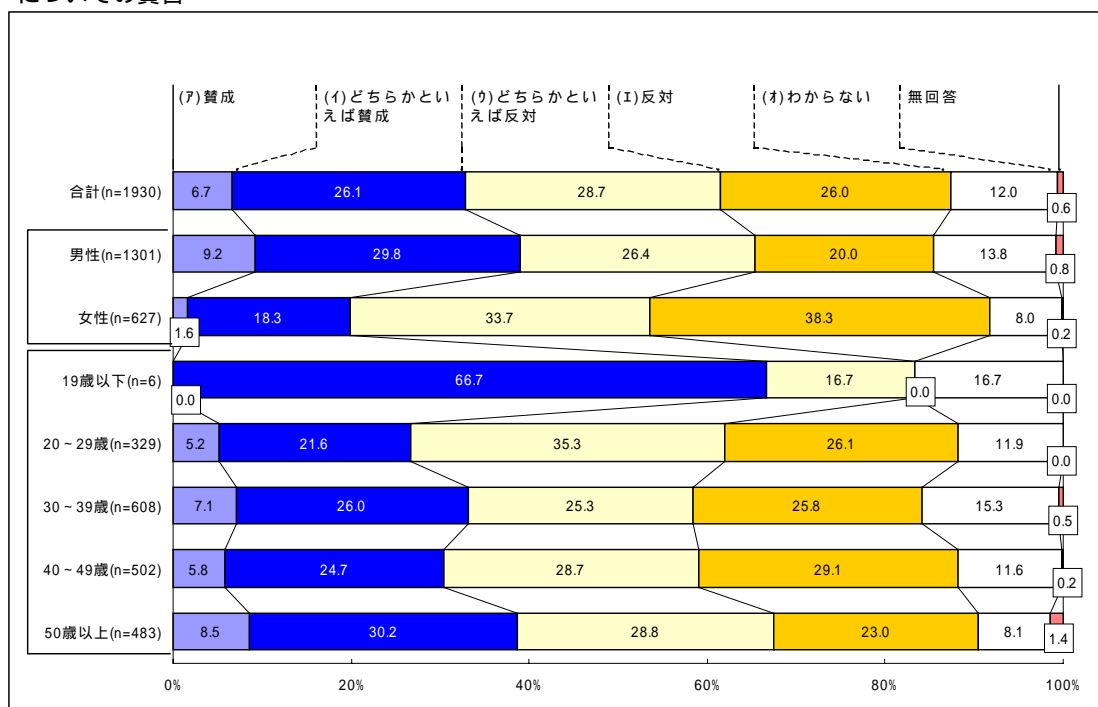
#### 【年齢別】

20～29歳で「反対」が39.8%、『反対派』が65.9%とそれぞれ他の年代に比べ高い。

女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

『賛成派』 男性 39.0% 女性 19.9% 全体 32.8%  
 『反対派』 男性 46.4% 女性 72.0% 全体 54.7%

「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」  
 についての賛否



(全体・性別・年齢別)

【全体】

「どちらかといえば反対」が 28.7%、「どちらかといえば賛成」が 26.1%、「反対」が 26.0% となっている。『反対派』（54.7%）が、『賛成派』（32.8%）を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、『反対派』が市民に比べより高く、『賛成派』がより低い。『反対派』と『賛成派』の割合が市民とは逆転している。

【性別】

男性で「賛成」が 9.2%、「どちらかといえば賛成」が 29.8%、『賛成派』が 39.0%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「反対」が 38.3%、「どちらかといえば反対」が 33.7%、『反対派』が 72.0%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに『反対派』が市民に比べより高く、『賛成派』がより低い。『反対派』と『賛成派』の割合が市民とは逆転している。

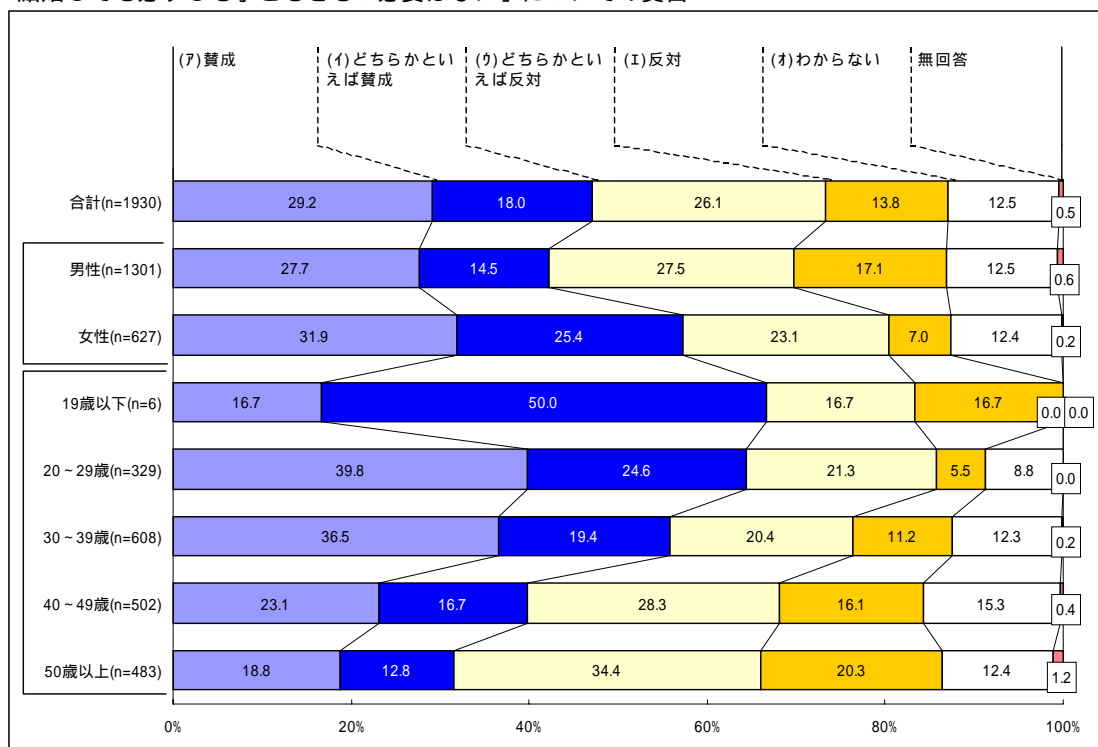
【年齢別】

20～29歳で「どちらかといえば反対」が 35.3%、20～29歳、40～49歳で『反対派』が 6割前後とそれぞれ他の年代に比べ高い。また、50歳以上で『賛成派』が 38.7%と、他の年代に比べ高い。

## 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

『賛成派』 男性 42.2% 女性 57.3% 全体 47.2%  
 『反対派』 男性 44.6% 女性 30.1% 全体 39.9%

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」についての賛否



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「賛成」が29.2%、「どちらかといえば反対」が26.1%、「どちらかといえば賛成」が18.0%となっている。『賛成派』(47.2%)が『反対派』(39.9%)を上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、『賛成派』が市民に比べより高く、『反対派』がより低い。『賛成派』と『反対派』の割合が市民とは逆転している。

### 【性別】

男性で「反対」が17.1%、『反対派』が44.6%とそれぞれ女性に比べ高い。一方、女性では「どちらかといえば賛成」が25.4%、『賛成派』が57.3%とそれぞれ男性に比べ高い。

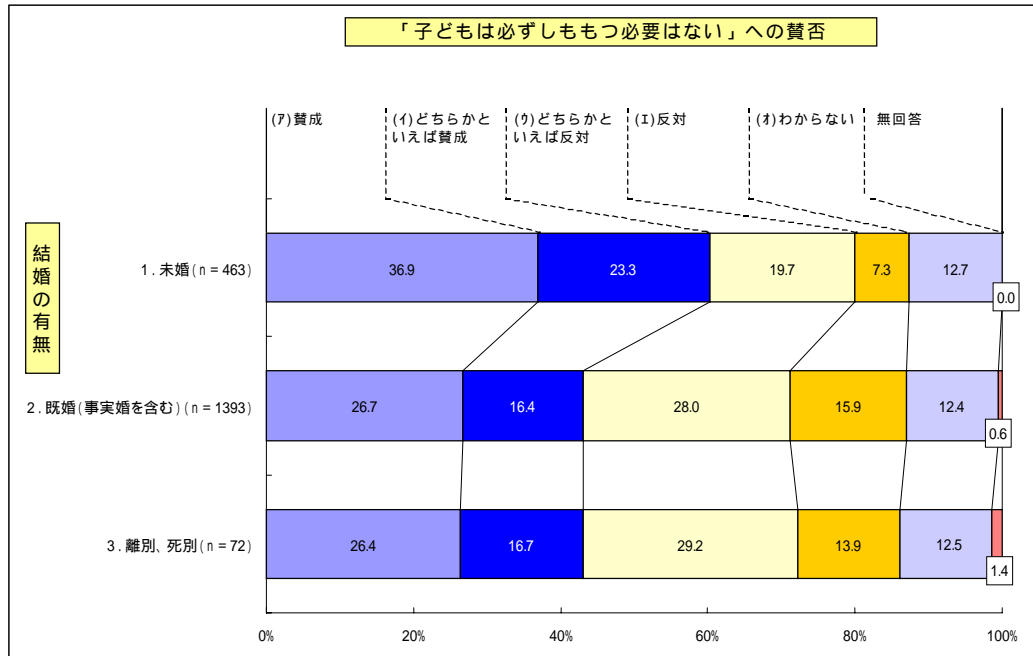
なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに『賛成派』が市民に比べより高く、『反対派』がより低い。女性でのみ『賛成派』と『反対派』の割合が市民とは逆転している。

### 【年齢別】

『賛成派』は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。一方、『反対派』は年代が上がるほど高くなる傾向が認められる。40歳を境に『賛成派』と『反対派』の割合が逆転している。

## 参考：結婚の有無別にみた調査結果

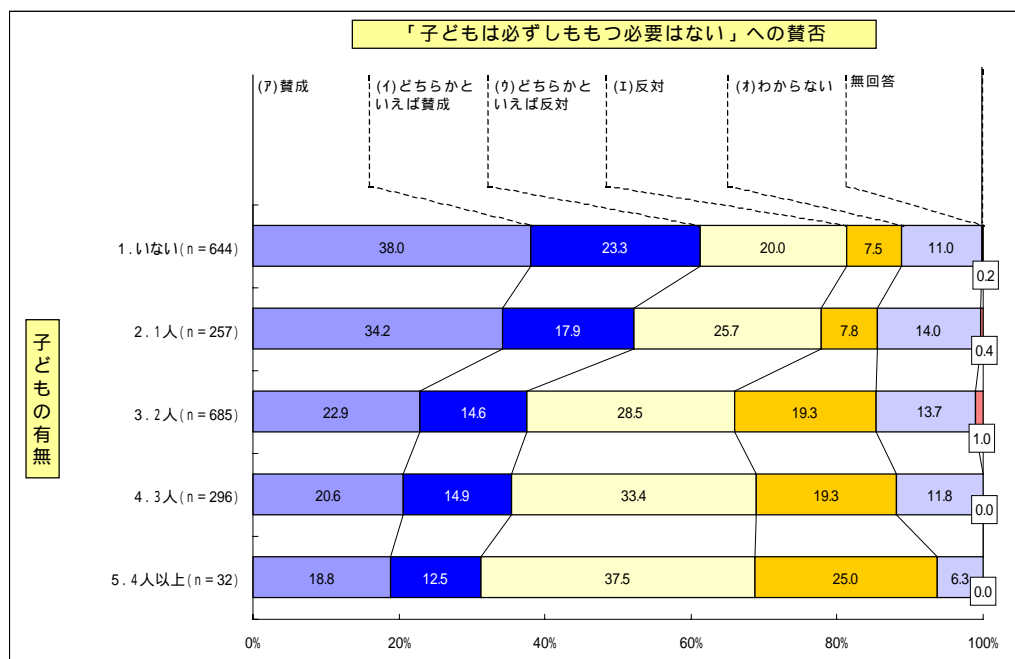
< 結婚の有無別 >



「未婚」で『賛成派』が60.2%と、結婚経験者(「既婚(事実婚を含む)」と「離別、死別」)に比べ高く、『反対派』が27.0%と、結婚経験者に比べ低い。

## 参考：子どもの有無別にみた調査結果

< 子どもの有無別 >

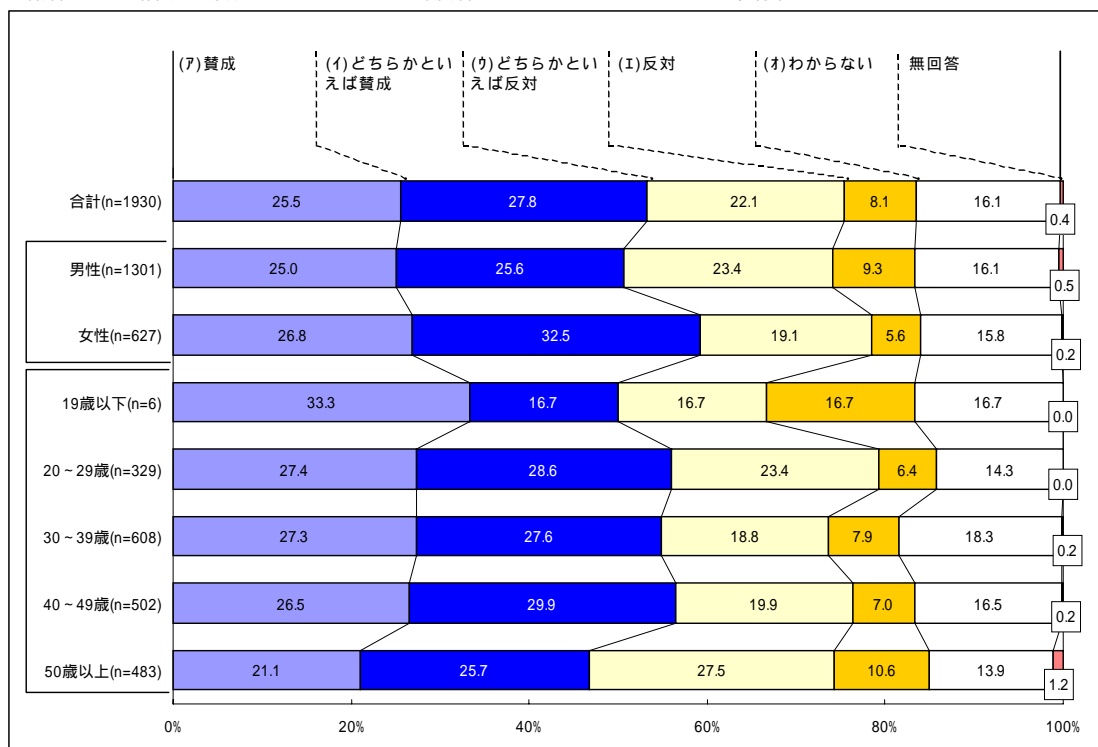


『反対派』は子どもの数が多い人ほど高く、『賛成派』は子どもの数が少ない人ほど高くなる傾向が認められる。子どもが1人以下の人は『賛成派』が『反対派』を大きく上回っており、子どもが2人以上の人では『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。

## 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

『賛成派』 男性 50.6% 女性 59.3% 全体 53.3%  
 『反対派』 男性 32.7% 女性 24.7% 全体 30.2%

「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」についての賛否



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「どちらかといえば賛成」が27.8%、「賛成」が25.5%、「どちらかといえば反対」が22.1%となっている。『賛成派』（53.3%）が、『反対派』（30.2%）を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、『賛成派』が市民に比べより高く、『反対派』がより低い。『賛成派』と『反対派』の割合が市民とは逆転している。

### 【性別】

男性で『反対派』が32.7%と、女性（24.7%）に比べ8.0ポイント高い。一方、女性では「どちらかといえば賛成」が32.5%、『賛成派』が59.3%とそれぞれ男性に比べ高い。

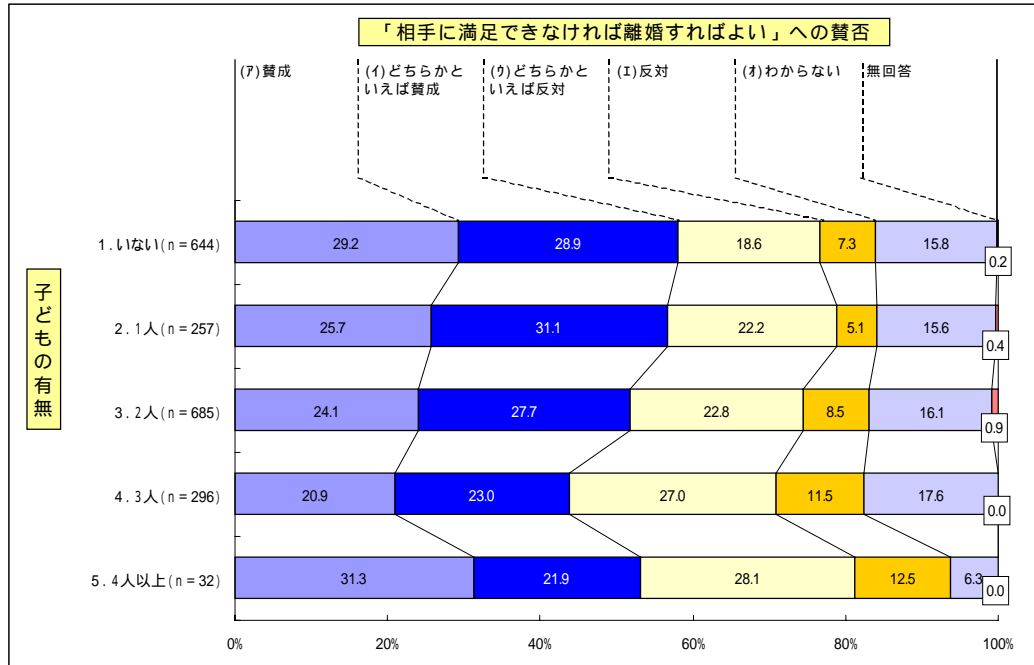
なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに『賛成派』が市民に比べより高く、『反対派』がより低い。『賛成派』と『反対派』の割合が市民とは逆転している。

### 【年齢別】

50歳以上で『反対派』が38.1%と、他の年代に比べ高く、『賛成派』が46.8%と他の年代に比べ低い。

**参考：子どもの有無別にみた調査結果**

<子どもの有無別>



子どもが3人以上の人で『反対派』が4割前後と、子どもが2人以下の人に比べ高い。



**参考：結婚、家庭に関する考え（問 15 ～ ）についての相関関係**

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

< と について >

(%)

の『賛成派』である人は の『反対派』である割合が高く、 の『反対派』である人は の『賛成派』である割合が高い。

n = 1930		問15			
		(ア)賛成	(イ)どちらか といえば賛成	(ウ)どちらか といえば反対	(エ)反対
問 1 5	(ア)賛成	4.6	21.4	23.7	37.3
	(イ)どちらか といえば賛成	1.9	26.9	35.3	23.3
	(ウ)どちらか といえば反対	3.4	38.6	28.8	22.9
	(エ)反対	15.7	31.5	15.7	27.0

< と について >

(%)

に賛成である人ほど の『反対派』である割合が高く、 に反対である人ほど の『賛成派』である割合が高い。

n = 1930		問15			
		(ア)賛成	(イ)どちらか といえば賛成	(ウ)どちらか といえば反対	(エ)反対
問 1 5	(ア)賛成	7.0	23.0	27.8	30.7
	(イ)どちらか といえば賛成	2.8	30.8	35.3	20.6
	(ウ)どちらか といえば反対	5.9	35.2	32.2	18.6
	(エ)反対	22.5	37.1	16.9	20.2

< と について >

(%)

に賛成である人ほど の『賛成派』である割合が高く、 に反対である人ほど の『反対派』である割合が高い。

n = 1930		問15			
		(ア)賛成	(イ)どちらか といえば賛成	(ウ)どちらか といえば反対	(エ)反対
問 1 5	(ア)賛成	44.8	18.7	16.7	7.9
	(イ)どちらか といえば賛成	7.8	32.8	38.3	9.2
	(ウ)どちらか といえば反対	3.4	5.1	60.6	28.0
	(エ)反対	4.5	1.1	16.9	75.3

< と について >

(%)

の『賛成派』である人は の『賛成派』である割合が高く、 の『反対派』である人は の『反対派』である割合が高い。

n = 1930		問15			
		(ア)賛成	(イ)どちらか といえば賛成	(ウ)どちらか といえば反対	(エ)反対
問 1 5	(ア)賛成	35.9	27.5	16.0	6.6
	(イ)どちらか といえば賛成	11.4	39.7	27.5	4.4
	(ウ)どちらか といえば反対	8.5	21.2	47.0	12.7
	(エ)反対	15.7	18.0	22.5	32.6

< と について >

(%)

に賛成である人ほど の『賛成派』である割合が高く、 に反対である人ほど の『反対派』である割合が高い。

n = 1930		問15			
		(ア)賛成	(イ)どちらか といえば賛成	(ウ)どちらか といえば反対	(エ)反対
問 1 5	(ア)賛成	58.0	19.3	11.4	8.0
	(イ)どちらか といえば賛成	9.0	53.6	23.9	6.7
	(ウ)どちらか といえば反対	2.8	23.4	50.6	16.5
	(エ)反対	1.7	10.1	23.8	58.6

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

< と について >

(%)

の『賛成派』である人は の『反対派』である割合が高い。また、 に「反対」である人では の『賛成派』である割合が59.1%と特に高い。

n = 1930		問15			
		(7)賛成	(イ)どちらかといえは賛成	(ウ)どちらかといえは反対	(I)反対
問15	(7)賛成	43.2	3.4	19.3	30.7
	(イ)どちらかといえは賛成	21.2	15.3	35.9	19.1
	(ウ)どちらかといえは反対	22.0	27.4	31.9	9.8
	(I)反対	41.2	17.9	18.7	11.9

< と について >

(%)

の『賛成派』である人は の『反対派』である割合が高い。

n = 1930		問15			
		(7)賛成	(イ)どちらかといえは賛成	(ウ)どちらかといえは反対	(I)反対
問15	(7)賛成	36.4	18.2	19.3	18.2
	(イ)どちらかといえは賛成	20.2	28.6	31.1	9.0
	(ウ)どちらかといえは反対	21.3	35.8	25.2	7.3
	(I)反対	32.8	25.8	17.9	7.6

< と について >

(%)

の『賛成派』である人は の『反対派』である割合が高い。また、 に「反対」である人では の『賛成派』である割合が58.3%と高い。

n = 1930		問15			
		(7)賛成	(イ)どちらかといえは賛成	(ウ)どちらかといえは反対	(I)反対
問15	(7)賛成	37.7	6.2	17.7	31.5
	(イ)どちらかといえは賛成	21.1	21.1	32.4	17.1
	(ウ)どちらかといえは反対	24.0	24.4	31.6	10.8
	(I)反対	43.9	14.4	18.6	12.0

< と について >

(%)

に賛成である人ほど の『反対派』である割合が高く、 に反対である人ほど の『賛成派』である割合が高い。

n = 1930		問15			
		(7)賛成	(イ)どちらかといえは賛成	(ウ)どちらかといえは反対	(I)反対
問15	(7)賛成	31.5	14.6	22.3	21.5
	(イ)どちらかといえは賛成	21.1	29.6	31.0	7.0
	(ウ)どちらかといえは反対	20.9	35.4	23.6	8.8
	(I)反対	36.1	25.3	16.8	7.2

< と について >

(%)

に賛成である人ほど の『賛成派』である割合が高く、 に反対である人ほど の『反対派』である割合が高い。

n = 1930		問15			
		(7)賛成	(イ)どちらかといえは賛成	(ウ)どちらかといえは反対	(I)反対
問15	(7)賛成	52.4	22.6	11.0	3.0
	(イ)どちらかといえは賛成	17.5	44.8	22.4	2.6
	(ウ)どちらかといえは反対	12.7	31.0	36.8	8.5
	(I)反対	16.9	17.7	28.2	27.1

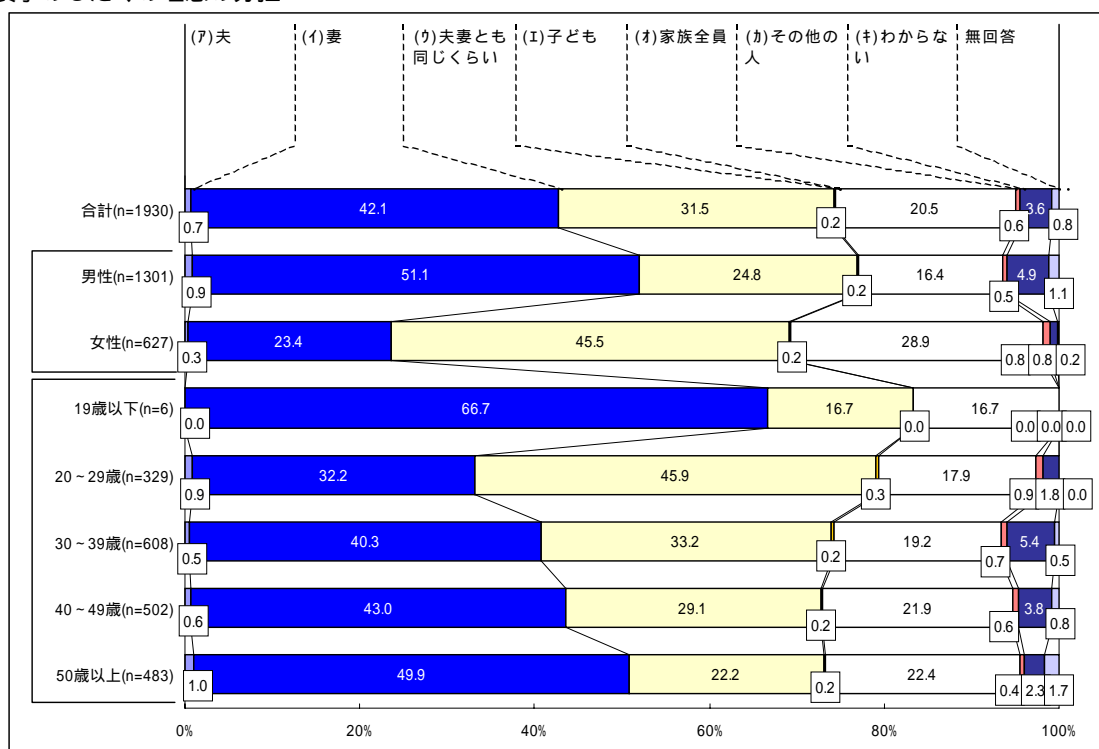
## (16) 家庭内の仕事の理想の分担

問16 あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。(1つ選択)

食事のしたく

「妻」が42.1%でトップ

食事のしたくの理想の分担



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「妻」が42.1%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が31.5%、「家族全員」が20.5%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

### 【性別】

男性で「妻」が51.1%と、女性(23.4%)に比べ27.7ポイント高い。一方、女性では「夫妻とも同じくらい」が45.5%、「家族全員」が28.9%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。また、女性では「家族全員」も市民に比べより高い。

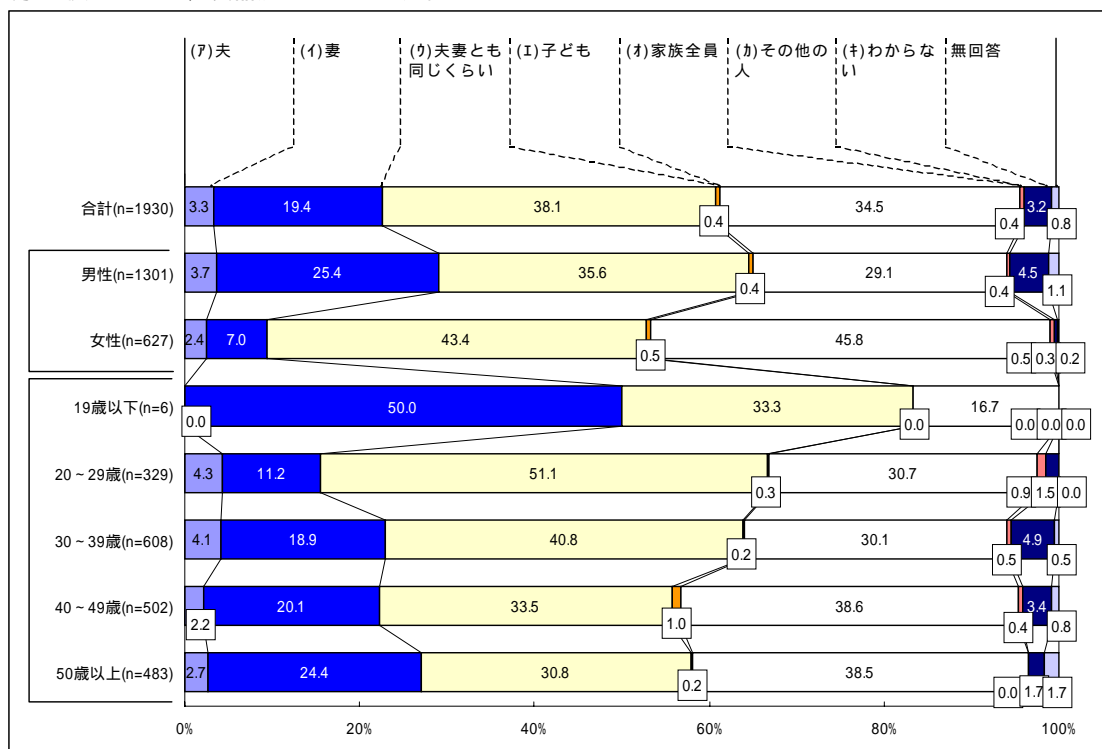
### 【年齢別】

20~29歳で「夫妻とも同じくらい」が45.9%と、他の年代に比べ高い。50歳以上で「妻」が49.9%と、他の年代に比べ特に高い。

## 食事の後かたづけ、食器洗い

「夫妻とも同じくらい」が38.1%、「家族全員」が34.5%と高い

### 食事の後かたづけ、食器洗いの理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「夫妻とも同じくらい」が38.1%、「家族全員」が34.5%と高く、「妻」が19.4%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

#### 【性別】

男性で「妻」が25.4%と、女性(7.0%)に比べ18.4ポイント高い。一方、女性では「夫妻とも同じくらい」が43.4%、「家族全員」が45.8%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「妻」が市民に比べより低い。また、女性では「夫妻とも同じくらい」、「家族全員」が市民に比べより高い。

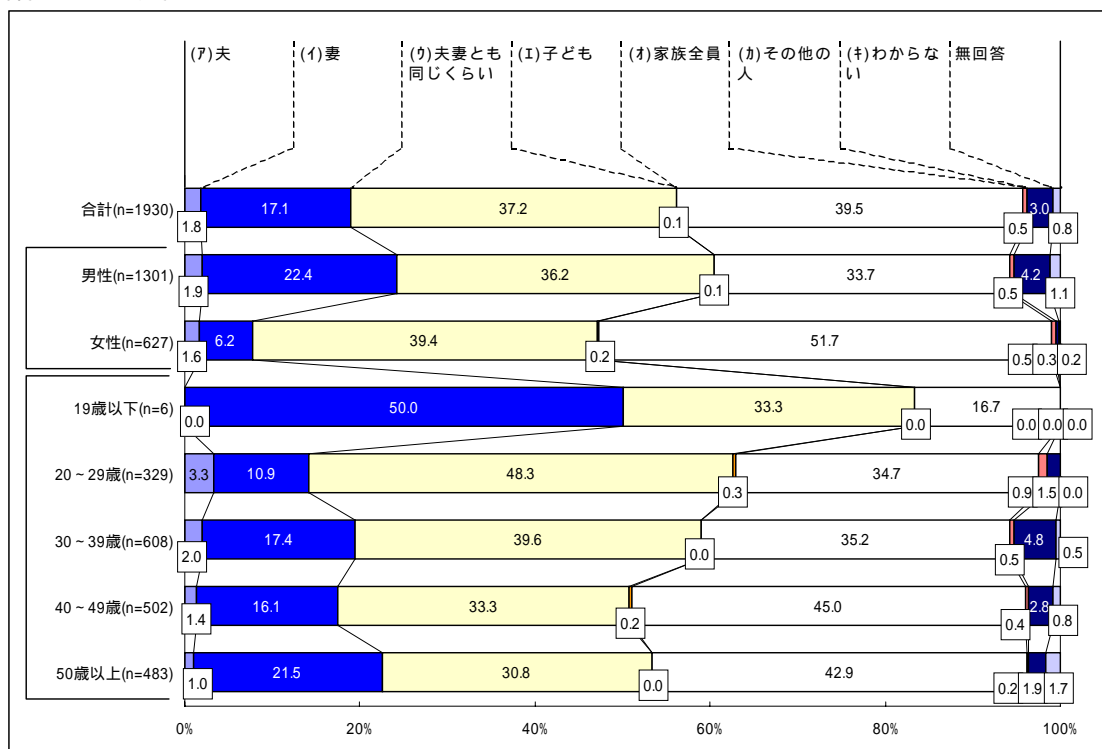
#### 【年齢別】

40歳以上で「家族全員」が4割弱と、他の年代に比べ高い。「夫妻とも同じくらい」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

## 掃除

「家族全員」が39.5%、「夫妻とも同じくらい」が37.2%と高い

### 掃除の理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「家族全員」が39.5%、「夫妻とも同じくらい」が37.2%と高く、「妻」が17.1%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

#### 【性別】

男性で「妻」が22.4%と、女性(6.2%)に比べ16.2ポイント高い。一方、女性では「家族全員」が51.7%と、男性(33.7%)に比べ18.0ポイント高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、女性で「夫妻とも同じくらい」、「家族全員」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

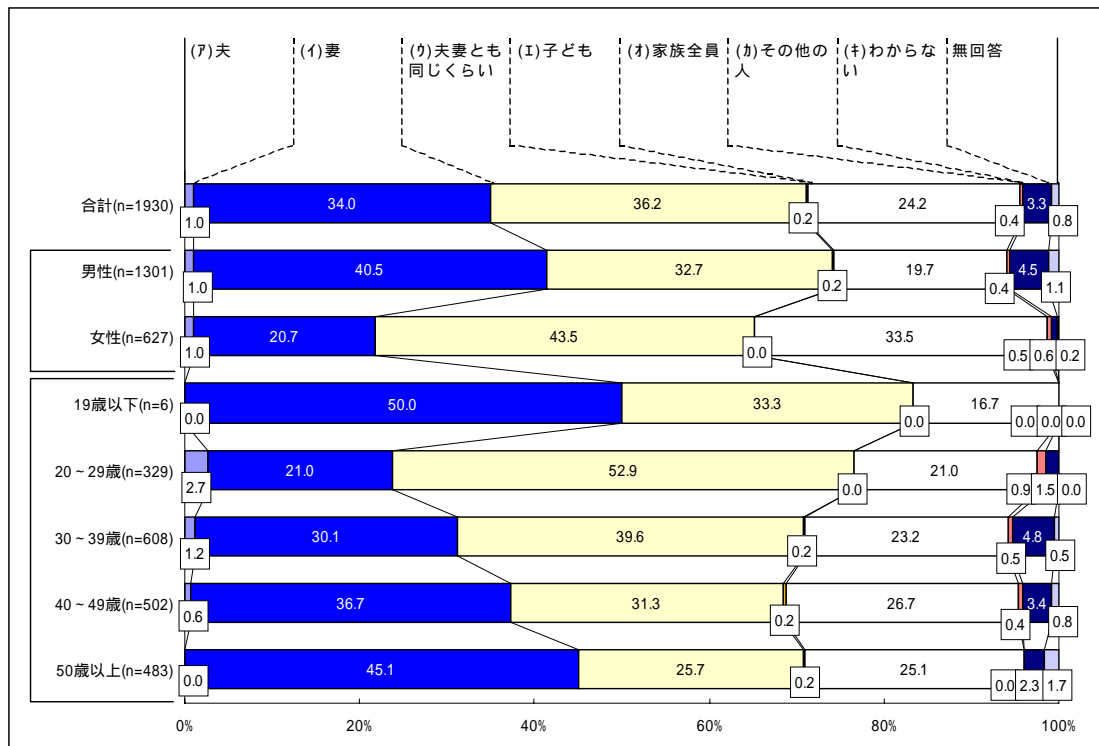
#### 【年齢別】

40歳以上で「家族全員」が4割以上と、他の年代に比べ高い。「夫妻とも同じくらい」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

## 洗濯

「夫妻とも同じくらい」が36.2%、「妻」が34.0%と高い

### 洗濯の理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「夫妻とも同じくらい」が36.2%、「妻」が34.0%と高く、「家族全員」が24.2%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

#### 【性別】

男性で「妻」が40.5%と、女性(20.7%)に比べ19.8ポイント高い。一方、女性では「夫妻とも同じくらい」が43.5%、「家族全員」が33.5%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「妻」が市民に比べより低く、「夫妻とも同じくらい」がより高い。また、女性では「家族全員」も市民に比べより高い。

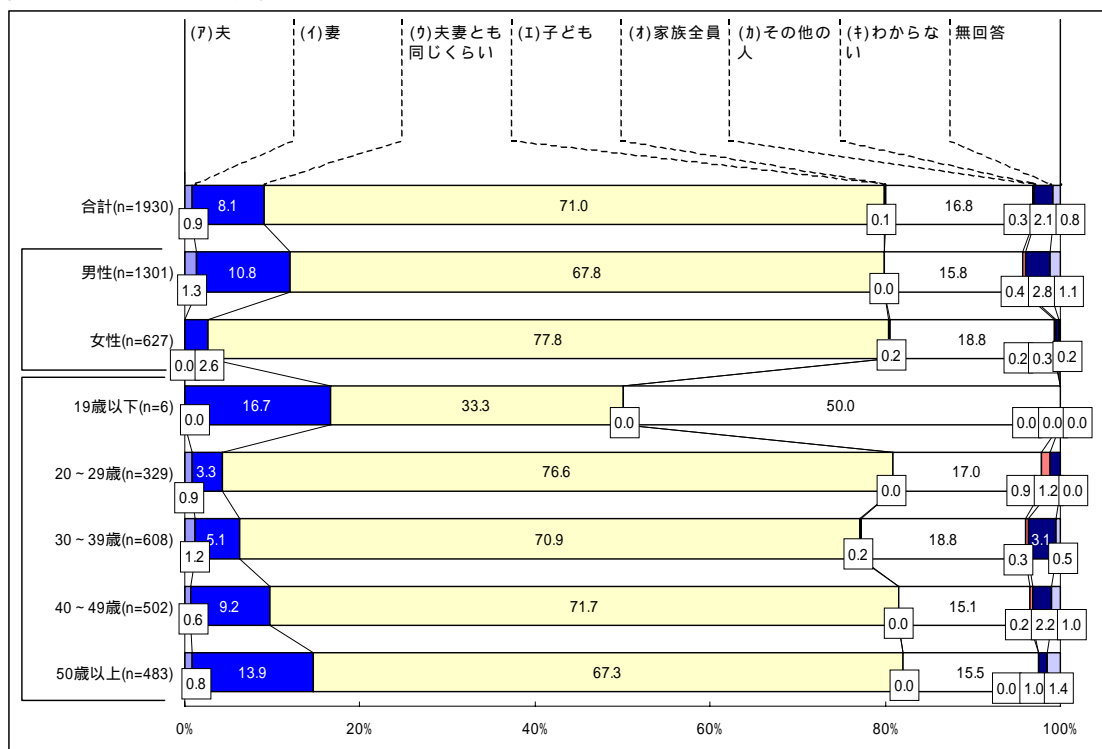
#### 【年齢別】

「妻」は年代があがるほど高くなる傾向が認められる。一方、「夫妻とも同じくらい」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

## 育児・しつけ

「夫妻とも同じくらい」が71.0%でトップ

### 育児・しつけの理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「夫妻とも同じくらい」が71.0%と最も高く、「家族全員」が16.8%、「妻」が8.1%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、ほぼ同様の値となっている。

#### 【性別】

男性で「妻」が10.8%と、女性(2.6%)に比べ8.2ポイント高い。一方、女性では「夫妻とも同じくらい」が77.8%と、男性(67.8%)に比べ10.0ポイント高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「妻」が市民に比べより低い。また、女性では「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高い。

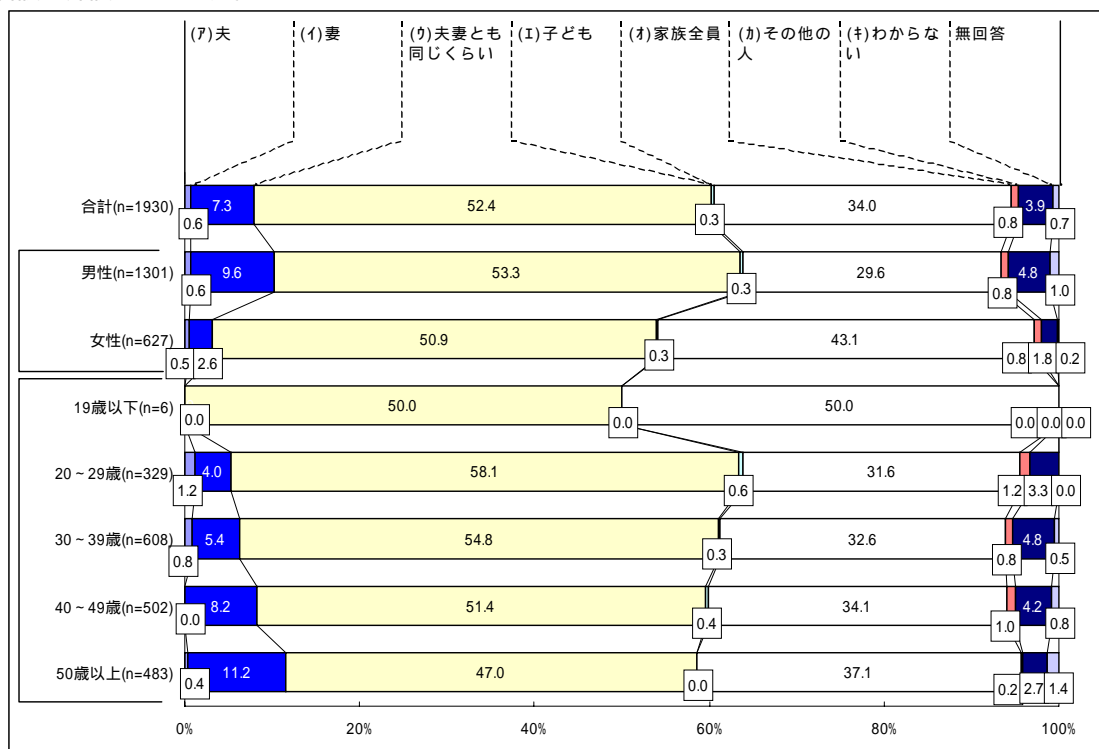
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 看護・介護

「夫妻とも同じくらい」が52.4%でトップ

### 看護・介護の理想の分担



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「夫妻とも同じくらい」が52.4%と最も高く、「家族全員」が34.0%、「妻」が7.3%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、ほぼ同様の値となっている。

#### 【性別】

男性で「妻」が9.6%と、女性(2.6%)に比べ7.0ポイント高い。一方、女性では「家族全員」が43.1%と、男性(29.6%)に比べ13.5ポイント高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともにほぼ同様の値となっている。

#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。



**参考：配偶者の職業別にみた家庭内の仕事の理想の分担**

育児・しつけ、看護・介護以外の仕事については、配偶者が「勤め人(常勤)」、「自営業」の人では、「夫妻とも同じくらい」や「家族全員」が他に比べ高い傾向が認められる。一方、配偶者が「勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)」、「専業主婦・専業主夫」の人では、「妻」が他に比べ高い傾向が認められる。

育児・しつけ、看護・介護については、配偶者の職業による差異は特に認められない。

		n	問16 食事のしたく						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(I)子ども	(オ)家族全員	(カ)その他の人	(キ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人(常勤)	604	0.3	32.3	39.9	0.3	24.0	0.7	1.8
	2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)	240	1.3	55.4	18.3	0.0	19.2	0.4	4.2
	3. 自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など)	45	0.0	35.6	33.3	0.0	31.1	0.0	0.0
	5. 専業主婦・専業主夫	430	0.5	60.9	17.0	0.0	14.9	0.2	5.8
	6. 無職(4及び5を除く)	66	1.5	39.4	33.3	0.0	18.2	0.0	6.1
		n	問16 洗濯						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(I)子ども	(オ)家族全員	(カ)その他の人	(キ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人(常勤)	604	0.8	24.0	43.2	0.5	29.1	0.3	1.3
	2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)	240	0.4	50.8	23.3	0.0	20.0	0.0	4.2
	3. 自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など)	45	2.2	33.3	26.7	0.0	37.8	0.0	0.0
	5. 専業主婦・専業主夫	430	0.2	49.5	27.4	0.0	16.5	0.2	5.3
	6. 無職(4及び5を除く)	66	1.5	50.0	21.2	0.0	21.2	0.0	4.5
		n	問16 食事の後かたづけ、食器洗い						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(I)子ども	(オ)家族全員	(カ)その他の人	(キ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人(常勤)	604	4.3	10.9	41.2	0.8	39.9	0.3	1.8
	2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)	240	1.7	32.1	26.3	0.0	35.0	0.0	3.8
	3. 自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など)	45	0.0	20.0	35.6	0.0	44.4	0.0	0.0
	5. 専業主婦・専業主夫	430	3.0	30.9	34.2	0.2	25.6	0.2	5.1
	6. 無職(4及び5を除く)	66	3.0	27.3	34.8	0.0	28.8	0.0	4.5
		n	問16 育児・しつけ						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(I)子ども	(オ)家族全員	(カ)その他の人	(キ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人(常勤)	604	0.5	6.0	75.0	0.0	17.1	0.2	0.7
	2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)	240	1.7	10.8	65.8	0.0	17.5	0.0	2.9
	3. 自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など)	45	0.0	6.7	80.0	0.0	13.3	0.0	0.0
	5. 専業主婦・専業主夫	430	0.7	13.0	69.3	0.0	13.0	0.2	2.8
	6. 無職(4及び5を除く)	66	1.5	10.6	71.2	0.0	12.1	0.0	3.0
		n	問16 掃除						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(I)子ども	(オ)家族全員	(カ)その他の人	(キ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人(常勤)	604	2.0	9.4	39.2	0.2	46.7	0.3	1.5
	2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)	240	0.8	30.4	29.2	0.0	34.6	0.0	3.8
	3. 自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など)	45	0.0	24.4	22.2	0.0	53.3	0.0	0.0
	5. 専業主婦・専業主夫	430	1.9	26.5	35.1	0.0	30.5	0.5	4.9
	6. 無職(4及び5を除く)	66	3.0	27.3	24.2	0.0	37.9	0.0	6.1
		n	問16 看護・介護						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(I)子ども	(オ)家族全員	(カ)その他の人	(キ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人(常勤)	604	0.3	5.0	54.0	0.3	36.1	0.7	3.0
	2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)	240	0.4	14.2	47.9	0.0	31.3	0.4	4.6
	3. 自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など)	45	0.0	4.4	53.3	0.0	40.0	0.0	2.2
	5. 専業主婦・専業主夫	430	0.5	10.0	54.0	0.0	28.6	0.7	5.6
	6. 無職(4及び5を除く)	66	3.0	10.6	50.0	0.0	30.3	0.0	4.5

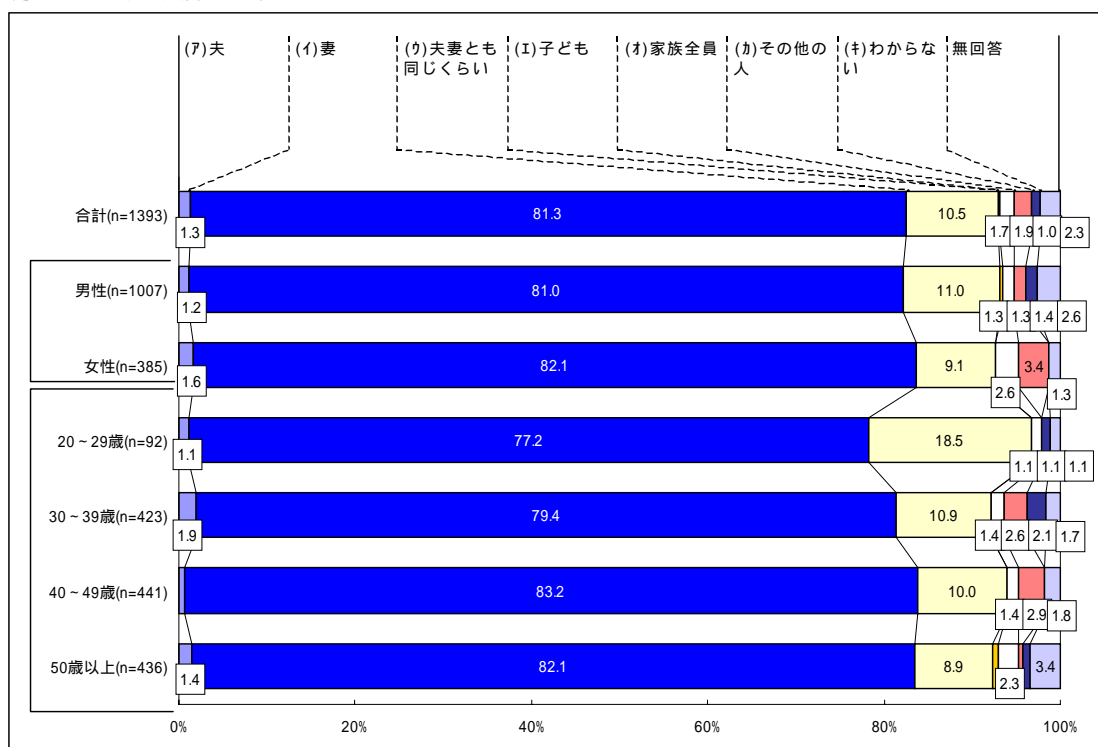
## (17) 家庭内の仕事の実際の分担

問17 あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に主にだれが分担していますか。(1つ選択)

食事のしたく

「妻」が81.3%でトップ

食事のしたくの実際の分担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「妻」が81.3%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が10.5%、「その他の人」が1.9%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

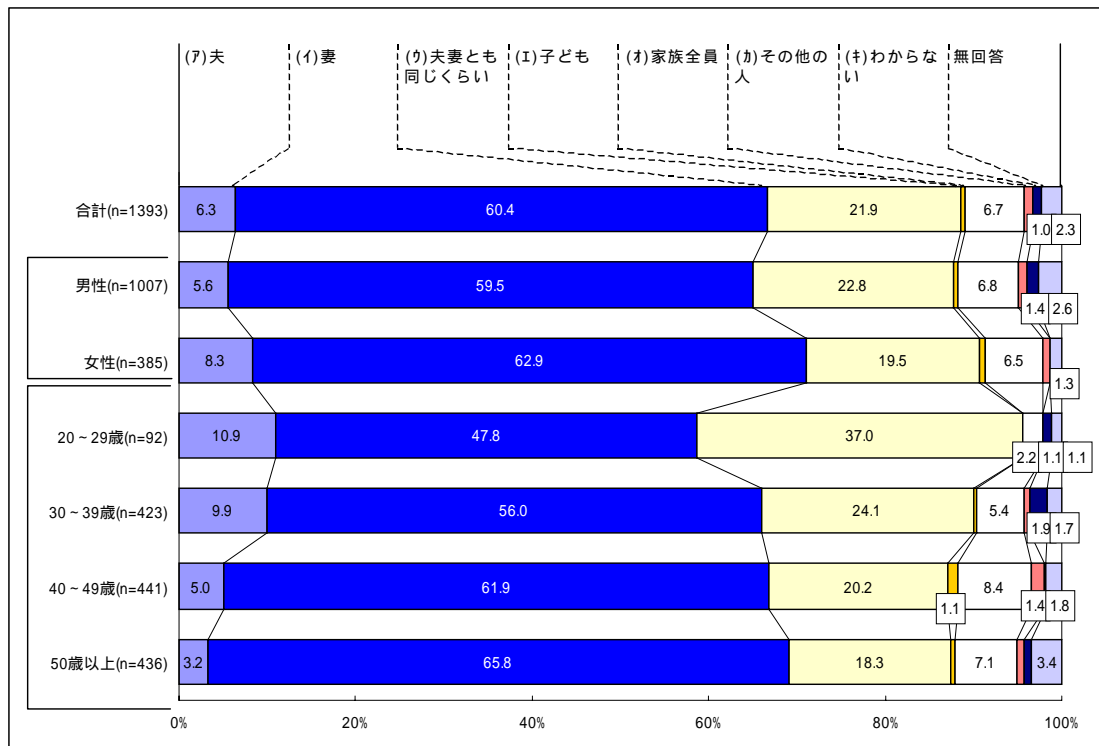
### 【年齢別】

20～29歳で「夫妻とも同じくらい」が18.5%と、他の年代に比べ高い。

## 食事の後かたづけ、食器洗い

「妻」が60.4%でトップ

### 食事の後かたづけ、食器洗いの実際の分担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「妻」が60.4%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が21.9%、「家族全員」が6.7%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。また、女性では「夫」も市民に比べより高い。

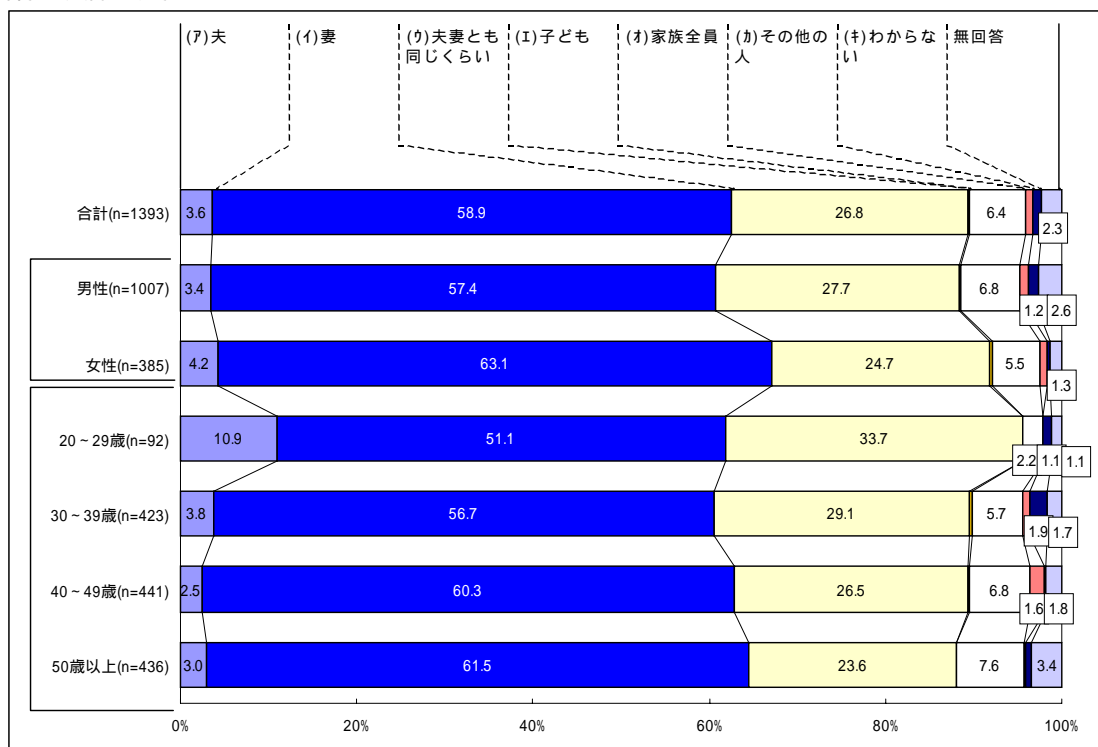
#### 【年齢別】

20～29歳で「夫妻とも同じくらい」が37.0%と他の年代に比べ高く、「妻」が47.8%と他の年代に比べ低い。

## 掃除

「妻」が58.9%でトップ

### 掃除の実際の分担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「妻」が58.9%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が26.8%、「家族全員」が6.4%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

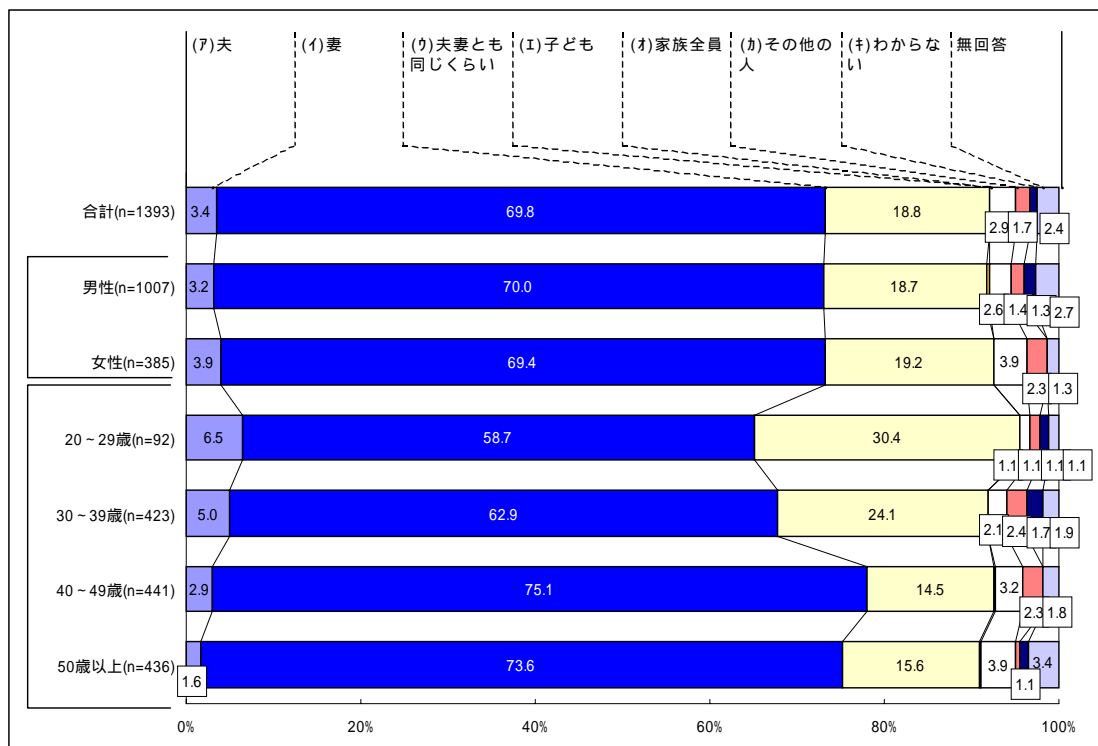
#### 【年齢別】

20～29歳で「夫」が10.9%と、他の年代に比べ高い。

## 洗濯

「妻」が69.8%でトップ

### 洗濯の実際の分担



このグラフにおいては、すべての数値を表示すると煩雑となるため、1.0%未満の数値の表示を省略している。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「妻」が69.8%と最も高く、「夫妻とも同じくらい」が18.8%、「夫」が3.4%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

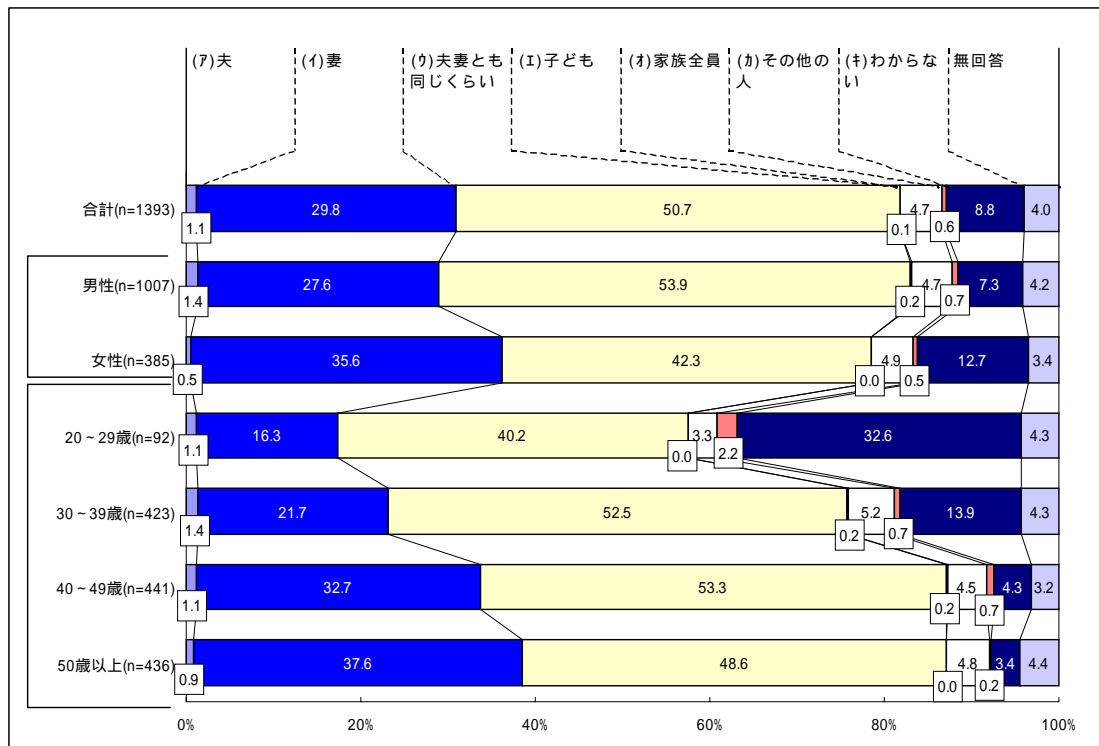
#### 【年齢別】

20～39歳で「夫妻とも同じくらい」が2割以上と、他の年代に比べ高い。また、40歳以上では「妻」が7割以上と、他の年代に比べ高い。

## 育児・しつけ

「夫妻とも同じくらい」が50.7%でトップ

### 育児・しつけの実際の分担



「わからない」の回答が多いのは、未婚、または結婚していても子どもがいないために「育児・しつけ」の役割が現実にはない方が選択したものと想定される。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「夫妻とも同じくらい」が50.7%と最も高く、「妻」が29.8%、「わからない」が8.8%で続いている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

#### 【性別】

男性で「夫妻とも同じくらい」が53.9%と、女性(42.3%)に比べ11.6ポイント高い。一方、女性では「妻」が35.6%と、男性(27.6%)に比べ8.0ポイント高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「夫妻とも同じくらい」が市民に比べより高く、「妻」がより低い。

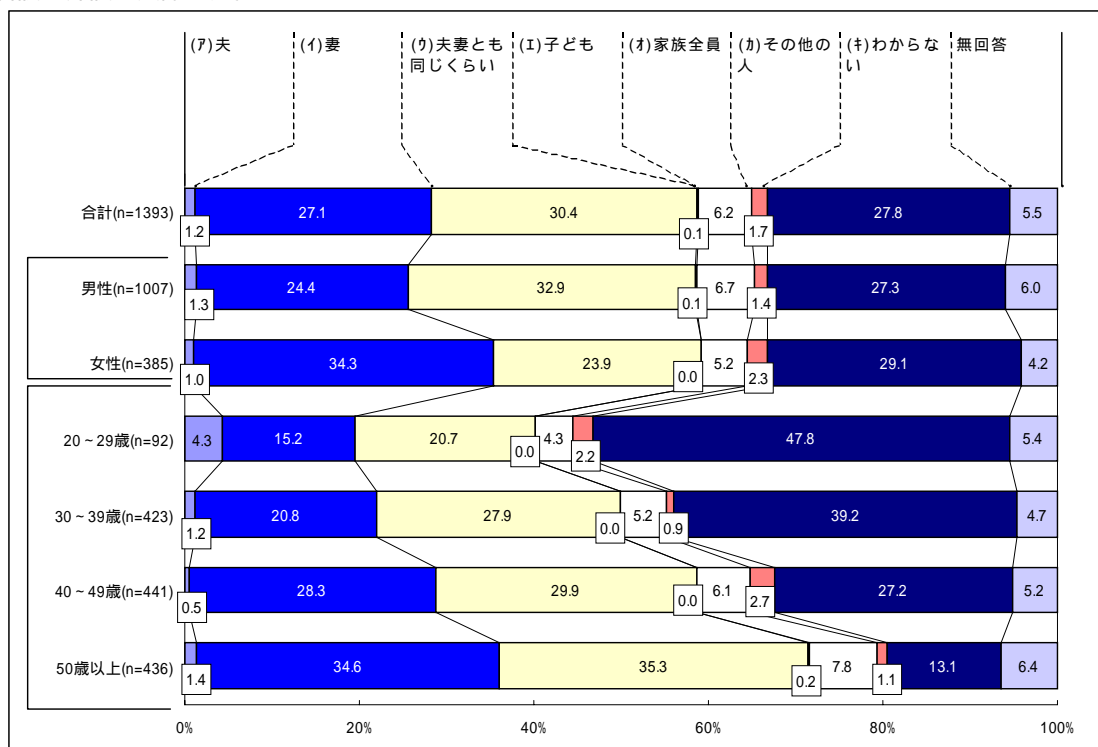
#### 【年齢別】

40歳以上で「妻」が3割以上と、他の年代に比べ高い。なお、20～29歳では「夫妻とも同じくらい」が他の年代に比べ低いが、「わからない」が高いため、一概に傾向があるとはいえない。

## 看護・介護

「夫妻とも同じくらい」30.4%、「わからない」27.8%、「妻」27.1% の順

### 看護・介護の実際の分担



「わからない」の回答が多いのは、「看護・介護」を必要とする人が身近にいないため、その役割が現実にはない方が選択したものと想定される。

(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「夫妻とも同じくらい」が30.4%、「わからない」が27.8%、「妻」が27.1%となっている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「妻」が市民に比べより低く、「わからない」がより高い。

#### 【性別】

男性で「夫妻とも同じくらい」が32.9%と、女性(23.9%)に比べ9.0ポイント高い。一方、女性では「妻」が34.3%と、男性(24.4%)に比べ9.9ポイント高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「妻」が市民に比べより低く、「わからない」がより高い。

#### 【年齢別】

「妻」は年代があがるほど高くなる傾向が認められる。ただし、「わからない」は年代がさがるほど高くなる傾向が認められる。

**参考：配偶者の職業別にみた家庭内の仕事の実際的な負担**

食事の後かたづけ、食器洗い、掃除、洗濯については、配偶者が「勤め人（常勤）」の人で「夫妻とも同じくらい」が他に比べ高く、「妻」が他に比べ低い傾向が認められる。食事の後かたづけ、食器洗いについては、配偶者が「勤め人（常勤）」の人で「夫」も他に比べ高い。看護・介護については、配偶者が「自営業」、「無職」の人で「妻」が他に比べ高い。

食事のしたく、育児・しつけについては、配偶者の職業による差異は特に認められない。

		n	問17 食事のしたく						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(1)子ども	(4)家族全員	(ハ)その他の人	(ワ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人（常勤）	604	2.2	76.5	13.6	0.2	1.7	3.6	0.5
	2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）	240	0.8	84.2	10.0	0.0	0.4	1.3	0.8
	3. 自営業（事業の経営者、家業の手伝い、内職など）	45	0.0	82.2	8.9	0.0	6.7	0.0	0.0
	5. 専業主婦・専業主夫	430	0.2	87.4	6.3	0.2	1.6	0.2	1.6
	6. 無職（4及び5を除く）	66	3.0	72.7	13.6	0.0	3.0	0.0	3.0

		n	問17 洗濯						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(1)子ども	(4)家族全員	(ハ)その他の人	(ワ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人（常勤）	604	6.1	59.4	25.8	0.2	4.0	2.3	0.3
	2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）	240	1.3	75.0	16.3	0.4	1.3	2.1	1.3
	3. 自営業（事業の経営者、家業の手伝い、内職など）	45	2.2	77.8	13.3	0.0	2.2	2.2	0.0
	5. 専業主婦・専業主夫	430	1.2	80.2	12.1	0.0	2.1	0.5	1.4
	6. 無職（4及び5を除く）	66	1.5	71.2	12.1	0.0	6.1	1.5	3.0

		n	問17 食事の後かたづけ、食器洗い						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(1)子ども	(4)家族全員	(ハ)その他の人	(ワ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人（常勤）	604	10.6	52.8	26.2	0.5	6.5	1.0	0.7
	2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）	240	3.3	63.8	19.6	0.4	7.5	2.1	0.8
	3. 自営業（事業の経営者、家業の手伝い、内職など）	45	0.0	71.1	15.6	2.2	8.9	0.0	0.0
	5. 専業主婦・専業主夫	430	2.6	68.1	18.8	0.5	6.0	0.2	1.4
	6. 無職（4及び5を除く）	66	4.5	59.1	18.2	1.5	9.1	0.0	3.0

		n	問17 育児・しつけ						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(1)子ども	(4)家族全員	(ハ)その他の人	(ワ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人（常勤）	604	1.5	27.2	48.0	0.2	5.0	0.7	12.9
	2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）	240	1.3	30.4	52.9	0.4	5.8	1.3	5.0
	3. 自営業（事業の経営者、家業の手伝い、内職など）	45	0.0	37.8	44.4	0.0	4.4	0.0	11.1
	5. 専業主婦・専業主夫	430	0.9	31.2	54.7	0.0	3.7	0.5	5.8
	6. 無職（4及び5を除く）	66	0.0	36.4	47.0	0.0	6.1	0.0	4.5

		n	問17 掃除						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(1)子ども	(4)家族全員	(ハ)その他の人	(ワ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人（常勤）	604	5.6	51.8	32.6	0.2	6.3	1.0	0.7
	2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）	240	2.5	65.4	22.1	0.0	5.0	1.7	0.8
	3. 自営業（事業の経営者、家業の手伝い、内職など）	45	2.2	71.1	20.0	0.0	4.4	0.0	0.0
	5. 専業主婦・専業主夫	430	1.6	62.3	24.9	0.2	7.0	0.5	1.2
	6. 無職（4及び5を除く）	66	3.0	69.7	9.1	0.0	10.6	0.0	3.0

		n	問17 看護・介護						
			(7)夫	(イ)妻	(ウ)夫妻とも同じくらい	(1)子ども	(4)家族全員	(ハ)その他の人	(ワ)わからない
F511 (配偶者の職業)	1. 勤め人（常勤）	604	1.3	25.3	28.5	0.2	5.1	1.8	32.1
	2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）	240	0.8	25.0	36.3	0.0	7.9	2.5	22.5
	3. 自営業（事業の経営者、家業の手伝い、内職など）	45	0.0	35.6	33.3	0.0	4.4	2.2	22.2
	5. 専業主婦・専業主夫	430	1.6	28.6	29.3	0.0	6.7	1.2	27.0
	6. 無職（4及び5を除く）	66	0.0	34.8	31.8	0.0	9.1	0.0	18.2



## 5 男女共同参画に関する施策などについて

### (18) 男女共同参画関連事項の認知度

問18 次の男女共同参画に関する事項を、あなたはどの程度ご存知ですか。

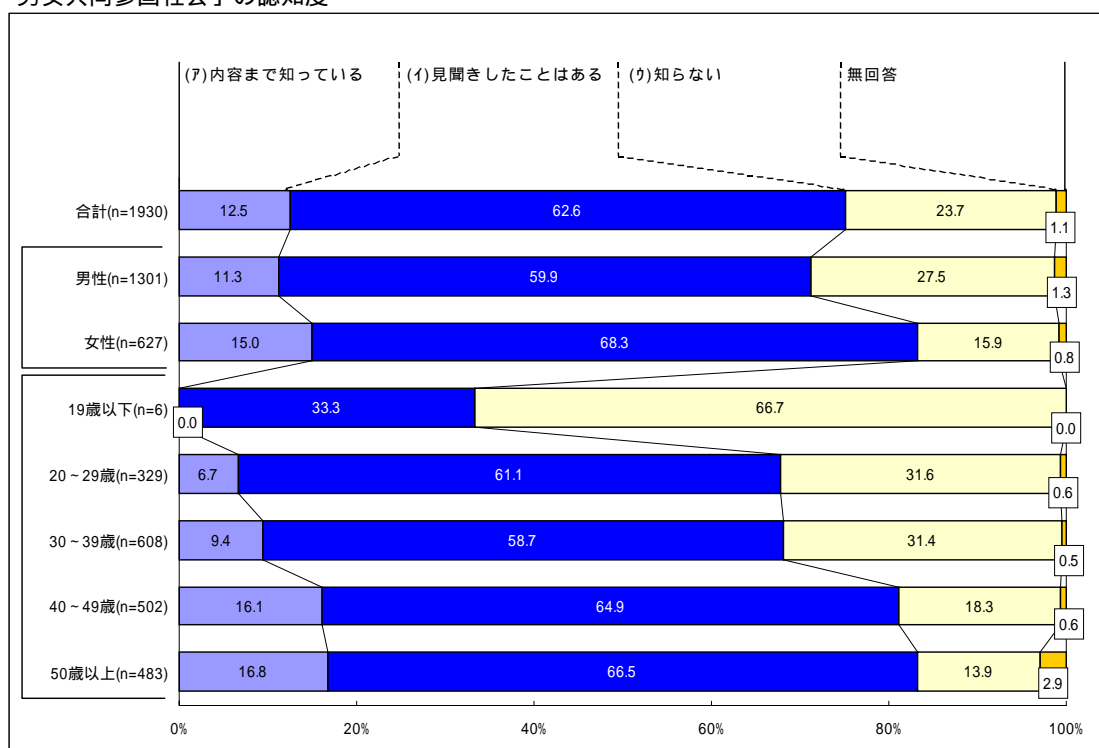
**(1つ選択)**

「内容まで知っている」と「見聞きしたことはある」を合わせて『知っている』とする。

男女共同参画社会

『知っている』75.1% > 「知らない」23.7%

「男女共同参画社会」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「見聞きしたことはある」が62.6%と最も高く、「知らない」が23.7%、「内容まで知っている」が12.5%で続いている。『知っている』(75.1%)が、「知らない」(23.7%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「内容まで知っている」、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

#### 【性別】

男性で「知らない」が27.5%と、女性(15.9%)に比べ11.6ポイント高い。一方、女性では「見聞きしたことはある」が68.3%、「知っている」が83.3%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「内容まで知っている」、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

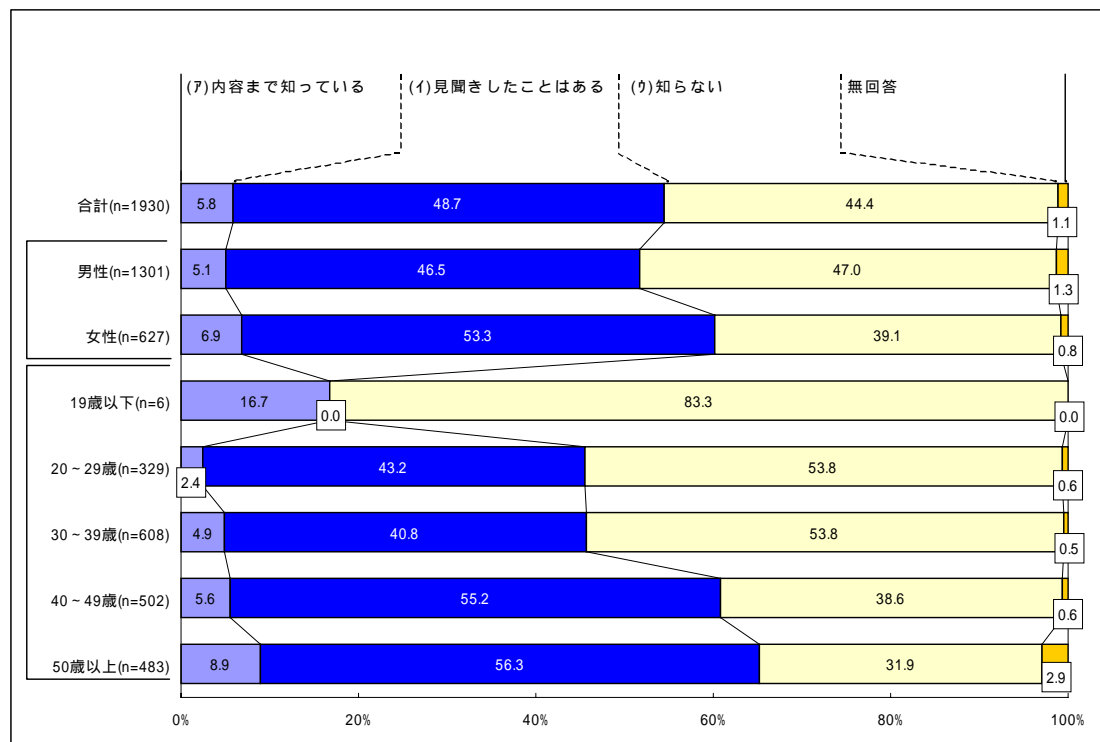
#### 【年齢別】

40歳以上で「内容まで知っている」が15%以上、『知っている』が8割以上とそれぞれ他の年代に比べ高い。

## 男女共同参画社会基本法

『知っている』54.5% > 『知らない』44.4%

### 「男女共同参画社会基本法」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「見聞きしたことはある」が48.7%、「知らない」が44.4%と高く、「内容まで知っている」は5.8%にとどまっている。『知っている』(54.5%)が、「知らない」(44.4%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

#### 【性別】

男性で「知らない」が47.0%と、女性(39.1%)に比べ7.9ポイント高い。一方、女性では「見聞きしたことはある」が53.3%、『知っている』が60.2%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

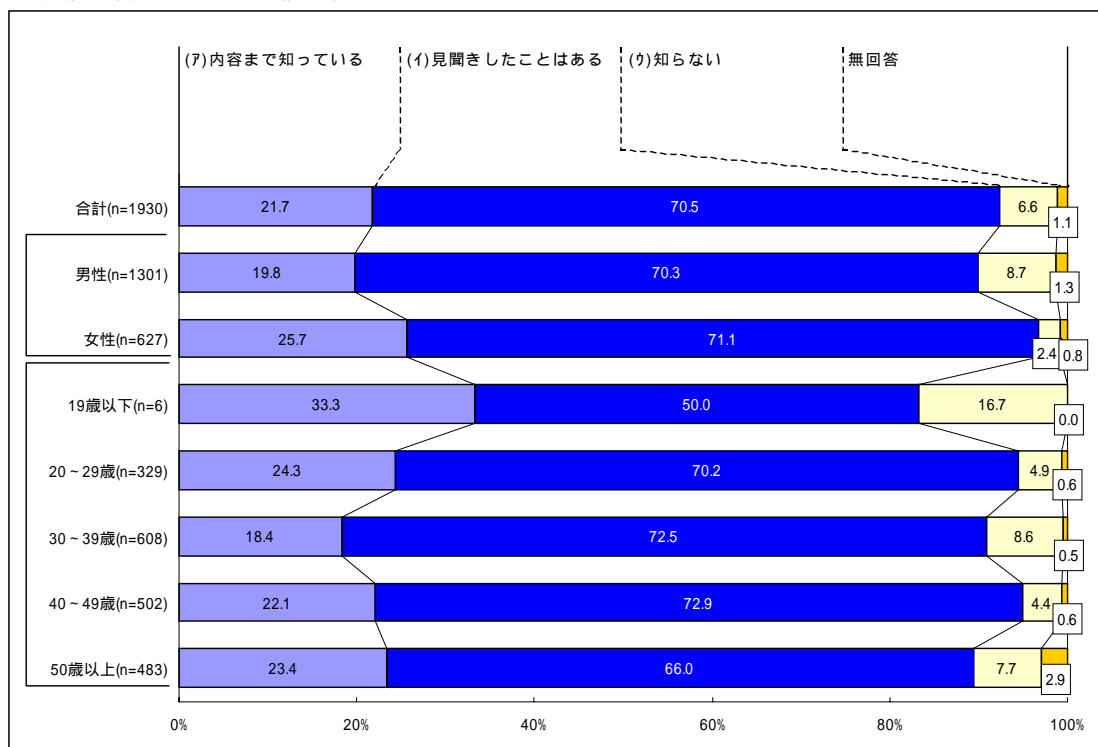
#### 【年齢別】

20～39歳で「知らない」が5割以上と、他の年代に比べ高い。一方、40歳以上では「見聞きしたことはある」が55%以上、『知っている』が6割以上とそれぞれ他の年代に比べ高い。

## 男女雇用機会均等法

『知っている』92.2% > 「知らない」6.6%

### 「男女雇用機会均等法」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「聞きしたことはある」が70.5%と最も高く、「内容まで知っている」が21.7%、「知らない」が6.6%が続いている。『知っている』(92.2%)が、「知らない」(6.6%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

#### 【性別】

男性で「知らない」が8.7%と、女性(2.4%)に比べ6.3ポイント高い。一方、女性では『知っている』が96.8%と、男性(90.1%)に比べ6.7ポイント高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性で「聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「内容まで知っている」がより低い。また、女性では「内容まで知っている」、「聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

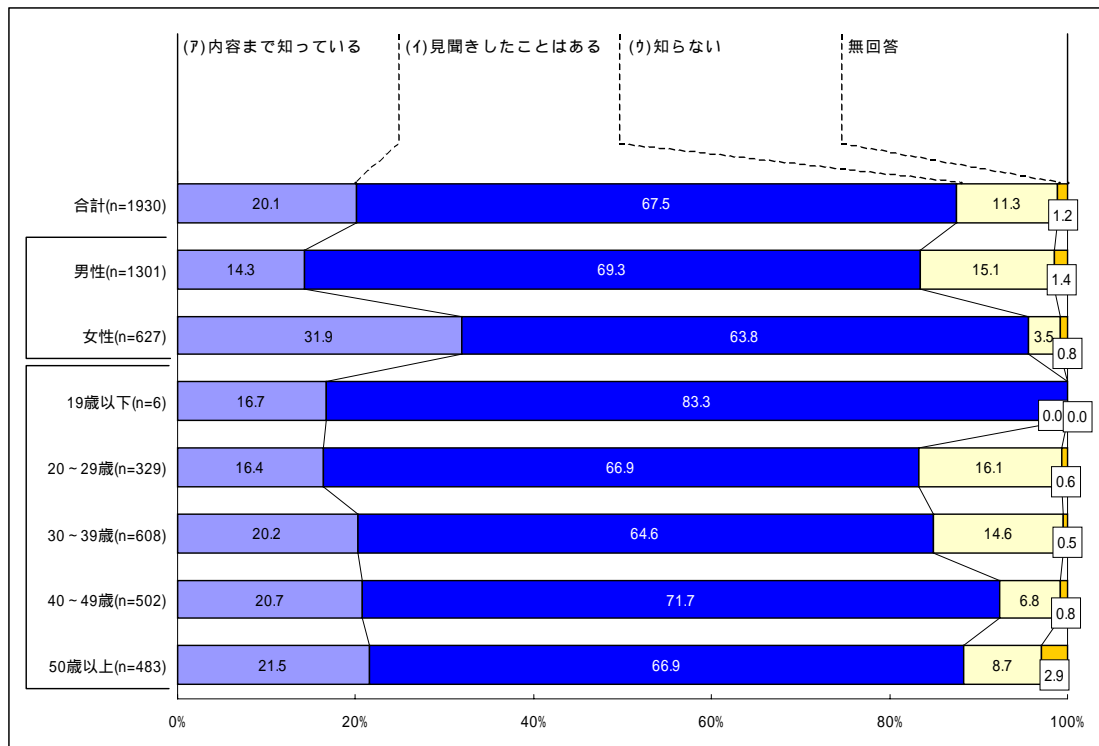
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 育児・介護休業法

『知っている』87.6% > 「知らない」11.3%

### 「育児・介護休業法」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「聞きしたことはある」が67.5%と最も高く、「内容まで知っている」が20.1%、「知らない」が11.3%が続いている。『知っている』(87.6%)が、「知らない」(11.3%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

#### 【性別】

男性で「知らない」が15.1%と、女性(3.5%)に比べ11.6ポイント高い。一方、女性では「内容まで知っている」が31.9%、『知っている』が95.7%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「聞きしたことはある」が市民に比べより高い。また、女性では「内容まで知っている」も市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

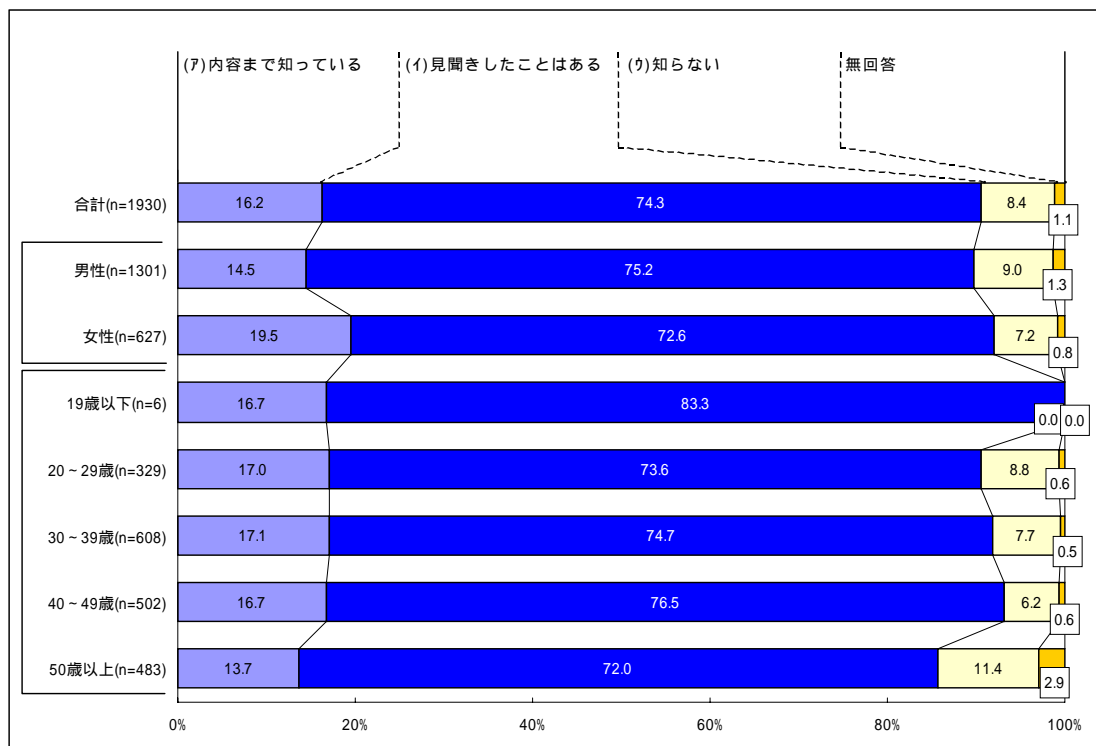
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## ストーカー規制法

『知っている』90.5% > 「知らない」8.4%

### 「ストーカー規制法」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「見聞きしたことはある」が74.3%と最も高く、「内容まで知っている」が16.2%、「知らない」が8.4%が続いている。『知っている』(90.5%)が、「知らない」(8.4%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「見聞きしたことはある」が市民に比べより高い。また、女性では「知らない」が市民に比べより低い。

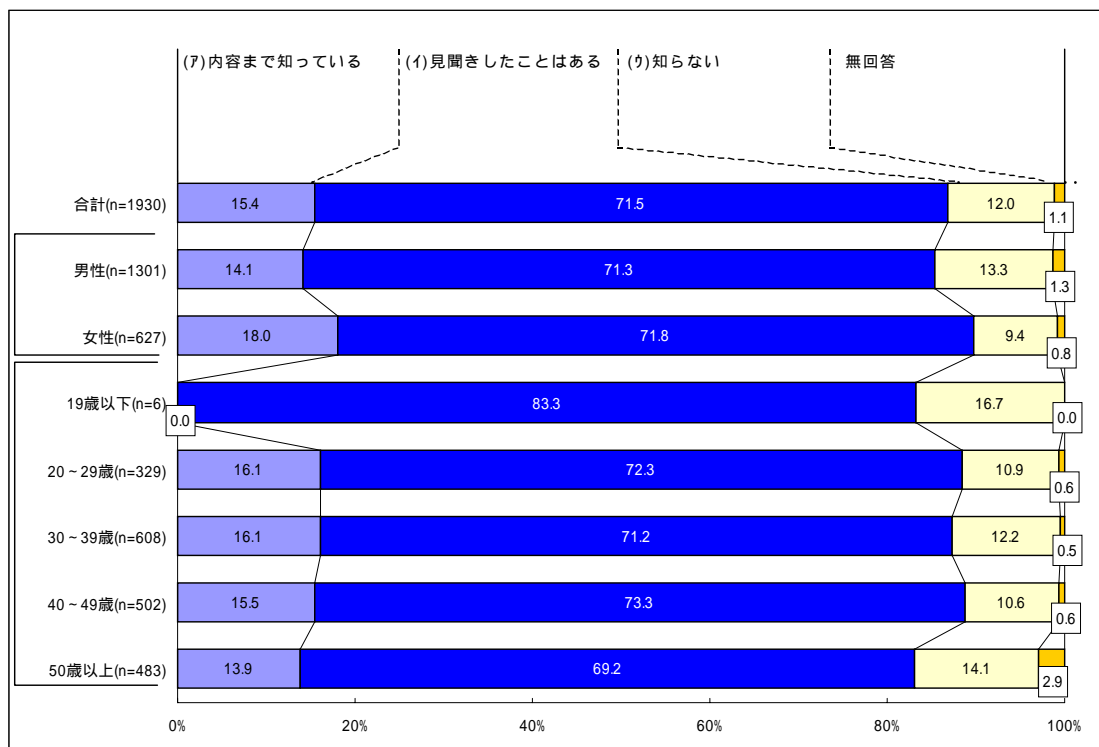
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）

『知っている』86.9% > 「知らない」12.0%

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」の認知度



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「見聞きしたことはある」が71.5%と最も高く、「内容まで知っている」が15.4%、「知らない」が12.0%で続いている。『知っている』(86.9%)が、「知らない」(12.0%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。また、女性では「内容まで知っている」も市民に比べより高い。

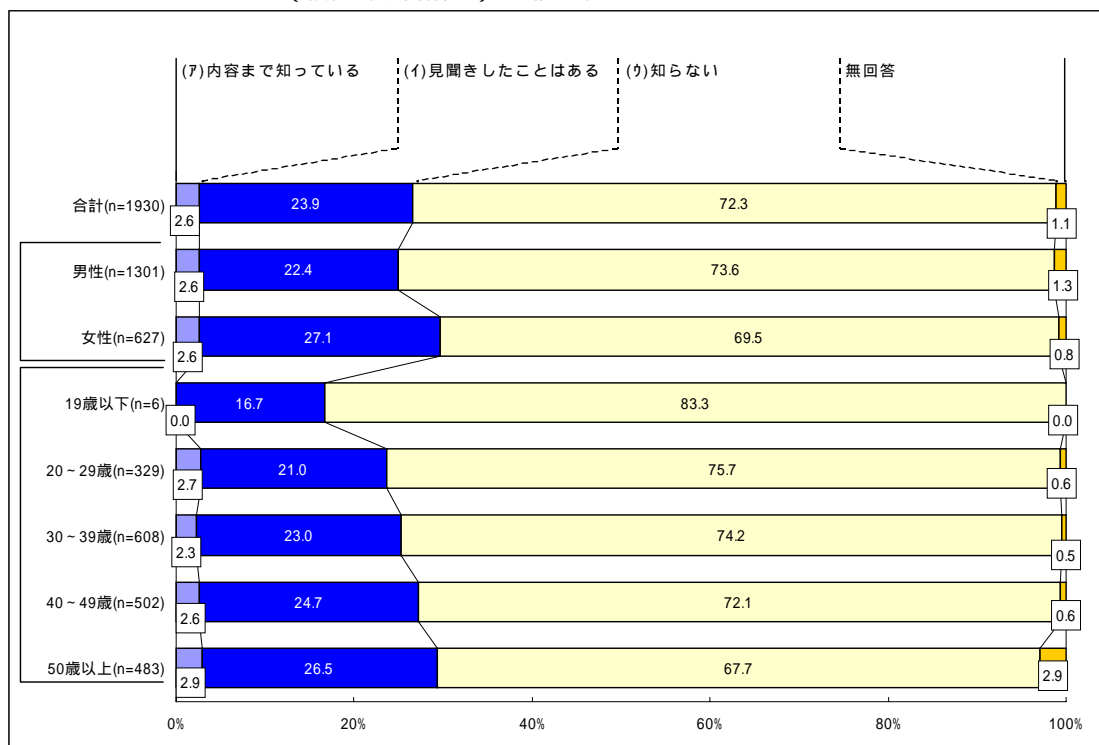
### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「知らない」72.3% > 「知っている」26.5%

### 「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「知らない」が72.3%と最も高く、「見聞きしたことはある」が23.9%で続いており、「内容まで知っている」は2.6%にとどまっている。「知らない」(72.3%)が、「知っている」(26.5%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高い。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「見聞きしたことはある」が市民に比べより高い。また、女性では「知らない」が市民に比べより低い。

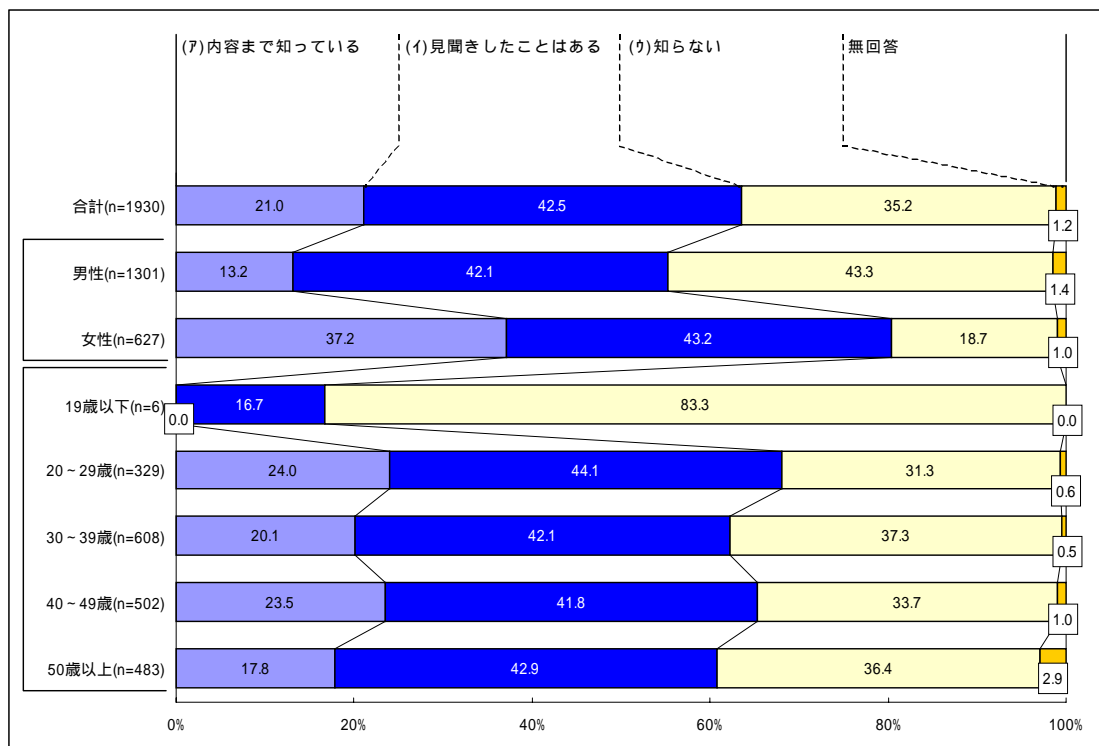
#### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）

『知っている』63.5% > 「知らない」35.2%

### 「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」の認知度



（全体・性別・年齢別）

#### 【全体】

「見聞きしたことはある」が42.5%と最も高く、「知らない」が35.2%、「内容まで知っている」が21.0%が続いている。『知っている』（63.5%）が、「知らない」（35.2%）を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「内容まで知っている」、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

#### 【性別】

男性で「知らない」が43.3%と、女性（18.7%）に比べ24.6ポイント高い。一方、女性では「内容まで知っている」が37.2%、『知っている』が80.4%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「内容まで知っている」、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

#### 【年齢別】

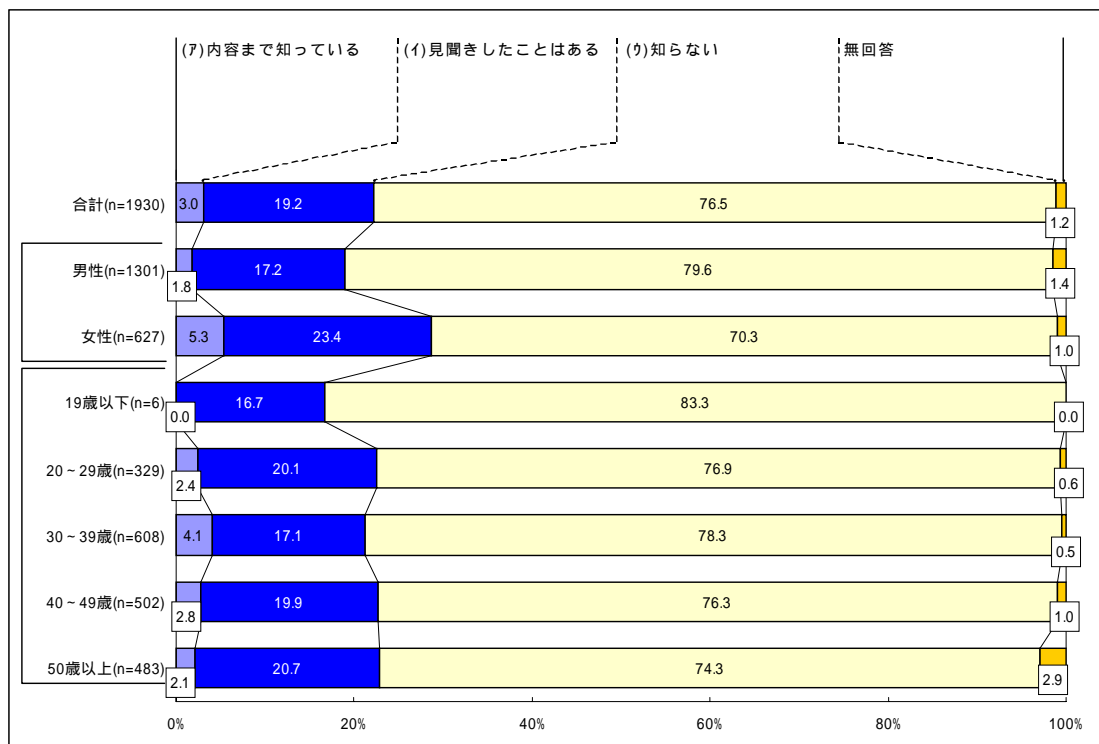
特に大きな差異は認められない。



## リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）

「知らない」76.5% > 『知っている』22.2%

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）」の認知度



(全体・性別・年齢別)

### 【全体】

「知らない」が76.5%と最も高く、「見聞きしたことはある」が19.2%で続いており、「内容まで知っている」は3.0%にとどまっている。「知らない」(76.5%)が、「知っている」(22.2%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高い。

### 【性別】

男性で「知らない」が79.6%と、女性(70.3%)に比べ9.3ポイント高い。一方、女性では「見聞きしたことはある」が23.4%、「知っている」が28.7%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「見聞きしたことはある」が市民に比べより高い。また、女性では「知らない」が市民に比べより低い。

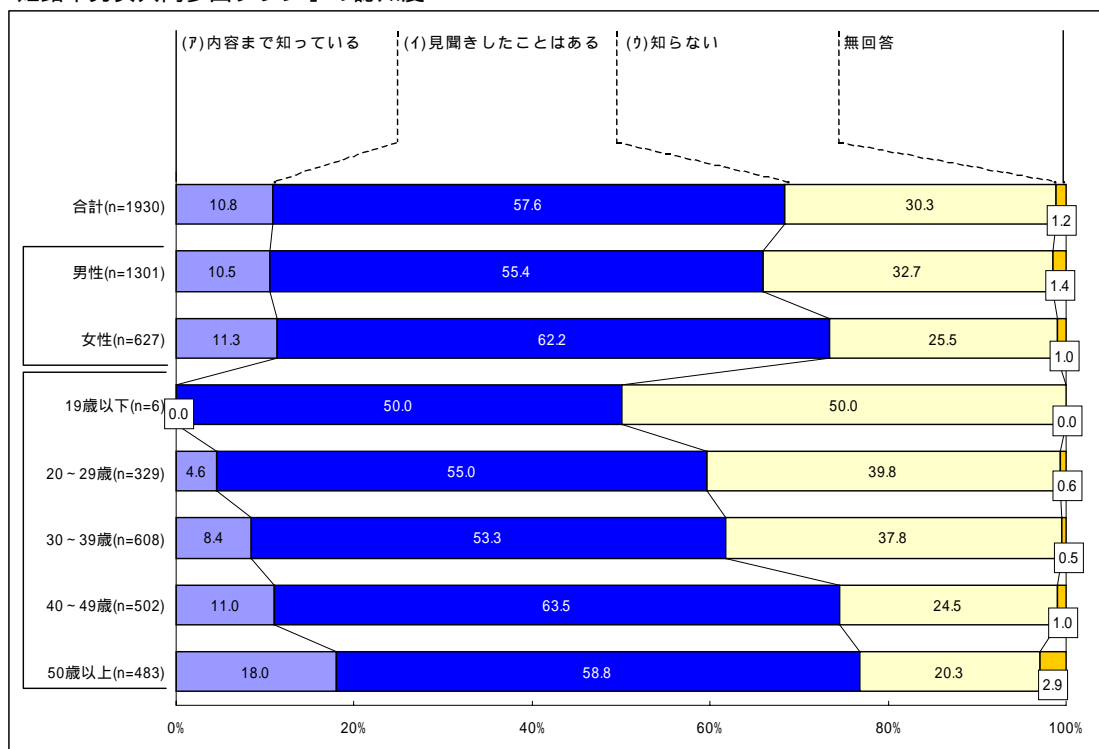
### 【年齢別】

特に大きな差異は認められない。

## 姫路市男女共同参画プラン

『知っている』68.4% > 「知らない」30.3%

### 「姫路市男女共同参画プラン」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「見聞きしたことはある」が57.6%と最も高く、「知らない」が30.3%、「内容まで知っている」が10.8%が続いている。『知っている』(68.4%)が、「知らない」30.3%を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「内容まで知っている」、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

#### 【性別】

男性で「知らない」が32.7%と、女性(25.5%)に比べ7.2ポイント高い。一方、女性では「見聞きしたことはある」が62.2%、『知っている』が73.5%とそれぞれ男性に比べ高い。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「内容まで知っている」、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

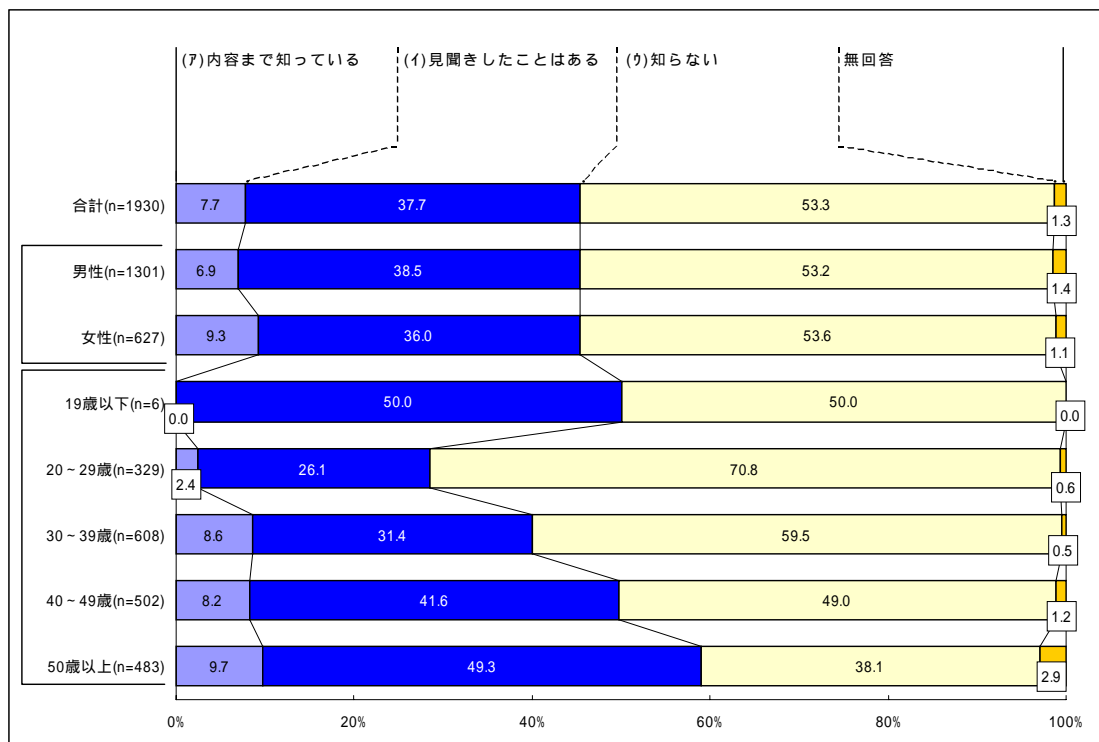
#### 【年齢別】

20～39歳で「知らない」が35%以上と、他の年代に比べ高い。一方、40歳以上では『知っている』が75%前後と、他の年代に比べ高い。また、50歳以上で「内容まで知っている」が18.0%と、他の年代に比べ高い。

## 男女平等に関する表現指針（職員用刊行物作成の手引き）

「知らない」53.3% > 「知っている」45.4%

### 「男女平等に関する表現指針（職員用刊行物作成の手引き）」の認知度



（全体・性別・年齢別）

#### 【全体】

「知らない」が53.3%と最も高く、「見聞きしたことはある」が37.7%で続いており、「内容まで知っている」は7.7%にとどまっている。「知らない」(53.3%)が、「知っている」(45.4%)を上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

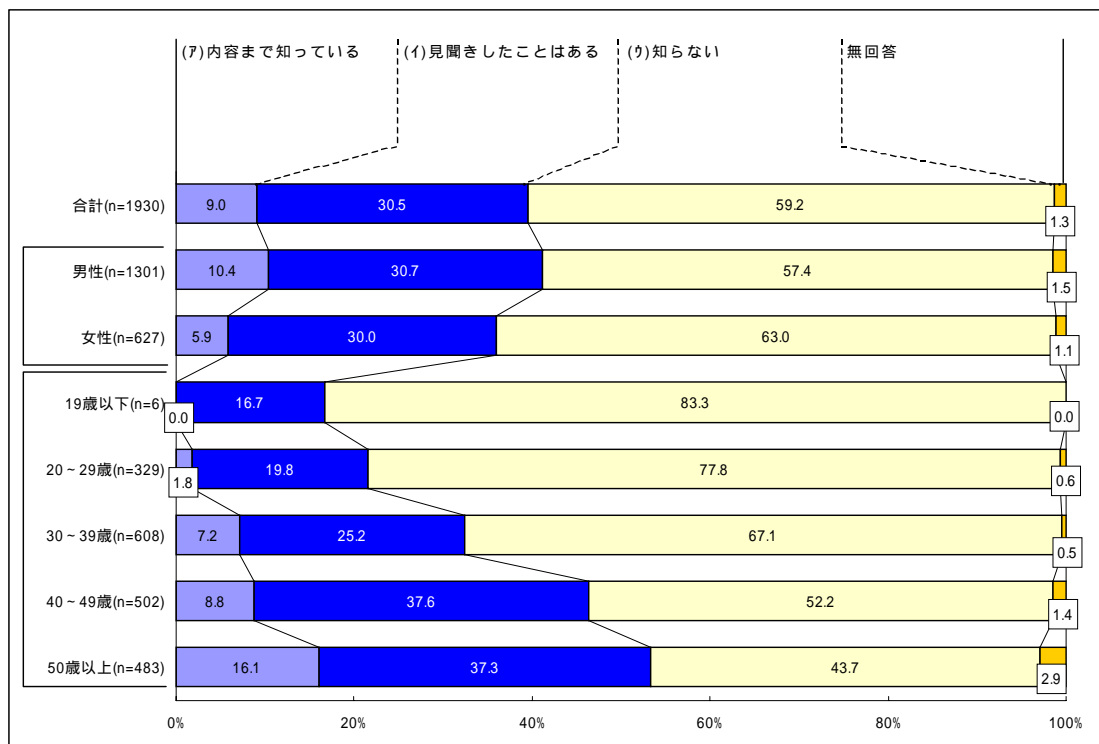
#### 【年齢別】

「知っている」は年代があがるほど高くなる傾向が認められる。一方、「知らない」は年代がさがるほど高くなる傾向がある。40歳を境に「知らない」と「知っている」の割合が逆転している。

## 姫路市審議会等委員への女性の登用促進に関する指針

「知らない」59.2% > 「知っている」39.5%

### 「姫路市審議会等委員への女性の登用促進に関する指針」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「知らない」が59.2%と最も高く、「見聞きしたことはある」が30.5%で続いており、「内容まで知っている」は9.0%にとどまっている。「知らない」(59.2%)が、「知っている」(39.5%)を大きく上回っている。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

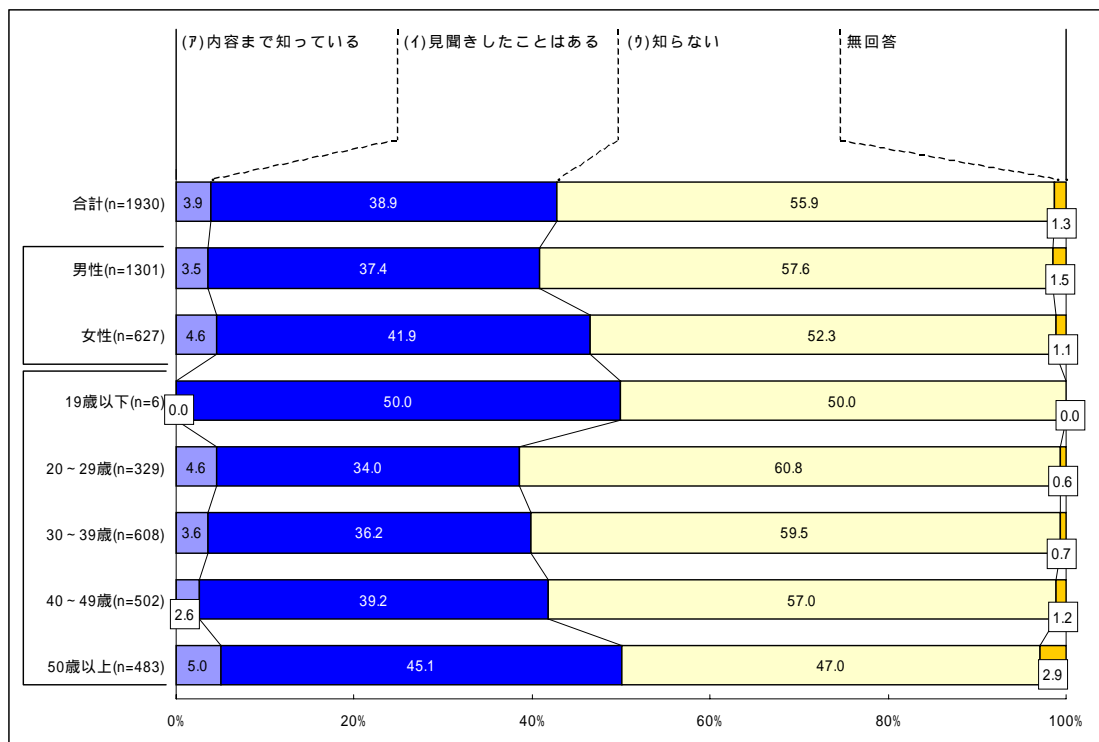
#### 【年齢別】

「知っている」は年代があがるほど高くなる傾向が認められる。一方、「知らない」は年代がさがるほど高くなる傾向がある。また、50歳以上では、「知っている」が「知らない」を上回っている。

## 配偶者暴力相談支援センター

「知らない」55.9% > 『知っている』42.8%

### 「配偶者暴力相談支援センター」の認知度



(全体・性別・年齢別)

#### 【全体】

「知らない」が55.9%と最も高く、「見聞きしたことはある」が38.9%で続いており、「内容まで知っている」は3.9%にとどまっている。「知らない」(55.9%)が、「知っている」(42.8%)を大きく上回っている。

なお、市民意識調査結果と比較すると、「見聞きしたことはある」が市民に比べより高い。

#### 【性別】

特に大きな差異は認められない。

なお、市民意識調査結果と比較すると、男性、女性ともに「見聞きしたことはある」が市民に比べより高く、「知らない」がより低い。

#### 【年齢別】

50歳以上で『知っている』が50.1%と他の年代に比べ高く、「知らない」が47.0%と他の年代に比べ低い。

# 自由回答意見一覽

## 自由回答意見一覧

男女共同参画に関する意見・要望について自由解答欄を設けた結果、112人から回答が得られた。

以下、本調査の趣旨に直接関連のない意見・要望を除き、基本的に記述いただいたとおり紹介する。

年齢	性別	自由回答意見
20～29歳	男性	男性が代われない出産に関して、産休だけではなく、仕事の調整がしやすい体制づくり（あらかじめ出産、産休の期間に継続的な仕事が重ならないようにする等）が必要であると思う。
20～29歳	男性	「男女共同参画」とは「男女が共に社会参画をしていく」ということだと認識しているが、その多くは「女性を守る」ことに傾倒しているように感じられる。無論、男性優位の社会構造や女性に「家に入る」ことを強要し続けてきた背景がある以上、それは当然のなりゆきであることはわかるが、当事者同士の主観に左右されがちな「セクハラ」に関する認識（発言・行動がセクハラに相当するか否かが当事者の主観による以上、発言・行動が過剰なまでに慎重にならざるを得ない）女性自身に求められるビジョンの提示不足等が個人的には問題点として感じられる。 男性が女性に対する接し方、認識等を改め、女性を対等なパートナーとしてともに歩んでいくよう努力を求めるのは当然であるが、同時に女性自身にも男性とともに生きていくための啓発に努めてもらいたい。 お互いをお互いが認め合い、尊重し合い、ともに歩むことこそが「男女共同参画」とであると私は考える。
20～29歳	男性	実社会では女性が不利益をこうむる場合が圧倒的に多いため、仕方がないのかもしれないが、「男女」平等・「男女」共同参画を謳う割には、女性のみを重視・優遇する活動が多いように思う。男性の育児参加を勧める活動はあっても、そのための制度作りには力を入れる活動はほとんど見たことがない。今回の設問の問12であれば、セクハラのは被害者は女性だけという感じを受ける。男女共同参画といいながら、女性のための活動のみに終始しているように見えるし、男性からの視点があまりにも欠けているように感じる。
20～29歳	男性	「男女平等」を錦の御旗にして、実質は女尊男卑を目指しているフェミニズム的な意見は取り入れず、精神的身体的性差を考慮した上で如何なる状態が平等であるかを検討していただきたい。
20～29歳	男性	自分は20代ですが、少なくとも20代においてはそんなに差があるとは感じません。（民間に勤める友人と接していても）ただ依然として主たる収入を得るのは男性という考え方が一般的で、男は小さい時より意識させられるが、女性で主たる収入を得ようと考えている人は極めて少ないと感じます。周りの女性を見て、責任の重い仕事や昇進を強く望んでいるかという点、あまりそう感じません。権利と義務は表裏一体ですし、職場環境よりも家庭環境のほうが男女共同参画に与える影響は大きいと思います。
20～29歳	男性	社会意識として女性の不遇が残っているのが現状ではあるが、「男性だから」「女性だから」として是正策（とくに逆差別措置）を講じるのは、同性間での不平等を招きかねない。あくまで個人を尊重する、個々の具体的能力に応じた対応をとるべきであり、男性だから、女性だからという観点で制度を設計するという時点で、差別を内在させると考える。 またアンケートはある種、啓蒙的な意義もあるからその部分は差し引くにしても、アンケート自身が女性の差別のみを問題視して、男性の不遇はないかのように推測されるところが少なくない。両性の平等が目的であり、女性の不遇のみが問題ではないことを申し述べておくべきだ。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
20～29 歳	男性	男女には、身体的・精神的違いがある以上、完全な平等は無理だと思う。それを踏まえた上での企画を推進されてはどうか。
20～29 歳	男性	男性のみの職場に女性が配属される場合の衛生環境が整備されていない。 性差にかかわらず、身長の高低、筋力の大小があるので施設、設備はユニバーサルデザインで。 管理職のセクハラに対する意識が低い。
20～29 歳	男性	男女平等になってきているとは思いますが、まだの部分もあると思います。職種でも女性にはおすすりできないものもありますが、それは仕方ないことだと思います。男性、女性が不平不満なく平等に生活していくには個人一人ひとりの認識がとても大事だと思います。「男女共同参画プラン」はとても良いことだと思います。大変だと思いますががんばってください。
30～39 歳	男性	家庭内のことが男女平等といったことで表に出てくることじたいどうかと思う。特に家事については、家族みんなでやるべきだと思うし、私のところみたいに、私が仕事をしているので、食事の用意や洗濯も基本的に妻がします。それは、家庭内での話し合いをしてお互いに役割分担をしているからで、なんの問題もありません。お互いが思いやりをもって家事を分担すればよいだけのことなのではないのでしょうか？ 妻も仕事をしたいと最近言っているのですが、子どもを保育園に預けることの難しさや、税金、年金の問題など、難題が多い現状を考えると一歩踏み出すことができません。労働時間の短縮や保育園の充実など環境を整備していかないと、女性が仕事をするのは難しいと思います。市役所の中に、職員専用の保育所があってもいいのではないのでしょうか？そんなことから、女性が仕事することへのハードルが低くなると思います。
30～39 歳	男性	1 男性も結婚したら、妻と子どものことを中心に考えて行動すべきと思う。 2 男女の身体の違いに伴う向き不向きがあると思うので、それに反する役割分担を強制するのは自然の摂理に反することなのではないかと考えることがあります。
30～39 歳	男性	専業主婦業も立派な職業なのだから、家庭外的社会進出のバックアップだけでなく、家庭内の主婦の地位向上のためのバックアップも必要と思う。家庭内で家事や看護を1人で行うことは重労働であり、その労力の評価が低いことが、専業主婦の労働力の活性化を妨げ、女性の選択肢を減らしていると思う。
30～39 歳	男性	男女差別の観点は人それぞれ。女性の中には男性と同様の扱いをされるほうが差別と感じる方もいる。それよりも、その個人が望まないことを強要することの方が、人権侵害であり、もっと深刻であるとの認識を持つべきではないでしょうか？それと、この設問は女性のみが差別を受けている前提で作られています。男性でも家事に専念したい方もいるが、それをおかしいと思うことは男女差別ではありませんか？男としてや女としてより、もっと、人間としての観点が必要だと思います。
30～39 歳	男性	互いに補い合えばよく、どのような形が平等なのか理解に苦しむ。
30～39 歳	男性	いくら平等な法律ができたとしても、出産直後に女性に即日勤務はできないだろうし、男性が替わりに出産できるわけではない。育児休業を男性が取れるようになったとしても、母乳だけにたよっている赤ちゃんの面倒をみるのはかなり大変だと思う。育休も3年ほどとれるようになっているが、金銭面よりもやはり、復帰後の自分の立場が一番気になるところだと思う。核家族が共働きでやっていくには、手厚い子育て支援（保育所の延長、子どもの病気の対応、学童保育、勤務時間のフレックス制など）が必要だと思います。結局、女性が働いていく上で、子どもができて何も気にすることがなくなったときこそが平等なんだと思います。



年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
30～39歳	男性	年齢や職位などアンケートのF1～F4は、課代表で回答する場合でも回答者が特定できる。個人アドレスから回答する人はともかく、アンケートの匿名性が完全に確保されないアンケートであるならば、このような問いはやめるか回答は任意であるとし、全職員が対象であることを惹起させるような書き方はやめて欲しい。
30～39歳	男性	世代間での意識の格差が大きく、50代以降の意識改善と、社会的条件の整備が必要であり、女性の社会進出には保育所の待機児童問題や、老人ホームの入所待機者問題の解消も合わせて必要である。
30～39歳	男性	男と女は生まれつき体が違うのだから、何もかも男女平等にすることはできないと思う。仕事にしても男女がすべて同じ仕事をするのがいいのか。仕事の内容によっては、かえって女性を追い込むことにはならないか。 男子トイレと女子トイレのマークの色を同じにすると、子どもや目の悪い人には識別しにくくなると思う。男が黒で女が赤で何が悪いのか、私にはわからない。「過ぎたるは猶及ばざるが如し」ではないか。女性の地位の向上を求めるのはいいが、すべてにおいて男女が平等でなければならないという考え方には賛成できない。
30～39歳	男性	出産・子育てが女性の負担にならない社会の体制を作ることだけを考えていれば、万事うまくいくと思います。 真剣にそのことを考えてください。よろしくお願いします。
30～39歳	男性	男女共同参画と少子化問題は相反する部分もあるので、双方とも両立するように調整・協議しながら考えていかなければならない重要な問題であると思う。
30～39歳	男性	現在の社会で、真に血税や人員を投入して解消しなければならないほどの男女差別が存在するのか、熟考していただきたい。
30～39歳	男性	姫路市役所内の男女共同参画を進めるには、北欧のスウェーデンのように、女性の管理職への登用割合を法律で決めてしまうような政策を推進しないと、たとえ職員の意識改革を進めても、結局は無理なように思います。これからの地方分権の時代、他の自治体に先駆けて姫路市役所独自の男女共同参画の政策の立案ができれば素晴らしいと思います。
30～39歳	男性	男女共同参画を進めるにあたっては、男女の身体的な差を認めたくえて、行うことが重要である。 また、男女共同参画の施策を進める際は、一部の意見・学説にとらわれ、偏ったものにならないよう、気をつけることが重要だと思う。
30～39歳	男性	男女平等とよく言いますが、本当に平等が良いのでしょうか。もともと一般的には男性のほうが力が強いので、力仕事の多い職業ではやはり男性のほうが多くなってしまおうと思います。中には力が強い女性もいると思いますが、そのようなことからしてもそれぞれの人が自分のできる範囲のことをやって行くことが必要なのではないのでしょうか。 アンケートの質問が、姫路市では男女平等になっていないことを前提に質問されている気がするの思い過ごしですよね。
30～39歳	男性	何もかも男女平等にすることが、はたして必要なのか？本来生まれ持った違いがあり、そうすべきもの、する必要のないものがあるのではないか。差別すべきものの認識がないのか？
30～39歳	男性	通常業務以外にあてられる、国勢調査の指導員や選挙の開票事務（夜が遅い）の職員数は、圧倒的に男性が多いが、これもそれなりの理由があつてのことと思う。男女共同参画推進課としては、そんなことまで短期間（5年以内とか）に改善したいという考えなのか？また、この男女比率を女性が優遇されているとらえているのか、そのあたりをアンケート以前に知りたい。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
30～39 歳	男性	電車に乗れば女性専用車両、パチンコ店では女性専用台、国勢調査・選挙事務では男があてがわれる。意識調査では女性が不平等を受けている前提に設問されていること自体「逆差別の時代」となっている。
30～39 歳	男性	女性の社会参画について、男女平等意識の向上、職場、法整備等により環境を変えていくことが重要であると思う。しかしながら全ての女性が男性と同じような職場環境なり待遇を望むものかどうか疑問に思うところもあります。
30～39 歳	男性	普段考えたことがないのでこのアンケートは良いことだと思った。
30～39 歳	男性	男女共同なのに女性に対しての内容のみになっていた。男性に対する取り組みは不要ということなのでしょうか？
30～39 歳	男性	男性と女性は生物学的に別なのだから、完全な平等はもともと無理だと思う。これまでの女性は生き方の選択肢が少なかったので自分で好きな生き方ができるようにしてあげてほしい。
30～39 歳	男性	女性の中でも今までどおりの社会を好む方が多くおられる（専業主婦、軽微な仕事内容など）のも事実で、そのような方に無理やり法律や制度を押し付けてはいけませんということです。いろいろな方が存在しての社会ですから。
30～39 歳	男性	設問が偏っていて誘導しているように思われる。バックグラウンドを無視して設問に答えさせるのはどうかと思う。状況によって答えは変わってくると思う。いろいろな意味で答えられない設問が多い。
30～39 歳	男性	男女共同参画も大切だけど、職場内での職名や同じ局内の仕事内容が違いすぎると思う。
30～39 歳	男性	男女平等が進むと女性が困るのでは。
30～39 歳	男性	男でも女でも自分の向いている事ややりがいのある事に参加できる職場になれば、みんな楽しく働けると思います。公務員は、基本的に楽しく高給取りの人が多いので、一人ひとりが力を発揮しやすい職場にする必要があると思います。
30～39 歳	女性	女性の地位を向上させることは大切なことだと思いますし、やっていくべきだと思います。しかしその一方で向上させようとして過度に人々の意識を刺激することは、逆差別になっていくような気もします。道徳教育も、一定より若い人たちの多くが被差別部落という言葉を知っていないように、知らなくていい部分を刺激することにならないようにするためには、やり方がとても重要になってくるような気がします。
30～39 歳	女性	不平等や差別と言われている事柄の原因は、突き詰めれば「性別」の問題ではなく「人間としての扱い・評価」の問題なのではないかと思います。 ジェンダーフリーを訴えている方には申し訳ありませんが、人間も動物の一種類として存在している以上、違いや区別が発生するのは当然のことでしょう。それを、十把一絡げに論じて明快な答えが出てくるわけがないと思いませんか？ 一人ひとりが置かれている環境や能力・個性の違いから「できること」と「できないこと」、「与えるもの」と「与えられるもの」が異なるのは当然のことであって、それを『男』と『女』の間の差別』とまとめてしまうのは無理があるのではないのでしょうか。純粋な意味での個人を尊重して、引け目や負い目を感じることなく生活できる社会を目指すことのほうが大事だと思います。 そういう社会を実現させてもなお残った不平等の原因が「性別」以外にないときに初めて、ジェンダーフリーを訴える意味があるのではないのでしょうか。 大体、何でもかんでも、今の男性並みにする・できることが男女平等である、という考え方は正しいのですか？

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
30～39 歳	女性	<p>このアンケートについての意見            答えにくい構成です。自分の意見にぴったりくる選択肢がない場合が多いです。補            足で意見を述べられるようにしてほしいです（例えば問 4 ですが、主任試験合            格までは「ウ」である場合が多いと思います。それ以降は「イ」かと思っています。）            ただ、多くの人に協力してもらうには、記号のみで答えられるようにしなければなら            ないから、このような形になったのでしょうか。それでも、多くの人は面倒だと思            い、返信しないのではないのでしょうか。残念ながら……。しかも、返信するの            は、この問題に興味を持っている人だけになっちゃいそうな……。大変ですね……。</p> <p>女性の中でも皆が皆、管理職になりたいとか、責任の重いポストにつきたいと思            っているわけではありません。望む人にはその機会を与えるべきですが、色々な働            き方があっていいと思います。            また、男性が家事・育児等をできる環境にすることが、今は一番欠けていると思            います。</p>
30～39 歳	女性	<p>正職員に関しては試験で上位から採用していくため、女性の採用が結果的に増えて            いるようであるが、臨時職員や派遣労働者についてはほとんどが若い女性である。            どうしてこのような結果になっているのかわからないが、そもそも現在の臨時職員            や派遣労働者が行っていたことの多くは、一昔前に女性の仕事とされていたお茶く            みやコピー取りといった雑用や、男性職員を補助するアシスタント的な仕事であり、            それを女性の正職員にさせることがコストパフォーマンスの点だけではなく、男女            参画の考え方や世の中の流れの中でマズイから、派遣や臨時職員にさせているとい            った感が強い。結果的に全体からすると女性がアシスタント的な仕事を担っている            状況が職場で歴然とある以上、いくら職員に対しては男女平等といっても、なかな            か意識の上から女性＝アシスタント的な考え方を改めさせることは出来ないのでは            ないだろうか。強制的な方法ではあるが、近年は男性でも派遣社員に登録している            人も多く、また就職難から臨時職員を希望する人もちゃんと PR すれば見つかる            と思う。男性の臨時職員を積極的に採用していけば、臨時職員や派遣社員に対する            正職員の意識も変わり、現在のなんとなく見下しているような雰囲気も改まるのは            ないかと思う。</p>
30～39 歳	女性	<p>社会の中の不平等な面を上手に利用している女性もいるのではないかと。男性から見            ると「女性は得だ、不平等だ」と思える面や、女性自身が「女性で良かった。得を            した」と思える面がどこなのかを拾い上げ、女性自身の意識改革を図っていく必要            があると思う。            また、女性の中での意識の温度差をなくせるといい。</p>
30～39 歳	女性	<p>男女共同参画、男女平等について法で定めたところで、その法の下の人間の意識改            革ができていないと全く意味のないことだと思う。今の 20 代 30 代の方は、仕事に            おいても家庭においても男女平等が徐々に浸透してきているだろうが、40 代以            上では歳が上がるとともに男女不平等が当たり前になっている。「男だから」とか「女            だから」ではなく、「人間」としてどうなのかを考えていかなければいけないと思う。</p>
30～39 歳	女性	<p>基本的に現在の男女平等の考え方は間違っていると思う。動物学的に男女には体力的            ・能力的に差があるのが当然であり、それを無視して何でも平等、平等というの            はおかしい。古来の男女の職業の別も、本来の一般的な男女の差に基づいて生まれ            たものであるから完全に廃止し平等にすることが、本当の平等ではない。            真の平等とは、望むものにはその機会が平等に与えられることにあると考える。平            等に与えるには、性別は判断材料にせず、個人の能力が判断材料にされるべきで            ある。            姫路市では、昇進の割合が男性職員と女性職員とでは明らかに違う。だからもっと            女性を昇進させよ、というのではなく、本当に能力のあるものを昇進させているか            を再検討すべきである。</p>

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
30～39 歳	女性	社会の中では高年齢の世代ほど男女平等の意識が低いと思います。私達の世代ではまだましですが、実際は夫が家事をしたくても、会社や仕事上の事情（残業が多い）や周りからの目を気にしてできないことが多いです。男性が家事を「手伝っている」という意識をもっている限りは、家事は女性のものという認識は変わらず、手伝うではなく、自らやろうとする心を育てて欲しいと思います。子育てについても、一緒に関わっていく気持ちがないと結局人ごとになってしまうのではないかと思います。また女性の側にもかなりの甘えが見られ、自ら「家庭に入る」のを良しとしている方がまだまだ多いように思われ、大変残念です。
30～39 歳	女性	イーグレひめじなどの施設の内容をもっと充実して欲しい。講座などが平日に多いので働いている人は参加しにくい。
30～39 歳	女性	一般論として答えなければならないのですが、家庭的なことは、個人の状況で回答しにくいです。例えば、子どもは欲しいけど出来ない（病気等で）人の場合、男女の不平等よりも子どものいる女性との不平等の方を強く感じていることがあるので、アンケートは本心で書けば妬んでいるようですし、そうでなければきれいごとで答える事になる。それは要介護の家族がいるいないの場合も同様で、できれば対象を全員というのではなく、希望者だけというような気楽なものにしたらもっと良い意見が多くの人から出てくると思います。
30～39 歳	女性	男女が平等に参画することにより、女性は結構かもしれないが、水面下で子どもが犠牲になっていることをもっと意識しなければならない。女性の社会進出のために、法や制度が整えられると子は預けられ親から関わってもらう機会が減る。いくら質の良い保育が提供されたとしても、決して親の代わりにはならない。あくまで他人だ。親（女性）のニーズばかり追求して、ニーズを表現できない子どもは軽んじられている。社会全体がそのことに気がつかなければならない。子の質は下がる一方だ。
30～39 歳	女性	名称、イラスト等も確かに大切なことかもしれませんが、もっと根本的な事を考えていかないと表面だけのきれいごとですまされてしまうのではないかと感じます。
30～39 歳	女性	昇任、昇格は男性の方が優遇されている。男性はスムーズに昇任等しているが、女性の場合は同じ能力では昇任していない。女性の多い職場なのか、雑用は女性が主となっている。
30～39 歳	女性	現在妊娠中ですが、通勤電車での席の譲り合い等、女性が子どもを産み育てながら働くことの困難さを痛感しています。
40～49 歳	男性	性差を男女が謙虚に認識し、お互いに助け合う姿勢が大切だと思います。「性的弱者の女性を男性が気遣い守る」との考えを「女性蔑視」として全面的に否定する社会的風潮があるように見えるのですが、少し違和感を覚えます。また、本人が全く気づいてないところで、相手は不快に思うことがあるようです。男性としてそのあたりは注意し気配りするよう心がけたいです。
40～49 歳	男性	平等、不平等の概念（定義）の個人差を推し量るための設問はいらないのでしょうか？
40～49 歳	男性	男女という区分に限定せず、個人の適性、能力、意欲などに応じて、参画の機会を与えるべきではないか。
40～49 歳	男性	主要な役職への女性の登用を進めるべきです。女性の管理職は、もっと増えてもいいと思います。女性局長は「ゼロ」ですが、2～3名はいたほうがいいと思います。女性助役の登用もいいかもしれません。



年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
40～49 歳	男性	<p>問 16・17 では、社会通念上、女性が主体であるとされているもののみを選択肢としているが、家事全般について、男性が主体とされているものを含めての選択肢にした方が面白いと思った。</p> <p>例えば、育児としつけを分ける。生活費の調達、契約行為、財産管理、庭そうじ、公共料金の支払い行為、参観日の出席、自治会への参加、PTAなどの出席、子ども会の役員、ゴミ当番、家の修繕などなど</p> <p>あと、行為者については、母親（祖母）父親（祖父）の選択もあります。</p>
40～49 歳	男性	<p>ジェンダーに対する意見ですが、最近の教育現場で、男女わけへだてなく名前の後に「さん」を付けて呼びなさいとか、「男なら男らしく、女は女らしく」と言うてはいけないうなど子どもたちに教えているという話を聞きました。これはどう考えても度を越えているのではないのでしょうか。男女は基本的にそれぞれの特性があり、その特性をもって役割分担し暮らしてきました。それが自然であります。それを不自然に変えようと無理強いしているように思われます。このようなことを推し進めていけば日本の国は確実に没落していきます。少子高齢化社会の今、男女の役割の大切さを教育し、女性が安心して子どもを生み育てていく環境を作ることの方が大事で、今の教育では、女性が子どもを大切に育てようとする意識を失わせようとしているとしか考えられません。また男たるもの女性を守り、子どもを守り、弱者を守るのが男であって、このような教育がまったくされていないところに加えジェンダー教育をするとは言語道断であるといえます。</p>
40～49 歳	男性	<p>男女共同参画という名のもと、本来の生物としての性差さえ否定するような論調がしばしば見受けられることに危惧を感じる。</p> <p>また、「平等」と「同一」を混同しているケースも多いのではないかと。</p>
40～49 歳	男性	<p>理解しているようで、実際にはできていないのが実情です。職場内の理解が向上したとしても個々の家庭環境、家族の理解がないことには、機能しないように思います。</p>
40～49 歳	男性	<p>女性職員の処遇に関しては、男性職員に勝るとも劣らないほど仕事への意欲がある人もいますが、仕事よりも家庭生活を重視している人が多いように思われる。特に既婚者に顕著。</p> <p>夫が家事を手伝わないことも理由だろうが、女性職員自身が厳しい仕事は担当したくない、忙しい職場に配属されたくない、と考えている人が多いように思う。</p> <p>また、男女雇用機会均等法はあるものの、実際の人員配置では民生保護課のような例外はあるが、概ね住宅管理課等キツイ職場に女性職員を配属しないようになってきている。</p> <p>不況が続き、民間企業が男性に比べ女性の採用を手控えている現在、地方自治体は男女差別なく職員採用に努めなければならない。</p> <p>しかし、女性職員が増えると、人事課が女性にさせない仕事が多い現状では、職場での逆差別が増えるのではないかと？</p>
40～49 歳	男性	<p>男女共同参画とは女性は女性らしく男性は男性らしく生き生きと生活できることだと思う。各種制度は必要と思うが、性差による役割分担も必要。何でもかんでも平等とはいかない。男性らしさ女性らしさを否定することは本当の男女共同参画とは言えないと思う。</p>
40～49 歳	男性	<p>女性・高齢者の就労率の向上は、日本の将来にとって決定的に重要であると、認識している。</p>
40～49 歳	男性	<p>設問 16 では、生き物として基本的に必要な「 育児、しつけ」以外、その不存も含めて誰がやってもいいし、理想的な社会のあり方によって答えは変わってくると思われ答える術がない。アンケート結果が、回答者の考えを正しく反映しないと思われる。</p>

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
40～49 歳	男性	きれいな仕事に女性がどんどん進出する一方、きたない(ややこしい)仕事は相変わらず男だけというのでは逆に不平等である。
40～49 歳	男性	女性の参画の敵は、社会の古い通念とそれで納得している女性。女性の中にも現在の状況がいいと思っている人が多勢いると思う。
40～49 歳	男性	この種のアンケートは一見男女平等を標榜しつつも、その実、「被害者は女性、加害者は男性」という固定観念で貫かれているということ。実際には、逆も多々ある。もっと柔軟な思考をお願いしたいです。
40～49 歳	男性	姫路市の場合、具体的にどのような制限があるのか理解していないため、イメージだけでしか答えられない。
40～49 歳	男性	私の職場は特殊であり、男女を平等に考えるのは困難です。
40～49 歳	男性	この調査票については設問が抽象的すぎたり、偏ったものがあるように感じました。もう少し工夫されてはいかがでしょうか。
40～49 歳	男性	職場に女性職員がいないためセクハラ等の意識が低い。もし、職場内にたくさんの女性職員が働いているなかで男性職員が化粧や香水の匂いで気分が悪くなったとしたら、それは、逆にセクハラと言えるのでしょうか？
40～49 歳	男性	女性であるからしてもらって当然、という考え方をなくしてほしい。
40～49 歳	男性	問 16, 17 は質問に問題ありです。妻が就業しているかどうかで回答が大きな影響を受けることが自明なのに、それをあえて区別しないということは、アンケート自体の中立性、信頼性を著しく損ねており、この質問方法ではその回答がある種の方向性をもってしまうことがアンケート以前にすでに明らかです。アンケートの基本は、質問がニュートラルであり、回答者が自由であることが最低限必要です。問 16, 17 に私の自由は存在しません。
40～49 歳	女性	啓蒙、啓発は職業人となって初めて始まるのではなく、男女とも生涯を通じて、家庭、学校、地域生活での学習、実践を通じて行われ育まれるもの。慣習、制度上の問題は、個人的に、またパートナーや家族、友人、同僚等との協働で、遅々としてでも進めていきたい。
40～49 歳	女性	家庭や仕事において、双方の理解と合意の上で、男女共同参画が実現することに異論はないが、親として教育現場で現在おこなわれているジェンダーフリー教育については、問題が多いと思う。子ども(特に低学年)に対しては、家族のモデルケースとして、男女の違い、家族像の規範を示した上で、多様な家族のあり方を認めていけるように指導すべきであろう。形式的な男女混合名簿や「さん」付けで呼ぶことで、ジェンダーフリーの意識が育つと考えるのは短絡的であると思う。
40～49 歳	女性	男女共同参画というと本来は家庭・地域・職場などあらゆる分野でのことですが、どうしてもスポットが当たるのは職場においてどうか...ということになります。しかし、男女とも今のような働き方をした上での更なる男女平等への取り組みでは、少子化はどんどん進み、またその少ない子どもたちも家族との関わりが少ない中で成長することで、人ときちんと向き合えない人間に育っていくのではないのでしょうか。子どもは社会全体で育てるべきという意見に賛成ですが、それはまず家庭という基盤の中で育てながら、かつ地域社会でも見守って一緒に育てていきましょう、ということだと考えます。今の男女共同参画は大人のための視点で考える社会像であって、子どもの視点がなおざりになっていると思います。社会の宝である子どもの視点も大切にされた男女共同参画社会への取り組み(国レベルとして)がもっと必要ではないでしょうか。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
40～49 歳	女性	人事異動、職場内担当だけでなく、使役でも（特に選挙事務）男女の固定的な役割分担がある。
40～49 歳	女性	男女双方の意識改革をすることが大切だと思います。
40～49 歳	女性	男女平等意識の問 2 は、実際には階層的な理由が並列されていると思います。なので、とても答えにくい。例えば法律等が変わり男女平等が制度化されれば、何十年も経て、メディアの扱いや人々の意識が変わってくると思います。 また、問 9、問 10、問 14 は三つまででは足りません。全部に丸を入れたいくらいでした。 また、問 8 は項目に書かれていること自体に設問者の先入観が感じられます。
40～49 歳	女性	男女という区分けでなく個人としての特性があるので、それに合わせた役割分担をすることが必要で、男女の平等ということについては、ことさらに男、女ということはないと思う。 また、私たちの父母の世代の意識改革が重要。
40～49 歳	女性	問 15 はとても答えにくい質問でした。虐待などを目の当たりにすると必ずしも結婚、出産が幸せとはいえないと思いますが、制度に縛られるのがイヤ（＝無責任）という人もおり、イエス・ノーでは答えられません。いずれにしても、大人としての自覚と責任をもつことが先だと思います。家庭をもてば、男でも女でも家族を中心に考えて生活すべきだと思います。
40～49 歳	女性	職業生活については、私自身女性のみの職場でしか仕事をしたことがないので、わからないことばかりでした。
40～49 歳	女性	7、8 年前は保育所の申込用紙に「母親の就業状況」を書く欄がありました。加古川市在住の人が「母親」に限定されている点からすでに姫路市の感覚のズレを指摘していました。10 年くらい前は、扶養家族についても「子どもを扶養家族にするのは当然父親」であるようなシステムでした。今現在、この 2 点について改善されていることを願います・・・
50 歳以上	男性	職場における男女共同参画は、男女双方の意識改革と努力が必要です。そのためには研修の積み重ねが必要だと思います。
50 歳以上	男性	問 5 で、回答が 4 つしかないが、私は「利用することに抵抗はないが、（50 歳以上であり子どもが 3 人いるため）今後利用することはないであろう」というのが実感です。
50 歳以上	男性	男女共同参画施策の推進といわゆるジェンダーフリー的価値観の啓蒙とは峻別すべきである。 社会制度の中で性別による具体的差別があるのであれば是正すべきであるし、行政としては、法制度として確立した社会の価値観について積極的に普及につとめるべきである。 しかしながら、男女の役割分担のあり方については、人々の価値観の問題でもあり、特定の価値観を根拠に正邪の判断を下し人々に強制する、普及を行うことなどは、行政として行うことは不可能であるし、行うべきものでもない。 そのような特定の価値観については、あくまでも個人の主義主張として自由に行われるべきものであり、このことに対しては行政側は中立を維持すべきものとする。
50 歳以上	男性	私の場合、力のいる事、道具を使う事、危険を伴うこと、技術が必要な事を家庭ではやっている。職場においては、男女平等が当然と思っている。男は、女性をかばっているように見えるところがあり、女性は男性の影に逃げ込むそぶりをしている時がある。職として働く以上、肉体的差異は致し方ないがそれも最小限とし、他は、同等平等で甘えやいたわりは考えてはならないと思う。

年 齢	性 別	自 由 回 答 意 見
50 歳以上	男性	掃除は掃除機、洗濯は洗濯機、食事はコンビニ利用で可能。捻出された時間を有効に利用しているだろうか？若い女性が掃除、食事の準備もせず男女平等を訴えるのに疑問を感じる。小学校に女子教員が多すぎる。大切な成長期に女性教員にばかり担任してもらうことに疑問をもつ。教師は男女平等を訴えるが教育を受ける子どもも男女平等で考えて欲しい。校長と話し、5・6年生は男性教員の担任に換えてもらった。
50 歳以上	男性	女性の雇用の機会均等を保障するための法的整備と行政指導を行うことが求められる。
50 歳以上	男性	男性にも女性からのセクハラがある。
50 歳以上	男性	問 2、3 については女性側からだけでなく、男性側からの意見も尊重する必要がある。
50 歳以上	男性	家庭では女性がいるが、職場では女性がいないのでアンケートに答えにくい。
50 歳以上	男性	「男女平等」の言葉の元に過剰に反応している様に感じる。公衆トイレの「色分け」も男女差別につながるというのは...
50 歳以上	男性	働きたくても正社員として働くところが少なくなっている。女性は男性よりも優遇すべきである。
50 歳以上	男性	女性自身、自分の権利は主張するが、食事会等の場合、女だからといって男におごってもらえるものだと思っている女性がほとんど。 問 15 で子どもの質問があったが、人間として我が子をもって子育てしてこそ、初めて、子どもの気持ち・親の気持ちがわかるものであり、人間として成長するものだと思う。
50 歳以上	女性	保守的な気質の強いまちにおいては、男女共同参画意識がなかなか根づきにくい。男性に対する意識啓発の強化が必要であるが、女性自身も積極的に能力向上を図り実績を積むことが大切である。
50 歳以上	女性	人間は全て平等！男らしさ、女らしさの差別ではなく特性を生かしそれぞれが有意義な人生を歩みたい。変にジェンダー意識のいきすぎをあおることは注意して頂きたい。
50 歳以上	女性	男女それぞれが得意とする分野を担当できる社会になることがよいのでは？女性の争いを好まず、平和を願う心が反映できる社会、意見が取り上げられる社会になることを希望しています。
50 歳以上	女性	今後男女平等になるようますます活発に取り組んでいただきたい。
50 歳以上	女性	勤続 30 数余年になるが、女性の昇任・昇格は当市においても遅れている。保育所長において、210 名以上の児童・保護者・地域・関係機関との連携、延長保育等、責務は重大にも関わらず係長どまりで昇格しないのはどうしてか。これが男女共同参画社会なのか疑問に思う。



資料

# 男女共同参画に関する職員意識調査

## ご協力をお願い

姫路市では、全ての市民が人権尊重を基調に、性や世代にとらわれることなく一人ひとりの個性、資質、能力を認め合い、それらを十分に発揮し、支えあって暮らせる都市の実現を目指して、『男女共同参画プラン』を策定するなど、様々な取り組みを進めています。

本調査は、平成13年3月に策定した『男女共同参画プラン』の中間見直しにあたり、全庁的に男女共同参画施策を推進していくための意識づくりを進めるとともに、職員の皆様の男女共同参画社会に関する意識や意向、ニーズを的確に把握し今後の施策展開の参考にするために、日頃の生活やお考えをお聞きするものです。

なお、本調査は特別職、嘱託職員、再任用職員、臨時職員を除く全職員を対象として実施するものです。記入していただいた内容はすべて統計的に処理を行いますので、ご回答いただいた方のお名前や回答内容がわかることはありません。また、調査結果を他の目的に使用することはありませんので、あなたの考えをありのままにお答えください。

お忙しいところ恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成17年8月

男女共同参画推進本部長

### ご記入上のお願い

- 1 **市職員ご本人**がお答えください。
- 2 回答は、設問ごとにあてはまる番号を選んでいただくものがほとんどです。設問ごとに「1つ選んで」「3つまで選んで」など指定しておりますので、指示にしたがって、**別紙回答用紙の該当する欄に番号**をご記入ください。
- 3 回答の際、「その他」に該当する場合は、具体的にその内容を、**別紙回答用紙の“その他詳細記入欄”**にご記入ください。
- 4 回答用紙は、**8月31日(水)**までに、所属で取りまとめのうえ、搬送便でご返送くださいますようお願い申し上げます。(個人で直接返送していただいても結構です。)
- 5 このアンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

市民局 市民参画部 男女共同参画推進課 担当：長澤・津田

TEL：0792-87-0803 FAX：0792-87-0805

あなたご自身のことについておたずねします。

F1. あなたの性別はどちらですか。あてはまるものを 1つ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F2. あなたの年齢はおいくつですか(平成17年7月20日現在)。あてはまるものを 1つ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 19歳以下  | 2. 20~29歳 | 3. 30~39歳 |
| 4. 40~49歳 | 5. 50歳以上  |           |

F3. あなたの職種はどれですか。あてはまるものを 1つ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |        |        |          |
|--------|--------|----------|
| 1. 事務職 | 2. 技術職 | 3. 保育士   |
| 4. 教育職 | 5. 消防職 | 6. 技能労務職 |

F4. あなたの職位はどれですか。あてはまるものを 1つ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1. 一般職員    | 2. 係長・課長補佐相当職 |
| 3. 課長相当職以上 |               |

F5. あなたは結婚されていますか。あてはまるものを 1つ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |          |               |
|----------|---------------|
| 1. 未婚    | 2. 既婚(事実婚を含む) |
| 3. 離別、死別 |               |

F5-1 この問は、F5で「2. 既婚(事実婚を含む)」と回答した方にのみおたずねします。  
あなたの配偶者・パートナーの就労状況はどれですか。あてはまるものを 1つ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 勤め人(常勤)                 | 2. 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど) |
| 3. 自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など) | 4. 学生                      |
| 5. 専業主婦・専業主夫               | 6. 無職(4及び5を除く)             |
| 7. その他( )                  |                            |

F6. あなたはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものを 1つ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |        |       |       |       |         |
|--------|-------|-------|-------|---------|
| 1. いない | 2. 1人 | 3. 2人 | 4. 3人 | 5. 4人以上 |
|--------|-------|-------|-------|---------|

F7. あなたの世帯状況はどれですか。あてはまるものを 1つ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 単身世帯（ひとり暮らし） | 2. 一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） |
| 3. 二世帯世帯（親と子など） | 4. 三世帯世帯（親と子と孫など）     |
| 5. その他（         | ）                     |

## 男女平等意識についておたずねします。

問 1 あなたは、今の社会において、次の各分野で男女の地位はどのようになっていると思いますか。 から のそれぞれについて（ア）～（カ）の中からあなたの気持ちに最も近いものを 1つずつ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

	（ア） 男性の方が 非常に優遇 されている	（イ） どちらかと いえば男性 の方が優遇 されている	（ウ） 平等	（エ） どちらかと いえば女性 の方が優遇 されている	（オ） 女性の方が 非常に優遇 されている	（カ） わからない
家庭生活では	1	2	3	4	5	6
職場では	1	2	3	4	5	6
学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
政治の場では	1	2	3	4	5	6
地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
法律や制度では	1	2	3	4	5	6
社会通念、慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
社会全体では	1	2	3	4	5	6

問 2 社会にはいろいろな面で男女不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。次の中から 3つまで（1つでもよい）選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |   |   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 男女の生まれつきの身体的・生理的な差</li> <li>2. これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい</li> <li>3. 男女の役割についての固定観念</li> <li>4. 社会の慣習やしきたり</li> <li>5. 法律や制度上の差</li> <li>6. 職業生活面での有利・不利</li> <li>7. 女性の自覚や理解の不足</li> <li>8. 男性の自覚や理解の不足</li> <li>9. 売買春、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮</li> <li>10. 男女不平等な点はない</li> <li>11. わからない</li> <li>12. その他（</li> </ol> | ） |
|---|---|

問 3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。次の中から1つ選んで番号を回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |   |
|---|
| 1. 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること<br>2. 女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること<br>3. 女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上をはかること<br>4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること<br>5. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること<br>6. わからない<br>7. その他 ( ) |
|---|

**職業生活についておたずねします。**

問 4 あなたは、姫路市において、次の各事項で男女の差はどのようになっていると思いますか。 から のそれぞれについて(ア)～(カ)の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つずつ選んで番号を回答用紙の該当する欄にご記入ください。

	(ア) 男性の方が 非常に優遇 されている	(イ) どちらか といえば男性 の方が優遇 されている	(ウ) 平等	(エ) どちらか といえば女性 の方が優遇 されている	(オ) 女性の方が 非常に優遇 されている	(カ) わからない
募集・採用	1	2	3	4	5	6
昇任・昇格	1	2	3	4	5	6
能力評価	1	2	3	4	5	6
能力発揮の機会	1	2	3	4	5	6
仕事の内容	1	2	3	4	5	6
雑務(お茶くみ、掃除、コピー 取りなど)の分担	1	2	3	4	5	6
労働時間(時間外勤務、休日出 勤など)	1	2	3	4	5	6
有給休暇の取得しやすさ	1	2	3	4	5	6
研修や教育訓練の機会	1	2	3	4	5	6
出張・会議参加の機会	1	2	3	4	5	6
全体として	1	2	3	4	5	6

問 5 あなたは、育児や介護を行うために、これまでに育児休業・介護休業制度を利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。それぞれについて(ア)～(エ)の中から **1つずつ選んで番号を** 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

	(ア) 利用したことがある	(イ) 利用したことはないが、 必要があれば今後利用 したい	(ウ) 利用したいが、 抵抗がある	(エ) 利用したくない
育児休業制度	1	2	3	4
介護休業制度	1	2	3	4

問 6 あなたは、姫路市において、育児休業・介護休業制度を利用しようとする上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。次の中から **3つまで(1つでもよい)選んで番号を** 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

1. 休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい
2. 即戦力となる代替要員の確保が難しい
3. 他の職員の負担が増える
4. 休業することで昇任・昇格などに不利になる
5. 復帰後の職場や仕事の変化に対応することが難しい
6. 利用することに対する職場内での理解が十分でない
7. 休業することで経済的に厳しくなる
8. 支障となることは特にない
9. わからない
10. その他 ( )

問 7 あなたは、姫路市における女性職員の職域拡大・登用の現状についてどのように思いますか。次の中から **1つ選んで番号を** 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

1. 現状で十分である
2. 現状では不十分だが、やむを得ない
3. 現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用を進めるべきである
4. わからない
5. その他 ( )

問 8 あなたは、姫路市において、女性職員の職域拡大・登用が進まないのはなぜだと思いますか。次の中から **あてはまるものをすべて選んで番号を** 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

1. 職場の男女平等についての理解が不足しているから
2. 女性は男性より上司や周囲、外部からの期待、信頼度が低いから
3. 女性は補助的な仕事の方が向いているから
4. 女性は決断力や指導力に乏しいため管理職に向いていないから
5. 家庭における家事負担や育児など、業績を積み上で女性には支障が多いから
6. これまでの慣習でそうなっているから
7. 機会があっても女性自身に挑戦しようとする意欲がないから
8. 女性の職域拡大・登用は進んでいる
9. わからない
10. その他 ( )

問 9 あなたは、姫路市において、女性職員の職域拡大・登用を進めるにはどのようにしたらよいと思いますか。次の中から **3つまで(1つでもよい)選んで番号を**回答用紙の該当する欄にご記入ください。

1. 女性職員が多様な経験をつめるよう、人事配置や職務分担を進める
2. 女性職員と男性職員とは対等なパートナーと認識するような意識啓発を進める
3. 女性職員の育成・登用について管理職の意識を高める
4. 家事・育児などは女性がすべきという固定的な役割分担意識の変革をはかる
5. 女性職員の能力を高めるための研修を行う
6. 育児・介護などの社会的条件の整備を進める
7. 残業や休日勤務を減らすなど労働条件の改善をはかる
8. 女性職員の数を増やす
9. 女性職員が働く上での悩みなどを相談する窓口を設ける
10. わからない
11. その他 ( )

問 10 あなたは一般的に、男女が共に職業人として職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためには、どのようなことが重要だと思えますか。次の中から **3つまで(1つでもよい)選んで番号を**回答用紙の該当する欄にご記入ください。

1. 職業人として自覚をもつこと
2. 仕事に必要な職業能力を身につけること
3. 「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること
4. 採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること
5. 能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること
6. 男女共に育児休暇が取りやすくなること
7. 男女共に介護休暇が取りやすくなること
8. 結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること
9. わからない
10. その他 ( )

問 11 今年 4 月から姫路市では、結婚で改姓した場合など、仕事上での旧姓使用(通称使用)を認めています。あなたはこのことについてどのように思いますか。次の中から **1つ選んで番号を**回答用紙の該当する欄にご記入ください。

1. 使用を認めてよかった
2. 使用を認めない方がよかった
3. 夫婦別姓が法制化されてから認めた方がよかった
4. 認めても認めなくてもどちらでもよかった
5. わからない
6. その他 ( )

## 人権についておたずねします。

問 12 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）が最近問題になっていますが、あなたが、セクシュアル・ハラスメントだと思うものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を回答用紙の該当する欄にご記入ください。

1. 地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること
2. さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること
3. 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること
4. 宴席で、女性にお酌、デュエット、ダンスなどを強要すること
5. 結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと
6. 女性の目につきやすい所に、ヌード写真やカレンダーを置いておくこと
7. 女性に対して「女の子」「おばさん」などと呼ぶこと
8. わからない
9. その他（ )

問 13 あなたは、セクシュアル・ハラスメントについて経験したり、見聞きしたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を回答用紙の該当する欄にご記入ください。

1. 自分が直接経験したことがある
2. 友人や職場の仲間など自分のまわりに経験した（している）人がいる
3. 一般的な知識として知っている
4. くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある
5. セクシュアル・ハラスメントに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある
6. 全く知らない

問 13-1 この問は、問 13 で「1. 自分が直接経験したことがある」と回答した方にのみおたずねします。

あなたがセクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後で、どのような対応をされましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を回答用紙の該当する欄にご記入ください。

1. 相手にはっきり抗議した
2. 職場の人（同僚・上司など）に相談した
3. 職場以外の友人、家族に相談した
4. 労働組合に相談した
5. 市のセクシュアル・ハラスメントの相談窓口相談した
6. 市以外の公的相談窓口相談した
7. 弁護士などの専門家に相談した
8. 仕方がないと思い、何も対応しなかった
9. 世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった
10. こわくて何もできなかった
11. その他（ )



問 14 あなたは、セクシュアル・ハラスメントをなくすためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から 3つまで(1つでもよい)選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

- |  |
|--|
| 1. 被害者がはっきり拒絶・抗議する<br>2. 被害者が組織的に立ちあがり、社会に訴える<br>3. 職場全体の意識を高めるため、職員研修や教育を積極的に行う<br>4. 管理職がセクシュアル・ハラスメントについて十分認識し、職員の指導を行う<br>5. 利用しやすい相談・苦情処理窓口を充実させ、防止に向けた体制を整備する<br>6. 未然防止のためパンフレットなどでPR・意識啓発を行う<br>7. 加害者に対して、懲戒処分も含めきびしく対応する<br>8. 周りの人がセクシュアル・ハラスメントを見過ごさず、指摘する<br>9. その他 ( ) |
|--|

**結婚、家庭生活と男女の役割についておたずねします。**

問 15 あなたは、結婚、家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。から のそれぞれについて(ア)～(オ)の中からあなたの気持ちに最も近いものを 1つずつ選んで番号を 回答用紙の該当する欄にご記入ください。

	(ア) 賛成	(イ) どちらかとい えば賛成	(ウ) どちらかとい えば反対	(エ) 反対	(オ) わから ない
結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5

問 16 あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。 から のそれぞれについて(ア)～(キ)の中から 1つずつ選んで番号を回答用紙の該当する欄にご記入ください。

結婚されていない方も、結婚していると仮定してお答えください。

	(ア) 夫	(イ) 妻	(ウ) 夫妻とも 同じくらい	(エ) 子ども	(オ) 家族 全員	(カ) その他 の人	(キ) わから ない
食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
掃除	1	2	3	4	5	6	7
洗濯	1	2	3	4	5	6	7
育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7
看護・介護	1	2	3	4	5	6	7

問 17 この問は、F5で「2. 既婚(事実婚を含む)」と回答した方にのみおたずねします。

あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に主にだれが分担していますか。 から のそれぞれについて(ア)～(キ)の中から 1つずつ選んで番号を回答用紙の該当する欄にご記入ください。

	(ア) 夫	(イ) 妻	(ウ) 夫妻とも 同じくらい	(エ) 子ども	(オ) 家族 全員	(カ) その他 の人	(キ) わから ない
食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
掃除	1	2	3	4	5	6	7
洗濯	1	2	3	4	5	6	7
育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7
看護・介護	1	2	3	4	5	6	7

男女共同参画に関する施策などについておたずねします。

問 18 次の男女共同参画に関する事項を、あなたはどの程度ご存知ですか。 から のそれぞれについて(ア)~(ウ)の中から 1つずつ選んで番号を回答用紙の該当する欄にご記入ください。

	(ア) 内容まで知っている	(イ) 見聞きしたことはある	(ウ) 知らない
男女共同参画社会	1	2	3
男女共同参画社会基本法	1	2	3
男女雇用機会均等法	1	2	3
育児・介護休業法	1	2	3
ストーカー規制法	1	2	3
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	1	2	3
ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	1	2	3
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ （性と生殖に関する女性の健康/権利）	1	2	3
姫路市男女共同参画プラン	1	2	3
男女平等に関する表現指針 （職員用刊行物作成の手引き）	1	2	3
姫路市審議会等委員への女性の登用促進に関する指針	1	2	3
配偶者暴力相談支援センター	1	2	3

男女共同参画に関するご意見・ご要望がありましたら、ご自由に回答用紙の自由意見欄にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

---

**男女共同参画に関する市民・職員意識調査  
報告書**

発行日 / 平成 17 年 12 月

発 行 / 姫路市 男女共同参画推進課

〒670-0012

姫路市本町 68 番地の 290 イーグレひめじ 3 階

TEL:0792-87-0803 FAX:0792-87-0805

印 刷 / 株式会社ぎょうせい

---